



C-Class

取扱説明書



Mercedes-Benz

マーク

この説明書には以下のマークがあります。

警告

警告ステッカーには、お客様や他の乗員などの健康または生命を危険にさらすおそれのある事項について記載されています。

環境に関する注意

環境に関する注意は、環境を意識した行動や廃棄についての情報を提供しています。

! 車両の損傷につながる危険を喚起する、機材の損傷に関する注意です。

i これらのマークは、お客様の助けになるような、便利な操作方法や詳細情報を示しています。


▶ このマークは、お客様に従っていただきたい説明を示しています。

▶ 連続しているマークは、いくつかの手順がある操作を示しています。

(▷ このマークは、項目についての詳細情報がある場所を示しています。ジ)

▷▷ このマークは次のページに続く警告または操作を示しています。

ディ この表記は、マルチファンクションディスプレイ/COMAND ディスプレイのメッセージを示しています。

 このマークは、デジタル版取扱説明書に情報があることを示しています。

車両のソフトウェア部品は © 2005 The FreeType Project <http://www.freetype.org> の著作権により保護されています。

メルセデス・ベンツ車をお買い上げいただきありがとうございます。

運転される前に、この取扱説明書をお読みいただき、特に安全面と警告事項についてのご理解を深めてください。お客様自身と周りの人々を危険から守り、お車を最大限に楽しんでいただくことができます。

便利な機能の追加情報は COMAND システムの中の車両のデジタル版取扱説明書に記載されています。

お客様の車両の装備や名称はオプションや仕様により異なる場合があります。

この取扱説明書のイラストは主に左ハンドル車両のものを使用しています。右ハンドル車両では、車両の部品の配置や位置、そして操作方法が異なる場合がありますので、ご注意ください。

取扱説明書には 100 km/h を上回る車両速度での性能データおよび車両状況も記載されています。ただし、公道を走行するときは常に、その場所で適用される法定速度または制限速度に従ってください。

メルセデス・ベンツは常に車両を最高水準にするための改良を行なっています。

メルセデス・ベンツでは、デザインや装備の分野の変更を行なう権利を有しています。そのため、本取扱説明書の記述やイラストが異なることがあります。

以下のものは、車両の一部です。常に車両に搭載してください。

- デジタル版取扱説明書
- 取扱説明書
- 整備手帳
- 装備に応じた補足版

また次のオーナーに車両をお譲りになる場合は、必ずすべての書類をお渡しください。

スマートフォンアプリの C-Class ガイドを使用することもできます。



Apple® iOS



Android™

メルセデス・ベンツのガイドアプリはお客様の国ではまだ使用できないことがあることに留意してください。

Daimler AG の技術文献チームはお客様が安全で快適な運転をされることを望んでいます。

メルセデス・ベンツ



さくいん	4	各部の名称	31
デジタル版取扱説明書	23	安全性	43
はじめに	25	開閉	93
		シート、ステアリングとミラー ..	117
		ライトおよびワイパー	123
		エアコンディショナー	135
		走行と停車	141
		マルチファンクションディスプレイと表示	191
		COMAND システム	225
		収納と機能	251
		メンテナンスおよび手入れ	263
		万ーのとき	275
		ホイールとタイヤ	297
		サービスデータ	321

あ

アクティブパーキングアシスト	
機能/注意事項	174
重要な安全上の注意	174
ディスプレイメッセージ	198
アクティブブラインドスポットアシスト	
機能/注意	185
設定/解除(マルチファンクションディスプレイ)	196
ディスプレイメッセージ	198
アクティブレーンキーピングアシスト	
機能/注意	187
ディスプレイメッセージ	198
アシスト画面(マルチファンクションディスプレイ)	196
アジリティセレクトスイッチ	
オートマチックトランスミッション	153
マニュアルトランスミッション	150
アダプティブハイビームアシスト	
ディスプレイメッセージ	198
アダプティブハイビームアシスト・プラス	
機能/注意事項	127
アダプティブブレーキ	86
アダプティブブレーキアシスト	
機能/注意事項	82
アダプティブブレーキライト	83
アテンションアシスト	
機能/注意	180
設定/解除	196
ディスプレイメッセージ	198
アドレス帳	
デジタル版取扱説明書をご覧ください	226
安全	
子供を乗せるとき	64
助手席エアバッグ自動解除システム	53
安全システム	
チャイルドセーフティシート ...	65
安全性	
参照 操作安全性	

アンチロック・ブレーキング・システム

参照 ABS(アンチロック・ブレーキング・システム)

い

イージーエントリー機能

機能/注意事項

121

イグニッションロック

参照 キーの位置

イモビライザー

89

インジケーター

参照 方向指示灯

インテリジェントライトシステム

オン/オフ

196

概要

125

ディスプレイメッセージ

198

ロービームヘッドライトの左側/右側通行の設定

196

う

ウィンタータイヤ

ウィンタータイヤ

301

速度制限(マルチファンクションディスプレイ)

196

ウインドウ

清掃

273

デフロスター

139

参照 サイドウインドウ

ウインドウウォッシャー

注意

327

補給

270

ウインドウウォッシャー液

参照 ウインドウウォッシャー

ウインドウバッグ

機能

53

ディスプレイメッセージ

206

ウォッシャー液

ディスプレイメッセージ

198

ウッドトリム(清掃の説明)

273

運転席

概要

32

運転席ドア

参照 ドア

運転のヒント

新しいブレーキディスク

160

一般

159

オートマチックトランスミッション	153	リアデフォッガーの不具合	139
下り坂の傾斜	160	ACモード	139
最初の1500km	142	ACモードの不具合	139
新品のブレーキパッド/ライニング	160	AUTOモード	139
スノーチェーン	301	エアコンディショナーシステム	
冬季の走行	160	参照 エアコンディショナー	
凍結した路面	160	エアバッグ	
凍結防止剤等が撒かれた路面でのブレーキ性能の制限	160	ウインドウバッグ	53
慣らし運転について注意事項	142	概要	50
濡れた路面の走行	160	格納場所	52
燃料	159	サイドバッグ	52
ハイドロブレーキング現象	160	作動	60
ブレーキ	159	重要な安全上の注意点	50

え

エアコンディショナー

イオン発生	139
ウインドウの曇りを取る	139
エアコンディショナーモードの設定	139
オン/オフ	139
温度の設定	139
クライメートコントロール(後席独立調整)	138
クライメートコントロール(前席左右独立調整)	137
コンビニエンスオープニング/クロー징(内気循環モード)	139
システムの概要	136
重要な安全上の注意	136
送風配分の選択	139
送風量の調整	139
同調機能のオンおよびオフの切り替え	139
内気循環モードの作動/解除	139
パフュームアトマイザー	139
表示灯	139
フロントウインドウの霜を取る	139
余熱ヒーターのオン/オフ	139
リア操作パネル	138
リアデフォッガーの作動/解除	139

エアコンディショナーシステム

参照 エアコンディショナー

エアバッグ

ウインドウバッグ	53
概要	50
格納場所	52
サイドバッグ	52
作動	60
重要な安全上の注意点	50
助手席エアバッグ表示灯	45
ディスプレイメッセージ	208
ニーバッグ	52
フロントエアバッグ(運転席、助手席)	52

エマージェンシーキー

運転席ドアの解錠	100
機能/注意	97
車両の施錠	101
挿入	97
取外し	97

エンジン

エンジン番号	323
オーバーヒート	270
キーレスゴースイッチでの始動	146
警告灯(エンジン診断)	213
けん引始動(車両)	293
作動不良	149
始動時のトラブル	149
ジャンプスタート	287
停止	158
ディスプレイメッセージ	210
ECO スタートストップ機能	148

エンジンオイル

エンジンオイル量の点検	266
オイルグレードについての注意	325
充填容量	326
定期交換	268
ディスプレイメッセージ	198
添加剤	326
粘度	326
補給	267

油量および消費についての注意	266	パーキングポジションの自動選択	152
レベルゲージを使用してオイル量を点検する	266	発進	147
エンジン自動始動(ECOスタートストップ機能)	149	マニュアルシフト	153
エンジン自動停止(ECOスタートストップ機能)	149	リバースギアの選択	152
エンジンの始動		DIRECT SELECT レバー	152
キー操作	146	オートマチックトランスミッションのエマージェンシーモード	153
エンジンの電子制御部品		オートマチックヘッドライトモード	125
故障(誤作動)	149	オートライト	
		ディスプレイメッセージ	198
		オーバーヘッドコントロールユニット	40
		お気に入り	
		概要	236
		削除	236
		追加	236
		オドメーター	196
		参照 トリップメーター	
		音楽ファイル	
		デジタル版取扱説明書をご覧ください	226
		音声認識機能	
		参照 別冊取扱説明書	
		温度	
		設定(エアコン)	139
		オンラインおよびインターネット機能	
		接続の確立	248
		オンラインおよびインターネットの機能	
		接続の確立	248
お			
オイル			
参照 エンジンオイル			
応急用スペアタイヤ			
サービスデータ	319		
重要な安全上の注意	316		
全体的な注意事項	316		
オーディオおよび電話のクイックアクセス			
オーディオソースの変更	235		
放送局/音楽トラックの変更 ..	235		
オートマチックトランスミッション			
アクセルペダルのポジション ..	153		
アジリティセレクトスイッチ ..	153		
運転のヒント	153		
エマージェンシーモード	153		
エンジンの始動	146		
概要	151		
ギアシフト操作	153		
キックダウン	153		
シフトポジション	153		
ステアリングパドルシフト	153		
走行モード	153		
走行モード表示	153		
ディスプレイメッセージ	198		
ドライブポジションの選択	152		
トラブル(不具合)	153		
トランスミッションポジション表示(ダレクトセレクトレバー)	153		
ニュートラルの選択	152		
パーキングポジションPの選択	152		
		か	
		外気温度計	192
		解錠	
		車内から(セントラルロックイングスイッチ)	99
		非常時の解錠	100
		懐中電灯	276
		ガソリン	324
		カップホルダー	
		温度制御式	260
		重要な安全上の注意	260
		リア	260

可変スピードリミッター
 可変機能 163
 可変機能の解除 164
 機能/注意 162
 現在の速度を記憶する 163
 重要な安全上の注意 162
 選択 163
 LIM 表示灯 163

環境保護
 全体的な注意事項 25

冠水路の走行
 オンロード 160

冠水路の走行(オンロード) 160

寒冷時の走行
 重要な安全上の注意 301
 スノーチェーン 301
 滑りやすい路面 160

寒冷時の取り扱い
 ラジエターカバー 266

き

ギアまたはセレクターレバー (清掃の説明) 273

キー
 位置(エンジンスイッチ) 143
 エマージェンシーキー 97
 エンジンの始動 146
 概要 94
 キーレスゴースタート機能 96
 重要な安全上の注意 94
 設定変更 97
 セントラルロックによる施錠/解錠 95
 ディスプレイメッセージ 198
 電池交換 98
 電池点検 98
 不具合(異常) 99
 紛失 99

キーの位置
 キー 143
 キーレスゴースイッチ 143

キーレスゴー
 解除 95
 解錠 95
 キーレスゴースイッチの取り外し 145
 施錠 95

ディスプレイメッセージ 198

キーレスゴースイッチ
 エンジンの始動 146

キックダウン
 運転のヒント 153

機能 260

救急セット 276

給油
 給油のしかた 155
 重要な安全上の注意 154
 燃料計 35
 参照 燃料

緊急
 事故後の自動措置 63

緊急時点灯機能 128

<

クルーズコントロール
 解除 162
 機能/注意 161
 クルーズコントロールレバー .. 161
 現在の速度を記憶および維持する 162
 作動条件 162
 重要な安全上の注意 161
 選択 162
 走行装備 161
 速度の設定 162
 ディスプレイメッセージ 198
 LIM 表示灯 161

クロー징サポーター 99

グローブボックス 253

クロスウィンドアシスト 85

クロストラフィックアシスト付きBAS プラス(ブレーキアシスト・プラス)
 重要な安全上の注意 86

け

警告および表示灯
 ステアリング 223

警告灯/表示灯
 一般的な注意 213
 エンジン診断 213
 各部の名称 36
 シートベルト 214
 車間距離警告 223

乗員保護装置	221
燃料残量	213
ブレーキ	215
冷却水	222
ABS	217
ESP®	219
ESP®オフ	221
LIM(可変スピードリミッター)	163
LIM(クルーズコントロール) ..	161
LIM(ディストロニック・プラス)	166
警告灯と表示灯	
助手席エアバッグ	45
携帯電話	
周波数	322
接続する (Bluetooth® インターフェイス)	242
送信出力(最大)	322
取り付け	322
認証する	243
認証を解除する	246
別の携帯電話を接続する	245
警報	
オフにする(ATA)	89
機能のオン/オフを切り替える(ATA)	89
ATA(盗難防止警報システム) ..	89
けん引	
けん引フックの取り付け	291
けん引フックの取り外し	292
重要な安全上の注意	290
フロントおよびリアが接地した状態で	292
リアをつり上げて	292
けん引始動	
エンジンエマージェンシースタート	293
重要な安全上の注意	290
けん引フック	277
けん引防止	
オフにする	90
解除	90
機能	90
待機状態	90
言語の設定	
デジタル版取扱説明書をご覧ください	226

こ

高圧式スプレーガンの使用	273
後席	
温度の設定	139
コーナリングライト	
機能/注意	126
ディスプレイメッセージ	198
故障	
参照 けん引	
参照 パンクしたタイヤ	
故障メッセージ	
参照 ディ스플레이メッセージ	
故障メッセージを表示させる	
参照 ディ스플레이メッセージ	
子供	
乗員保護装置	65
乗せるとき	64
小物入れ	
アームレスト(下)	253
カップホルダー	260
グローブボックス	253
後席	253
重要な安全上の注意	252
センターコンソール	253
ドア	253
メガネホルダー	253
ラゲッジネット	253
コラプシブル応急用スペアタイヤ	
空気注入	317
参照 応急用スペアタイヤ	
コンビエンスオープニング/クロージング(内気循環モード)	139
コンビエンスオープニング機能	108
コンビエンスクロージング機能	108
コンビエンスボックス	257
コンビネーションスイッチ	125

さ

サービス	
参照 メンテナンスインジケーター	
サービスセンター	
参照 メルセデス・ベンツ指定サービス工場	
サービスデータ	
応急用スペアタイヤ	319

車両データ	328
タイヤ/ホイール	311
容量	323
サービスプロダクト	
燃料	323
ブレーキ液	326
サイドウィンドウ	
開閉(すべて)	108
開閉(フロント)	108
コンビニエンスオープニング機 能	108
コンビニエンススクローリング機 能	108
重要な安全上の注意	108
不具合(異常)	109
リセット	108
サイドトリムパネルの開閉	131
サイドバッグ	52
サイドランプ	
オン/オフの切り替え	125
サスペンションの制御	
AIR マテックサスペンショ ン	172
サマータイヤ	
冬季	301
サンバイザー	260

し

シート	
運転席のシートポジション ...	118
シートヒーター	120
シートヒーターのトラブル ...	121
シートヒーターを使用する ...	120
シートベンチレーター	120
シートベンチレーターの使用 ..	120
シートベンチレーターのトラブ ル	120
重要な安全上の注意	119
調整(手動および電動)	120
調整(電動式)	120
電動ランバーサポートを調整す る	120
表面の手入れ	273
ヘッドレストの調整	120
メモリー機能(設定の記憶)	122

シートベルト	
運転席および助手席シートベル ト	49
解除	49
概要	46
警告灯	214
警告灯(機能)	50
後席中央	49
重要な安全上の注意点	46
高さ調整	48
正しい着用方法	47
着用	48
手入れ	273
シートベルトテンショナー	
作動	60
事故	
事故後の自動措置	63
時刻の設定	
デジタル版取扱説明書をご覧ください	226
事故のとき	63
自宅住所	
デジタル版取扱説明書をご覧ください	226
室内センサー	
解除	91
機能	90
待機状態	90
指定サービス工場	
参照 メルセデス・ベンツ指定 サービス工場	
始動(エンジン)	145
シフトポジション表示	153
シフトポジション表示(DIRECT SELECT レバー)	153
車外ライト	
参照 ライト	
車間距離警告機能	
機能/注意	80
車間距離警告信号(警告灯)	223
車高	
AIR マテックサスペンショ ン	172
遮光フィルム	261
車載工具	277
車体寸法	328
車台ナンバープレート	
参照 ビークルプレート	

車台番号	
参照 VIN	
ジャッキ	
収納場所	277
使用方法	307
車両	
運搬	293
解錠(キー)	95
けん引	290
ジャッキアップ	307
ジャッキダウン	311
車両が動き出さないよう固定する	306
車両データ	328
施錠(キー)	95
操作安全性	26
装備	26
正しい使用	28
駐車	159
ディスプレイメッセージ	212
データ取得	28
電子制御部品	322
発進	147
非常時の解錠	100
非常時の施錠	101
車両データ	
トランクの積載量(最大)	328
ルーフの積載量(最大)	328
車両を運搬する	293
ジャンプスタート(エンジン)	287
住所の入力	
デジタル版取扱説明書をご覧ください	226
収納ボックス	
地図ポケット	253
周波数	
携帯電話	322
無線機	322
乗員安全性	
子供を乗せるとき	64
シートベルト	46
事故後の自動措置	63
重要な安全上の注意点	44
PRE-SAFE®(予見的乗員保護システム)	62
乗員の安全性	
ペットを乗せるとき	76
乗員保護装置	
概要	44
警告灯	221
警告灯(機能)	44
ディスプレイメッセージ	205
照度コントローラ(メーターパネル照明)	32
助手席エアバッグ	
表示灯	45
助手席エアバッグ解除	
ディスプレイメッセージ	208
助手席エアバッグ解除システム	
作動	54
システム自己診断	57
トラブル	59
助手席エアバッグ自動解除	
ディスプレイメッセージ	208
助手席エアバッグ自動解除システム	
作動	54
システム自己診断	57
トラブル	59
助手席エアバッグ表示灯	
問題(誤作動)	208
診断機の接続部	27
す	
スイッチおよびコントローラー	230
スタートストップ機能	
参照 ECO スタートストップ機能	
ステアコントロール	88
参照 ステアコントロール	
ステアリング	
安全のために	121
警告灯	223
スイッチ(マルチファンクションディスプレイ)	193
スイッチの概要	37
ステアリングヒーター	121
調整(手動)	121
調整(電動)	121
パドルシフト	153
メモリー機能(シート位置の記憶)	122
ステアリング(清掃の説明)	273
ステアリング(ディスプレイメッセージ)	212

ステアリングアシストおよびス トップ&ゴーパイロット(ディス トニック・プラス)	
ディスプレイメッセージ	198
ステアリングコラムのスイッチ ..	193
ステアリングヒーター	
作動/解除	121
スノーチェーン	301
スピードメーター	
セグメント表示	192
表示単位の設定	196
メーターパネル内	35
参照 メーターパネル	
スピードリミッター	
スノータイヤ	164
ディスプレイメッセージ	198
スライディンググループ	
開閉	111
リセット	111
レインクローキング機能	111
参照 パノラミックスライディ ンググループ	
スルーローディング	254
せ	
清掃	
ドアミラー方向指示灯	273
施錠	
参照 セントラルロックシステム	
施錠(ドア)	
車内から(セントラルロック グスイッチ)	99
非常時の施錠	101
設定	
初期化(マルチファンクション ディスプレイ)	196
マルチファンクションディス プレイ	196
設定変更(キー)	97
セレクトターレバー	
参照 オートマチックトランス ミッション	
センサー(日常の手入れ)	273
洗車(手入れ)	272
センターコンソール	
下部	39
上部	38

セントラルロックシステム	
施錠/解錠(キー使用)	95
セントラルロック	
参照 セントラルロックシステム	

そ

走行安全システム	
EBD(エレクトロニック・ブ レーキパワー・ディストリ ビューション)	86
走行安全装備	
アダプティブブレーキ	86
アダプティブブレーキアシ スト	82
アダプティブブレーキライト ...	83
概要	76
クロストラフィックアシスト付 きBAS プラス	78
コリジョンプリベンションアシ ストプラス	80
車間距離警告機能	80
重要な安全上の注意点	77
ステアコントロール	88
ABS(アンチロック・ブレーキ ング・システム)	77
BAS(ブレーキアシスト)	78
ESP®(エレクトロニック・ス タビリティ・プログラム)	83
ETS(エレクトロニック・トラ クション・システム)	83
PRE-SAFE® ブレーキ	86
走行距離記録	196
参照 オドメーター	
走行時の注意	
冠水路の走行(オンロード)	160
濡れた路面	160
走行装備	
アクティブパーキングアシ スト	174
アクティブブラインドスポット アシスト	185
アクティブレーンキーピングア シスト	187
アテンションアシスト	180
可変スピードリミッター	162
クルーズコントロール	161
ディストロニック・プラス ...	165

ドライビングアシスタンスパッ ケージ	184	点検	299
パークトローニック	173	冬季のサマータイヤ	301
ブラインドスポットアシスト ..	182	ホイールとタイヤの組み合わ せ	313
ホールド機能	169	保管	305
リアビューカメラ	176	参照 パンクしたタイヤ MOExtended タイヤ	300
レーンキーピングアシスト	183	タイヤ空気圧 指定	301
360° カメラシステム	177	達している(タイヤフィット) ..	282
AIR マテックサスペンショ ン	171	達しない(タイヤフィット)	282
走行モード オートマチックトランスミッ ション	153	ディスプレイメッセージ	211
表示(ダレクトセレクトレ バー)	153	タイヤ空気圧警告システム 再起動	304
マニュアルトランスミッショ ン	151	重要な安全上の注意	303
操作 デジタル版取扱説明書	23	全体的な注意事項	303
操作安全性 重要な安全上の注意	26	タイヤの取り付け ジャッキアップ	307
操作システム 参照 マルチファンクション ディスプレイ		ジャッキダウン	311
送風口 送風の設定	139	車両が動き出さないよう固定す る	306
送風配分の設定	139	車両の準備	306
送風量の設定	139	車輪の装着	310
速度制限の設定 参照 可変スピードリミッター		車輪の取り外し	310
速度の制御 参照 クルーズコントロール		タイヤフィット	280
		タコメーター	192
		ダッシュボード 参照 メーターパネル	
		タッチパッド オーディオおよび電話のクイッ クアクセス	235
		オーディオおよび電話のクイッ クアクセスを呼び出す	232
		オーディオソースの変更	235
		お気に入り	236
		概要	231
		スペースの入力	234
		タッチパッドの操作	231
		手書き認識	233
		動作の制御	231
		入力行を切り替える	234
		放送局/音楽トラックの変更 ..	235
		文字候補	234
		文字の入力	234
		文字を削除する	234
た			
タイヤ 応急用スペアタイヤ	316		
回転方向	305		
交換	305		
重要な安全上の注意	298		
新品の車輪の取り付け	310		
タイヤサイズ(データ)	311		
タイヤの交換	305		
タイヤの取り付け	306		
タイヤの取り外し	310		
タイヤのトレッド	300		
耐用年数	300		
ディスプレイメッセージ	211		

ち

チャイルドセーフティシート

後ろ向き乗員保護装置	69
純正	73
助手席に装着	68
適切な位置	69
テザーアンカー	67
前向き乗員保護補助装置	69
ISOFIX	66

チャイルドブルーロック

重要な安全上の注意	75
リアサイドウインドウ	76
リアドア	75

駐車

重要な安全上の注意	157
助手席側ドアミラーの位置	121
リアビューカメラ	176
参照 パークトロニック	
参照 駐車	

著作権 29

て

停止表示板 276

ディストロニック・プラス

解除	169
機能/注意	165
クルーズコントロールレバー ..	166
作動	167
作動条件	167
指定最低距離の設定	169
重要な安全上の注意	165
選択する	167
ディスプレイメッセージ	198
マルチファンクションディスプレイの表示	169

ディスプレイ

清掃に関する注意事項	229
参照 ディスプレイメッセージ	
参照 警告および表示灯	

ディスプレイ(日常の手入れ) 273

ディスプレイメッセージ

安全装備	200
エンジン	210
キー	198
キーレスゴー	198
車両	212
全体的な注意事項	198

タイヤ	211
はじめに	198
非表示(マルチファンクションディスプレイ)	198
メンテナンスインジケーター ..	271
呼び出し(マルチファンクションディスプレイ)	198
ライト	198

デイトタイムドライビングライト

機能/注意	125
ディスプレイメッセージ	198
点灯/消灯(マルチファンクションディスプレイ)	196

手入れ

ウインドウ	273
ウッドトリム	273
カーペット	273
ギア/セレクターレバー	273
高圧式スプレーガン	273
シート表皮	273
シートベルト	273
自動洗車機	272
車外ライト	273
車内	273
センサー	273
洗車	273
注意	271
ディスプレイ	273
塗装面	273
トリム部品	273
プラスチックトリム	273
ホイール	273
マットペイント	273
マフラー	273
リアビューカメラ	273
ルーフライニング	273
ワイパーブレード	273
360° カメラシステム	273
AIRPANEL	273

データ

参照 サービスデータ

テールランプ

ディスプレイメッセージ	198
参照 ライト	

手書き認識

タッチパッド	233
--------------	-----

テザーアンカー 67

デジタルスピードメーター 196

デジタル版取扱説明書		
概要	23	
ヘルプ	23	
テレビ		
操作(マルチファンクション ディスプレイ)	196	
参照 別冊の取扱説明書		
添加剤(エンジンオイル)	326	
電球		
参照 電球の交換		
電球の交換		
一般的な注意事項	129	
カバー(フロントホイールアー チ)の取り外し/取り付け	130	
重要な安全上の注意	129	
電球の種類概要	129	
電球を外す(フロント)	131	
ハイビームヘッドライト	131	
バックランプ	131	
方向指示灯(リア)	131	
ロービームヘッドライト	130	
電源ソケット		
センターコンソール	260	
全体的な注意	260	
トランク	260	
リア	260	
電子制御部品		
注意	322	
電池(キー)		
交換	98	
重要な安全上の注意	97	
点検	98	
電動ブラインド		
パノラミックスライディング ルーフ	113	
リアウインドウ	260	
リアサイドウインドウ	260	
電話		
携帯電話から接続を確立する	244	
携帯電話間の切り替え	245	
携帯電話の接続(一般的な情 報)	242	
携帯電話の認証(接続)	243	
携帯電話の認証の解除(切断)	246	
携帯電話を自動的に再接続す る	245	
着信を受ける	246	
通話の拒否	246	
通話の拒否/終了	196	
通話を終える	247	
デジタル版取扱説明書をご覧く ださい	226	
電話帳からの番号	196	
電話の使用	246	
電話番号を入力する	247	
電話を受ける(マルチファンク ションステアリング)	196	
発信する	247	
リダイヤル	196	
電話帳		
デジタル版取扱説明書をご覧く ださい	226	
電話番号		
入力する	247	
と		
ドア		
クロー징サポーター	99	
車速感応ドアロック(スイッ チ)	99	
重要な安全上の注意	99	
セントラルロックによる施錠/ 解錠(キー使用)	95	
ディスプレイメッセージ	198	
非常時の解錠	100	
非常時の施錠	101	
開く(車内から)	99	
ドアの操作パネル		
各部の名称	41	
ドアミラー		
格納/展開(自動)	121	
格納/展開(電動)	121	
外側に曲げられたとき	121	
調整	121	
防眩(自動)	121	
メモリー機能(設定の記憶)	122	
リセット	121	
リバースポジションの記憶	121	
ドアロック		
車速感応	99	
冬季の使用		
サマータイヤ	301	
盗難防止		
イモビライザー	89	
けん引防止機能	90	

室内センサー	90
ATA(盗難防止警報システム) ...	89
読書灯	128
塗装面(日常の手入れ)	273
ドライビングアシスタンスパッケージ	184
ドライブシステム	
レーントラッキングパッケージ	181
トランク	
開閉(車外からの自動)	103
開閉(車外からの手動)	103
開閉(車外からのハンズフリーアクセス)	104
開閉(車内からの自動)	106
クロー징ングサポーター	99
重要な安全上の注意	102
独立施錠	107
非常時の解錠	107
トランクの積載量(最大)	328
トランクフロアボード下の収納スペース	258
トランクリッド	
開閉	102
障害物検知	102
ディスプレイメッセージ	198
開いたときの寸法	328
トランスファーケース	153
トランスミッション	
参照 オートマチックトランスミッション	
参照 マニュアルトランスミッション	
取扱説明書	
概要	26
車両装備	26
トリップコンピューター(マルチファンクションディスプレイ) ...	196
トリップメーター	
呼び出し	196
トリム部品(清掃の説明)	273

な

内気循環モードの作動および解除	139
ナビ	
メニューの表示/非表示	238

ナビゲーション

デジタル版取扱説明書をご覧ください	226
メニュー(マルチファンクションディスプレイ)	196
参照 別冊の取扱説明書	
慣らし運転	142

に

ニーバッグ	52
荷物固定用リング	256
荷物の積み方	252
ニュートラルの選択(マニュアルトランスミッション)	149

ね

燃費(マルチファンクションディスプレイ)	196
燃料	

運転のヒント	159
給油	154
グレード(ガソリン)	324
重要な安全上の注意	323
消費に関する情報	325
走行可能距離の表示	196
タンク容量/予備燃料	324
添加剤	325
燃料計	35
燃料消費の表示	196
平均燃費	196
問題があるとき	157

燃料および油脂

ウォッシャー液	327
エンジンオイル	325
重要な安全上の注意	323
冷却水(エンジン)	327

燃料キャップ

 参照 燃料給油口フラップ

燃料給油口フラップ

開く	155
----------	-----

燃料残量

警告灯	213
走行可能距離の呼び出し(マルチファンクションディスプレイ)	196
ディスプレイメッセージ	198

燃料タンク	
不具合	157
容量	324
燃料容量	
燃料計	35

は

パーキング	
パーキングブレーキ	158
パーキングアシスト	
参照 パークトロニック	
パーキングブレーキ	
ディスプレイメッセージ	198
電気式パーキングブレーキ	158
パーキングヘルプ	
アクティブパーキングアシスト	174
参照 ドアミラー	
参照 パークトロニック	
パーキングランプ	
ディスプレイメッセージ	198
点灯/消灯	125
パークトロニック	
インジケーター	174
解除/作動	174
機能/注意	173
重要な安全上の注意	173
センサーの感知範囲	173
走行装備	173
不具合(故障)	174
ハイウェイモード	126
灰皿	260
ハイドロブレーキング現象	160
ハイビームヘッドライト	
アダプティブハイビームアシスト・プラスのオン/オフの切り替え	128
アダプティブハイビームアシストプラス	127
ディスプレイメッセージ	198
電球の交換	131
点灯/消灯	125
バッグフック	256
バックランプ	
電球の交換	131
バックランプ(ディスプレイメッセージ)	198

発進

オートマチックトランスミッション	147
ヒルスタートアシスト	148
マニュアルトランスミッション	147
バッテリー(車両)	
ジャンプスタート	287
充電	286
重要な安全上の注意事項	283
電圧	329
容量	329
パドルシフト	153
パニティミラー(サンバイザー内)	260
パノラミックスライディングルーフ	
開閉	112
重要な安全上の注意	109
不具合(故障)	115
リセット	114
レインクローズ機能	112
パノラミックスライディングルーフの電動ブラインド	
操作	114
パワーウィンドウ	
参照 サイドウィンドウ	
パンク	
参照 応急用スペアタイヤ	
パンクしたタイヤ	
車両の準備	278
タイヤの交換/スペアタイヤの装着	305
タイヤフィット	280
MOExtended タイヤ	279
番号	
ダイヤルする	247
ハンズフリーアクセス	104

ひ

ビークルプレート	322
ヒーター	
参照 エアコンディショナー	
非常時の解錠	
運転席ドア	100
車両	100
非常時の車両の施錠	101

非常点滅灯	124	ディスプレイメッセージ	200
日付/時刻形式の設定		パーキングブレーキ	158
デジタル版取扱説明書をご覧ください	226	ヒルスタートアシスト	148
ビデオ		ブレーキ液(注意)	326
デジタル版取扱説明書をご覧ください	226	ホールド機能	169
ビデオ (DVD)	196	ABS	77
ヒューズ		BAS	78
エンジンルーム内のヒューズ		EBD(エレクトロニック・ブ	
ボックス	295	レーキパワー・ディストリ	
交換の前に	294	ビューション)	86
重要な安全上の注意	294	ブレーキアシスト	
ダッシュボードのヒューズボッ		参照 BAS(ブレーキアシスト)	
クス	294	ブレーキ液	
トランク内のヒューズボックス		注意	326
の位置	296	ディスプレイメッセージ	205
配置表	296	ブレーキ液量	271
ヒューズボックス		ブレーキ制動力の電子的配分	
助手席足元のヒューズボック		参照 EBD (エレクトロニッ	
ス	295	ク・ブレーキパワー・ディスト	
表示および警告灯		リビューション)	
コリジョンプリベンションアシ		ブレーキランプ	
ストプラス	223	アダプティブ	83
表示灯		ディスプレイメッセージ	198
参照 警告灯/表示灯		フロアマット	260
ヒルスタートアシスト	148	フロントワイパー	
		不具合	134

ふ

フォグランプ(強化機能)	127	ヘッドアップディスプレイ	
ブラインドスポットアシスト		明るさの調整	196
機能/注意	182	位置の設定	196
設定/解除(マルチファンクショ		オン/オフを切り替える	195
ンディスプレイ)	196	機能 / 注意事項	194
ディスプレイメッセージ	198	重要な安全上の注意事項	194
参照 アクティブブラインドス		設定の保存(メモリー機能)	122
ポットアシスト		ディスプレイのオン/オフを切	
プラスチックトリム(清掃の説		り替える	196
明)	273	ヘッドライト	
ブレーキ		ウォッシャー(注記)	327
アダプティブブレーキアシ		くもり	124
スト	82	参照 オートマチックヘッドラ	
運転のヒント	159	イトモード	
クロストラフィックアシスト付		ヘッドライト光軸の調整	125
きBAS プラス	78	ヘッドレスト	
警告灯	215	調整	120
重要な安全上の注意	159	調整(機械的)	120
		調整(リア)	120

取り外し/取り付け(リア)	120
ベットを乗せるとき	76
ベルト	
参照 シートベルト	

ほ**ホイール**

交換/ローテーション	305
締め付けトルク	311
重要な安全上の注意	298
清掃	273
タイヤの交換	305
点検	299
ホイールサイズ/タイヤサイズ	311
保管	305

ホイールとタイヤの組み合わせ

参照 タイヤ

ホイールボルトの締め付けトルク**311****方向指示灯**

ディスプレイメッセージ	198
電球の交換(フロント)	131
電球の交換(リア)	131
点灯/消灯	125

放送局の選択

ラジオ	249
-----------	-----

ホールド機能

解除	170
機能/注意	169
作動	170

ホーン**32****ボックス(トランク)****257****ボンネット**

アクティブボンネット(歩行者保護)	264
重要な安全上の注意	264
ディスプレイメッセージ	212
閉じる	266
開く	265

ま**マットペイント(日常の手入れ)** ...**273****マニュアルトランスミッション**

アジリティセレクトスイッチ ..	150
エンジン始動	146
ギアシフト推奨	150

ギアレバー	149
走行モード	151
ニュートラルの選択	149
発進	147
リバースギアの締結	149

マフラー(手入れ)**273****マルチファンクションステアリング**

概要	37
マルチファンクションディスプレイの操作	193

マルチファンクションディスプレイ

アシスト一覧メニュー	196
安全に関する重要事項	192
機能/注意	192
基本画面	196
サブメーター	196
設定初期化サブメニュー	196
操作	193
ディストロニック・プラス ...	169
ディスプレイメッセージ	198
テレビの操作	196
点検メッセージの表示	271
ナビゲーションメニュー	196
ビデオ DVD の操作	196
ヘッドアップディスプレイ ...	194
メッセージの記憶	198
メディアメニュー	196
メニューの概要	196
メンテナンスメニュー	196
ライトサブメニュー	196
ラジオメニュー	196

み**ミラー**

参照 ドアミラーまたはルームミラー
参照 バニティミラー (サンバイザー内)
参照 ルームミラー

む**無線機**

周波数	322
送信出力(最大)	322
取り付け	322

め

メーターパネル
 各部の名称 35
 警告灯/表示灯 36

メーターパネル照明 192

メガネホルダー 253

メッセージ
 参照 ディスプレイメッセージ
 参照 警告および表示灯

**メッセージの記憶(マルチファンク
 ションディスプレイ)** 198

メモリーカード(オーディオ) 196

メモリー機能 122

**メルセデス・ベンツ・インテリ
 ジェントドライブ**
 アクティブパーキングアシ
 スト 174
 アクティブブラインドスポッ
 トアシスト 185
 アクティブレーンキーピングア
 シスト 187
 アテンションアシスト 180
 一般的な注意事項 160
 ディストロニック・プラス 165
 パーキングアシストリアビュー
 カメラ 176
 パークトロニック 173
 ブラインドスポットアシスト ..
 レーンキーピングアシスト 183
 360° カメラシステム 177
 PRE-SAFE®(予見的乗員保護
 システム) 62
 PRE-SAFE®プラス(予期乗員
 保護措置プラス) 62

**メルセデス・ベンツ指定サービ
 ス工場** 28

メルセデス・ベンツ純正部品 25

メンテナンスインジケーター
 注意 271
 特別な点検が必要なとき 271
 メンテナンスインジケーターの
 リセット 271
 メンテナンスメッセージ 271
 メンテナンスメッセージの非表
 示 271
 メンテナンスメッセージの表
 示 271

**メンテナンスメニュー(マルチファ
 ンクションディスプレイ)** 196

よ

**余熱ヒーター(エアコンディショ
 ナー)** 139

予備(燃料タンク)
 参照 燃料

ら

ラジエターの防虫 266

**ライセンスランプ(ディスプレイ
 メッセージ)** 198

ライター 260

ライト
 アクティブライトシステム 126
 アダプティブハイビームアシ
 ストプラス 127
 インテリジェントライトシステ
 ム(機能) 125
 インテリジェントライトシステ
 ムのオン/オフ 196
 コーナリングライト 126
 車外ライトの設定 124
 車幅灯 125
 スポットライトのオン/オフの
 切り替え 196
 デイタイムドライビングライト
 の点灯/消灯(マルチファンク
 ションディスプレイ) 196
 パーキングランプ 125
 ハイウェイモード 126
 ハイビームヘッドライト 125
 非常点滅灯 124
 フォグランプ(強化機能) 127
 ヘッドライト光軸 125
 ヘッドライトのオートモード .. 125
 ヘッドライトのパッシング 125
 方向指示灯 125
 ランプスイッチ 124
 リアフォグランプ 125
 ロービームヘッドライト 125
 参照 電球の交換

ライトセンサ 198

ラゲッジネット 253

ラゲッジルーム 252

ラジエターカバー 266

ラジオ	
概要	249
切り替える	249
交通情報	249
周波数バンドの設定	249
放送局の選択	196
参照 別冊の取扱説明書	
ラジオモード	
デジタル版取扱説明書をご覧ください	226
ランバーサポート	
電動ランバーサポートの調整 ..	120
ランプ	
参照 警告灯/表示灯	

り

リア	
送風量の調整	139
リアウインドウの電動ブラインド	260
リアシート(バックレストを倒す/起こす)	254
リアデフォグガー	
機能のオン/オフ	139
トラブル(故障)	139
リアビューカメラ	
オン/オフ	177
機能/注意	176
清掃の説明	273
リアフォグランプ	
ディスプレイメッセージ	198
点灯/消灯	125
リアランプ	
参照 ライト	
リターンスイッチ	230
リバースギアの締結 (マニュアルトランスミッション)	149
リバース機能	
サイドウインドウ	108
スライディングルーフ	110
電動ブラインド	113
トランクリッド	102
パノラミックスライディングルーフ	110

る

ルート(ナビゲーション)	
参照 ルート案内(ナビゲーション)	
ルート案内	
デジタル版取扱説明書をご覧ください	226
ルート案内(ナビゲーション)	196
ルーフ	
ディスプレイメッセージ	198
ルーフの積載量(最大)	328
ルーフライニングとカーペット(清掃の説明)	273
ルーフラック	259
ルームミラー	
防眩(自動)	121
防眩(手動)	121
ルームライト	
概要	128
緊急時点灯機能	128
自動点灯	128
手動点灯	128
読書灯	128
れ	
冷却水(エンジン)	
温度計	192
警告灯	222
重要な安全上の注意	327
定期交換	270
ディスプレイメッセージ	210
補給	269
量の点検	268
冷房	
参照 エアコンディショナー	
レインクローズ機能	
スライディングルーフ	111
パノラミックスライディングルーフ	112
レーンキーピングアシスト	
機能/注意	183
設定/解除(マルチファンクションディスプレイ)	196
ディスプレイメッセージ	198
参照 アクティブレーンキーピングアシスト	
レントラッキングパッケージ ..	181

ろ

ロードサインアシスト	
警告機能の作動/解除	196
ディスプレイメッセージ	198
ロービームヘッドライト	
ディスプレイメッセージ	198
電球の交換	130
点灯/消灯	125
左側/右側通行の設定	196

わ

ワークショップ	
参照 メルセデス・ベンツ指定	
サービス工場	
ワイパー	
ワイパーの操作	132
ワイパーブレードの交換	132
ワイパーブレード	
交換	132
交換(フロントウインドウ)	133
重要な安全上の注意	132
清掃	273
輪止め	306

英字

4MATIC(オフロードシステム) ..	172
4MATIC (フルタイム 4 輪駆動)	172
12V ソケット	
参照 電源ソケット	
360° カメラシステム	
機能/注意	177
清掃	273
ABS(アンチロック・ブレーキング・システム)	
機能/注意	77
警告灯	217
重要な安全上の注意	77
ディスプレイメッセージ	200
AC モードのオン/オフ	139
AIRPANEL(清掃の説明)	273
AIR マティックサスペンション	
機能/注意	171
ATA(盗難防止警報システム)	
機能	89
警報の解除	89

作動/解除	89
BAS(ブレーキアシスト)	78
BAS プラス(飛び出し検知機能付	
ブレーキアシスト・プラス)	
機能/注意事項	78
重要な安全上の注意事項	78
Bluetooth®	
携帯電話	242
携帯電話の検索	243
デジタル版取扱説明書をご覧ください	226
パスコードの入力	243
他の携帯電話との接続	245
CD	
デジタル版取扱説明書をご覧ください	226
CD プレーヤー/CD チェンジャー	
(マルチファンクションディスプレイ)	196
COMAND Online	
ディスプレイ	228
COMAND システム	
コントローラー	230
COMAND ディスプレイ	
手入れの説明	229
CPA プラス	
作動 / 解除	196
操作 / 注意事項	80
ディスプレイメッセージ	198
DIRECT SELECT レバー	
オートマチックトランスミッション	152
DVD オーディオ	
操作(マルチファンクションディスプレイ)	196
DVD ビデオ	
操作(マルチファンクションディスプレイ)	196
デジタル版取扱説明書をご覧ください	226
EASY-PACK コンビニエンスボックス	257
EBD(エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション)	
機能/注意	86
ディスプレイメッセージ	204

ECO スタートストップ機能	
一般的な注意	148
エンジン自動始動	149
エンジン自動停止	149
概要	148
作動/解除	149
重要な安全上の注意	148
ECO ディスプレイ	
機能 / 注意事項	159
ESP	
参照 ESP®(エレクトロニック ク・スタビリティ・プログラム)	
ESP® (エレクトロニック・スタ ビリティ・プログラム)	
解除/作動	85
機能/注意	83
警告灯	219
作動/解除	196
重要な安全上の注意	83
全体的な注意事項	83
ディスプレイメッセージ	200
特性	84
ETS	83
ETS(エレクトロニック・トラク ション・システム)	83
Google™ ローカル検索	
デジタル版取扱説明書をご覧ください	226
iPod	
デジタル版取扱説明書をご覧ください	226
ISOFIX 対応チャイルドセーフ ティシート	66
LIM 表示灯	
可変スピードリミッター	163
クルーズコントロール	161
ディストロニック・プラス	166
M+S タイヤ	301
MOExtended タイヤ	279
MP3	
操作	196
デジタル版取扱説明書をご覧ください	226
参照 別冊の取扱説明書	
PRE-SAFE® プラス(予期乗員保 護プラス)	
操作	62
PRE-SAFE®(予見的乗員保護シ ステム)	
機能の仕方	62
PRE-SAFE® ブレーキ	
機能/注意	86
警告灯	223
設定/解除	196
SD メモリーカード	
デジタル版取扱説明書をご覧ください	226
USB 機器の接続	
デジタル版取扱説明書をご覧ください	226
VIN	322

はじめに

印刷版取扱説明書には、車両の安全操作に関する情報が記載されています。デジタル版取扱説明書には、車両に装備されている追加機能および装備について記載されています。車両の機能および Audio 20/COMAND システムの機能については、デジタル版取扱説明書に記載されています。Audio 20/COMAND システムを使用してデジタル版取扱説明書を呼び出すことができます。

i デジタル版取扱説明書のご利用にあたり、お客様には一切費用はかかりません。デジタル版取扱説明書はインターネットに接続せずに作動します。

デジタル版取扱説明書の項目にアクセスするためには、3つの方法があります。

・イメージ検索

イメージ検索により、車両を"システム上"で調べることができます。車外イメージあるいは車内イメージのいずれかから開始し、デジタル版取扱説明書に記載されているさまざまな項目にアクセスすることができます。車両の項目にアクセスするためには、"車内"の画像を選択します。

・キーワード検索

キーワード検索は、文字入力によりキーワードの検索ができます。さらなる情報は、デジタル版取扱説明書の"Audio 20"/"COMAND システム"の"文字入力"にあります。





・目次

目次の個別項目を選択できます。

i 安全上の理由のため、走行中はデジタル版取扱説明書は作動しません。

操作

デジタル版取扱説明書の呼び出し

- ▶ センターコンソールの  スイッチを押します。
車両に関連した概要が開きます。
- ▶ コントローラーをまわすか 、スライドして 、メニュー項目の"取扱説明書"を選択します。
- ▶ 警告および安全上の注意事項に関するメッセージを確認します 。
デジタル版取扱説明書の基本メニューが開きます。

デジタル版取扱説明書の操作




全体的な注意事項









コントローラーの操作に関する情報に従ってください (▶ 230 ページ)。

コンテンツページ

イメージ検索、キーワード検索、または目次を使用してコンテンツページにアクセスすることができます。



- ▶ 前/後にスクロールする：コントローラーをまわします 。
- ▶ 全画面/アニメーションで表示する：コントローラーを左  ① にスライドします 。

- ▶ **情報メッセージを選択する/ブックマークを保存する**：コントローラーを右 ② にスライドします 。
- ▶ **リンクを選択する**：コントローラーを下 ③ にスライドします 。
- ▶ **コンテンツページを終了する**： マーク ④ を選択します。
- ▶ **デジタル版取扱説明書の基本メニューを呼び出す**： マーク ⑤ を選択します。
- ▶ **センターコンソールのスイッチを使用して、機能を Audio 20/COMAND システムに切り替える**：、、 または  スイッチを押します。選択されたメニューが開きます。デジタル版取扱説明書はバックグラウンドで開いたままになります。

環境保護

全体的な注意事項

🌀 環境に関する注意

Daimlerは、包括的な環境保護の一つとして対策を明確にしています。

それは、地球上で少しずつ使われ、自然と人間双方の要求に注意を促す、我々の存在の源となる自然資源のためです。

環境的に配慮のある方法で車両を操作することも、環境を保護する一助になります。

燃費やエンジン回転、トランスミッション、ブレーキ、タイヤの摩耗具合は、以下の要因に左右されます。

- お客様の車両の使用状況
- お客様の個人的な運転スタイル

お客様は、いずれの要因にも影響を及ぼしています。以下のことにご注意ください。

使用状況

- 短距離の走行は燃料消費を増やす原因となります。
- タイヤの空気圧が常に適正であることを確認してください。
- 不要な重量物は積載しないでください。
- 必要でないときは、ルーフラックを取り外してください。
- 定期的な車両の整備は、環境保護に貢献します。整備の間隔を守ってください。
- 点検整備は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

個人的な運転スタイル

- エンジンを始動するときは、アクセルペダルを踏まないでください。
- 車両を停止したままのエンジン暖機は行なわないでください。
- 注意して運転し、前方の車両との適切な距離を保持してください。
- 頻繁な、または急な加速やブレーキ操作は避けてください。

- 適切なタイミングでギアを変え、それぞれのギアの使用は、エンジン最高回転数の $\frac{2}{3}$ までにとどめてください。
- 渋滞しているときは、エンジンを停止してください。
- 車両の燃費に注意してください。

メルセデス・ベンツ純正部品

🌀 環境

Daimler AGでは、新品同様の品質を持つ、リサイクルしたアッセンブリーやパーツも供給しています。新品と同様の保証が適用されます。

! 以下の部位の周辺には、エアバッグやシートベルトテンショナー、また乗員保護装置のコントロールユニットやセンサー類が取り付けられています。

- ドア
- ドアピラー
- サイドシル
- シート
- ダッシュボード
- メーターパネル
- センターコンソール

これらの部位にオーディオなどのアクセサリーを取り付けしないでください。修理や板金作業を行なわないでください。乗員保護装置の作動効果が損なわれるおそれがあります。

アクセサリーを装着するときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

メルセデス・ベンツにより承認されていない安全性に関わる部品、タイヤおよびホイール、ならびにアクセサリーなどを使用した場合は、車両の走行安全性を損なうおそれがあります。ブレーキシステムなどの安全に関連したシステムが故障するおそれがあります。メルセデス・ベ

ンツ純正部品または同等の品質の部品のみを使用してください。タイヤやホイール、アクセサリーなどは必ず、車両用に明確に承認された製品のみを使用してください。

メルセデス・ベンツでは、純正部品や交換部品、アクセサリーに対して、それらの信頼性や安全性、適合性が明確に車両に適しているかをテストしています。継続的な市場調査に関わらず、メルセデス・ベンツはすべての部品を入手できるわけではありません。そのため、公的に承認されている、またはテストセンターによって独自に承認されている場合でも、メルセデス・ベンツ車でのそのような部品の使用については、メルセデス・ベンツは責任を負いかねます。

メルセデス・ベンツ純正部品を注文するときは、常に車台番号 (VIN) (▶ 322 ページ) を確認する必要があります。

取扱説明書

車両の装備

車両のすべての標準およびオプション装備については、別冊の補足版をご覧ください。

装備や操作について不明点があるときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

取扱説明書と整備手帳は重要な書類です。車内に保管してください。

操作安全性

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

規定の点検整備または必要な修理を行っていないと、故障やシステム故障を引き起こすおそれがあります。事故の危険性があります。

規定の点検整備、必要な修理は必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行ってください。

⚠ 警告

排気システムの熱くなった部品に触れた場合は、葉、草または小枝のような可燃性の物質が発火するおそれがあります。火災の危険性があります。

オフロードまたは舗装されていない道路を走行するときは、車両の下側を定期的に点検してください。特に、挟まった植物や他の可燃物を取り除いてください。損傷している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

⚠ 警告

電子部品、ソフトウェア配線への改造は、それらの機能およびその他のネットワークでつながっている構成部品の機能を損なうことがあります。特に、安全にかかわるシステムに影響が生じるおそれがあります。結果として、車両の機能が適切に作動しないあるいは走行安全性が危険にさらされることがあります。けがや事故の危険が高まります。

また、決して配線、電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。電気装備および電子機器に関するすべての作業および改造はメルセデス・ベンツ指定サービス工場ですべて行ってください。

車両の電子制御部品に変更を行なった場合は、一般使用許可は無効になります。

■ 以下のときは、車両が損傷することがあります：

- 高い縁石や舗装されていない道路で車両が立ち往生した
- 縁石や道路のくぼみなどの障害物の上を速すぎる速度で走行した
- 重量のある障害物がボディ下部やシャーシの部品にぶつかった

このような状況では、目に見える損傷はなくても、ボディ、ボディ下部、シャー

シ部品、ホイール、タイヤが損傷しているおそれがあります。このようにして損傷した部品は予期せず故障するおそれがあり、事故の場合には、設計されている負荷に耐えることができなくなるおそれがあります。

ボディ下部のパネルが損傷しているときは、葉、草または小枝のような可燃性の素材がボディ下部とボディ下部パネルの間に堆積することがあります。これらの素材が排気システムの高温の部品に触れた場合は、発火するおそれがあります。そのような場合には、すぐにメルセデス・ベンツ指定サービス工場 で点検および修理を受けてください。走行している場合に、走行安全性が損なわれていると感じた場合は、道路や交通状況に注意しながらすみやかに移動し、停車してください。このような場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

診断器接続部

診断器接続部は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場 で診断機器のみを接続するように想定されています。

⚠ 警告

機器を診断機の接続部に接続すると、車両システムの操作に影響を与える場合があります。車両の走行安全性が損なわれることがあります。事故の危険性があります。

いかなる機器も車両の診断機の接続部に接続しないでください。

⚠ 警告

運転席の足元の荷物は、ペダルの自由な動きを妨げたり、または踏んだペダルを妨害することがあります。これは車両の操作および走行安全性を脅かします。事故の危険性があります。

運転席の足元に入り込まないように、すべてのものを車内に確実にしっかりと収納してください。フロアマットは指示にしたがって必ず確実に固定し、ペダル操作の妨げにならないようにペダルとの間に十分な空間があることを確認してください。緩んだフロアマットを使用したり、フロアマットを重ねて置かないでください。

! エンジンが停止しているときに診断機の接続部の装備品を使用すると、スターターバッテリーが放電することがあります。

診断機器を診断器接続部に接続すると、例えば排出ガスモニター情報のリセットにつながります。これにより、次の主要な点検の際の排出ガス試験の要件に適合しなくなる場合があります。

日常点検および検査

お客様自身の責任において日常点検と定期検査を行なうことが法律で定められています。それぞれの検査手順についての詳細情報は、整備手帳をご覧ください。

オートマチックトランスミッションの操作

全体的な注意事項

適切にご使用いただくために、オートマチックトランスミッションを使用する前に、特徴や操作に関連する事項についての理解を深めてください。

"走行および駐車"の指示もご覧ください。(p. 151 ページ)。

オートマチックトランスミッションの特徴

クリーブ現象

エンジンがかかっている状態でトランスミッションがトランスミッションポジションDまたはRのときは、駆動輪に動力が伝達されています。その結果、アクセルペダルを踏んでいなくても、車両が動き出します。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場

メルセデス・ベンツ指定サービス工場は、車両に必要な作業を適切に行なうため、専門的な知識、ツールおよび資格を有しています。これは特に安全に関する作業を行なう際に適応されます。

整備手帳にある注意事項に従ってください。

以下の作業については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

- 安全に関する作業
- 整備およびメンテナンス作業
- 修理作業
- 改造、取り付け、交換
- 電子部品の作業

メルセデス・ベンツ指定サービス工場をご利用いただくことをお勧めします。

正しく使用するために

警告ステッカーをはがすと、お客様や他の方々々が危険を認識できないことがあります。警告ステッカーをはがさないでください。

車両を運転しているときは以下の情報に従ってください。

- 本説明書の安全に対する注意点
- 本説明書のサービスデータ

- 道路交通法
- 自動車に関する法律と安全基準

車両に記憶されているデータ

車両の数多くの電子部品には、データメモリーが装備されています。

これらのデータメモリーは、以下に関する技術情報を一時的または恒常的に保存します：

- 車両の作動状態
- 発生した事象
- 故障

一般的に、この技術情報は構成部品、モジュール、システムまたは環境の状態について記録します。

例えば、以下を含みます：

- 油脂類のレベルなどのシステム構成部品の作動状況
- 車両の状況メッセージ、およびホイール回転数/速度、減速、横方向の加速度、アクセルペダルの位置など個別の構成部品の状況メッセージ
- ライト、ブレーキなどの重要なシステム構成部品の故障および異常
- エアバッグの作動、スタビリティコントロールシステムの介入などの特殊な走行状態での車両の反応および作動条件
- 外気温度などの外気条件

このデータは以下の技術的なことにのみ使用されます：

- 故障や不具合の検知および改良の支援
- 事故後などの車両機能の解析
- 車両機能の最適化

データを使用して、車両の動きをたどることはできません。

お客様の車両が整備を受けたときは、この技術情報が発生事象データメモリーお

よび故障データメモリーから読み出されます。

例えば以下の整備が含まれます：

- 修理整備
- 整備処理
- 保証の事象
- 品質保証

この情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場の認定された従業員（メーカーを含む）が特別な診断機を使用して読み出します。必要に応じて、より詳細な情報を取得します。

故障が解決されたあと、情報は故障メモリーから消去されるか、絶えず上書きされます。

車両を操作する場合、その他の情報と併せて（必要に応じて、該当機関に相談し）、この技術データから個人を特定することがあります。

以下の例が含まれます：

- 事故情報
- 車両への損傷
- 目撃者証言

お客様と合意したその他の追加機能によっても、同様に特定の車両データを車両から取得することがあります。追加機能は、非常時の車両位置などを含んでいます。

著作権の情報

全体的な注意事項

車両およびその電子部品に使用されているフリーおよびオープンソースのソフトウェアのライセンスに関する情報は、下記のウェブサイトから入手できます：

<http://www.mercedes-benz.com/opensource>

運転席	32
メーターパネル	35
マルチファンクションステアリング	37
センターコンソール	38
オーバーヘッドコントロールパネル	40
ドアコントロールパネル	41


運転席






機能	ページ
① ステアリングのギアシフトパドル	
② コンビネーションスイッチ	125
③ ホーン	
④ メーターパネル	35
⑤ DIRECT SELECT レバー	152
⑥ エアコンディショナーシステム	136
⑦ オーバーヘッドコントロールパネル	40
⑧ COMAND システムおよび車両の機能用コントロールパネル	38
⑨ エンジンスイッチ キーレスゴースイッチ	143 143
⑩ ステアリングの調整	
⑪ クルーズコントロールレバー	161

機能	ページ
⑫ 電気式パーキングブレーキ	158
⑬ 診断器接続部	27
⑭ ボンネットを開く	265
⑮ ライトスイッチ	124
⑯ 以下のコントロールパネル： ステアリングアシストの作動 アクティブレーンキーピングアシストの作動 187 パークトロンニック パークトロンニックの解除 360° カメラシステムの作動 177 ヘッドアップディスプレイの作動 194 ドライバーアシスタンスシステム非装備車：地図/コインホルダー	



機能	ページ
① オーバーヘッドコントロールパネル	40
② エアコンディショナーシステム	136
③ コンビネーションスイッチ	125
④ メーターパネル	35
⑤ ホーン	
⑥ DIRECT SELECT レバー	152
⑦ ステアリングのギアシフトパドル	

機能	ページ
⑧ 以下のコントロールパネル： ステアリングアシストの作動 アクティブブレーンキーピングアシストの作動 パークトロックの解除 360° カメラシステムの作動 ヘッドアップディスプレイの作動 ドライバーアシスタンスシステム非装備車：地図/コインホルダー	 187  177 194
⑨ ライトスイッチ	124
⑩ ボンネットを開く	265
⑪ 診断器接続部	27
⑫ 電気式パーキングブレーキ	158
⑬ エンジンスイッチ キーレスゴースイッチ	143 143
⑭ ステアリングの調整	

	機能	ページ
⑮	クルーズコントロールレバー	161

	機能	ページ
⑯	COMAND システムおよび車両の機能用コントロールパネル	38

メーターパネル

ディスプレイ



PS4-33-2709-21

機能	ページ
① スピードメーター	
② マルチファンクションディスプレイ	
③ タコメーター	

機能	ページ
④ 冷却水温度計	
⑤ 燃料計	

警告および表示灯



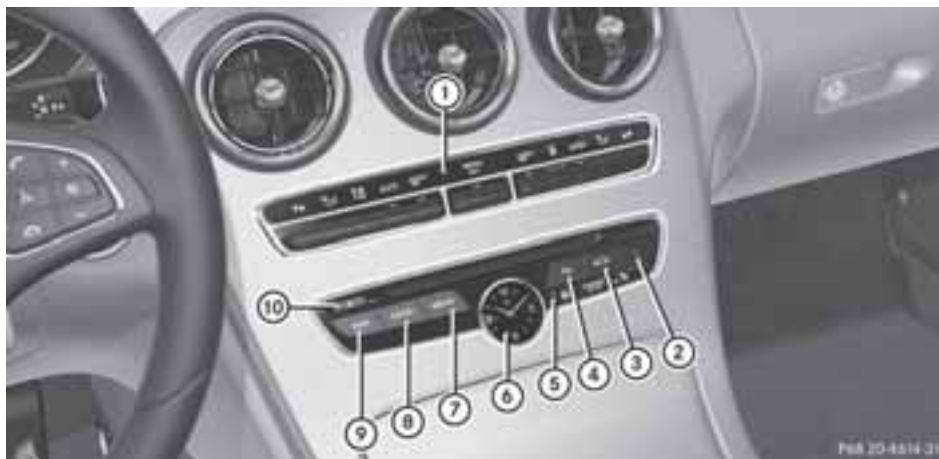
PS4.33-2710-31





	機能	ページ
①	ESP® 解除	219
②	ESP® 表示灯	219
③	距離警告	223
④	パワーステアリング	223
⑤	方向指示灯	
⑥	電気式パーキングブレーキ (黄色)	
⑦	ABS	217
⑧	エンジン診断	
⑨	この表示灯に機能はありません	
⑩	電気式パーキングブレーキ (赤色)	
⑪	ブレーキ (赤色)	215
⑫	冷却水	222






	機能	ページ
⑬	ブレーキ (黄色)	215
⑭	乗員保護装置	44
⑮	シートベルト	214
⑯	ハイビームヘッドライト	
⑰	ロービームヘッドライト	
⑱	予備燃料	
⑲	車幅灯、ライセンスプレートおよびメーターパネル照明	
⑳	フォグランプ	
㉑	リアフォグランプ	
㉒	この表示灯に機能はありません	

センターコンソール

上部センターコンソール



	機能	ページ
①	クライメートコントロール	136
②	 非常点滅灯	
③	車両機能スイッチ	
④	電話スイッチ	
⑤	助手席エアバッグ表示灯 盗難防止警報システム表示灯	45 89

	機能	ページ
⑥	アナログ時計	
⑦	メディアスイッチ	
⑧	ラジオスイッチ	
⑨	ナビゲーションスイッチ	
⑩	 CD/DVD の挿入/ 取り出し	









下部センターコンソール







機能	ページ	機能	ページ
① 小物入れ 灰皿 ライター 電源ソケット カップホルダー		⑧ 車高を設定する	
② 音量の調整/ミュート		⑨ アジリティセレクトスイッチ	
③ COMAND システムのオン/オフの切り替え		⑩ リターンスイッチ (別冊の取扱説明書をご覧ください)	
④ ECO スタートストップ機能		⑪ COMAND コントローラー: 別冊の取扱説明書をご覧ください	
⑤ タッチパッド (別冊の取扱説明書をご覧ください)		⑫ お気に入りスイッチに切り替える (別冊の取扱説明書をご覧ください)	
⑥ 小物入れ			
⑦ 電動ブラインド (リアウインドウ)			

オーバーヘッドコントロールパネル



	機能	ページ
①	 左側読書灯の点灯/消灯の切り替え	
②	 ルームライトの自動点灯のオン/オフの切り替え	
③	 フロントルームライトの点灯/消灯の切り替え	
④	 リアルームライトの点灯/消灯の切り替え	

	機能	ページ
⑤	 右側読書灯の点灯/消灯の切り替え	
⑥	サングラスケース	
⑦	 パノラミックスライ ディングルーフの開閉	112
	電動ブラインドの開閉	113
⑧	ルームミラー	

ドアコントロールパネル



機能	ページ
① シート、ドアミラー、ステアリング設定の記憶	
② パワーシートの調整	
③ シートヒーター	
④ シートベンチレーター	
⑤ ドアを開く	
⑥ 車両の解錠/施錠	
⑦ 左リアサイドウィンドウの開閉	
⑧ 左サイドウィンドウの開閉	

機能	ページ
⑨ ドアミラーの電動調整および格納/展開	
⑩ 右サイドウィンドウの開閉	
⑪ 右リアサイドウィンドウの開閉	
⑫ 後席操作のチャイルドブルーロック機能	76
⑬ トランクリッドの開閉	106

役に立つ情報	44
乗員の安全性	44
子供を乗せるとき	64
ペットを乗せるとき	76
走行安全システム	76
盗難防止	89

役に立つ情報

i この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

i メルセデス・ベンツ指定サービス工場にて情報をご覧ください。(▷ 28 ページ)

乗員の安全性

乗員保護装置をご使用になる前に

乗員保護装置は、事故の際に車両乗員が車内部品にぶつかる危険性を低減します。乗員保護装置は、事故の間に車両乗員が受ける衝撃を低減することもできます。乗員保護装置には以下が含まれます：

- ・シートベルトシステム
 - ・エアバッグ
 - ・チャイルドセーフティシート
 - ・チャイルドセーフティシート固定装置
- 乗員保護装置の構成部品は、相互に関連して作動します。すべての乗員が以下の条件を満たしている場合に限り、乗員保護装置の保護機能が働きます。
- ・シートベルトを正しく着用している (▷ 47 ページ)
 - ・シートおよびヘッドレストが正しく調整されている (▷ 119 ページ)

運転者として、ステアリングが適切に調整されていることを確認してください。正しい運転席シートの位置に関する情報に注意してください (▷ 118 ページ)。

さらに、作動する場合にエアバッグが正しく膨らむようにしなければなりません (▷ 50 ページ)。

エアバッグは、正しく着用されたシートベルトの機能を補助し、事故の際に追加的な安全装置として乗員の保護機能を向上させます。例えば、事故の際にシートベルトにより提供される保護が十分な場合には、エアバッグは作動しません。さらに、事故の状況下で追加的な保護機能を提供するエアバッグのみが事故発生時に作動します。ただし、シートベルトとエアバッグは外側から車両に入り込んだ物に対する保護は通常行ないません。

乗員保護装置の作動方法に関する情報は、「シートベルトテンショナーおよびエアバッグの作動」にあります (▷ 60 ページ)。

車両に乗車している子供、ならびにチャイルドセーフティシートに関するさらなる情報は、「子供を乗せるとき」をご覧ください (▷ 64 ページ)。

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

改造が行なわれた後は、乗員保護装置が正しく機能しなくなることがあります。例えば、事故のときに作動しなかったり、または予期せず作動することにより、乗員保護装置が意図した保護機能を発揮しないことがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。



乗員保護装置の部品を改造しないでください。また、配線、電子部品やソフトウェアを決して改造しないでください。

障害のある方に合わせてエアバッグシステムを調整する必要がある場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

乗員保護装置警告灯

乗員保護装置の機能は、イグニッションをオンにした後、そしてエンジンがか

かっている間は定期的に点検されます。そのため、不具合は適時検出することができます。

メーターパネルの乗員保護装置警告灯  は、イグニッションをオンにしたときに点灯します。エンジンが始動した後、数秒以内に消灯します。乗員保護装置の構成部品は、作動準備が整っています。乗員保護装置警告灯  が以下の場合、不具合が発生しています。

- イグニッションをオンにした後に点灯しない
- エンジンがかかって数秒後に消灯しない
- エンジンがかかっている間に再度点灯する

⚠ 警告

乗員保護装置が故障している場合は、車両の減速度が大きい事故の際に、乗員保護装置の構成部品が不意に作動したり、またはまったく作動しないことがあります。これは、たとえばシートベルトテンショナーあるいはエアバッグに影響を与えることがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でも乗員保護装置の点検を受けて修理してください。

助手席エアバッグ表示灯



助手席エアバッグオン表示灯 ① と助手席エアバッグオフ表示灯 ② は、助手席エアバッグの解除システムの一部です。

表示灯は助手席エアバッグの状況を示しています。

- 助手席エアバッグオン ① が点灯：助手席エアバッグが有効です。事故のときは、すべての作動基準が満たされている場合に助手席エアバッグは作動します。
- 助手席エアバッグオフ ② が点灯：助手席エアバッグが無効です。その場合、事故のときに作動しません。

助手席シートの乗員によって、助手席エアバッグは有効または無効のいずれかにする必要があります。以下の項目を参照してください。走行前および走行中のいずれのときも、確認しなければなりません。

- **後ろ向きチャイルドセーフティシートの子供**：助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しなければなりません。助手席エアバッグは無効になります。必ず"助手席エアバッグ自動解除システム" (▷ 53 ページ) および"子供を乗せるとき" (▷ 64 ページ) の情報に従ってください。
- **前向きチャイルドセーフティシートの子供**：取り付けられているチャイルドセーフティシートおよび子供の年齢および体格によって、助手席エアバッグは有効または無効になります。したがって、必ず"助手席エアバッグ自動解除システム" (▷ 53 ページ) および"子供を乗せるとき" (▷ 64 ページ) の情報に従ってください。
- **他のすべての乗員**：助手席エアバッグオン表示灯は点灯している必要があります。助手席エアバッグは有効になります。助手席の乗員の体格によって、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯することがあります。助手席エアバッグ

が無効になります。その場合、事故のときに作動しません。この場合は、助手席シートを使用しないでください。必ず"助手席エアバッグ自動解除システム" (▷ 53 ページ) および"シートベルト" (▷ 46 ページ) および"エアバッグ" (▷ 50 ページ)の情報に従ってください。そこには、適切なシート位置に関する情報もあります。

シートベルト

はじめに

正しく装着されたシートベルトは、衝突あるいは車両が横転したときに乗員の動きを抑える最も効果的な手段です。これにより、乗員が車内の部品にぶつかったり、車両から投げ出されることを防ぎます。シートベルトを着用することで、乗員と作動するエアバッグの距離を最適に保つこともできます。

シートベルトシステムは以下で構成されています。

- シートベルト
- フロントシートベルト用およびリアの外側シートベルト用シートベルトテンショナー
- フロントシートベルトおよびリアの外側シートベルト用のベルトフォースリミッター

シートベルトが急に、あるいは激しくシートベルトの引き出し口から引き出されると、リトラクターがロックされます。シートベルトはそれ以上引き出すことはできません。

ベルトテンショナーは、衝突が起これると、乗員の身体にぴったり合うようにシートベルトを締めます。しかし、シートバックレストの方向に乗員を引き戻すことはしません。

しかし、ベルトテンショナーは、正しくないシート位置を正しくしたり、着用の仕方が正しくないシートベルトの取回しを正しくすることはありません。

シートベルトにベルトフォースリミッターも装備されていて作動した場合は、シートベルトによって乗員にかかる力は低減されます。

フロントシートのベルトフォースリミッターは、減速力の一部となるフロントエアバッグと連動しています。これにより、事故の際に乗員が受ける衝撃が緩和されます。

❗ 助手席に乗車していない場合は、助手席シートベルトのプレートをバックルに差し込まないでください。衝突の際にシートベルトテンショナーが作動することがあります。

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

正しく装着されないと、シートベルトは意図された保護機能を果たすことができません。間違ったシートベルトの装着は、たとえば事故のとき、ブレーキを掛けた時や急な方向転換のときに、けがの危険を増やします。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

すべての乗員が適切に着席して、シートベルトを正しく着用していることを確認してください。

⚠ 警告

バックレストをほぼ垂直の位置に動かしていない場合は、シートベルトは意図された保護レベルを発揮しません。ブレーキ時または事故の場合に、シートベルトの下側にもぐり込み、腹部または頸部などがけがを負うおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

走行を開始する前に、シートを正しい位置に調整してください。バックレストが

ほぼ垂直の位置にあり、シートベルトのショルダー部分が肩の中央にかかっていることを常に確認してください。

⚠ 警告

身長が約 150 cm 未満の乗員は、追加の適切な乗員保護装置を使用しないとシートベルトを正しく装着できません。正しく装着されないと、シートベルトは意図された保護機能を果たすことができません。間違ったシートベルトの装着は、たとえば事故のとき、ブレーキを掛けた時や急な方向転換のときに、けがの危険を増やします。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

そのため身長約 150 cm 未満の乗員は、必ず適切な乗員保護装置を使用してください。

年齢が 12 歳 以下で、身長が 150 cm 以下の子供が乗車する場合：

- 子供は常に、メルセデス・ベンツの車両に適したチャイルドセーフティシートに固定してください。チャイルドセーフティシートは子供の年齢、体重および体格に適応してはいけません。
- 助手席エアバッグ自動解除システムの指示および安全上の注意事項に従っていることを確認してください。(▷ 53 ページ)
- チャイルドセーフティシートメーカーの装着指示に加えて、本取扱説明書の"子供を乗せるとき"の説明および安全上の注意事項 (▷ 64 ページ) に常に従ってください。

⚠ 警告

以下の場合、シートベルトは意図された保護機能を発揮しないことがあります：

- 損傷している、改造されている、極端に汚れている、漂白されている、または着色されている
- シートベルトのバックルが損傷している、または極端に汚れている
- シートベルトテンショナー、ベルトアンカーまたはリトラクターが改造されている

事故が起こった際には目には見えない場合でも、たとえばガラスの破片によってシートベルトに損傷していることがあります。改造または損傷したシートベルトは事故のときなどに裂けたり、または作動しないおそれがあります。改造されたシートベルトテンショナーは不意に作動したり、または必要なときに作動しないことがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

シートベルト、シートベルトテンショナー、ベルトアンカーまたはリトラクターを改造しないでください。シートベルトが損傷していない、擦り切れていない、そして汚れていないことを確認してください。事故後はただちに、シートベルトをメルセデス・ベンツ指定サービス工場点検してください。

お客様の車両用にメルセデス・ベンツにより特別に承認されたシートベルトのみを使用することを、メルセデス・ベンツは推奨します。このような改造はいかなるものも、車両の一般使用許可を無効にするおそれがあります。

シートベルトの正しい使用方法

シートベルトの安全上の注意事項に従ってください (▷ 46 ページ)。

走行を開始する前に、すべての乗員はシートベルトを正しく着用する必要があります。車両が動いている間も、すべて

の乗員は、シートベルトを正しく着用するようにしてください。

シートベルトを着用するときは、必ず以下を確認してください。

- シートベルトのプレートが必ずそのシートのベルトバックルに差し込まれている。

- シートベルトが乗員の身体に密着している。

冬用コートなどの厚手の衣類の着用は避ける。

- シートベルトにねじれがない。

そのときにのみ、発生した力をベルト周囲に分散させることができます。

- ベルトの肩部分が常に肩の中心にかかっている。

シートベルトの肩部分が首に接触していたり、腕の下を通過してはいけません。可能であれば、シートベルトを適切な高さに調整します。

- 腰ベルトができるだけ締めまり、低い位置で腰部分にかかっている。

腰ベルトは常に腰骨にかかるように、そして腹部にかからないようにしなければなりません。これは特に妊娠中の女性にあてはまります。必要な場合は腰ベルトを腰骨に押し下げ、ベルトの肩部分を使用して強く引きます。

- 鋭利な、先の尖った、または壊れやすい物の上にシートベルトがかかっている。

ペン、キー、めがねなどのようなものが衣服に入っている場合は、それらを適切な場所に収納してください。

- シートベルトは、必ず1人の乗員のみが使用してください。

乳児や子供を他の車両乗員の膝の上に座らせて走行しないでください。事故

の際に、車両乗員とシートベルトの間でつぶされるおそれがあります。

- シートベルトがいずれかの車両乗員により使用されている場合は、そのシートベルトで物を固定しないでください。

シートベルトは、乗員を固定して抑えるためのものです。物、手荷物または積載物を固定するためには常に、「積載のガイドライン」に従ってください（▶ 252 ページ）。

シートベルトの着用および調整

シートベルトに関する安全上の注意事項（▶ 46 ページ）、およびシートベルトの正しい使用に関する情報（▶ 47 ページ）に注意してください。

乗員が中央のリアシートのシートベルトを着用している場合は、中央のリアシートのシートベルトに関する情報に注意してください（▶ 49 ページ）。



- ▶ シート（▶ 118 ページ）を調整します。シートバックレストはほぼ垂直の位置になければなりません。

- ▶ ベルトガイド ③ からシートベルトをゆっくりと引き出し、ベルトプレー

ト②をシートベルトバックル①に固定します。
運転席および助手席のシートベルトは、自動的に締まる場合があります。"シートベルト調整"をご覧ください(▶ 49 ページ)。

- ▶ 必要に応じて、肩ベルトを上方に引いて、シートベルトを身体に密着させます。



シートベルトの肩部分は、常に肩の中央を通ってかかっている必要があります。必要に応じて、ベルトガイドを調整してください。

- ▶ **上げる**：ベルトガイドを上方にスライドします。
ベルトガイドはさまざまな位置でロックされます。
- ▶ **下げる**：ベルトガイドのリリース①を持ち、ベルトガイドを下方にスライドします。
- ▶ 希望の位置でベルトガイドのリリース①を放し、ベルトガイドがロックされていることを確認します。

中央リアシート用シートベルト

左側リアシートバックレストを前方に倒した後、元の位置に起こしたときは、中央リアシートのシートベルトがロックすることがあります。ロックすると、シートベルトが引き出せなくなります。

- ▶ **後席中央シートベルトを解除する**：バックレストのベルトの引き出し口でシートベルトを約 20 mm 引き出し、再度放します。
シートベルトが巻き取られ、ロックが解除されます。

シートベルトの解除

❗ シートベルトが完全に巻き取られていることを確認してください。ベルトが完全に収納されていないと、シートベルトやプレートがドアに挟まれたりシート機構に引っかかることがあります。その結果、ドアやドアトリムパネル、シートベルトを損傷するおそれがあります。損傷したシートベルトは保護機能を果たすことができなくなるため、必ず新品と交換してください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。



- ▶ ロック解除スイッチ①を押して、シートベルトのプレート②をしっかり持ち、ベルト引き出し口③の方に戻します。

シートベルトの調整

シートベルト調整は、PRE-SAFE®コンビニエンス機能の一部です。この機能は、

運転席および助手席のシートベルトを乗員の上半身に適合させます。


以下のときに、シートベルトを少し引き込みます。


- ベルトプレートがバックルに固定されている、および
- イグニッションがオンである


車両乗員とシートベルトの間にたるみを検知した場合は、シートベルト調整は特定の締め付け力を加えます。調整している間は、シートベルトを強くつかまないでください。

COMAND システムまたは Audio20 を使用してシートベルト調整の設定および解除を切り替えることができます。シートベルト調整機能の設定および解除に関する情報は、デジタル版取扱説明書または別冊の COMAND システム、または Audio20 の取扱説明書にあります。

運転席および助手席乗員のシートベルト警告

 メーターパネルのシートベルト警告灯は、すべての乗員にシートベルトの着用を促します。点灯し続けるか、または点滅します。さらに、警告音が鳴ることがあります。

運転者と助手席乗員がシートベルトを着用したときは、シートベルト警告灯  が消灯し、警告音が停止します。

i シートベルト警告灯  についての詳細は、「メーターパネルの警告および表示灯、シートベルト」(▷ 214 ページ)を参照ください

エアバッグ

はじめに

エアバッグの取り付け位置は、AIRBAG のマークで示されています。

エアバッグは正しく着用しているシートベルトの補助を行なうものです。シートベルトの代わりになるものではありません。エアバッグは、適用される事故の状況で補助的な保護を行ないます。

事故の際に、すべてのエアバッグが作動するわけではありません。各エアバッグシステムは、それぞれ独立して作動します (▷ 60 ページ)。

ただし、現在装備されているどのシステムも、けがや致死を完全になくすことはできません。

エアバッグは高速で展開するため、エアバッグを原因とするけがの危険性を完全に排除することもできません。

重要な安全上の注意事項

警告

正しいシート位置から外れている場合、エアバッグは本来の保護機能を発揮できず、作動によりさらに負傷の原因となるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。危険な状態を防ぐために、すべての乗員は以下の項目について確認してください。

- シートベルトを正しく着用していること (妊娠中の女性を含む)
- 正しい位置に座り、エアバッグからできるだけ離れていること
- 以下の注意事項を遵守すること

エアバッグと乗員との間に何も物が置かれていないことを必ず確認してください。

- 走行を開始する前に、シートを正しい位置に調整してください。必ずシートが垂直に近い位置であることを確認してください。ヘッドレストの中心が頭部を支えるように目の高さの位置になるよう調整してください。
- 運転席 / 助手席シートはできるだけ後方の位置にしてください。運転席シートの位置は、車両を安全に運転できるものでなければなりません。

- ステアリングは外側のみを握ってください。それにより、エアバッグを十分に作動させることができます。
- 運転中は、常にバックレストにもたれてください。ドアまたはサイドウィンドウに寄りかからないこと。そのように寄りかかると、エアバッグの作動範囲内に入る可能性があります。
- 両足は、常にシート前方のフロアに置いてください。ダッシュボードの上に足をのせないでください。その場合、エアバッグの作動範囲内に入る可能性があります。
- そのため身長約 150 cm 未満の乗員は、体格に応じた専用の乗員保護装置を使用してください。この身長に満たない場合、シートベルトを正しく着用することができません。

お子様を車両に乗せて走行する場合、以下の注意事項も遵守してください。

- 年齢 12 歳 未満で 150 cm 未満の子供は、適切なチャイルドセーフティシートに固定し、安全を確保してください。
- チャイルドセーフティシートはリアシートに装着してください。
- 助手席エアバッグが無効になっており、後ろ向きチャイルドセーフティシートを使用する場合に限り、子供を助手席シートに固定してください。助手席エアバッグオフ表示灯が点灯したままの場合、助手席エアバッグは無効です。(▶ 45 ページ)
- チャイルドセーフティシートメーカーの取扱説明書のほかに、助手席エアバッグ自動解除システム (▶ 53 ページ) および"子供を乗せるとき"(▶ 64 ページ)に記載されている取り扱いおよび安全上の注意事項を必ず遵守してください。

車内に置いている物がエアバッグの正常な機能を妨げる場合があります。 運転を開始する前に、エアバッグが作動する際
の速度により生じる危険を防ぐために、以下のことを確認してください。

- 乗員とエアバッグとの間に、人、動物、物がないこと。
- シート、ドア、B ピラーの間に物を置かないこと。
- グリップハンドルやコートフックにコートハンガーなどのかたい物をかけないでください。
- カップホルダーなどのアクセサリーをドア、サイドウィンドウ、リアサイドトリムや側面など、エアバッグの作動範囲内に装着しないでください。
- 衣服のポケットに重い物やとがった物を入れないでください。このような物は適切な場所に収納してください。

⚠ 警告

エアバッグのカバーを改造したり、ステッカーのような物をそれらに貼付している場合は、エアバッグが正しく機能しなくなるおそれがあります。けがの危険性が高まります。

エアバッグのカバーを改造したり、それらに物を貼付しないでください。

⚠ 警告

エアバッグを制御するセンサーがドアの内部にあります。ドアまたはドアパネル、ならびに損傷したドアに改造または作業が正しく行われていないと、センサーの機能が損なわれることがあります。したがって、エアバッグは正しく機能しなくなることがあります。その結果、エアバッグは設計されているように車両乗員を保護することができません。けがをす
るおそれが高まります。

ドアまたはドアの部品を改造しないでください。ドアまたはドアパネルの作業は常にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

エアバッグと装着位置

エアバッグ	取り付け位置
運転席エアバッグ	ステアリングパッド部
助手席エアバッグ	グローブボックス上部のダッシュボード
運転席ニーバッグ	ステアリングコラム下部のダッシュボードカバー
サイドバッグ	運転席 / 助手席シートのバックレストのクッション外側およびリアシートの外側部分
ウインドウバッグ	Aピラー側方からCピラーのルーフフレーム

フロントエアバッグ

! 助手席シートには重い物を置かないでください。助手席シートに同乗者がいるとシステムが誤って判断する原因になります。衝突の際に助手席側の乗員保護装置が作動して交換する必要があるおそれがあります。



運転席エアバッグ①はステアリング正面で作動し、助手席エアバッグ②はグロー

ブボックスの正面および上部で作動しません。

フロントシートで作動した場合、フロントエアバッグはさらに頭部と胸部を保護します。

助手席エアバッグオフ表示灯および助手席エアバッグオン表示灯は、助手席エアバッグのステータスについて知らせます。(▷ 45 ページ)

助手席エアバッグ②は、以下の場合にのみ作動します。

- 助手席エアバッグ自動解除システムが助手席シートに乗車していることを検知した (▷ 53 ページ)。助手席エアバッグオン表示灯が点灯している。(▷ 54 ページ)
- 乗員保護装置が重度の事故を予測している

運転席ニーバッグ



運転席ニーバッグ①はステアリングコラムの下で作動します。運転席ニーバッグは、フロントエアバッグと一緒に作動します。

運転席シートの運転席ニーバッグは、大腿部、膝、下腿部を保護します。

サイドバッグ

⚠ 警告

シートカバーによって、シートに内蔵されているエアバッグの作動を遮る、また

は妨げることがあります。その結果、設計されているようにエアバッグが車両乗員を保護できません。さらに、助手席エアバッグ自動解除システム機能が制限されることがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

フロントシートには、シートカバーを使用しないでください。



フロントサイドバッグ①およびリアサイドバッグ②は、シートバックレストの外側クッション脇で作動します。

作動するときは、サイドバッグは胸部の補助的な保護を行いません。ただし、以下の保護は行ないません。

- 頭部
- 頸部
- 腕部

側面衝突の際は、サイドバッグは衝撃が発生した側で作動します。

助手席エアバッグ自動解除システム装備車両：助手席（フロント）サイドバッグは以下の条件で作動します。

- 助手席シートで乗員が検知された、または
- シートベルトのプレートが助手席シートのシートベルトバックルに固定されている

シートベルトのプレートがシートベルトバックルに固定されている場合は、対応する状況の事故が発生した場合に助手席

側のサイドバッグが作動します。この場合は、助手席シートに乗車しているかどうかとは関係なく作動します。

ウインドウバッグ



ウインドウバッグ①はルーフレーム側面に内蔵され、AピラーからCピラー間の範囲で作動します。

作動すると、ウインドウバッグは頭部に対する保護レベルを向上させます。ただし、胸部または腕部は保護しません。

側面衝突の際、ウインドウバッグは衝撃が発生した側で作動します。

シートベルトによる保護に加えて追加保護を行なうことができるとシステムが判断した場合、ウインドウバッグはその他の事故状況でも作動することがあります（▷ 60 ページ）。

助手席エアバッグ自動解除

はじめに

助手席シートのチャイルドセーフティシートを検知するために、助手席エアバッグ自動解除システムは助手席シートの乗員の分類をします。結果によって、助手席エアバッグは有効または無効のいずれかになります。後ろ向きチャイルドセーフティシートが助手席シートに装着されている場合、助手席エアバッグオフ表示灯はシステムの自己診断の後に点灯

し、そのまま点灯し続けます。助手席エアバッグは無効になります。

システムは、以下を無効にしません。

- ・サイドバッグ
- ・ウインドウバッグ
- ・シートベルトテンショナー

お客様の車両に、助手席エアバッグ自動解除システムが装備されていることを確認してください (p. 68 ページ)。それ以外の場合は、チャイルドセーフティシートは常に、適切なリアシートに取り付けてください (p. 69 ページ)。

やむを得ずチャイルドセーフティシートを助手席シートに取り付ける必要がある場合は、チャイルドセーフティシートの正しい配置に従っていることを確認してください。チャイルドセーフティシートの下や背面にクッションなどの物を置かないでください。シートクッションの長さをいっぱいまで短くします。チャイルドセーフティシートの底面全体が常に助手席シートクッションに接触していなければなりません。前向きチャイルドセーフティシートのバックレストは、できるだけ助手席シートのバックレストに接触させなければなりません。チャイルドセーフティシートがルーフに触れたり、ヘッドレストにより負荷がかかっているはいけません。それに応じて、シートバックレストの角度およびヘッドレストの位置を調整してください。そうするときのみ、助手席エアバッグ自動解除システムの正しい機能が保証されます。チャイルドセーフティシートメーカーの装着説明に加えて、チャイルドセーフティシートの適切な位置に関する情報 (p. 69 ページ) に常に従ってください。

助手席エアバッグ自動解除システムの操作



① 助手席エアバッグオン表示灯

② 助手席エアバッグオフ表示灯

表示灯は助手席エアバッグが無効か有効かを示します。

▶ キーレスゴースイッチを 1 回または 2 回押すか、エンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置にまわします。システムは自己診断を実行します。

助手席エアバッグオフ表示灯および助手席エアバッグオン表示灯は同時に約 6 秒間点灯しなけれなりません。

表示灯は助手席エアバッグの状況を示しています。

- ・助手席エアバッグオン ① が点灯：助手席エアバッグは有効です。事故のときは、すべての作動基準が満たされている場合に助手席エアバッグは作動します。
- ・助手席エアバッグオフ ② が点灯：助手席エアバッグは無効です。その場合、事故のときには作動しません。

車両が動いている間に助手席エアバッグの状況が変化した場合、メーターパネルにエアバッグのディスプレイメッセージが表示されます (p. 208 ページ)。助手席シートに乗車しているときは常に、助手席エアバッグオンまたは助手席エアバッグオフ表示灯に注意してください。走行前および走行中のいずれのときも、

助手席エアバッグの状況に注意してください。

助手席シートにチャイルドセーフティシートが装着されていない場合、助手席乗員は以下のように座る必要があります。

- シートベルトを正しく着用する
- シートのバックレストに背中を付け、ほぼ垂直の位置で

• 可能であれば、フロアに足を置いて
助手席乗員がこれらの条件に従わない場合は、助手席乗員が以下を行なうことにより、助手席エアバッグ自動解除システムが影響を受けることがあります。

- 車両のアームレストで自分自身を支えることで体重を移動する
- シートクッションから体重を浮かせるように着座する

助手席エアバッグは上記のような動作の結果、誤って無効になる場合があります。この場合は、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯したままになります。その場合、事故の際に助手席エアバッグは作動しません。

⚠ 警告

助手席エアバッグオフ表示灯が点灯している場合は、助手席フロントエアバッグは無効になります。事故のときに作動せず、意図した保護機能を発揮できません。そして、特にダッシュボードのすぐ近くに乗員が着座している場合は、助手席にいる人が車両のインテリアに接触するなどのおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

助手席に乗車しているときは、常に以下を確認してください。

- 助手席乗員の分類が適切であり、助手席乗員に応じて助手席フロントエアバッグが有効または無効になっている
- 助手席ができるだけ後方に移動している
- 乗員が正しく着座している

走行前および走行中のいずれのときも、助手席の状況が正しいことを確認してください。

⚠ 警告

助手席に子供を後ろ向きのチャイルドセーフティシートに固定し、助手席エアバッグオン表示灯が点灯している場合は、事故のときに助手席エアバッグが作動します。エアバッグにより、子供が衝撃を受けるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

助手席エアバッグが無効になっていることを確認してください。助手席エアバッグオフ表示灯が点灯していなければなりません。

助手席エアバッグオフ表示灯が消灯したままの場合、および/または助手席エアバッグオン表示灯が点灯している場合は、後ろ向きのチャイルドセーフティシートを助手席シートに取り付けずにください。詳細な情報は「助手席エアバッグ自動解除システムのトラブル」をご覧ください（▶ 59 ページ）。

⚠ 警告

子供を助手席の前向きチャイルドセーフティシートに固定して、助手席位置をダッシュボードのすぐ近くに行っている場合は、事故のときに、子供は以下になることがあります。

- 例えば助手席エアバッグオフ表示灯が点灯している場合に、車室内に接触する
- 助手席エアバッグオン表示灯が点灯している場合は、エアバッグにより衝撃を受ける

これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

常に助手席シートをできるだけ後方に動かし、シートクッションの長さをいっぱいまで短くします。車両のベルト引き出し口から肩部分のシートベルトストラップがチャイルドセーフティシートの肩部

分のベルトガイドに正しくかかっていることを必ず確認してください。シートベルトの肩部分のストラップは、車両のベルト引き出し口から前方および下方に取り回されていなければなりません。必要に応じて、車両のベルト引き出し口と助手席シートを適切に調整します。本取扱説明書のチャイルドセーフティシートの適切な位置に関する情報、ならびにチャイルドセーフティシートメーカーの装着説明に常に従ってください。

助手席エアバッグ自動解除システムが以下を検知した場合：


- 助手席に乗車していなく、システムの自己診断後に助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し、点灯したままである。これは助手席エアバッグが無効であることを示しています。
- 後ろ向きチャイルドセーフティシートで子供が助手席シートに乗車していて、システムの自己診断後に助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し、点灯したままである。これは助手席エアバッグが無効であることを示しています。ただし、後ろ向きチャイルドセーフティシートの場合、システムの自己診断の後に助手席エアバッグオン表示灯が点灯し、点灯したままになることがあります。これは助手席エアバッグが有効であることを示しています。分類の結果は、他の要因や、チャイルドセーフティシートおよび子供の体格によって異なります。チャイルドセーフティシートは適切なリアシートに装着することを推奨します。
- 助手席シートに後ろ向きチャイルドセーフティシートを使用して子供が座っている場合、システムの自己診断の後に分類の結果に応じて助手席エアバッグオン表示灯または助手席エアバッグオフ表示灯のいずれかが点灯し、点灯したままになる。分類の結果は、他の要因や、チャイルドセーフティ

シートおよび子供の体格によって異なります。

助手席シートはできるだけ後方に移動してください。"助手席のチャイルドセーフティシート" (▷ 68 ページ) および"チャイルドセーフティシートの適切な位置" (▷ 69 ページ) に関する情報に常に従ってください。チャイルドセーフティシートは可能であれば適切なリアシートに装着してください。

- 助手席シートに小柄な体格の方（10代の若者または小柄な大人）が乗車していて、システムの自己診断後に、分類の結果に応じて助手席エアバッグオン表示灯または助手席エアバッグオフ表示灯のいずれかが点灯し、点灯したままになる。
 - 助手席エアバッグオン表示灯が消灯している場合、助手席シートをできるだけ後ろに移動してください。あるいは、小柄な体格の乗員はリアシートに着座してください。
 - 助手席エアバッグオフ表示灯が点灯している場合は、小柄な体格の人は助手席を使用しないでください。
- 助手席シートに大人または大人に相当する体格の方が乗車していて、システムの自己診断後に助手席エアバッグオン表示灯が点灯し、点灯したままになる。これは、助手席エアバッグが有効であることを示しています。

子供が車両に乗車している場合は、"子供を乗せるとき"にある注意事項に従っていることを確認してください (▷ 64 ページ)。

助手席エアバッグ自動解除システムに不具合がある場合は、メーターパネルの赤色の乗員保護装置警告灯  および助手席エアバッグオフ表示灯が同時に点灯します。この場合は、助手席エアバッグは無効になり、事故の際に作動しません。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービ

ス工場でシステムの点検を受けてください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。助手席シートは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのみ修理してください。

助手席シート、シート表皮またはシートクッションが損傷している場合は、必要な修理作業をメルセデス・ベンツ指定サービス工場で実施してください。

安全上の理由から、メルセデス・ベンツによりテストされ承認されたチャイルドセーフティシートのみを、助手席エアバッグ自動解除システムと組み合わせで使用することをお勧めします。

システム自己診断

⚠ 危険

システムの自己診断中に助手席エアバッグオフ表示灯および助手席エアバッグオン表示灯が点灯しない場合は、システムに不具合があります。助手席エアバッグが意図せずに作動したり、高い減速度を伴う事故の際に全く作動しないことがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

この場合は、助手席シートを使用しないでください。助手席シートにチャイルドセーフティシートを取り付けないでください。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場ですぐ助手席エアバッグ自動解除システムの点検および修理を受けてください。

⚠ 警告

システムの自己診断後に助手席エアバッグオフ表示灯が点灯したままの場合は、助手席エアバッグは無効になっています。事故のときには作動しません。この場合は、助手席に乗員が着座しているときなどに、助手席エアバッグは意図した保護機能を発揮できません。

特にダッシュボードの非常に近くに乗員が着座している場合などは、車両のインテリアに接触するおそれがあります。こ

れにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

助手席に乗車しているときは、常に以下を確認してください。

- 助手席シートの人の分類が適正であり、助手席シートにいる乗員に応じて助手席エアバッグが有効または無効になっている
- 乗員が正しくシートベルトを着用して正しく着座している
- 助手席をできるだけ後方に移動している

助手席エアバッグオフ表示灯が点灯してはいけないときに点灯したままの場合は、助手席シートを使用しないでください。助手席シートにチャイルドセーフティシートを取り付けないでください。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場ですぐ助手席エアバッグ自動解除システムの点検および修理を受けてください。

⚠ 警告

シート表面とチャイルドセーフティシートの間には、助手席エアバッグ自動解除システムの機能に影響を与えるおそれがあります。これにより、事故のときに助手席エアバッグが意図された機能を果たさなくなるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

シート表面とチャイルドセーフティシートの間には物を置かないでください。チャイルドセーフティシートの底面全体を助手席シートクッションに接触させる必要があります。前向きのチャイルドセーフティシートのバックレストは、できるだけ助手席シートのバックレストに接触させる必要があります。常にチャイルドセーフティシートメーカーの装着指示に従ってください。

システムの自己診断後に、助手席エアバッグオフ表示灯または助手席エアバッグオン表示灯は助手席エアバッグのステータスを示します (▶ 54 ページ)。

詳細な情報は"助手席エアバッグ自動解除システムのトラブル"をご覧ください (▷ 59 ページ)。

助手席エアバッグ自動解除のトラブル

"システムの自己診断"の注意事項に従っていることを確認してください (▶ 57 ページ)。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
<p>大人または大人に相当する体格の方が助手席シートに乗車していても、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し、点灯したままになる。</p>	<p>助手席シート乗員の分類が適切でない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 助手席シート乗員の分類の適切な条件が満たされていることを確認します (▶ 54 ページ)。 ▶ 助手席エアバッグオフ表示灯が点灯したままの場合は、助手席シートは使用できません。 ▶ すみやかに助手席エアバッグ自動解除システムをメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。
<p>助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しない、および/または点灯したままにならない。</p> <p>助手席シートの状態が以下のようになっている：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 乗車していない • 後ろ向きチャイルドセーフティシートが取り付けられている 	<p>助手席エアバッグ自動解除システムに不具合がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ シートとチャイルドセーフティシートの間にも挟まれていないことを確認してください。 ▶ チャイルドセーフティシートの底面全体が助手席シートのシートクッションに接触していることを確認してください。 ▶ シートクッションの長さがいっぱいまで短くなっていることを確認してください。 ▶ チャイルドセーフティシートを取り付けるときは、シートベルトが締まっていることを確認します。助手席シートを調整して引くことにより、シートベルトを締めないでください。これにより、シートベルトおよびチャイルドセーフティシートが強く締まりすぎるおそれがあります。 ▶ チャイルドセーフティシートが正しく取り付けられていることを点検します。 ▶ シートに余分な重量をかけている物がないことを確認してください。 ▶ 助手席エアバッグオフ表示灯が消灯したままの場合、および/または助手席エアバッグオン表示灯が点灯している場合は、後ろ向きのチャイルドセーフティシートを助手席シートに取り付けないでください。チャイルドセーフティシートは適切なリアシートに装着することを推奨します。 ▶ すみやかに助手席エアバッグ自動解除システムをメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。

シートベルトテンショナーおよびエアバッグの作動

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

エアバッグの作動後は、エアバッグの部品が熱くなっています。けがの危険性があります。

エアバッグの部品に触れないでください。できるだけすみやかに、作動したエアバッグをメルセデス・ベンツ指定サービス工場と交換してください。


⚠ 警告

作動した火薬式シートベルトテンショナーは作動しなくなり、意図した保護機能を発揮できなくなります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

したがって、作動した火薬式シートベルトテンショナーは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場と交換してください。

事故後は車両をメルセデス・ベンツ指定サービス工場までけん引することを、メルセデス・ベンツは推奨します。特にシートベルトテンショナーが作動したり、エアバッグが展開した場合は、このことを考慮してください。

PRE-SAFE®で使用されている電気モーターは、危険な状況でシートベルトの締め付けを行いません。この作動は何回でも行なわれます。

シートベルトテンショナーが作動したり、エアバッグが展開したりするときは、作動音が聞こえ、少量の粉末が放出されることもあります。乗員保護装置警告灯  が点灯します。

衝撃音は、ごくまれに聴力に影響を与えることがあります。一般に、放出される粉末は健康に害はありませんが、ぜんそくや肺疾患のある方は、この粉末により一時的に呼吸障害を起こすおそれがあり

ます。もし安全であるなら、呼吸障害を防止するため、すぐに車両から離れるか、窓を開けてください。

作動

衝突の初期段階の間、乗員保護装置のコントロールユニットは、車両の減速度または加速度に関する以下のような重要な物理的データの評価を行いません。

- 時間
- 方向
- 強さ

このデータの評価に基づいて、乗員保護装置のコントロールユニットは正面衝突または追突の際にシートベルトテンショナーを作動させます。

シートベルトテンショナーは、以下の場合のみ作動します。

- イグニッションがオンである
- 乗員保護装置の構成部品が作動可能である。"乗員保護装置警告灯"をご覧ください。(▷ 44 ページ)
- シートベルトのプレートがフロントシートのそれぞれのベルトバックルに固定されている

後席のシートベルトテンショナーは、シートベルトの固定状態とは独立して作動します。

乗員保護装置のコントロールユニットが特定の正面衝突など、非常に重大な事故を検知すると、乗員保護装置の追加構成部品が相互に関係なく作動します。

- フロントエアバッグと運転席二乗員エアバッグ
- ウィンドウバッグ：作動することでシートベルトの乗員保護機能を高めるとシステムが判断したとき。

助手席エアバッグ自動解除システム装備車両の場合：助手席シートの乗員によって、助手席エアバッグは有効または無効のいずれかになります。助手席エアバ

グは、助手席エアバッグオン表示灯が点灯している場合のみ、事故の際に作動します。助手席エアバッグ表示灯に関する情報に従ってください(▶ 45 ページ)。

お客様の車両には 2 段階式のフロントエアバッグが装備されています。最初の作動段階では、けがの危険性を低減させるために火薬ガスでフロントエアバッグが充填されます。数ミリ秒以内に第 2 段階目が作動すると、フロントエアバッグは完全に作動します。

シートベルトテンショナーおよびエアバッグの作動規定値は、車両のさまざまなポイントでの車両の減速度または加速度の評価に基づいて判断されます。この処理は事前に実行されます。作動/展開決定処理は、衝突の初期段階に適切なタイミングで行なわれる必要があります。

車両の減速度や加速度、衝撃の方向は、基本的に以下の要素によって決まります。

- 衝突時の衝撃エネルギーの分散度
- 衝突の角度
- 車両の変形特性
- 車両と衝突した物体の特性

衝突の発生後に検知される要素は、エアバッグの作動条件とは必ずしも一致しません。また、エアバッグを作動させる基準とはなりません。

エアバッグが作動せずに車両が著しく変形することがあります。変形しやすい衝撃吸収部品のみが衝突の影響を受け、エアバッグを作動させるのに十分な減速度に達していない場合です。反対に車両が軽度のみ変形したにも関わらず、エアバッグが作動することがあります。縦方向のボディメンバーなどの高剛性の部品が衝撃を受けたため、結果として大きな減速度が発生した場合などです。

乗員保護装置のコントロールユニットが側面衝突を検知するか、あるいは車両が横転した場合は、乗員保護装置の適切な構成部品が、事故の形態に応じて相互に独立して作動します。この状況で、作動により乗員保護機能が高まるとシステムが判断した場合は、シートベルトテンショナーも作動します。

- 衝撃が発生した側のサイドバッグ。シートベルトテンショナーおよびシートベルトの使用とは無関係に。助手席エアバッグ自動解除システム装備車両：助手席（フロント）サイドバッグは以下の条件で作動します。
 - 助手席シートで乗員が検知された、または
 - シートベルトのプレートが助手席シートのシートベルトバックルに固定されている
- 衝撃が発生した側のウインドウバッグ。シートベルトの使用とは無関係に、および助手席に乗員がいるかどうかに関係なく。
- 運転席側および助手席側のウインドウバッグ。特定の状況で車両が横転して、作動がシートベルトの乗員保護機能を高めるとシステムが判断したとき。

i 事故の際に、すべてのエアバッグが作動するわけではありません。各エアバッグシステムは、それぞれ独立して作動します。

エアバッグシステムの作動は、検知された事故の大きさ、特に車両の減速度または加速度、および以下のような事故の形態により決定されます。

- 正面衝突
- 側面衝突
- 横転

PRE-SAFE® (予期乗員保護措置)**はじめに**

PRE-SAFE®は、特定の危険な状況で、乗員を保護するために予防的な措置を行いません。

重要な安全上の注意事項

■ シートの前後位置を調整するときは、足元やシートの下または後方に物が無いことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

車両に PRE-SAFE®システムが装備されていても、事故のときのけがの可能性をなくすることはできません。常に実際の道路や天候状況に適するように運転スタイルを合わせ、先行車両との間に十分な安全な距離を保ってください。注意して運転してください。

機能

PRE-SAFE®は以下のときに作動します。

- BAS が作動しているときなど、緊急ブレーキ状態のとき
- 物理的な限界を超えて車両が著しいアンダーステアやオーバーステアになるなど、危機的な走行状況になったとき
- ドライビングアシスタンスパッケージ装備車両： ドライバーアシスタンスシステムが強力に介入した、または特定の状況でレーダーセンサーシステムが切迫した衝突の危険を検知したとき

PRE-SAFE®は検知した危険な状態に応じて、以下のように作動します。

- フロントシートベルトの張力があらかじめ高まります。
- 車両が横滑りした場合は、スライディングルーフおよびサイドウィンドウが少しの隙間のみを残して閉じます。パ

ノラミックスライディングルーフが完全に閉じます。

- 助手席シートのメモリー機能付き車両： 助手席シートが好ましくない位置にある場合は調整されます。

事故につながることなく危険な状況が過ぎた場合は、PRE-SAFE®がシートベルトの張力を緩めます。PRE-SAFE®により行なわれたすべての設定が元に戻ります。

シートベルトの張力が緩まない場合

- ▶ 車両が停止しているときに、シートバックレストまたはシートを後方に少し動かします。
あらかじめ高められていたシートベルトの張力が緩み、ロック機構が解除されます。

シートベルト調整は、PRE-SAFE®コンビエンス機能の一部です。"ベルト調整"にコンビエンス機能に関する情報が記載されています(▷ 49 ページ)。

PRE-SAFE®プラス (予期乗員保護措置プラス)**はじめに**

PRE-SAFE®プラスは、ドライビングアシスタンスパッケージ装備車両でのみ作動します。

レーダーセンサーシステムを使用して、PRE-SAFE®プラスは正面衝突または追突が差し迫っていることを検知します。特定の危険な状況では、PRE-SAFE®プラスが乗員を保護するために予防的な措置を行いません。

重要な安全上の注意事項

PRE-SAFE®プラスの介入により、切迫した衝突を避けることはできません。

PRE-SAFE®プラスの介入時、運転者に警告はされません。

後退するときは、PRE-SAFE®プラスは介入しません。

PRE-SAFE®プラスは、車両が動いているとき、またはパーキングガイダンスが作動しているときは、ブレーキ操作を行ないません。

機能

切迫した正面衝突または追突をレーダーセンサーシステムが検知した場合、PRE-SAFE®プラスは特定の状況で介入します。

PRE-SAFE®プラスは、検知された危険な状況によって以下の措置を行ないます。

- 正面衝突が差し迫っていることをレーダーセンサーシステムが検知した場合、シートベルトの張力があらかじめ上がります。
- 追突が差し迫っているとレーダーセンサーシステムが検知した場合
 - リアの非常点滅灯が作動し、高い頻度で点滅します。
 - 車両が停止しているときに運転者がブレーキを効かせた場合は、ブレーキ圧が増加します。
 - シートベルトの張力が事前に上がります。

PRE-SAFE®プラスのブレーキの適用は、以下の場合に中止されます。

- ギアが入っているときにアクセルペダルが踏まれた場合
- 衝突の危険性が過ぎた、または検知されなくなった場合
- ディストロニック・プラスが発進する意図を示した場合

事故につながることなく危険な状態が過ぎた場合は、元の設定に戻ります。

事故後の自動措置

衝突の種類および大きさによって、事故の後にはただちに以下の措置が行なわれます。

- 非常点滅灯が作動します
- 緊急時点灯機能が作動します
- 車両ドアが解錠されます
- フロントサイドウィンドウが下がります
- メモリー機能装備車：電動調整式ステアリングが上方に移動します
- エンジンが停止します

事故の後で

事故の後で

- ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。
- ▶ 非常点滅灯を作動させます。
- ▶ 電気式パーキングブレーキを手動で効かせてください。
- ▶ 車両から出るときは乗員が危険にさらされていないことを確認してください。
- ▶ 危険な場所の近くに誰もいないことを確認してください。フェンスなどで区切られた安全な場所に乗員を退避させます。
- ▶ 適切な場所に停止表示板を置いてください。

自動車専用道路や高速道路では、停止表示板を使用することにより後続車両に警告を発することが法律で義務付けられています。

車両が動かなくなったとき

- ▶ **マニュアルトランスミッション：**クラッチペダルをいっぱいまで踏み、ニュートラルにシフトします。
- ▶ **オートマチックトランスミッション：**オートマチックトランスミッションをシフトポジションNにシフトします。
- ▶ **電気式パーキングブレーキを手動で解除してください。**
- ▶ **安全な場所まで車両を押してください。**必要な場合は、他の人に救援を求めてください。

マニュアルトランスミッション：マニュアルトランスミッションをニュートラルにシフトできない場合、運転者と乗員は危険な範囲からただちに離れてください。

オートマチックトランスミッション：オートマチックトランスミッションをシフトポジションNにできない場合、運転者と乗員は危険な範囲からただちに離れてください。

❶ イグニッションがオンで車輪が回転したときは、車両は自動的に施錠されません。そのため、車両を押すときやダイナモメーターでテストを行なう場合は、閉め出される危険性があります。

❶ 踏切内で車両が動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。緊急な状況では、非常信号用具も使用してください。

子供を乗せるとき

重要な安全上の注意事項

事故の統計では、リアシートに固定された子供は助手席に固定された子供よりも安全であることが示されています。この理由のため、チャイルドセーフティシートはリアシートに取り付けることを、メルセデス・ベンツは強く推奨します。子供の安全性が高くなります。

年齢が12歳以下で、身長が150 cm以下の子供が乗車する場合：

- 子供は常に、メルセデス・ベンツ車両に適したチャイルドセーフティシートに固定してください。チャイルドセーフティシートは子供の年齢、体重および体格に適応してはいてはいけません。
- チャイルドセーフティシートメーカーの装着説明に加えて、本項目の説明および安全上の注意事項に従っていることを確認してください。
- 助手席エアバッグ自動解除システムの指示および安全上の注意事項に従っていることを確認してください。(▶ 53 ページ)

⚠ 警告

保護者のいない状態で子供を車内に残すと、たとえば以下のようにして車両を動かすように設定できることがあります。

- パーキングブレーキの解除
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジションPからシフトするまたはマニュアルトランスミッションをニュートラルにシフトする
- エンジンを開始する

加えて、車両装備を操作し、挟み込まれる場合があります。事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

⚠ 警告

人、特に子供が長時間極端な温度にさらされている場合は、重大な、または致命的なけがの危険性があります。人、特に子供を付き添うことなく車両に残さないでください。

⚠ 警告

チャイルドセーフティシートが直射日光または熱にさらされている場合は、部品が高温になることがあります。子供がこれらの部品、特にチャイルドセーフティシートの金属部品で火傷を起こすおそれがあります。けがの危険性があります。運転者および子供が車両から離れる場合は、チャイルドセーフティシートを直射日光にさらさないように気をつけてください。毛布などで覆ってください。チャイルドセーフティシートが直射日光にさらされた場合は、子供を固定する前に冷ましてください。保護者のいない子供を車内に残さないでください。

すべての車両乗員がシートベルトを正しく着用し、正しく着座していることを常に確認してください。特に子供には注意してください。

シートベルトに関する安全上の注意事項 (▷ 46 ページ)、およびシートベルトの正しい使用に関する情報 (▷ 47 ページ) に注意してください。

チャイルドセーフティシート

チャイルドセーフティシートの正しい使用の指示に従ってください (▷ 69 ページ)。

安全上の理由のため、メルセデス・ベンツにより推奨されたチャイルドセーフティシートのみを使用することを、メルセデス・ベンツは推奨します (▷ 73 ページ)。

⚠ 警告

チャイルドセーフティシートが適切なシート位置に正しく取り付けられていない場合は、意図した保護機能を発揮することができません。事故、急ブレーキまたは急な進路変更のときに子供を保護することができません。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

チャイルドセーフティシートメーカーの装着指示およびチャイルドセーフティシートの正しい使用を常に遵守してください。チャイルドセーフティシートの底面全体が常にシートクッションに接触している事を確認してください。チャイルドセーフティシートの下または背面にクッションなどの物を置かないでください。チャイルドセーフティシートには、必ずこのシート専用の純正シートカバーを使用してください。損傷したカバーを取り替えるときは、必ず純正品を使用してください。

⚠ 警告

チャイルドセーフティシートが正しく取り付けられていない、または固定されていない場合は、事故、急ブレーキまたは急な進路変更のときに外れるおそれがあります。チャイルドセーフティシートが投げ出されて、乗員にぶつかるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

着座していないチャイルドセーフティシートも常に正しく取り付けてください。常にチャイルドセーフティシートメーカーの装着指示に従ってください。

物、手荷物および積載物の確実な収納に関するさらなる情報は、「積載のガイドライン」にあります (▷ 252 ページ)。

⚠ 警告

事故で負荷を受けたチャイルドセーフティシートやその固定装置は、意図した保護機能を発揮できないことがあります。事故、急ブレーキまたは急な進路変更のときに、子供が保護されません。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

事故で損傷したり、または負荷を受けたチャイルドセーフティシートはただちに交換してください。チャイルドセーフティシートを再度取り付ける前に、チャイルドセーフティシートの固定装置をメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。

チャイルドセーフティシートの固定装置は以下の通りです。

- シートベルトシステム
- ISOFIX 固定リング
- テザーアンカー

やむを得ず子供を助手席シートに乗車させる必要がある場合は、「助手席シートのチャイルドセーフティシート」にある情報に従っていることを確認してください(▷ 68 ページ)。

車内およびチャイルドセーフティシートにある警告ラベルに注意してください。

i メルセデス・ベンツにより推奨されたチャイルドセーフティシートを清掃するためには、メルセデス・ベンツ純正のカーケア用品を使用することを推奨します。このことに関する情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場ですぐ入手できます。

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置

⚠ 警告

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートは、体重が 22 kg 以上でチャイルドセーフティシートに内蔵されたセーフティベルトを使用して固定されている子供には十分な保護効果をもたらしません。例えば、事故のときに子供が正しく固定されないなどのおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

子供の体重が 22 kg 以上の場合は、必ず子供が車両のシートベルトでも固定される ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートを使用してください。使用可能であれば、チャイルドセーフティシートをテザーアンカーベルトでも固定してください。

チャイルドセーフティシートを装着するときは、メーカーの装着および操作指示、

およびチャイルドセーフティシートの正しい使用に関する指示に従っていることを確認してください(▷ 69 ページ)。

各走行前に、ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートが両方の ISOFIX 固定リングに正しく固定されていることを確認します。

! チャイルドセーフティシートを装着するときは、中央リアシートのシートベルトを挟み込まないように注意してください。シートベルトが損傷するおそれがあります。



① ISOFIX 固定リング

リアシートアームレスト装備車両： ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート用 ISOFIX 固定リング ① に手が届くようにリアシートアームレストを調整します。

▶ ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートを左右の ISOFIX 固定リング ① に取り付けます。

ISOFIX は、専用設計されたチャイルドセーフティシートのリアシートへの規格化された固定システムです。2 つの ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート用の ISOFIX 固定リング ① は、リアシートの左および右に取り付けられています。

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置に対応していないチャイルドセーフティシートは、車両のシートベル

トで固定してください。チャイルドセーフティシートを装着するときは、メーカーの装着および操作指示、およびチャイルドセーフティシートの正しい使用に関する指示に従っていることを確認してください (▷ 69 ページ)。

テザーアンカー

はじめに

テザーアンカーは、ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートと車両の間を補助的に接続します。これにより、けがの危険性をさらに低減する補助を行ないます。チャイルドセーフティシートにテザーアンカーベルトが装備されている場合は、常に使用してください。

重要な安全上の注意事項

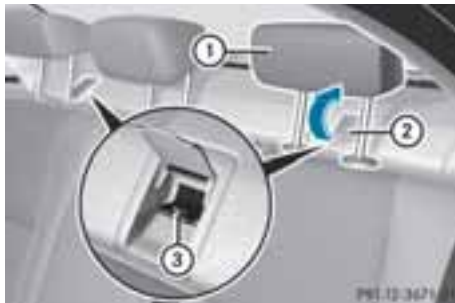
⚠ 警告

リアシートのバックレストが固定されていない場合は、事故、急ブレーキまたは急な進路変更のときに前に倒れるおそれがあります。結果として、チャイルドセーフティシートが意図した保護機能を発揮できません。固定されていないリアシートのバックレストは、事故のときなどにさらなるけがの原因となるおそれもあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

テザーアンカーベルトを取り付けた後は、常にリアシートのバックレストを固定してください。ロック確認インジケータに注意してください。垂直位置になるようにリアシートのバックレストを調整します。

リアシートバックレストが固定されておらず、ロックされていない場合、メーターパネル内のマルチファンクションディスプレイにこのことが表示されます。警告音も鳴ります。

テザーアンカー



テザーアンカー ③ は、後席の外側ヘッドレスト後方のパーセルシェルフに取り付けられています。



- ▶ ヘッドレスト ① を上方に動かします。
- ▶ テザーアンカー ③ のカバー ② を開きます。
- ▶ テザーアンカーを装備した ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートを装着します。その場合は、常にチャイルドセーフティシートメーカーの装着指示に従ってください。
- ▶ ヘッドレスト ① 下のヘッドレストの 2本の支柱の間にテザーアンカーベルト ⑤ を通します。
- ▶ テザーアンカーベルト ⑤ のテザーアンカーフック ④ をテザーアンカー ③ に掛けます。テザーアンカーベルト ⑤ にねじれがないことを確認します。

- ▶ テザーアンカーベルト ⑤ を引っ張りませす。この場合は常に、チャイルドセーフティシートメーカーの装着指示に従ってください。
- ▶ テザーアンカー ③ のカバー ② を倒します。
- ▶ 必要に応じて、ヘッドレスト ① を再度少し下に動かして戻します (▶ 119 ページ)。

テザーアンカーベルト ⑤ の正しい取り回しを妨げていないことを確認してください。

助手席のチャイルドセーフティシート

全体的な注意事項

事故の統計では、リアシートに固定された子供は助手席に固定された子供よりも安全であることが示されています。この理由のため、チャイルドセーフティシートはリアシートに取り付けることを、メルセデス・ベンツは強く推奨します。

助手席エアバッグ自動解除システム装備車両：やむを得ず助手席シートにチャイルドセーフティシートを取り付けなければならない場合は常に、"助手席エアバッグ自動解除システム"にある情報に従ってください (▶ 53 ページ)。

このようにして、以下のために発生するおそれのある危険性を防ぐことができます。

- 助手席エアバッグ自動解除システムによって検知されないチャイルドセーフティシート
- 助手席エアバッグの意図しない無効化
- ダッシュボードのすぐ近くなど、チャイルドセーフティシートの不適切な位置



助手席側サンバイザーの警告ステッカーに従ってください。イラストを参照してください。

⚠ 警告

助手席に子供を後ろ向きのチャイルドセーフティシートに固定し、助手席エアバッグオン表示灯が点灯している場合は、事故のときに助手席エアバッグが作動します。エアバッグにより、子供が衝撃を受けるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

助手席エアバッグが無効になっていることを確認してください。助手席エアバッグオフ表示灯が点灯していなければなりません。

有効になっているフロントエアバッグで保護されているシートでは、後ろ向きチャイルドセーフティシートを使用しないでください。子供に致命的な、または重大なけがを引き起こすことがあります。助手席エアバッグオン表示灯が点灯している場合は、助手席エアバッグは有効になっています (▶ 45 ページ)。

助手席エアバッグ自動解除システム非 装備車両



車両の助手席シートに助手席エアバッグ自動解除システムがない場合は、専用のステッカーによって示されます。ステッカーは、助手席側ダッシュボードの側面に貼付されています。助手席ドアを開いたときに、このステッカーが見えます。この場合は常に、後ろ向きチャイルドセーフティシートは適切なリアシートに取り付けてください(▷ 69 ページ)。

"後ろ向きチャイルドセーフティシート"および"前向きチャイルドセーフティシート"にある情報、ならびにチャイルドセーフティシートの適切な位置に関する情報に注意してください(▷ 69 ページ)。

後ろ向きチャイルドセーフティシート

やむを得ず助手席に後ろ向きチャイルドセーフティシートを取り付けなければならない場合は、助手席エアバッグが無効になっていることを確認してください。助手席エアバッグオフ表示灯が点灯したままの場合のみ(▷ 45 ページ)、助手席エアバッグは無効になっています。

チャイルドセーフティシートメーカーの装着および取扱指示に加えて、チャイルドセーフティシートの適切な位置に関する情報に常に従ってください(▷ 69 ページ)。

前向きチャイルドセーフティシート

やむを得ず前向きチャイルドセーフティシートを助手席シートに取り付けなければならない場合は、助手席シートをできるだけ後方の位置に動かしてください。シートクッションの長さをいっぱいまで短くします。チャイルドセーフティシートの底面全体を助手席シートクッションに接触させる必要があります。チャイルドセーフティシートのバックレストは、助手席バックレストにできるだけ均一に接触させる必要があります。チャイルドセーフティシートがルーフに触れたり、ヘッドレストにより負荷がかかっているはいけません。それに応じて、シートバックレストの角度およびヘッドレストの位置を調整してください。肩部分のシートベルトが、車両のベルト引き出し口からチャイルドセーフティシートのショルダーベルトガイドに向けて正しく取り回されていることを必ず確認してください。肩部分のシートベルトは、車両のベルト引き出し口から前方および下方に取り回されていない限りなりません。必要に応じて、車両のベルト引き出し口と助手席シートを適切に調整します。

チャイルドセーフティシートメーカーの装着および取扱指示に加えて、チャイルドセーフティシートの適切な位置に関する情報に常に従ってください(▷ 69 ページ)。

チャイルドセーフティシートの適切な 装着位置

はじめに

車両には、欧州経済共同体基準 ECE R44 により承認されたチャイルドセーフティシートのみを装着してください。

体重カテゴリー II または III のいくつかのチャイルドセーフティシートでは、このことにより使用範囲が制限されることが

あります。ルーフへの接触の可能性により、チャイルドセーフティシートを最大サイズに設定することができません。

"ユニバーサル" カテゴリーのチャイルドセーフティシートは、オレンジ色の認証ラベルと "universal" の文字で判別できます。



例：チャイルドセーフティシートの認証ラベル

"ユニバーサル" カテゴリーのチャイルドセーフティシートは、"ベルト付きチャイルドセーフティシートの装着のためのシートの適合性" または "ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートの装着のためのシートの適合性" の表に従って、U、UF または IUF と表示されたシートで使用できます。

セミユニバーサルチャイルドセーフティシートは、認可ラベルの "semi universal" の文字で示されています。これらは、車両およびシートがチャイルドセーフティシートメーカーの車両モデルリストに載っている場合に使用できます。さらなる情報は、チャイルドセーフティシートメーカーにお問い合わせになるか、メーカーのウェブサイトをご覧ください。

助手席シートのチャイルドセーフティシート - 助手席シートのチャイルドセーフティシートにやむを得ず子供を固定する必要があります場合：

- ▶ "助手席でのチャイルドセーフティシート" にある指示に常に注意してください (▷ 68 ページ)。

指示には車両のベルト引き出し口から肩部分のシートベルトをチャイルドセーフティシートの肩部分のベルトガイドに正しく取り回す手順が説明されています (▷ 69 ページ)。

- ▶ 助手席シートをできるだけ後方に動かし、シートクッションの長さをいっぱいまで短くします。
- ▶ バックレストをほぼ垂直の位置に動かします。

チャイルドセーフティシートの底面全体が常に助手席シートクッションに接触していなければなりません。前向きチャイルドセーフティシートのバックレストは、できるだけ助手席シートのバックレストに接触させなければなりません。チャイルドセーフティシートがルーフに触れたり、ヘッドレストにより負荷がかかっているはいけません。それに応じて、シートバックレストの角度およびヘッドレストの位置を調整してください。チャイルドセーフティシートメーカーの装着説明にも従ってください。

- ▶ シートクッションの角度を最も高く、および最も垂直の位置に動かします。

ベルト付きチャイルドセーフティシートの装着のためのシートの適合性

リアシートでカテゴリー 0 または 0+ のベビーカーシート、または後ろ向きチャイルドセーフティシートを使用する場合は、シートがチャイルドセーフティシートに接触しないように、運転席および助手席シートを調整しなければなりません。カテゴリー 1 の前向きチャイルドセーフティシートを使用する場合は、可能であれば必ず使用するシートのヘッドレストを外してください (▷ 120 ページ)。チャイルドセーフティシートのバックレストは、シートのバックレストにできるだけ均一に接触していなければなりません。

必ず"チャイルドセーフティシート"にある注意事項(▶ 65 ページ)およびチャイルドセーフティシートメーカーの取扱説明書に従ってください。

チャイルドセーフティシートを外したときは、ただちにヘッドレストを取り付けてください(▶ 120 ページ)。走行を開始する前に、すべての乗員はヘッドレストの高さを正しく調整する必要があります。

表の凡例

- X この体重カテゴリーの子供に適合していないシート
- U この体重カテゴリーでの使用が承認された"ユニバーサル"カテゴリーのチャイルドセーフティシートに適合
- UF この体重カテゴリーでの使用が承認された"ユニバーサル"カテゴリーに属している前向きチャイルドセーフティシートに適合
- L 推奨チャイルドセーフティシートに適合："推奨チャイルドセーフティシート"の表をご覧ください(▶ 73 ページ)。車両およびシートがチャイルドセーフティシートメーカーの車両モデルリストに載っている場合、セミユニバーサルチャイルドセーフティシートに適合。
- (▲) 車両に助手席エアバッグ自動解除システムが装備されています。助手席エアバッグオフ表示灯が点灯してなければなりません。
- (◆) サポートブラケット付きのチャイルドセーフティシートはこのシートには適していません。

助手席シート

体重カテゴリー	助手席エアバッグが有効になります。	助手席エアバッグが有効になります。(▲)
カテゴリー0： 10 kg 以下	X	U、L
カテゴリー0+： 13 kg 以下	X	U、L
カテゴリーI：9～ 18 kg	UFL	U、L
カテゴリーII：15～ 25 kg	U、L	U、L
カテゴリーIII：22～ 36 kg	U、L	U、L

リアシート

体重カテゴリー	左、右	センター部
カテゴリー0： 10 kg 以下	U、L	U (◆), L (◆)
カテゴリー0+： 13 kg 以下	U、L	U (◆), L (◆)
カテゴリーI：9～ 18 kg	U、L	U (◆), L (◆)

体重カテゴリー	左、右	センター部
カテゴリー II: 15~25 kg	U、L	X
カテゴリー III: 22~36 kg	U、L	X

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートの装着のためのシートの適合性

リアシートでカテゴリー 0 または 0+ のベビーカーシート、または後ろ向きチャイルドセーフティシートを使用する場合は、シートがチャイルドセーフティシートに接触しないように、運転席および助手席シートを調整しなければなりません。カテゴリー I の前向きチャイルドセーフティシートを使用する場合は、可能であれば必ず使用するシートのヘッドレストを外してください(▷ 120 ページ)。チャイルドセーフティシートのバックレストは、シートのバックレストにできるだけ均一に接触していなければなりません。必ず"チャイルドセーフティシート"にある注意事項(▷ 65 ページ)およびチャイルドセーフティシートメーカーの取扱説明書に従ってください。

チャイルドセーフティシートを外したときは、ただちにヘッドレストを取り付けてください(▷ 120 ページ)。走行を開始する前に、すべての乗員はヘッドレストの高さを正しく調整する必要があります。

表の凡例

- X この体重カテゴリーおよび/またはサイズカテゴリーで、ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートに適合していない ISOFIX の位置。
- IUF この体重カテゴリーでの使用に適合する "ユニバーサル" カテゴリーに

属する前向き ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置に適合しています。

- IL 推奨している ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートに適合しています。以下の表 "推奨チャイルドセーフティシート" (▷ 73 ページ) を参照ください。

メーカーは、適合している ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートも推奨しています。そのためには、お客様の車両とシートがチャイルドセーフティシートメーカーのモデルリストに掲載されていなければなりません。さらなる情報は、チャイルドセーフティシートメーカーにお問い合わせになるか、メーカーのウェブサイトをご覧ください。

- (◆) サイズカテゴリー C (ISO/R3) のチャイルドセーフティシートを使用している場合は、フロントシートを最も高い位置に、およびフロントシートのバックレストを起きた位置に動かします。フロントシートのシートバックレストがチャイルドセーフティシートに接していないことを確認してください。

幼児用ベッドの体重カテゴリー

サイズ等級	装備	リアシート、左および右
F	ISO/L1	X
G	ISO/L2	X

体重カテゴリー 0: 10 kg 以下、約 6 ヶ月以下

サイズ等級	装備	リアシート、左および右
E	ISO/R1	IL

体重カテゴリー 0+：13 kg 以下、約 15 ヶ月以下

サイズ等級	装備	リアシート、左および右
E	ISO/R1	IL
D	ISO/R2	IL
C	ISO/R3	IL (◆)

体重カテゴリー I：9 ~ 18 kg、約 9 ヶ月 ~ 4 歳

サイズ等級	装備	リアシート、左および右
D	ISO/R2	IL
C	ISO/R3	IL (◆)
B	ISO/F2	IUF
B1	ISO/F2X	IUF
A	ISO/F3	IUF

チャイルドセーフティシートがグループに触れたり、ヘッドレストにより負荷がかかっているはいけません。状況に応じてヘッドレストの位置を調整してください。チャイルドセーフティシートメーカーの取扱説明書に従ってください。

推奨チャイルドセーフティシート

全体的な注意事項

"助手席シートのチャイルドセーフティシート" (▷ 68 ページ) および"チャイルドセーフティシートの適切な位置決め" (▷ 69 ページ)に関する情報に必ず従ってください。

適切なチャイルドセーフティシートに関するさらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場ですぐ入手できます。

車両のシートベルトを使用して装着する推奨チャイルドセーフティシート

体重カテゴリー 0：10kg 以下、約 6 ヶ月以下

メーカー	Britax Römer	Britax Römer
タイプ	ベビーセーフプラス	ベビーセーフプラス II
認証番号 (E1 ...)	03 3011 46 04 3011 46	04 3011 46
注文番号 (A 000 ...)	970 10 0 0 カラーコード：9H95	970 20 0 0 カラーコード：9H95

体重カテゴリー 0+：13kg 以下、約 15 ヶ月以下

メーカー	Britax Römer	Britax Römer
タイプ	ベビーセーフプラス	ベビーセーフプラス II
認証番号 (E1 ...)	03 301 146 04 301 146	04 301 146
注文番号 (A 000 ...)	970 10 00 カラーコード：9H95	970 20 00 カラーコード：9H95

体重カテゴリ I : 9~18kg、約
9ヶ月 ~4歳

メーカー	Britax Römer
タイプ	デュオプラス
認証番号 (E1 ...)	03 301133 04 301133
注文番号 (A 000 ...)	970 16 00 カラーコード : 9H95

体重カテゴリ II/III : 15~36kg、約
4~12歳

メーカー	Britax Römer
タイプ	キッドフィックス
認証番号 (E1 ...)	04 301198
注文番号 (A 000 ...)	970 19 00 カラーコード : 9H95

KIDFIX チャイルドセーフティシートを
車に装着する前に、必ずチャイルドセー
フティシートメーカーの取扱説明書に
従ってください。これには装着オプショ
ンに関する注意事項も含まれます。

推奨される"ユニバーサル"/"セミユニ
バーサル" カテゴリの ISOFIX 対応
チャイルドセーフティシート

幼児用ベッドの体重カテゴリ

サイズ等級	F、G
メーカー	-
タイプ	-
認証番号 (E1 ...)	-
注文番号	-

カテゴリ 0 : 10kg 以下

サイズ等級	E
メーカー	-
タイプ	-
認証番号 (E1 ...)	-
注文番号	-

カテゴリ 0+ : 13kg 以下

サイズ等級	E	D、 C
メーカー	Britax Römer	-
タイプ	ベビーセーフプ ラス	-
認証番号 (E1 ...)	03 301146 04 301146	-
注文番号	B6 6 86 8224 カラーコード : 9H95	-

カテゴリ I : 9~18kg

サイズ等級	D、C、B、A
メーカー	-
タイプ	-
認証番号 (E1 ...)	-
注文番号	-

サイズ等級	B1
メーカー	Britax Römer
タイプ	デュオプラス

認証番号 (E1 ...)	03 301133 04 301133
注文番号 (A 000 ...)	970 16 00 カラーコード： 9H95

チャイルドブルーロック

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

子供を車両に乗せて走行している場合は、以下のおそれがあります。

- ドアを開き、それにより他の人または道路使用者を危険にさらす
- 車両から降りて、対向交通にぶつかる
- 例えば、車両装備を操作して挟まれる事故やけがの危険性があります。

子供を車両に乗せて走行する場合は、使用可能なチャイルドブルーロックを常に作動させてください。車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

以下のチャイルドブルーロック

- リアドア (▷ 75 ページ)
- リアサイドウインドウ (▷ 76 ページ)

⚠ 警告

保護者のいない状態で子供を車内に残すと、たとえば以下のようにして車両を動かすように設定できることがあります。

- パーキングブレーキの解除
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** からシフトするまたはマニュアルトランスミッションをニュートラルにシフトする
- エンジンを始動する

加えて、車両装備を操作し、挟み込まれる場合があります。事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

⚠ 警告

人、特に子供が長時間極端な温度にさらされている場合は、重大な、または致命的なけがの危険性があります。人、特に子供を付き添うことなく車両に残さないでください。

⚠ 警告

チャイルドセーフティシートが直射日光または熱にさらされている場合は、部品が高温になることがあります。子供がこれらの部品、特にチャイルドセーフティシートの金属部品で火傷を起こすおそれがあります。けがの危険性があります。運転者および子供が車両から離れる場合は、チャイルドセーフティシートを直射日光にさらさないように気をつけてください。毛布などで覆ってください。チャイルドセーフティシートが直射日光にさらされた場合は、子供を固定する前に冷ましてください。保護者のいない子供を車内に残さないでください。

リアドアのチャイルドブルーロック



リアドアのチャイルドブルーロックで、各ドアを個別にロックできます。チャイルドブルーロックでロックされているドアは、車内から開くことができません。

車両が解錠されているときは、車外からドアを開くことができます。

- ▶ **設定する**：チャイルドブルーロックレバーを矢印の方向 ① に押し上げます。
- ▶ チャイルドブルーロックが正常に設定されていることを確認します。
- ▶ **解除する**：チャイルドブルーロックレバーを矢印の方向 ② に押し下げます。

リアサイドウィンドウのチャイルドブルーロック



- ▶ **設定 / 解除する**：スイッチ ② を押します。
表示灯 ① が点灯している場合は、リアサイドウィンドウの操作はできません。運転席ドアのスイッチを使用するのみ、操作が可能です。表示灯 ① が消灯しているときは、後席のスイッチを使用するの操作が可能です。

ペットを乗せるとき

⚠ 警告

ペットを車内に放置または固定していない場合、ボタンやスイッチを押してしまう場合があります。

その結果：

- 車両装備を作動させて、挟まれる
 - システムをオンまたはオフにして、他の道路交通者を危険にさらす
- さらに、事故の際やステアリングを切ったとき、急ブレーキをかけたときに、ペットが投げ飛ばされ、乗員が負傷するおそれもあります。事故やけがの危険性があります。
- けっしてペットを車内に放置しないでください。走行中は、適切なキャリーなどを使用して、ペットを必ず正しく固定してください。

走行安全システム

走行安全システムの概要

この項目には、以下の走行安全システムについての情報があります。

- ABS (Anti-lock Braking System：アンチロック・ブレーキング・システム) (▶ 77 ページ)
- BAS (Brake Assist System：ブレーキアシストシステム) (▶ 78 ページ)
- 飛び出し検知機能付き BAS プラス (飛び出し検知機能付き Brake Assist System) (▶ 78 ページ)
- CPA (衝突警告システム) プラス (距離警告機能およびアダプティブブレーキアシスト) (▶ 80 ページ)
- アダプティブブレーキライト (▶ 83 ページ)
- ESP® (Electronic Stability Program：エレクトロニック・スタビリティ・プログラム) (▶ 83 ページ)
- EBD (Electronic Brake force Distribution：エレクトロニック・ブレーキパワーディストリビューション) (▶ 86 ページ)
- アダプティブブレーキ (▶ 86 ページ)

- PRE-SAFE® ブレーキ (▷ 86 ページ)
- ステアコントロール (▷ 88 ページ)

重要な安全上の注意事項

運転スタイルを合わせなかったり、注意が散漫になった場合は、走行安全システムは事故の危険性を低減できないだけでなく、物理的法則を超えることもできません。走行安全システムは、運転の補助のために設計された単なる支援にすぎません。先行車両との距離や車両の速度、適切なブレーキ操作の責任は運転者にあります。常に実際の道路や天候、交通状況に応じて運転スタイルを合わせ、先行車両との間に安全な距離を保ってください。注意して運転してください。


記載されている走行安全システムは、タイヤと路面との間に十分な接触があるときにのみ、可能な限り効果的に作動します。"タイヤとホイール" (▷ 298 ページ) にあるタイヤ、および推奨されるタイヤトレッドの最小深さなどに関する情報に特に注意してください。

冬の走行状況では、常にウィンタータイヤ (M+S タイヤ) を、必要であればスノーチェーンを使用してください。このようにすることでのみ、本章に記載されている走行安全システムが可能な限り効果的に作動します。

ABS (アンチロック・ブレーキング・システム)

全体的な注意事項

ABS は、ブレーキを効かせたときに車輪がロックしないようにブレーキ圧を制御します。これにより、ブレーキを効かせているときに、ステアリング操作を続けることができます。

メーターパネルの ABS 警告灯  は、イグニッションをオンにすると点灯します。エンジンがかかっているときは消灯します。

重要な安全上の注意事項

① "重要な安全上の注意事項" の項目に従ってください (▷ 77 ページ)。

⚠ 警告

ABS に異常があるときは、ブレーキ時に車輪がロックすることがあります。ステアリングでの操縦性およびブレーキ性能が著しく損なわれることがあります。さらに、他の走行安全装備が解除されます。横滑りや事故の危険が高まります。

注意して運転してください。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場へ ABS の点検をしてください。

ABS が故障している場合は、走行安全装備を含めた他のシステムも作動しません。ABS 警告灯 (▷ 217 ページ) とメーターパネル (▷ 200 ページ) に表示されるディスプレイメッセージに関する情報を遵守してください。

路面の状況に関わらず、ABS は約 8 km/h 以上の速度で作動します。滑りやすい路面では、軽くブレーキを効かせただけでも ABS は作動します。

ブレーキ

- ▶ **ABS が作動した場合**：ブレーキ操作の状況が終わるまで、ブレーキペダルをいっぱい力で踏み続けてください。
- ▶ **急ブレーキを効かせる**：ブレーキペダルをいっぱい力で踏んでください。

ブレーキ時に ABS が作動した場合は、ブレーキペダルに振動を感じます。

ブレーキペダルの振動は、危険な道路状況を知らせることができ、走行中に特別な注意を喚起させるものとして機能します。

BAS（ブレーキアシスト）

全体的な注意事項

BAS は、緊急ブレーキの状況で作動します。ブレーキペダルを急に踏んだ場合は、BAS が自動的に制動力を高めて制動距離を短縮します。

重要な安全上の注意事項

① "重要な安全上の注意事項" を遵守してください (▷ 77 ページ)。

⚠ 警告

BAS が故障している場合は、緊急ブレーキの状況での制動距離が長くなります。事故の危険性があります。

緊急ブレーキの状況では、ブレーキペダルを思いっきり踏んでください。ABS が車輪のロックを防ぎます。

ブレーキ

▶ 緊急ブレーキの状況が終わるまで、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。

ABS が車輪のロックを防ぎます。

ブレーキペダルから足を放すと、ブレーキは通常の作動状態に戻ります。BAS は解除されます。

BAS プラス（飛び出し検知機能付ブレーキアシスト・プラス）

全体的な注意事項

① "重要な安全上の注意事項" の項目に従ってください (▷ 77 ページ)。

BAS プラスはドライビングアシスタンスパッケージ装備車両でのみ使用できます。走行しているときに BAS プラスが運転者を支援するためには、レーダーセンサーシステムおよびカメラシステムが作動可能でなければなりません。

センサーシステムおよびカメラシステムの支援で、BAS プラスは以下の障害物を検知できます。

- 長時間車両の進路にある物
- 車両の進路を横切る物

加えて、車両の進路にいる歩行者を検知することができます。

BAS プラスは、身体の輪郭および直立している人の姿勢のような特有な特徴を使用して歩行者を検知します。

レーダーセンサーシステムまたはカメラシステムが故障している場合は、BAS プラスの機能は制限されるか、または使用できなくなります。その場合もブレーキシステムは使用でき、ブレーキの倍力装置および BAS は十分に機能します。

① "重要な安全上の注意事項" に記載されている制限に従ってください (▷ 78 ページ)。

BAS プラスは、車両および歩行者との衝突の危険性を最小限にし、そのような衝突の影響を減少させることができます。BAS プラスが衝突の危険を検知した場合は、ブレーキ操作時に支援されます。

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

BAS プラスは、障害物や複雑な交通状況を明確に認識できるとは限りません。

そのような場合は、BAS プラスは以下のようになります：

- 不必要に介入する
- 介入しない

事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。危険な状態を脱したら、通常の運転スタイルに戻してください。

⚠ 警告

BAS プラスは、以下では反応しません。

- 子供などの小柄な人
- 動物
- 対向車
- カーブを走行するとき

そのため、BAS プラスはすべての危険な状況下で作動するとは限りません。事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

降雪または激しい雨のときは、検知は困難になるおそれがあります。

レーダーセンサーシステムによる検知は、以下のときも困難になります。

- センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている
- 他のレーダー発生源による干渉がある
- 立体駐車場などで、強いレーダー反射が起こっている
- オートバイのような幅が狭い車両が前方を走行している
- 先行車両が他の車線を走行している
- レーダーセンサーシステムの検知範囲内に急に車両が入り込んだ

カメラシステムによる検知は、以下のときも困難になります。

- カメラが汚れている、またはカメラが覆われている
- 空の低いところにある太陽からなどの、カメラシステムへの眩惑がある

- 周囲が暗い
- 以下の場合：
 - 車両の進路に入り込むなど、歩行者が急に動いた
 - 特殊な衣服または他の物により、カメラシステムが歩行者を人として認識しなくなった
 - 歩行者が他の障害物により隠れている

人特有の輪郭が背景と区別できない車両のフロント部分が損傷した後は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの設定と作動の点検を行なってください。これは、低速走行時の衝突で車両のフロント部分に目に見える損傷がない場合にも当てはまります。フロントウインドウが損傷した後は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でカメラシステムの設定と作動の点検を行なってください。

機能

衝突を避けるために、BAS プラスは以下の場合に必要な制動力を計算します。

- 障害物に接近している
- BAS プラスが衝突の危険を検知している

30 km/h 以下の速度で走行しているとき：ブレーキペダルを踏んだ場合は、BAS プラスが作動します。BAS プラスからのブレーキ操作の支援は、できる限り最後の瞬間に行なわれます。

30 km/h 以上の速度で走行しているとき：ブレーキペダルを急に踏んだ場合は、BAS プラスは交通状況に適した度合いにブレーキ圧を自動的に高めます。

BAS プラスは、7 km/h ~ 250 km/h の間の速度域内で、先行車両との危険な状態のときにブレーキ操作の支援を行ないます。

約 70 km/h までの速度では、BAS プラスは以下に反応します。

- 停止している、または駐車している車両など、車両の進路にある静止している障害物
- 車両の進路にいる歩行者
- センサーの検知範囲内に移動し、検知された、進路を横切る障害物

i BAS プラスが特に強力な制動力を要求している場合は、PRE-SAFE® (予期乗員保護措置) が同時に作動します。

▶ 緊急ブレーキの状況が終わるまで、ブレーキペダルを踏み続けてください。ABS が車輪のロックを防ぎます。

以下の場合、BAS プラスは解除され、ブレーキは通常通り再度作動します。

- ブレーキペダルを放した
- 衝突の危険性がなくなった
- 車両前方に検知される障害物がなくなった
- アクセルペダルを踏んだ
- キックダウンを作動させた

CPA プラス (緊急ブレーキ機能)

全体的な注意事項

CPA プラス (緊急ブレーキ機能) は、自動緊急ブレーキ機能を備えた距離警告機能およびアダプティブブレーキアシストから構成されます。

CPA プラス (緊急ブレーキ機能) は、先行車両との衝突の危険性を最小限にする、またはそのような衝突の影響を低減する支援をします。

CPA プラス (緊急ブレーキ機能) が衝突の危険があることを検知した場合は、視覚的および聴覚的に警告が発せられます。運転者が視覚的および聴覚的な衝突警告に反応しなかった場合は、危険な状況になると自動ブレーキが作動します。危険

な状況で運転者自身がブレーキを効かせた場合は、CPA プラス (緊急ブレーキ機能) のアダプティブブレーキアシストが運転者を支援します。

重要な安全上の注意事項

特に以下のときは、障害物の検知が困難になることがあります。

- センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている
- 雪または激しい雨が降っている
- 他のレーダー発生源による干渉がある
- 立体駐車場などで、強いレーダー反射が起こっている
- オートバイのような幅が狭い車両が前方を走行している
- 先行車両が他の車線を走行している
- 新車である、または CPA プラス (緊急ブレーキ機能) の点検整備後である慣らし運転の項目にある注意事項に注意してください (p. 142 ページ)。

車両のフロント部分が損傷した後は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの設定と作動の点検を受けてください。これは、低速走行時の衝突で車両のフロント部分に目に見える損傷がない場合にも当てはまります。

距離警告機能

重要な安全上の注意事項

i 走行安全システムの"重要な安全上の注意事項"の項目に従ってください (p. 77 ページ)。

▲ 警告

車間距離警告機能は、以下のものには反応しません。

- 歩行者や動物
- 対向車
- 交差する交通
- カーブを走行するとき

そのため、車間距離警告機能はすべての危険な状況で警告を行うとは限りません。事故の危険性があります。常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

⚠ 警告

車間距離警告機能は、常に障害物および複雑な交通状況を明確に識別できるわけではありません。

そのような場合は、車間距離警告機能は以下になることがあります。


- 不必要な警告を発する
- 警告を発しない

事故の危険性があります。

常に交通状況に十分注意を払い、車間距離警告機能のみに頼らないでください。



機能

▶ **設定/解除する：** マルチファンクションディスプレイで車間距離警告機能を作動または解除します(▷ 196 ページ)。

距離警告機能が解除された場合は、マークがアシスト一覧表示に表示されます。

距離警告機能は、先行車両と衝突する危険性を最小限にし、またはそのような衝突の影響を低減させるために運転者を補助することができます。距離警告機能が衝突の危険を検知した場合は、視覚的および聴覚的に警告が発せられます。

距離警告機能は、以下の速度で警告を発します。

- 約 30 km/h またはそれ以上の速度で、前方を走行している車両との間に保たれている距離が数秒間にわたり十分でない場合。メーターパネルの距離警告灯  が点灯します。
- 約 7 km/h またはそれ以上で、先行車両に急激に接近した場合。断続的な警告音が鳴り、メーターパネルの距離警告灯  が点灯します。

▶ 先行車両との車間距離を広げるために、ただちにブレーキを効かせてください。または

▶ 安全確認のうえ、危険回避の操作を行なってください。

システムの特性により、危険ではなくとも、特に複雑な走行状況がシステムが警告を表示する原因になることがあります。レーダーセンサーシステムの支援で、距離警告機能は車両の進路に長時間ある障害物を検知することができます。

約 70 km/h 以下の速度では、距離警告機能は停止している、または駐車している車両のような静止物にも反応できます。障害物に接近し、距離警告機能が衝突の危険を検知した場合は、視覚的および聴覚的両方で運転者に警告を行ないます。

自動ブレーキ機能

危険な状況で運転者が距離警告のシグナルに反応しなかった場合は、自動ブレーキ機能により、CPA プラス（緊急ブレーキ機能）は運転者の支援を行ないます。

自動ブレーキ機能

- 危険な運転状況に運転者が反応できるさらなる時間を確保します。
- 運転者の衝突回避を支援します。
- 事故の被害を低減します。

ディストロニック・プラス非装備車両： 自動ブレーキ機能は、以下の速度域で作動します。

- 動いている障害物には、7~105 km/h
- 静止している障害物には、7~50 km/h

ディストロニック・プラス装備車両：自動ブレーキ機能は、以下の速度域で作動します。

- 動いている障害物には、7~200 km/h
- 静止している障害物には、7~50 km/h

自動ブレーキ機能が特に強力な制動力を要求している場合は、PRE-SAFE®（予期乗員保護措置）が同時に作動します。

アダプティブブレーキアシスト

❶ "重要な安全上の注意事項"の項目に従ってください（▶ 77 ページ）。

アダプティブブレーキアシストは、7 km/h 以上の速度での危険な状況で、ブレーキ操作の支援を行いません。レーダーセンサー技術を利用して交通状況を評価します。

⚠ 警告

アダプティブブレーキアシストは、障害物や複雑な交通状況を常に明確に識別できるとは限りません。

そのような場合は、アダプティブブレーキアシストは以下を行なうことがあります。

- 不必要に介入する
- 介入しない

事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキを効かせる準備をしてください。危険な状態を脱したら、通常の運転スタイルに戻してください。

⚠ 警告

アダプティブブレーキアシストは以下には反応しません。

- 歩行者や動物
- 対向車
- 交差交通
- カーブを走行するとき

そのため、アダプティブブレーキアシストはすべての危機的な状況で作動しない場合があります。事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキを効かせる準備をしてください。

システムの特性により、危険ではないけれど、特に複雑な走行状況もブレーキアシストが介入する原因になることがあります。

レーダーセンサーシステムの故障によりアダプティブブレーキアシストが作動しない場合でも、ブレーキシステムは完全なブレーキ倍力効果および BAS とともに作動可能なままになります。

アダプティブブレーキアシストの支援で、距離警告信号は車両の進路に長時間ある障害物を検知することができます。

アダプティブブレーキアシストが先行車両との衝突の危険性を検知した場合は、衝突を避けるために必要な制動力を算出します。ブレーキを強く効かせた場合は、アダプティブブレーキアシストは交通状況に適したレベルまで制動力を自動的に増加させます。

- ▶ 緊急ブレーキの状況が終わるまで、ブレーキペダルを踏み続けてください。ABS が車輪のロックを防ぎます。

以下の場合、ブレーキは再度通常通り作動します。

- ブレーキペダルを放した
- 衝突の危険性がなくなった
- 車両前方に検知される障害物がなくなった

その後、アダプティブブレーキアシストは解除されます。

アダプティブブレーキアシストが特に高い制動力を必要とする場合は、PRE-SAFE®（予期乗員保護措置）が同時に作動します。

約 250 km/h 以下の速度では、検知期間の間に 1 度は検知された動いている障害物にも、アダプティブブレーキアシストは反応できます。

約 70 km/h の走行速度までは、アダプティブブレーキアシストは静止している障害物にも反応します。

アダプティブブレーキライト

アダプティブブレーキライトは緊急ブレーキの状況で以下のように後続の車両に警告します。

- ブレーキライトを点滅させることにより
- 非常点滅灯を作動させることにより

50 km/h 以上の速度から車両に急ブレーキを効かせた場合、または BAS または BAS プラス（ブレーキアシストプラス）によりブレーキ操作が支援された場合は、ブレーキライトが素早く点滅します。このようにして、より注意を引きやすい方法で後方の車両に警告を行いません。

70 km/h 以上の速度から停止するまで急ブレーキを効かせた場合は、非常点滅灯が自動で作動します。再度ブレーキを効かせた場合は、ブレーキランプは点灯し続けます。10 km/h 以上で走行した場合は、非常点滅灯は自動的に解除されます。非常点滅灯スイッチ（▶ 124 ページ）を使用して非常点滅灯を解除することもできます。

ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）

全体的な注意事項

① "重要な安全上の注意事項" の項目に従ってください。（▶ 77 ページ）

ESP® は走行安定性、およびタイヤと路面の間の動力伝達であるトラクションをモニターします。

車両の走行ラインが運転者の望む進行方向から外れていると ESP® が判断した場合は、1 本または複数の車輪にブレーキを効かせ、車両を安定させます。また、エンジン出力を調整して、物理的限界内で望む方向に車両の向きを保つように作動します。ESP® は、濡れた路面や滑りやすい路面での発進操作を支援します。ESP® は、ブレーキ時の車両を安定させることもできます。

ETS（エレクトロニック・トラクション・サポート）

① "重要な安全上の注意" に従ってください（▶ 77 ページ）。

ETS トラクションコントロールは、ESP®の一部です。

トラクションコントロールは、駆動輪が空転した場合に、駆動輪に個別にブレーキを効かせます。これにより、片側が滑りやすい路面などでの発進や加速を可能にします。さらに、1 本または複数の駆動力のかかる車輪にさらなる駆動トルクが伝達されます。

ESP®を解除した場合でも、トラクションコントロールは設定されたままになります。

重要な安全上の注意事項

① "重要な安全上の注意事項" の項目に従ってください（▶ 77 ページ）。


⚠ 警告

ESP®が故障している場合は、ESP®は車両を安定させることはできません。さらに、他の走行安全装備はオフになります。これにより、横滑りや事故の危険性が高くなります。


注意して運転してください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場[®]でESP[®]の点検を受けてください。

! ブレーキテストダイナモメーター上でパーキングブレーキをテストするときは、イグニッションをオフにしてください。さもないと、ESP[®]によるブレーキの作動により、ブレーキシステムを損傷することがあります。

リアアクスルを上げて車両をけん引するときは、ESP[®]の注意に従ってください(▶ 292 ページ)。

マルチファンクションディスプレイの警告灯  が点灯し以下の状態のときは、ESP[®]が解除されます。



- 車両が動いている
- ECO スタートストップ機能が作動している

警告灯  が点灯し続けている場合は、故障のためESP[®]は作動しません。

警告灯(▶ 219 ページ)とメーターパネル(▶ 200 ページ)に表示されるディスプレイメッセージに関する情報に従ってください。

以下の場合、マルチファンクションディスプレイに故障および警告のメッセージが表示されることがあります。

- 立体駐車場などのターンテーブルで車を回転させた
 - 車両が動いている
 - ECO スタートストップ機能が作動している
 - 立体駐車場に進入するときなど、長くて狭いらせん状の走行路を走行した
- 以下のような警告灯も点灯することがあります。

- ESP[®]警告灯  または
- ABS 警告灯 

▶ 道路や交通状況に注意しながら、車両を停止します。


▶ イグニッションをオフにします。


▶ エンジンを再始動してください。しばらくすると、メッセージが消え、警告灯が消灯します。そうでない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場[®]で原因を調査してください。

推奨されたタイヤサイズの車輪のみを使用してください。そのときにのみ、ESP[®]は正しく機能します。

ESP[®]の特性

一般的な注意事項

走行を開始する前にESP 警告灯  が消灯した場合は、ESP[®] が自動的に設定されています。

ESP[®] が作動した場合は、メーターパネルのESP[®] 警告灯  が点滅します。

ESP[®] が作動した場合：

- ▶ どのような状況でもESP[®]を解除しないでください。
- ▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要な分だけ踏んでください。
- ▶ 実際の道路や天候の状況に適するように運転スタイルを合わせてください。

ECO スタートストップ機能

ECO スタートストップ機能は、車両が停止すると自動的にエンジンを停止します。再度発進するときは、エンジンは自動的に始動します。ESP[®] は、以前の設定状況のままになります。**例：**エンジンを停止する前にESP[®] が解除されていた場合は、エンジンを再度始動したときにESP[®] は解除されたままになります。

ESP®の解除/設定

重要な安全上の注意事項

① "重要な安全上の注意事項" の項目に従ってください (▶ 77 ページ)。

以下のESP®の状態を選択することができます：

- ESP®を設定する
- ESP®を解除する

⚠ 警告

ESP®を解除すると、ESP®は車両を安定させなくなります。横滑りや事故の危険が高まります。

以下に記載された状況でのみESP®を解除してください。

以下の状況では、ESP®を解除したほうがよい場合があります。

- スノーチェーンを使用しているとき
- 深い雪道で
- 砂地または砂利道で

上記に記載されているような状況が適用されなくなったら、ただちにESP®を設定してください。さもないと、車両が横滑りしたり車輪が空転し始めたりしたときに、ESP®が車両を安定させることができません。

ESP®の解除/設定

マルチファンクションディスプレイで、ESP®を解除または設定することができます。


▶ 解除する： (▶ 196 ページ)

メーターパネルのESP®解除警告灯  が点灯します。

▶ 作動させる： (▶ 196 ページ)

メーターパネルのESP®解除警告灯  が消灯します。

ESP®が解除されているときの特性

ESP®が解除されていて、1本以上の車輪が空転し始めた場合は、メーターパネルのESP®警告灯  は点滅しません。このような状況では、ESP®は車両を安定させません。

ESP®を解除した場合は：

- ESP®は走行安全性を向上させなくなります
- 駆動輪が高速回転することがあります
やわらかい路面では、車輪の空転による掘る動作により、より良い駆動力につながります
- トラクションコントロールは作動したままになります
- PRE-SAFE®は作動しなくなります。ESP®の支援とともにブレーキを強く効かせた場合でも作動しません。
- PRE-SAFE®ブレーキは作動しなくなります。ESP®の支援とともにブレーキを強く効かせた場合でも作動しません
- ブレーキを強く効かせた場合にも、ESP®はアシストを行ないません。

クロスウィンドアシスト

一般的な注意事項

直進走行時は、強い横風の突風により車両の走行安定性を損なうおそれがあります。ESP®に内蔵されているクロスウィンドアシスト機能は、これらの影響を顕著に減少させます。

横風の方向と強さに応じて、ESP®が自動的に作動します。

ESPはブレーキの介入で安定させ、車両を車線内にとどめる支援を行ないません。クロスウィンドアシストは、直進または緩やかなカーブを走行しているときに、80 km/h以上の車両速度で作動します。

重要な安全上の注意事項

ESP[®] が解除されるか、または故障のために使用できなくなると、クロスウィンドアシストは作動しません。

EBD (エレクトロニック・ブレーキ パワーディストリビューション)

全体的な注意事項

EBD は、後輪のブレーキ圧をモニターしてコントロールを行ない、ブレーキ時の走行安全性を高めます。

重要な安全上の注意事項

① "重要な安全上の注意事項"の項目に注意してください (▷ 77 ページ)。

⚠ 警告

EBD が故障した場合には、急ブレーキ時などには後輪がロックすることがあります。これにより、横滑りして事故が起きる危険性が高くなります。

操縦性の変化に応じて慎重に運転してください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのブレーキシステムの点検を受けてください。

表示および警告灯 (▷ 217 ページ) およびディスプレイメッセージ (▷ 204 ページ) に関する情報に注意してください。

アダプティブブレーキ

アダプティブブレーキは、ブレーキ時の安全性を高めるとともに、さらに快適なブレーキ操作をもたらします。ブレーキ機能に加えて、アダプティブブレーキはホールド機能 (▷ 169 ページ) およびヒルスタートアシスト機能 (▷ 148 ページ) も備えています。

PRE-SAFE[®]ブレーキ

全体的な注意事項

① "走行安全装備"項目の重要な安全上の注意事項に注意してください (▷ 77 ページ)。

PRE-SAFE[®]ブレーキはドライバーズアシスタンスパッケージ装備車両でのみ使用できます。

走行時に PRE-SAFE[®]ブレーキが運転者を支援するためには、レーダーセンサーシステムおよびカメラシステムが設定されていて、作動可能でなければなりません。

レーダーセンサーシステムおよびカメラシステムの支援で、PRE-SAFE[®]ブレーキは車両の前方に長時間ある障害物を検知することができます。

加えて、車両の進路にいる歩行者を検知することができます。

PRE-SAFE[®]ブレーキは、身体の輪郭および直立している人の姿勢のような特徴により歩行者を検知します。

"重要な安全上の注意事項"に記載されている制限に注意してください (▷ 86 ページ)。

PRE-SAFE[®]ブレーキは、先行車両または歩行者との衝突の危険性を最小限にし、そのような衝突の影響を低減させることで運転者を支援します。PRE-SAFE[®]ブレーキが衝突の危険を検知した場合は、自動的にブレーキを効かせるとともに、視覚的および聴覚的な警告を行ないません。

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

衝突の危険を感知すると、PRE-SAFE[®]ブレーキはまず部分的にブレーキをかけて車両を制動します。運転者がブレーキを効かせない場合は衝突することがあります。続いてブレーキをいっぱい効か

せた後であっても、特に非常に速い速度で接近しているときは、必ずしも衝突を避けられるとは限りません。事故の危険性があります。

常にブレーキをご自身で効かせ、安全確認をしながら、危険回避の操作を行ってください。

⚠ 警告

PRE-SAFE® ブレーキは、障害物や複雑な交通状況を明確に認識できるとは限りません。

その場合、PRE-SAFE® ブレーキは以下のように作動することがあります。

- 不必要な警告を行ない、車両にブレーキをかける
- 警告を行なわなくなる、または作動しなくなる

事故の危険性があります。

PRE-SAFE® ブレーキが警告を行なったときは、必ず交通状況に十分注意を払いながら、ブレーキをかける準備をしてください。危険な状態を脱したら、通常の運転スタイルに戻してください。

先行車両との車間距離を十分に維持して衝突を防ぐためには、適切にブレーキ操作を行なう必要があります。

PRE-SAFE® ブレーキは、以下の条件下で車両に自動的にブレーキを効かせることができます。

- 運転者および助手席乗員がシートベルトを着用している
および
- 車両速度が約 7 km/h～200 km/h の間である

約 70 km/h までの速度では、PRE-SAFE® ブレーキは以下を検知することもできます。

- 停止している、または駐車している車両など、車両の進路にある静止している障害物
- 車両の進路にいる歩行者

⚠ 警告

PRE-SAFE® ブレーキは、以下のものには反応しません。

- 子供などの小柄な人
- 動物
- 対向車
- 交差交通
- カーブを走行するとき

この結果、すべての危険な状況では、PRE-SAFE® ブレーキは警告や作動を行なわない場合があります。事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

降雪または激しい雨のときは、検知は困難になるおそれがあります。

レーダーセンサーシステムによる検知は、以下のときも困難になります。


- センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている
 - 他のレーダー発生源による干渉がある
 - 立体駐車場などで、強いレーダー反射が起こっている
 - オートバイのような幅が狭い車両が前方を走行している
 - 先行車両が他の車線を走行している
- カメラシステムによる検知は、以下のときも困難になります。
- カメラが汚れている、またはカメラが覆われている
 - 空の低いところにある太陽からなどの、カメラシステムへの眩惑がある

- 周囲が暗い
- 以下の場合：
 - 車両の進路に入り込むなど、歩行者が急に動いた
 - 特殊な衣服または他の物により、カメラシステムが歩行者を人として認識しなくなった
 - 歩行者が他の障害物により隠れている
 - 人特有の輪郭が背景と区別できない


車両のフロント部分が損傷した後は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの設定と作動の点検を行なってください。これは、低速走行時の衝突で車両のフロント部分に目に見える損傷がない場合にも当てはまります。フロントウインドウが損傷した後は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でカメラシステムの設定と作動の点検を行なってください。

機能

▶ **作動/解除する：** マルチファンクションディスプレイで PRE-SAFE® ブレーキを作動または解除します (▶ 196 ページ)。

PRE-SAFE® ブレーキが設定されていない場合は、マルチファンクションディスプレイに  マークが表示されます。

この機能は、以下の場合に警告を発します。

- 約 30 km/h またはそれ以上の速度で、数秒間にわたり、前方を走行している車両との間に保たれている距離が十分でない。
メーターパネルの距離警告灯  が点灯します。
- 約 7 km/h またはそれ以上の速度で、先行車両または歩行者に急に接近している。

断続的な警告音が鳴り、メーターパネルの距離警告灯  が点灯します。

▶ ただちにブレーキを効かせ、状況を回避してください。

または

▶ 安全確認のうえ、危険回避の操作を行なってください。

衝突の危険性が高まった場合は、PRE-SAFE® (予期乗員保護措置) が作動します。

先行車両との衝突の危険性がある状態で、運転者がブレーキを効かせる、回避操作をとる、または著しく加速することを行なわなかった場合は、急ブレーキの適用レベルまで、車両が自動緊急ブレーキを効かせることがあります。自動緊急ブレーキは、切迫した事故の直前までは作動しません。

PRE-SAFE® ブレーキの介入は、以下によりいつでも解除することができます。

- アクセルペダルをさらに踏む
- キックダウンを作動させる
- ブレーキペダルを放す

以下では、PRE-SAFE® ブレーキのブレーキ操作は自動的に解除されます。

- 障害物を回避する操作を行なった
- 衝突の危険性がなくなった
- 車両前方に検知されていた障害物がなくなった

ステアコントロール

全体的な注意事項

ステアコントロールは、車両を安定させるために必要な向きの操舵力をステアリングに伝達することにより運転者を支援します。

操舵支援は、特に以下で行なわれます。

- ブレーキ時に、両方の右側車輪または両方の左側車輪が濡れた、または滑りやすい路面にある
- 車が横滑りをし始めた

重要な安全上の注意事項

i "重要な安全上の注意事項"の項目に従ってください (▶ 77 ページ)。

以下の場合、ステアコントロールからの操舵支援は行なわれません。

- ESP[®]が故障している
- ステアリングが故障している

ESP[®] が故障したときは、電動パワーステアリングが運転操作をアシストします。

盗難防止

イモビライザー

イモビライザーにより、正規のキー以外で車両を始動することを防止します。

- ▶ **キー操作で待機状態にする**： エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ **キーレスゴースタート機能またはキーレスゴー操作で待機状態にする**： イグニッションをオフにして、運転席ドアを開きます。
- ▶ **解除する**： エンジンを始動します。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。有効なキーが車内に残されていると、誰でもエンジンを始動することができます。

i エンジンを始動したときは常に、イモビライザーは解除されます。

ATA (盗難防止警報システム)





- ▶ **待機状態にする**： キー、またはキーレスゴーで車両を施錠します。表示灯 ① が点滅します。約 15 秒後に警報システムが待機状態になります。
- ▶ **解除する**： キーまたはキーレスゴーで車両を解錠します。

または

- ▶ キーをエンジンスイッチに差し込みます。

警報システムが待機状態のときに以下を開くと、光と音による警報が発せられません。

- ドア
- エマージェンシーキーを使用して車両
- トランクリッド
- ボンネット

- ▶ **キーで警報を停止する**： キーの  または  スイッチを押します。警報が停止します。

または

- ▶ **キーレスゴースタート機能またはキーレスゴー装備車**： イグニッションロックからキーレスゴースイッチを取り外します (▶ 143 ページ)。

- ▶ キーをエンジンスイッチに差し込みます。警報が停止します。

- ▶ キーレスゴーを使用して警報を停止する：車外のドアハンドルを握ります。キーは車外にある必要があります。警報が停止します。

または

- ▶ ダッシュボードのキーレスゴースイッチを押します。キーは車内にある必要があります。警報が停止します。

たとえば、警報を作動させた開いたドアを閉じて、警報は解除されません。

けん引防止機能

機能

けん引防止機能が待機状態のときに車両の傾きが変化した場合は、聴覚的および視覚的な警報が発せられます。たとえば、車両の片側がジャッキアップされた場合に、このことが起こります。

待機状態にする

- ▶ 以下のことを確認してください。
 - ドアが閉じている
 - トランクリッドが閉じている
 この後にのみ、けん引防止機能が待機状態になります。
- ▶ キーまたはキーレスゴーで車両を施錠します。約 60 秒後に、けん引防止機能は待機状態になります。

解除する

- ▶ キーまたはキーレスゴーで車両を解錠します。または
- ▶ キーをエンジンスイッチに差し込みます。けん引防止機能は自動的に解除されます。

解除する

システムまたは Audio 20 を使用してけん引防止機能を解除できます。けん引防止機能の解除に関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

室内センサー

機能

室内センサーが待機状態のときに車内で動きが検知された場合は、視覚的および聴覚的な警報が発せられます。たとえば、誰かが車内に手を伸ばした場合などに起こります。

待機状態にする

- ▶ 以下のことを確認してください。
 - サイドウィンドウが閉じている
 - スライディングルーフまたはパノラミックスライディングルーフが閉じている
 - ルームミラーやルーフトリムのグリップハンドルにマスコットなどの物が掛かっていない
 このことは、警報の誤作動を防ぎます。
- ▶ 以下のことを確認してください。
 - ドアが閉じている
 - スライディングルーフまたはパノラミックスライディングルーフが閉じている
 - トランクリッドが閉じている
 この場合のみ、室内センサーは待機状態になります。
- ▶ キーまたはキーレスゴーで車両を施錠します。約 30 秒後に、室内センサーは待機状態になります。

解除する

- ▶ キーまたはキーレスゴーで車両を解錠します。

または

- ▶ キーをエンジンスイッチに差し込みます。

または

- ▶ キーレスゴースイッチを押します。
キーは車内にある必要があります。
室内センサーが自動的に解除されます。

解除する

システムまたは Audio 20 を使用して室内センサーを解除できます。室内センサーの解除に関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

役に立つ情報	94
キー	94
ドア	99
トランク	102
サイドウインドウ	108
スライディングルーフ	109

役に立つ情報

i この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

i メルセデス・ベンツ指定サービス工場にて情報をご覧ください。(▷ 28 ページ)

キー

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

保護者のいない状態で子供を車内に残すと、たとえば以下のようにして車両を動かすように設定できることがあります。

- パーキングブレーキの解除
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** からシフトするまたはマニュアルトランスミッションをニュートラルにシフトする
- エンジンを開始する

加えて、車両装備を操作し、挟み込まれる場合があります。事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

⚠ 警告

キーに、重い物や大きなアクセサリ等を付けていると、エンジンスイッチのキーが不意にまわるおそれがあります。そのため、エンジンが停止するおそれがあります。事故の危険性があります。

キーには重い物や大きなアクセサリ等を付けしないでください。操作の邪魔になるアクセサリ等は、エンジンスイッチ

にキーを差し込む前に取り外してください。

! 強い磁場を発生する物の近くにキーを保管しないでください。磁場の影響で、リモコン機能が正常に機能しなくなるおそれがあります。

強い磁場は、強力な電気設備の近くで発生します。

以下にはキーを近づけないでください。

- 携帯電話や他のキーなどの電子機器
- 硬貨や金属片などの金属物
- 金属ケースなどの金属物の内部

キーの機能に影響を与えるおそれがあります。

キーレスゴースタート機能装備車：パーセルシェルフの上またはトランク内にキーを保管しないでください。さもないと、キーレスゴースイッチを使用しているエンジン始動時などに、キーが検知されないことがあります。

車両とキーとの間で定期的に行なわれる無線通信によるチェックにより、車内に有効なキーがあるかどうかを確認します。以下の様な場合に行なわれます。

- エンジン始動時
- 走行時
- 車外のドアハンドルに触れたとき
- コンビニエンスクローリング機能の作動時

キーの機能



- ① 車両の施錠
- ② トランクリッドの開閉
- ③ 車両の解錠

▶ **集中解錠する**：スイッチ ③ を押します。

解錠して約 40 秒以内に車両を開かない場合：

- 車両が再度施錠されます
- 盗難防止が再設定されます

▶ **集中施錠する**：スイッチ ① を押します。

キーにより、以下が集中施錠/解錠されません。

- ドア
- トランクリッド
- 燃料給油口フラップ

解錠したときは、方向指示灯が 1 回点滅します。施錠したときは、3 回点滅します。

車両が施錠されたことを確認できる、確認音を設定することもできます。COMAND システムまたは Audio 20 経由で確認音を設定および解除することができます（別冊の取扱説明書をご覧ください）。

COMAND システムまたは Audio 20 経由でロケーターライティングが作動する設定にしているときは、暗いときにリモコンを使用して車両を解錠すると点灯

します（別冊の取扱説明書をご覧ください）。

▶ **車外からトランクリッドを自動的に開く**：トランクリッドが開くまで、スイッチ ② を押し続けます。

▶ **車外から自動的にトランクリッドを開く**：キーが車両のすぐ近くにある場合は、キーの スイッチを押します。トランクリッドが閉じ始めたら、スイッチを放すことができます。

キーレスゴー

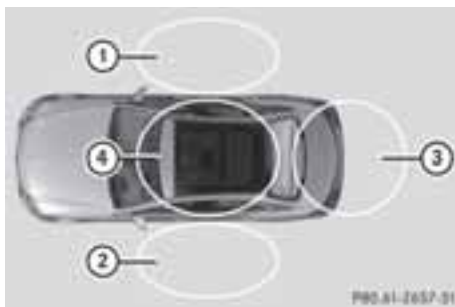
重要な安全上の注意事項

⚠ 危険

ペーサーメーカーまたは除細動器などの医療用電子機器を使用されている方：

キーレスゴーを使用するときは、キーと車両の間で電波の交信が行なわれます。電磁波が医療機器の機能に影響を与えるおそれがあります。致命的なけがをするおそれがあります。

車両を操作する前に、医師や医療用電子機器メーカーにキーレスゴーの電波の影響を確認してください。




キーレスゴーアンテナの検知範囲

- ① 右側外部アンテナの検知範囲（キーレスゴー装備車両のみ）
- ② 左側外部アンテナの検知範囲（キーレスゴー装備車両のみ）

- ③ リアアンテナの検知範囲
- ④ 車内アンテナの検知範囲

キーが車内にある場合、乗員の誰もがエンジンを始動できることに留意してください。

集中施錠および解錠

キーレスゴーを使用して、車両の始動、施錠または解錠ができます。この操作に必要なのはキーを携帯することのみです。キーレスゴー機能と従来のキーの機能を組み合わせることができます。例えば、キーレスゴー操作で車両を解錠し、キーの  スイッチで施錠することができます。

運転席ドアと使用するハンドルのあるドアが両方とも閉じている必要があります。キーは車外にある必要があります。キーレスゴーで施錠または解錠するときは、キーと対応するドアハンドルの間の距離が 1m 以上になってはいけません。

車両とキーとの間で定期的に行なわれる無線通信によるチェックにより、車内に有効なキーがあるかどうかを確認します。以下の様な場合に行なわれます。


- ・エンジン始動時
- ・走行時
- ・車外のドアハンドルに触れたとき
- ・コンビニエンスクロージング機能の作動時



- ▶ **車両を解錠する**：ドアハンドルの内側面に触れます。
- ▶ **車両を施錠する**：センサー面 ① または ② に触れます。
ドアハンドルの内側面に触れていないことを確認してください。
- ▶ **コンビニエンスクロージング機能**：センサー面の凹部 ② に一定時間触れます。
- ▶ **トランクリッドを解錠する**：トランクハンドルを引きます。

解除する

長期間車両を使用しない場合は、キーレスゴーを解除することができます。キーはごくわずかな電力のみを使用し、それによりバッテリーの電力を節約できます。作動/解除時には、近くに車両がなくてもかまいません。

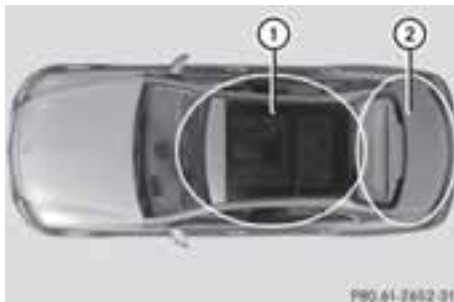
- ▶ **解除する**：素早く 2 回続けてキーの  スイッチを押します。
キーのバッテリーチェックランプが短時間 2 回点灯して、キーレスゴーが解除されます。
- ▶ **作動させる**：キーのいずれかのスイッチを押すか、あるいはエンジンスイッチにキーを差し込みます。
キーレスゴーおよびその関連のすべての機能が、再度使用できるようになります。

キーレスゴースタート機能

⚠ 危険

ペースメーカーまたは除細動器などの医療用電子機器を使用されている方：
キーレスゴースイッチを操作するときは、キーと車両の間で電波の交信が行なわれます。電磁波が医療機器の機能に影響を与えるおそれがあります。致命的なけがをするおそれがあります。

車両を操作する前に、そのようなシステムからの放射により起こりうる影響について、医師や医療機器メーカーにお問い合わせください。



P90-61-2682-01

キーレスゴースタート機能アンテナの検知範囲

- ① 車内アンテナの検知範囲
- ② リアアンテナの検知範囲

キーが車内にある場合は、乗員の誰もがエンジンを始動できることに留意してください。

ロックシステムの設定変更

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

エマージェンシーキー

全体的な注意事項

キーまたはキーレスゴーで車両を施錠または解錠できなくなった場合はエマージェンシーキーを使用してください。

エマージェンシーキーを使用して運転席ドアを解錠して開いた場合は、盗難防止警報システムが作動します。警報を停止してください (▷ 89 ページ)。

エマージェンシーキーで車両を解錠しても、燃料給油口フラップは自動的に解錠されません。

- ▶ **燃料給油口フラップを解錠する**： エンジンスイッチにキーを差し込みます。

エマージェンシーキーの取り外し



P90-20-3747-01

- ▶ ロック解除キャッチ①を矢印の方向に押しながらエマージェンシーキー②をキーから取り外します。

さらなる情報

- 運転席ドアの解錠 (▷ 100 ページ)
- トランクの解錠 (▷ 107 ページ)
- 車両の施錠 (▷ 101 ページ)

エマージェンシーキーの挿入

- ▶ 固定されて、ロック解除スイッチ①が基本位置に戻るまで、エマージェンシーキー②をキーに完全に押し込みます。

キーの電池

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

電池には毒性および腐食性を持つ物質が含まれています。電池を飲み込んでしまうと、深刻な健康上の問題を引き起こすことがあります。致命的なけがをするおそれがあります。

電池は子供の手の届かないところに置いてください。電池を飲み込んでしまった

場合は、ただちに医師の診察を受けてください。

🌀 環境に関する注意



電池には汚染物質が含まれています。家庭ごみと一緒に廃棄することは法律で禁止されています。使用済みの電池は個別に回収し、環境に適合するリサイクル方法で処分してください。



電池は環境保護の観点から責任を持って適切に廃棄してください。使用済みの電池はメルセデス・ベンツ指定サービス工場または使用済み電池の収集場までお持ちください。

電池の交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことを、メルセデス・ベンツは推奨します。

電池の点検



- ▶ または ボタンを押します。バッテリーチェックランプ ① が短時間点灯した場合は、電池は正常です。バッテリーチェックランプ ① が点滅しない場合は、電池が消耗しています。
- ▶ 電池を交換してください (▶ 98 ページ)。

または スイッチを押して、車両の信号受信範囲内でキーの電池を点検した場合は、以下になります：

- 施錠されます、または
- 車両が解錠されます

i 電池はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手することができます。

電池の交換

CR 2025 3V の電池が必要です。

- ▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します (▶ 97 ページ)。



- ▶ 電池収納部カバー ① が開くまで、キーの開口部にエマージェンシーキー ② を押し込みます。このときは、電池収納部カバー ① を押さえて閉じないようにしてください。
- ▶ 電池収納部カバー ① を取り外します。



- ▶ 電池③が落ちるまで、手のひらでキーを繰り返したたきます。
- ▶ プラス面が上を向くようにして、新しい電池を差し込みます。このときは、毛羽立ちのない布を使用してください。
- ▶ 電池の表面に糸くず、脂分、他の汚れがないことを確認してください。
- ▶ 電池収納部カバー①の前側にある凸部を本体に差し込み、押して閉じます。
- ▶ エマージェンシーキー②をキーに差し込みます。
- ▶ 車両で、キーのすべてのスイッチの機能を確認します。

キーのトラブル

キーのトラブルに関する情報はデジタル版取扱説明書に記載されています。

ドア

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

付き添いのない状態で子供が車両に残された場合は、以下を行なうおそれがあります。

- ドアを開き、それにより他の人または道路使用者を危険にさらす
 - 車両から降りて、走ってくる車両にぶつかる
 - 車両の装備を操作して挟まれたりするさらに以下により、車両が動いてしまうように子供が設定するおそれもあります。
 - パーキングブレーキの解除
 - オートマチックトランスミッションのパーキングポジションPからのシフト、またはマニュアルトランスミッションのニュートラルへのシフト
 - エンジンの始動
- 事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。付き添いのない状態で子供および動物を車内に残さないでください。キーは子供の手の届かないところに保管してください。

⚠ 警告

付き添いのない状態で子供が車両に残された場合は、以下を行なうおそれがあります。

- ドアを開き、それにより他の人または道路使用者を危険にさらす
- 車両から降りて、走ってくる車両にぶつかる
- 車両の装備を操作して挟まれたりするさらに以下により、車両が動いてしまうように子供が設定するおそれもあります。
- パーキングブレーキの解除
- オートマチックトランスミッションのパーキングポジションPからのシフト、またはマニュアルトランスミッションのニュートラルへのシフト
- エンジンの始動

事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。付き添いのない状態で子供および動物を車内に残さないでください。キーは子供の手の届かないところに保管してください。

手荷物や積載物は、なるべくトランクに収納してください。積載のガイドライン(▶ 252 ページ)を守ってください。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 車内からドアを解錠して開く
- 車内からの車両の集中施錠および解錠
- 車速感応ドアロック
- クローキングサポーター

運転席ドアの解錠（エマージェンシーキー）

キーまたはキーレスゴーで車両を施錠または解錠できなくなった場合、エマージェンシーキーを使用してください。

- ▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します（▷ 97 ページ）。

キーレスゴー装備車：

- ▶ エマージェンシーキーの先端部を運転席ドアのキーシリンダーカバーの溝に差し込み、カバーが外れるまでまわします。



- ▶ 運転席ドアのキーシリンダーに、エマージェンシーキーをいっぱいまで差し込みます。
- ▶ ① の位置まで、エマージェンシーキーを時計回りにまわします。ロックノブが上がり、ドアが解錠されます。
- ▶ エマージェンシーキーをまわして戻し、抜きます。
- ▶ エマージェンシーキーをキーに差し込みます。
- ▶ 厚みがある方の端部が車両前方を向くようにして、運転席ドアのキーシリンダーの上でカバーを保持し、押し固定します。その後、カバーの溝が水平になっていることを確認します。

キーレスゴー非装備車：



- ▶ エマージェンシーキーを保護キャップの開開口部 ① に差し込みます。
- ▶ ドアハンドルを引いて保持します。
- ▶ エマージェンシーキーの保護キャップを、外れるまで車両からできるだけまっすぐに引き抜きます。
- ▶ ドアハンドルを放します。



- ▶ 運転席ドアのキーシリンダーに、エマージェンシーキーをいっぱいまで差し込みます。
- ▶ ① の位置まで、エマージェンシーキーを時計回りにまわします。ロックノブが上がり、ドアが解錠します。
- ▶ エマージェンシーキーをまわして戻し、抜きます。
- ▶ エマージェンシーキーをキーに差し込みます（▷ 97 ページ）。
- ▶ 保護キャップがロックシリンダーにかみ合って確実ににはまるまで、保護

キャップを徐々に押します。このとき、ドアハンドルを引かないでください。

全車両：

エマージェンシーキーを使用して運転席ドアを解錠して開いた場合は、盗難防止警報システムが作動します。警報を停止してください（▶ 89 ページ）。

車両の施錠（エマージェンシーキー）

キーまたはキーレスゴーで車両を施錠できなくなった場合はエマージェンシーキーを使用してください。

- ▶ 運転席ドアを開きます。
- ▶ 助手席ドア、リアドアおよびトランクリッドを閉じます。
- ▶ ロックスイッチ（▶ 99 ページ）を押します。
- ▶ 助手席ドアとリアドアのロックノブが見えていないことを確認します。下がっていないときは、必要に応じてロックノブを手で押し込みます。
- ▶ 運転席ドアを閉じます。
- ▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します（▶ 97 ページ）。

キーレスゴー装備車：

- ▶ エマージェンシーキーの先端部を運転席ドアのキーシリンダーカバーの溝に差し込み、カバーが外れるまでまわします。



- ▶ ① の位置まで、エマージェンシーキーを反時計回りにまわします。ロックノブが下がり、運転席ドアが施錠されます。
- ▶ エマージェンシーキーをまわして戻し、抜きます。
- ▶ エマージェンシーキーをキーに差し込みます。
- ▶ ドアとトランクリッドが施錠されていることを確認します。
- ▶ 厚みがある方の端部が車両前方を向くようにして、運転席ドアのキーシリンダーの上でカバーを保持し、押しして固定します。その後、カバーの溝が水平になっていることを確認します。

キーレスゴー非装備車：



- ▶ エマージェンシーキーを保護キャップの開口部 ① に差し込みます。
- ▶ ドアハンドルを引いて保持します。
- ▶ 外れるまで、エマージェンシーキー上の保護キャップを車両からできるだけまっすぐに引きます。
- ▶ ドアハンドルを放します。



- ▶ 運転席ドアのキーシリンダーに、エマージェンシーキーをいっぱいまで差し込みます。
- ▶ ①の位置まで、エマージェンシーキーを反時計回りにまわします。ロックノブが下がり、運転席ドアが施錠されます。
- ▶ エマージェンシーキーをまわして戻し、抜きます。
- ▶ エマージェンシーキーをキーに差し込みます (▷ 97 ページ)。
- ▶ ドアとトランクリッドが施錠されていることを確認します。
- ▶ 固定され、確実にまるまで、保護キャップをロックシリンダーに慎重に押し込みます。このときは、ドアハンドルを引かないでください。

全車両：

上記のように車両を施錠した場合は、燃料給油口フラップは施錠されません。盗難防止警報システムは待機状態になりません。

トランク

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

内燃エンジンは、一酸化炭素などの有毒な排気ガスを排出します。エンジンをかけた状態（特に車両が走行中）でトランクリッドが開いたままになっていると、

排気ガスが車内に入る可能性があります。中毒を起こすおそれがあります。

トランクリッドを開く前に、必ずエンジンをオフにしてください。トランクリッドを開いたまま走行しないでください。

⚠ 警告

荷物や重い荷物が固定されていない、または十分に固定されていないと、すべったり、放り出されて乗員にぶつかるおそれがあります。特にブレーキ操作時や急な進路変更時にけがををする可能性があります。

荷物は放り出されないように、必ず収納してください。走行前に、荷物や積載物などがすべったりひっくり返ったりしないように固定されていることを確認してください。

! トランクは、上方に開きます。そのため、トランクを開くときは、上方に十分なスペースがあることを確認してください。

トランクリッドを開いたときの寸法については、「車両データ」の項目に記載されています (▷ 328 ページ)。

i トランクリッドの開口角度を COMAND システムまたは Audio 20 で制限することができます (別冊の取扱説明書をご覧ください)。

トランク内にキーを残さないようにしてください。さもないと閉め出されるおそれがあります。

荷物や積載物は、なるべくトランクに収納してください。積載のガイドライン (▷ 252 ページ) を守ってください。

トランクリッドのリバース機能付障害物検知

自動開閉トランクリッド装備車両：トランクリッドにはリバース機能付自動障害物検知機能が装備されています。自動で

開くときに固い障害物がトランクリッドをブロックした、または妨げた場合、動作は停止します。自動で閉じるときに固い障害物がトランクリッドをブロックした、または妨げた場合、トランクリッドは自動的に再度開きます。リバー機能付障害物自動検知機能は支援機能にすぎません。トランクリッド開閉時のお客様の注意の代わりになるものではありません。

⚠ 警告


以下のとき、リバー機能は反応しません：

- 小さな指などの、やわらかく、軽く、薄いもの
- 閉じるまで残り 8 mm 以下となったとき

リバー機能は、これらの状況で挟み込まれることを回避することはできません。けがの危険性があります。

閉動作の間は、身体を閉じる部分に近づけないようにしてください。

挟み込まれたとき：


- キーの  スイッチを押してください、または
- 運転席ドアのリモート操作スイッチを押してください、または
- トランクリッドのクロー징またはロックスイッチを押してください、または
- トランクリッドのハンドルを引いてください

ハンズフリーアクセス装備車：リアバンパーの下で、足で蹴る動作を行なうことにより、閉じる作動を停止することもできます。

車外からの開閉


開く



- ▶ キーの  スイッチを押します。または
- ▶ ハンドル ① を引きます。トランクリッドが開きます。

閉じる



- ▶ 凹部 ① に手をかけて、トランクリッドを引き上げてから押しつけて閉じます。
- ▶ 必要に応じて、キーの  スイッチ、またはキーレスゴー (p. 95 ページ) で車両を施錠します。

車外からの自動開閉

重要な安全上の注意事項


⚠ 警告

トランクリッドが自動で閉じている間に、身体の一部が挟まれるおそれがあります。

さらに、お子様などが閉動作中に、閉じる場所に立っていたり、入り込んだりする可能性があります。けがの危険性があります。

閉動作中は、閉じる場所に誰もいないことを確認してください。

閉動作を停止させるため、以下のオプションのうちのひとつを使用してください：

- キーの  ボタンを押します。
- 運転席ドアのリモート操作スイッチを押します。
- トランクリッドのクローズングまたはロックスイッチを押します。
- トランクリッドのハンドルを手前に引きます。


ハンズフリーアクセス装備車：リアバンパーの下で、足で蹴る動作を行なうことにより、閉じる作動を停止することもできます。

! トランクは、上方に開きます。そのため、トランクを開くときは、上方に十分なスペースがあることを確認してください。

トランクリッドを開いたときの寸法については、「車両データ」の項目に記載されています (▶ 328 ページ)。

開く

キーまたはトランクリッドのハンドルを使用して、トランクリッドを自動的に開くことができます。

- ▶ トランクリッドが開くまで、キーの  スイッチを押し続けます。

または

- ▶ トランクが解錠されているときは、トランクリッドのハンドルを引いてすぐに手を放します。

閉じる



- ▶ トランクリッドのクローザースイッチ ① を押します。

自動開閉トランクリッドおよびキーレスゴー装備車両：運転席ドアが閉じている場合、トランクリッドを閉じて同時に車両を施錠することができます。キーレスゴーのキーが車両後方の検知範囲になければなりません。

- ▶ トランクリッドのロックスイッチ ② を押します。

キーレスゴーが車両の外側でキーを検知した場合、トランクリッドが閉じ、車両が施錠されます。

キーレスゴーがトランク内でキーを検知した場合、トランクリッドは閉じた後に再度開きます。

キーレスゴーが車両の外側で2番目のキーを検知した場合、トランクリッドは閉じたままになります。

ハンズフリーアクセス

重要な安全上の注意事項

警告

車両の排気システムが非常に熱くなることがあります。ハンズフリーアクセスを使用する場合は、排気システムに触れるとやけどをするおそれがあります。けがの危険性があります。センサーの検知範

囲内でのみ、足を動かす動作をしていることを常に確認してください。

! キーがキーレスゴーの後方検知範囲内にある場合は、例えば以下の状況ではトランクが不意に開くことがあります。

- 洗車機の使用
- 高圧式スプレーガンの使用

キーが車両から少なくとも 3 m 離れていることを確認してください。

全体的な注意事項

キーレスゴーとハンズフリーアクセスにより、手を使わずにトランクリッドを開閉したり、作動を停止することができます。両手がふさがっているときに便利です。この操作にはバンパーの下で、足で蹴る動作を行なってください。

以下の点に従ってください。

- お客様ご自身がキーレスゴーキーを携行してください。キーレスゴーのキーが車両後方の検知範囲になければなりません。
- 足で蹴る動作を行なうときは、地面にしっかりと立ち、車両の後方に十分な空間があることを確認してください。さもないと、凍結した場所などでバランスを失うおそれがあります。



- センサー ①の検知範囲内でのみ、足で蹴る動作をしていることを常に確認してください。

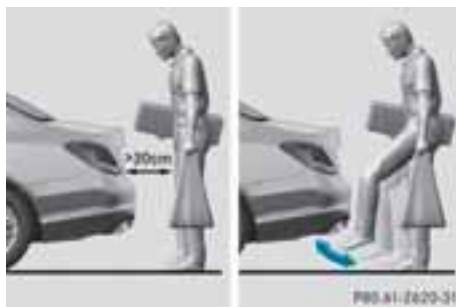
- この操作を行なう場合、後方エリアから少なくとも 30 cm 離れて立ちます。
- 足で蹴る動作を行なっている間にバンパーと接触しないようにしてください。さもないと、センサーが正しく機能しないことがあります。
- エンジンがかかっているときは、ハンズフリーアクセスは作動しません。
- キーレスゴーのキーが車両後方のキーレスゴー検知範囲内にある場合、ハンズフリーアクセスが作動することがあります。例えば以下の様な場合に、トランクリッドが不意に開いたり閉じたりする可能性があります。

- 車両後方で物を降ろす、または持ち上げる
- 車両後部を清掃する

上記のような状況では、キーレスゴーキーをポケット、バッグなどに入れて携行しないでください。これによってトランクが不意に開いたり閉じたりすることを防ぎます。

- 路面の塩分によるセンサー ① 周辺の汚れは、機能を制限することがあります。
- 義足でハンズフリーアクセスを使用した場合、機能が制限されることがあります。

操作




▶ **開閉する**：バンパー下側のセンサー検知範囲内①で足で蹴る動作をします。トランクリッドの開閉時には、警告音が鳴ります。

▶ **何度試みても、トランクリッドが開かないとき**：約 10 秒間待ち、その後もう一度バンパーの下で足で蹴る動作をしてください。

長時間バンパーの下に足を入れていた場合、トランクリッドは開閉しません。この場合は、足で蹴る動作を素早く繰り返します。

開閉操作を停止させる：

- バンパー下側のセンサー検知範囲 ① で足を動かす、または
- トランクリッド外側のハンドルを引く、または
- トランクリッドのクローザースイッチを押す、または
- キーの  スイッチを押します

トランクリッドの閉じる作動が停止した場合：

- バンパーの下で再度足を動かすと、トランクリッドが開きます

トランクリッドの開く作動が停止した場合：

- バンパーの下で再度足を動かすと、トランクリッドが閉じます

車内からの自動開閉


重要な安全上の注意事項

警告

トランクリッドが自動で閉じている間に、身体の一部が挟まれるおそれがあります。さらに、お子様などが閉動作中に、閉じる場所に立っていたり、入り込んだりする可能性があります。けがの危険性があります。

閉動作中は、閉じる場所に誰もいないことを確認してください。

閉動作を停止させるため、以下のオプションのうちのひとつを使用してください：

- キーの  ボタンを押します。
- 運転席ドアのリモート操作スイッチを押します。
- トランクリッドのクローザーまたはロックスイッチを押します。
- トランクリッドのハンドルを手前に引きます。

ハンズフリーアクセス装備車：リアバンパーの下で、足で蹴る動作を行なうことにより、閉じる作動を停止することもできます。

! トランクは、上方に開きます。そのため、トランクを開くときは、上方に十分なスペースがあることを確認してください。

トランクリッドを開いたときの寸法については、「車両データ」の項目に記載されています (▶ 328 ページ)。

開閉



車両が停車して、解錠されているときは、運転席からトランクリッドを開閉することができます。

- ▶ **開く**：トランクリッドが開くまで、トランクリッドのリモート操作スイッチ ① を引きます。
- ▶ **閉じる**：トランクリッドが完全に閉じるまで、トランクリッドのリモート操作スイッチ ① を押します。

トランクの独立施錠

トランクを独立して施錠することができません。その後に車両を集中解錠しても、トランクは施錠されたままで開くことはできません。



トランクを独立して施錠する機能を作動させる

- ▶ トランクリッドを閉じてください。
- ▶ グローブボックスを開きます。
- ▶ スイッチを ① の位置に押します。車両が集中解錠された場合も、トランクは施錠されたままです。

i グローブボックスを施錠することもできます (▷ 253 ページ)。

トランクを独立して施錠する機能を解除する

- ▶ グローブボックスを開きます。
- ▶ スイッチを ② の位置に押します。車両が集中解錠された場合、トランクも解錠されます。

トランクの解錠 (エマージェンシーキー)

! トランクは、上方に開きます。そのため、トランクを開くときは、上方に十分なスペースがあることを確認してください。

キー、キーレスゴー、またはハンズフリーアクセスでトランクを解錠できない場合は、エマージェンシーキーを使用します。

エマージェンシーキーを使用してトランクリッドを解錠して開くと、盗難防止警報システムが作動します。警報を停止してください (▷ 89 ページ)。

- ▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します (▷ 97 ページ)。
- ▶ エマージェンシーキーをトランクリッドのキーシリンダーにいっぱいまで差し込みます。



▶ エマージェンシーキーを反時計回りにまわして、**1** の位置から **2** の位置にします。

トランクが解錠されます。

- ▶ エマージェンシーキーを **1** の位置に戻して、抜きます。
- ▶ エマージェンシーキーをキーに差し込みます (▷ 97 ページ)。

車両を施錠したときは (▷ 101 ページ)、トランクも施錠されます。

サイドウインドウ

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

サイドウインドウを開けているときに、サイドウインドウが動くにつれて、体の一部がサイドウインドウとドアフレームの間に引き込まれて挟まるおそれがあります。けがををするおそれがあります。

開けている最中は、誰もサイドウインドウに触れないようにしてください。誰かが挟まれてしまった場合は、スイッチを放すか、あるいはスイッチを引いてもう一度サイドウインドウを閉じます。

⚠ 警告

閉じる部分に身体を近づけていると、サイドウインドウを閉じる際に挟まれるおそれがあります。けがををする危険があります。

閉じる手順の間は、閉じる部分に身体を近づけないようにしてください。誰かが挟まれたら、スイッチを放すか、あるいはスイッチを押してサイドウインドウをもう一度開きます。

⚠ 警告

とくに保護者のいない状態で子供を車内に残すと、サイドウインドウを操作して挟まれるおそれがあります。けがををするおそれがあります。

リアサイドウインドウのチャイルドブルーロックを作動させます。車両から離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

サイドウインドウのリバース機能

サイドウインドウには自動リバース機能が装備されています。自動で閉じている動作中に、かたい障害物がサイドウインドウが上方に動くことをブロックした、または妨げた場合は、サイドウインドウは自動的に再度開きます。手動で閉じて

いる動作中は、対応するスイッチを放した後にのみ、サイドウインドウは自動的に再度開きます。オートリバース機能は単なる補助にすぎず、サイドウインドウを閉じるときの注意の代わるものではありません。

⚠ 警告

リバース機能は以下では反応しません：

- 小さな指などの、やわらかく、軽く、薄いもの
- リセットの間

これらの状況では、誰かが挟まれることをリバース機能が回避できないことを意味しています。けがの危険性があります。閉じているときは、閉じている範囲に身体の一部がないことを確認してください。誰かが挟まれた場合は、スイッチを押して、サイドウインドウを再度開いてください。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- サイドウインドウの開閉
- コンビニエンスオープニング機能
- コンビニエンスクロージング機能
- サイドウインドウのリセット

サイドウィンドウのトラブル

⚠ 警告

サイドウィンドウをブロックされたまたはリセットされた後すぐに再度閉じる場合、サイドウィンドウはより大きなまたは最大の力で閉じます。リバー機能は作動しません。この手順のとき、身体の一部を閉じる部分に挟み込まれるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

閉じている間は、身体の一部を閉じる部分に近づけないようにしてください。閉動作を止めるには、スイッチを放すか、サイドウィンドウを再度開くためにスイッチをもう一度押します。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ウィンドウガイドの落ち葉などの障害物によりブロックされているため、サイドウィンドウを閉じることができない。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ サイドウィンドウを閉じてください。
サイドウィンドウを閉じることができず、原因が分からない。	<p>閉じている間にサイドウィンドウが妨げられ、再度少し開く場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ウィンドウがブロックされたらただちに、サイドウィンドウが閉じるまで対応するスイッチを再度引きます。強い力でサイドウィンドウが閉じます。 <p>閉じている間にサイドウィンドウが再度妨げられ、再度少し開く場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ウィンドウがブロックされたらただちに、サイドウィンドウが閉じるまで対応するスイッチを再度引きます。挟み込み防止機能なしで、サイドウィンドウが閉じます。

スライディンググループ

重要な安全上の注意事項

車両には、スライディンググループまたはパノラミックスライディンググループが装備されていることがあります。この項目では、「スライディンググループ」という言葉は、2つの種類のスライディンググループに該当します。

⚠ 警告

スライディンググループを開閉するときに、ルーフの移動範囲に身体を近づけると、はさまれるおそれがあります。けがをするおそれがあります。

開閉操作中は身体を近づけすぎないようにしてください。

はさまれた場合：

- ただちにスイッチを放すか、あるいは
- 自動操作中に、どの方向でもスイッチを短時間押します。

開閉手順が中断されます。

⚠ 警告

とくに保護者のいない状態で子供を車内に残すと、スライディンググループを操作して挟まれるおそれがあります。けがをするおそれがあります。

車両から離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

❗ パノラミックスライディンググループに雪や氷が付着した状態で操作しないでください。スライディンググループが故障する原因になります。

スライディンググループの開口部から物を出さないようにしてください。スライディンググループのシール部が損傷するおそれがあります。

スライディンググループが開いているときは、通常の風切り音に加えて共振音が発生するおそれがあります。これらは、車内の微細な圧力変動によるものです。これらのノイズを低減または除去するためには、スライディンググループの位置を変更するか、サイドウィンドウを少し開いてください。

パノラミックスライディンググループ装備車のみ

⚠ 警告

速度が早いとき、上がっているスライディンググループは自動的に後部が下がります。ご自身または乗員を挟み込む可能性があります。けがの危険性があります。車両が走行している間は、スライディンググループの動いている範囲内に誰も近づいていないことを確認してください。

誰かが挟まれた場合は、すぐにスライディンググループスイッチを引いて戻します。開いている動作の間にスライディンググループが上がります。

スライディンググループのリバース機能

車両には、スライディンググループまたはパノラミックスライディンググループが装備されています。この項目では、「スライディンググループ」という言葉は、スライディンググループの両方の種類に言及しています。

スライディンググループには自動リバース機能が装備されています。閉じている動作中に障害物がスライディンググループをブロックした、または妨げた場合は、スライディンググループは自動的に再度開きます。オートリバース機能は単なる補助にすぎず、スライディンググループを閉じるときの注意に代わるものではありません。

⚠ 警告

以下のとき、リバース機能は反応しません：

- 小さな指などの、やわらかく、軽く、薄いもの
- 閉じるまで残り 4 mm 以下となったとき
- リセット中
- リバース機能作動のすぐあとに再度手動でスライディンググループを閉じるとき

リバース機能は、これらの状況で挟み込まれることを回避することはできません。けがの危険性があります。

閉動作の間は、閉じる部分に身体を近づけないようにしてください。

挟み込まれたとき：

- ただちにスイッチを放すか、あるいは
- 自動閉動作中に、どの方向でもスイッチを押します。

閉動作が停止します。


スライディングルーフの操作


開閉



ルーフオペレーティングユニット

- ① 上げる
- ② 開く
- ③ 閉じる/下げる

- ▶ エンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置に回します(▶ 143 ページ)。
- ▶  スイッチを対応する方向へ押すか、または引きます。

手応えがあるところを越えるまで  スイッチを押したり引いたりすると、対応する方向で自動開閉が作動開始します。再度押すか、または引くことにより自動動作を中止することができます。

サンシェードは、スライディングルーフと連動して自動的に開きます。サンシェードは、スライディングルーフがチルトアップしているか、閉じているときに手動で開閉できます。

エンジンを停止するかキーを抜いた後も、スライディングルーフの操作を続けることができます。5 分間、運転席や助手席ドアを開くまで、この機能は作動したままになります。

レインクローズ機能

エンジンスイッチのキーが **0** の位置にあるか、または取り外されている場合は、以下のときにスライディングルーフが自動で閉じます。

- 雨が降り始めた場合
- 極端な外気温度の場合
- 6 時間経過後の場合
- 電力供給に故障がある場合

車内を換気するため、パノラミックスライディングルーフの後部がチルトアップした状態に保たれます。

レインクローズ機能により閉じられたときにスライディングルーフが妨げられた場合は、再び少し開きます。そして、レインクローズ機能が解除されます。


以下の場合は、スライディングルーフは閉じません。

- 後部が上がっている
- ブロックされた
- 車両が橋の下などにあるときなど、レインセンサーによってモニターされているフロントウインドウの範囲に雨が落ちないとき

リセット

! リセット操作を行っても、まだスライディングルーフが開閉しないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

スライディングルーフがスムーズに作動しないときは、リセットを行なってください。

- ▶ エンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置にまわします。
- ▶ スライディングルーフの後部を完全に上げます。(▶ 111 ページ)
- ▶  スイッチをそのまま数秒間押し続けます。

- ▶ スライディンググループが再び全開閉できることを確認します(▶ 111 ページ)。
- ▶ そうでない場合は、上の手順を再度繰り返してください。

パノラミックスライディンググループの操作


開閉




ルーフオペレーティングユニット

- ① 上げる
- ② 開く
- ③ 閉じる/下げる

パノラミックスライディンググループは、電動ブラインドが開いているときにのみ作動させることができます。

- ▶ エンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置に回します(▶ 143 ページ)。
- ▶  スイッチを対応する方向へ押すか、または引きます。

手応えがあるところを越えるまで  スイッチを押したり引いたりすると、対応する方向に自動開閉動作が開始します。再度押すか、または引くことにより自動動作を中止することができます。

パノラミックスライディンググループの後部が上がっている場合、高速になると、自動的に少し下がります。結果として、車内の騒音レベルが減少します。低速では、自動的に再度上がります。

エンジンを停止するか、エンジンスイッチからキーを抜いてからも、パノラミックスライディンググループを開閉できます。この機能は5分間、またはフロントドアを開くまで作動したままになります。

パノラミックスライディンググループはルーフラックが取り付けられていると、開くことができません。車内を換気するためには、パノラミックスライディンググループをチルトアップすることができます。メルセデス・ベンツにより承認されたルーフラックがパノラミックスライディンググループと接触した場合は、スライディングが少し下がり、後部が上がったままになります。

エンジンが停止しているときのレインクローズ機能

エンジンスイッチのキーが **0** の位置にある場合、または抜かれている場合は、以下のときにパノラミックスライディンググループが自動的に閉じます。

- 雨が降り始めたとき
- 極端な外気温度のとき
- 約6時間経過したとき
- 電力供給に故障があるとき

車内を換気するため、パノラミックスライディンググループはチルトアップしたままになります。

レインクローズ機能で閉じられているときにパノラミックスライディンググループが遮られた場合は、再度少し開きます。そして、レインクローズ機能が解除されます。

以下のときは、パノラミックスライディンググループは閉じません。

- 後部が上がっている
- ブロックされた
- レインセンサーによりモニターされているフロントウィンドウの範囲に雨が落ちていない。例えば車両が橋の下に

あったり、またはカーポートの中にいる場合は、センサーの範囲が覆われていることがあります。

走行時のレインクローズ機能

走行時に雨が降り始めた場合は、上がっていたスライディンググループの後部が自動的に下がります。スライディンググループは以下に応じて下がります。

- 走行速度および
- 雨滴量

自動的に閉じる動作を手動で中止することができます。☒ スイッチをいずれかの方向に押すか、または引きます。

スライディンググループを再度上げるためには、☒ スイッチを①の方向に押します。

"走行時のレインクローズ機能"は、以下を行うまで作動解除されます。

- ☒ スイッチをいずれかの方向に押すか、または引く。あるいは
- エンジンスイッチのキーを別の位置にまわす(▶ 143 ページ)。

パノラミックスライディンググループの電動ブラインドの操作

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

電動ブラインドの開閉時、身体の一部が電動ブラインドとフレームまたはスライディンググループ間に挟み込まれるおそれがあります。けがの危険性があります。開閉動作の間は、身体を電動ブラインドの動いている部分に近づけないようにしてください。

挟み込まれたとき：

- ただちにスイッチを放すか、あるいは
- 自動開閉動作中に、どの方向でもスイッチを押します。

開閉動作が停止します。

電動ブラインドは日射しから車内を守ります。スライディンググループが閉じているときにのみ、フロント電動ブラインドを開閉することができます。

電動ブラインドのリバース機能

電動ブラインドには、自動リバース機能が装備されています。閉じている作動中に、かたい障害物が電動ブラインドをブロックした、または妨げた場合は、電動ブラインドは自動的に再度開きます。ただし、自動リバース機能は単なる補助にすぎず、電動ブラインドを閉じるときのお客様の注意の代わりになるものではありません。

⚠ 警告

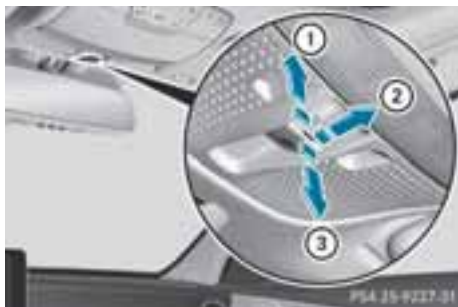
特に、リバース機能は小さな指のように柔らかい、軽いおよび薄いものには反応しません。リバース機能は、これらの状況で挟み込まれることを回避することはできません。けがの危険性があります。閉じている間は、身体の一部を電動ブラインドの動いている範囲内に近づけないようにしてください。

挟み込まれたとき：

- ただちにスイッチを放すか、あるいは
- 自動閉動作中に、どの方向でもスイッチを押します。

閉動作が停止します。




電動ブラインドの開閉




オーバーヘッドコントロールパネル

- ① 開く
- ② 開く
- ③ 閉じる

パノラミックスライディングルーフが閉じているときのみ電動ブラインドを開じることができます。





- ▶ イグニッションロックのキーを **1** または **2** の位置に回します(▷ 143 ページ)。
- ▶ スイッチ  を ① の方向に押します。両方の電動ブラインドが開き、その後にスライディングルーフがチルトアップします。
- ▶ スイッチ  を ② の方向に引きます。ブラインドが開きます。
- ▶ スイッチ  を ③ の方向に引きます。パノラミックスライディングルーフが閉じているときに、電動ブラインドが閉じます。

手応えがあるところを越えるまで  スイッチを押したり引いたりすると、対応する方向に自動開閉動作が開始します。再度押すか、または引くことにより自動動作を中止することができます。

パノラミックスライディングルーフまたはフロント電動ブラインドのリセット



パノラミックスライディングルーフまたはフロント電動ブラインドが滑らかに動かない場合は、パノラミックスライディングルーフまたはフロント電動ブラインドをリセットしてください。

- ▶ エンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置に回します(▷ 143 ページ)。
- ▶ パノラミックスライディングルーフが完全に閉じるまで、 スイッチを矢印 ① の方向に抵抗があるところまで繰り返し引きます。
- ▶ 数秒間、 スイッチを引いたまま保持します。
- ▶ フロント電動ブラインドが閉じるまで、 スイッチを矢印 ① の方向に繰り返し引きます。
- ▶ 数秒間、 スイッチを引いたまま保持します。
- ▶ パノラミックスライディングルーフ(▷ 112 ページ) およびフロント電動ブラインド(▷ 114 ページ) が再度完全に開いたことを確認してください。
- ▶ そうでない場合は、上の手順を再度繰り返ししてください。

スライディンググループのトラブル

警告

スライディンググループをブロックされたまたはリセットされた後すぐに再度閉じる場合、スライディンググループはより大きなまたは最大の力で閉じます。リバーズ機能は作動しません。この手順のとき、身体を閉じる部分に挟み込まれるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

閉動作の間は、身体を閉じる部分に近づけないようにしてください。

挟み込まれたとき：

- ただちにスイッチを放すか、あるいは
- 自動開閉動作中に、どの方向でもよいのでスイッチを押します。

閉動作が停止します。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
<p>スライディンググループまたはパノラミックスライディンググループを閉じることができず、原因が分からない。</p>	<p>閉じている間にスライディンググループまたはパノラミックスライディンググループが障害物を検知し、再度少し開いた場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 抵抗を感じた後はただちに、スライディンググループまたはパノラミックスライディンググループが閉じるまで、スイッチを抵抗があるところまで再度引き下げます。スライディンググループまたはパノラミックスライディンググループは、より強い力で閉じます。 <p>閉じている間にスライディンググループまたはパノラミックスライディンググループが再び障害物を検知し、再度少し開いた場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 抵抗を感じた後はただちに、スライディンググループまたはパノラミックスライディンググループが閉じるまで、スイッチを抵抗があるところまで再度引き下げます。挟み込み防止機能なしで、スライディンググループまたはパノラミックスライディンググループが閉じます。

役に立つ情報	118
運転席の適切なシートポジション	118
シート	119
ステアリング	121
ミラー	121
メモリー機能	122

役に立つ情報

i この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

i メルセデス・ベンツ指定サービス工場にて情報をご覧ください。(▷ 28 ページ)

運転席の適切なシートポジション

⚠ 警告

運転中に以下を行うと、車のコントロールを失うおそれがあります：

- 運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングまたはミラーを調整する
- シートベルトを装着する

事故の危険性があります。

エンジンを始動する前に、運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングおよびミラーを調整し、シートベルトを装着してください。



▶ シート調整に関する安全上のガイドラインを守ってください。(▷ 119 ページ)

▶ シート③が正しく調整されていることを確認してください。

手動式および電動式シートの調整 (▷ 120 ページ)

電動式シートの調整 (▷ 120 ページ)

シートを調整するときは、以下の点を確認してください。

- 運転席エアバッグから十分に離れている
- 通常の起きた姿勢で座っている
- シートベルトを正しく着用できる
- ほぼ垂直の位置になるようにバックレストを調整している
- 大腿部が軽く支えられるようにシートの角度を調整している
- ペダルを正しく踏むことができる
- 脚を完全に伸ばしていない
- ▶ ヘッドレストが適切に調整されていることを確認してください。

その際、ヘッドレストの中央が目の高さに調整され、後頭部がヘッドレストに支えられていることを確認してください。

▶ ステアリング調整に関する安全上のガイドラインを守ってください。(▷ 121 ページ)

▶ ステアリング①が正しく調整されていることを確認してください。

手動調整式ステアリングの調整 (▷ 121 ページ)

電動調整式ステアリングの調整 (▷ 121 ページ)

ステアリングを調整するときは、以下の点を確認してください。

- 腕を軽く曲げた状態で、ステアリングを握ることができる
- 脚を自由に動かすことができる
- メーターパネル内のすべての表示が確実に確認できる
- ▶ シートベルトに関する安全上のガイドラインを守ってください (▶ 46 ページ)。
- ▶ シートベルト ② を正しく着用していることを確認してください (▶ 48 ページ)。

シートベルトは以下の状態でなければなりません。

- 身体に密着している
- 肩の中央にかかっている
- 腰の骨盤部分にかかっている
- ▶ 走行する前に、ルームミラーとドアミラーを道路と交通状況がよく見える角度に調整してください (▶ 121 ページ)。

シート

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

保護者のいない状態で、お子様がシートを調整すると、挟み込まれる可能性があります。けがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない子供を車内に残さないでください。

エンジンスイッチにキーがないときでも、シートを調整することができます。

⚠ 警告

シートを調整するとき、シートガイドレールなどに挟み込まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

シートを調整する場合、身体がシートの動いている部分に触れていないという点を確認してください。

"エアバッグ" (▶ 50 ページ) および "子供をのせるとき" (▶ 64 ページ)に関する注意事項に従ってください。

⚠ 警告

運転席が固定されていないと、走行中に不意に動くおそれがあります。車のコントロールを失うおそれがあります。事故の危険性があります。

エンジンを始動する前に、必ず運転席が固定されていることを確認してください。

⚠ 警告

運転中に以下を行うと、車のコントロールを失うおそれがあります：

- 運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングまたはミラーを調整する
- シートベルトを装着する

事故の危険性があります。

エンジンを始動する前に、運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングおよびミラーを調整し、シートベルトを装着してください。

⚠ 警告

シートの高さは慎重に調整しないと、挟み込まれて負傷するおそれがあります。とくに子供は、電動シート調整スイッチを誤って押してしまい、挟み込まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

シートが動いている間は、シート調整システムのレバー部品の下に手や身体などを入れないでください。

⚠ 警告

ヘッドレストが合っておらず、正しく調整されていない場合、本来の機能を果たすことができなくなります。これにより、事故またはブレーキ作動時に頭部および首周りにけがををする危険性が高まります。

必ずヘッドレストを取り付けた状態で走行してください。走行を開始する前に、ヘッドレストの中央が乗員の目の高さにあることを確認してください。

⚠ 警告

バックレストをほぼ垂直の位置に動かしていない場合は、シートベルトは意図された保護レベルを発揮しません。ブレーキ時または事故の場合に、シートベルトの下側にもぐり込み、腹部または頸部などがけがを負うおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

走行を開始する前に、シートを正しい位置に調整してください。バックレストがほぼ垂直の位置にあり、シートベルトのショルダー部分が肩の中央にかかっていることを常に確認してください。

! シートとシートヒーターの損傷を防ぐため、以下の点に注意してください。

- シートに液体をこぼさないでください。シートに液体をこぼしたときは、すみやかに乾燥させてください。
- シートカバーが濡れたときは、シートヒーターを使用しないでください。シートを乾燥させるためにシートヒーターを使用しないでください。
- シートカバーを清掃してください。"日常の手入れ"をご覧ください。
- シートの上に重い物を載せないでください。また、シートクッションの上にナイフやくぎ、工具などの鋭利な物を置かないでください。シートはできるだけ人を乗せるためだけに使用してください。
- シートヒーターの使用中は、ブランケットやコート、バッグ、シートカバー、チャイルドセーフティシート、補助シートなどにより、シートを覆わないでください。

! シートの前後位置を調整するときは、足元やシートの下または後方に物が無いことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

i リアコンパートメントのヘッドレストは取り外せません(▶ 120 ページ)。

分割可倒式シート非装備車両：リアシートのヘッドレストは取り外すことができません。

さらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

i その他の関連事項：

- 分割可倒式のリアベンチシート (▶ 254 ページ)

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- シートの調整
- ヘッドレストの調整
- 電動ランバーサポートの調整
- シートベンチレーターの作動/停止

シートヒーターの作動/停止

作動/停止

⚠ 警告

シートヒーターを連続して使用すると、シートクッションおよびバックレストが異常に過熱する原因となります。高温により、温度変化を感知できにくい乗員や、異常な高温に対処できない乗員の健康に悪影響を与えたり、低温火傷を起こすおそれがあります。けがの危険性があります。

したがって、シートヒーターを連続して使用しないでください。



スイッチの3つの赤い表示灯は、選択したヒーターレベルを表しています。

約8分後に、レベル**3**からレベル**2**へ、システムが自動的に切り替わります。

約10分後に、レベル**2**からレベル**1**へ、システムが自動的に切り替わります。レベル**1**に設定した約20分後に、システムが自動的に停止します。

- ▶ エンジンスイッチのキーを**1**または**2**の位置にまわします (▶ 143 ページ)。
- ▶ **作動させる**：希望のヒーターレベルが設定されるまで、スイッチ①を繰り返し押しします。
- ▶ **停止する**：すべての表示灯が消灯するまで、スイッチ①を繰り返し押しします。

i バッテリー電圧が非常に低下した場合は、シートヒーターが停止することがあります。

i 走行モード**E**が選択されている場合は (デジタル版取扱説明書をご覧ください)、シートヒーターの性能は低下します。

シートヒーターのトラブル

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

ステアリング

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

運転中に以下を行うと、車のコントロールを失うおそれがあります：

- 運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングまたはミラーを調整する
 - シートベルトを装着する
- 事故の危険性があります。

エンジンを始動する前に、運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングおよびミラーを調整し、シートベルトを装着してください。

⚠ 警告

子供がステアリングを調整するとステアリングに挟まれる可能性があります。けがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

ステアリングは、キーを抜いても位置の調整ができます。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- ステアリングの調整
- ステアリングヒーター
- イージー・エントリー / エグジット機能

ミラー

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- ルームミラー
- ドアミラー

- 自動防眩ミラー
- リバースポジション機能付ドアミラー
(助手席側)

メモリー機能

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 設定の保存
- 記憶された位置を呼び出す

役に立つ情報	124
車外ライト	124
ルームライト	128
電球の交換（LED ヘッドライト装 備車両）	129
電球交換（ハロゲンヘッドライト 装備車）	129
フロントワイパー	132

役に立つ情報

i この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

i メルセデス・ベンツ指定サービス工場でご覧ください。(▷ 28 ページ)

車外ライト

全体的な注意事項

日中にライトを点灯しないで走行したい場合は、マルチファンクションディスプレイで"デイタイムドライビングライト"機能をオフにしてください。(▷ 196 ページ)。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 非常点滅灯
- ヘッドライト内側の曇り

車外ライトの設定

設定方法

車外ライトを設定できます。

- ライトスイッチを使用して
- コンビネーションスイッチを使用して (▷ 125 ページ)

- ヘッドライトの照射範囲の調整 (ハロゲンヘッドライト装備車両のみ) (▷ 125 ページ)
- マルチファンクションディスプレイを使用して

ライトスイッチ

操作



- 1 左側パーキングランプ
- 2 右側パーキングランプ
- 3 車幅灯、ライセンスプレートおよびメーターパネル照明
- 4 ヘッドライトのオートモード、ライトセンサーによる制御
- 5 ロービーム/ハイビームヘッドライト
- 6 リアフォグランプ

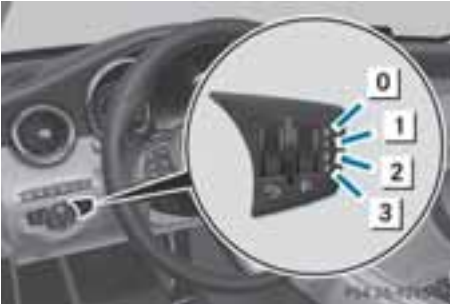
車両から離れるときに警告音が鳴る場合は、ライトが点灯していることがあります。

▶ ライトスイッチを **AUTO** にまわします。

車外ライト (車幅灯/パーキングランプを除く) は、以下の操作を行なうと自動的に消灯します。

- エンジンスイッチからキーを抜く
- キーが **0** の位置のときに運転席ドアを開く

ヘッドライトの照射範囲の調整（ハロゲンヘッドライト）



ヘッドライト光軸調整

- 0 運転席シートおよび助手席シートに乗員がいる
- 1 運転席シート、助手席シートおよびリアシートに乗員がいる
- 2 運転席シート、助手席シートおよびリアシートに乗車がいる、またトランクに積載がある
- 3 運転席、助手席シートに乗員、最高許容後軸荷重を利用

ヘッドライト光軸調整により、車両の積載量に合わせたヘッドライトの配光を調整します。

- ▶ エンジンを始動します。
- ▶ 該当する車両荷重の位置にヘッドライト光軸調整をまわします。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- ヘッドライトのオートモード
- ロービームヘッドライト
- リアフォグランプ
- 車幅灯
- パーキングランプ

コンビネーションスイッチ



- ① ハイビームヘッドライト
- ② 方向指示灯、右
- ③ パッシングライト
- ④ 方向指示灯、左

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 方向指示灯
- ハイビームヘッドライト
- パッシングライト

インテリジェントライトシステム

全体的な注意事項

インテリジェントライトシステムは、実際の走行や天候状況に合わせてヘッドライトを自動的に調整するシステムです。車両速度や天候状況などに応じて路面の照射を向上させる先端機能を提供します。システムには、アクティブライトシステムやコーナリングライト、ハイウェイモード、フォグランプ強化機能が含まれます。システムは周囲が暗いときのみ作動します。

マルチファンクションディスプレイを使用して"インテリジェントライトシステム"機能を作動させたり解除したりできます(▶ 196 ページ)。

アクティブライトシステム



アクティブライトシステムは、前輪の操舵角に応じてヘッドライトを動かすシステムです。そのため、走行中はステアリングを操作した方向が常に照射されます。このシステムにより、歩行者、自転車、動物などを容易に認識することができます。

作動： ライトが点灯しているとき

コーナリングライト機能



コーナリングライトは、コーナリング時に進行方向の路面を広く照射し、夜間の交差点などで運転者の視界を向上させます。ロービームヘッドライトが点灯しているときのみ、作動します。

作動：

- 40km/h 以下の速度で走行していて、方向指示灯を作動させた、またはステアリングを回した場合
- 40km/h～70km/h の間の速度で走行していて、ステアリングを回した場合

コーナリングライトは短時間点灯し続けますが、約 3 分後に自動的に消灯します。

ハイウェイモード



作動： 110 km/h 以上の速度で走行していて、少なくとも 1,000 m なんらかの大きなステアリングの動きがない場合、または 130 km/h 以上の速度で走行している場合。

上記はライトの機能の説明です。走行するときは必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

解除： 作動後に、80 km/h 以下の速度で走行した場合。

フォグランプ強化機能



フォグランプ強化機能は運転者の眩しさを軽減し、道路の端の照射を向上させます。

作動： 70 km/h 以下の速度で走行していて、リアフォグランプを点灯した場合

非作動： 作動後に 100 km/h 以上の速度で走行した場合、またはリアフォグランプを消灯した場合

上記はライトの機能の説明です。走行するときは必ず法定速度や制限速度に従ってください。

アダプティブハイビームアシスト・プラス

全体的な注意事項



アダプティブハイビームアシスト・プラスにより、ロービーム、パーシャルハイビームおよびハイビームヘッドライトの間で自動的に切り替えることができます。パーシャルハイビーム照明は、他の道路使用者を避けるようなハイビームの配光になっています。他の道路使用者は、ハイビームの範囲外になります。これにより眩しさを防ぎます。先行車両がある場合は、例えばハイビームヘッドライトはその右または左の範囲を照射し、先行車両はロービームヘッドライトによって照射されます。

このシステムは、他車との車間距離に応じてロービームヘッドライトの照射範囲を自動調整します。他車が検知されなくなると、システムは再びハイビームヘッドライトに切り替えます。

ハイビームまたはパーシャルハイビームヘッドライトが交通標識からの非常に強い反射の原因となっている場合は、ライトは自動的に暗くなり、反射光によって引き起こされる眩しさが避けられます。システムの照度センサーは、フロントウインドウ裏側のルーフオペレーティングユニット付近に装着されています。

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

アダプティブハイビームアシスト・プラスは以下の道路使用者を認識しません。

- 歩行者などライトを持っていない人
- 自転車などライトの暗い人
- フェンスなどでライトが遮られている人

ごくまれに、アダプティブハイビームアシスト・プラスはライトを持っている道路使用者を認識しない、または認識が非常に遅れることがあります。このような場合は、他の道路使用者がいるにもかかわらず、自動ハイビームヘッドライトが

解除されなかったり、作動したりします。事故の危険性があります。


道路や交通事情に常に注意して、適切なタイミングでハイビームヘッドライトをオフにしてください。

アダプティブハイビームアシスト・プラスは、道路、天候または交通状況を考慮に入れることはできません。アダプティブハイビームアシスト・プラスは単なる支援にすぎません。運転者には、そのときの明るさ、視界および交通状況に応じて、車両のライトを調整する責任があります。


特に以下の状況では、障害物の検知が困難になります。

- 霧や激しい雨、雪などで視界が悪い
- センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている

アダプティブハイビームアシスト・プラスの作動/停止の切り替え

▶ **作動させる**：ライトスイッチを  にまわします。


▶ **手応えがあるところを越えるまで**、コンビネーションスイッチを矢印 ① の方向に押します。

周囲が暗く、ライトセンサーがロービームヘッドライトを作動させたときは、マルチファンクションディスプレイの表示灯  が点灯します。


25km/h 以上の速度で走行している場合：

ヘッドライトの照射範囲は、他の車両や他の道路使用者との距離に応じて自動的に設定されます。

約 30km/h 以上の速度で走行していて、他の道路使用者が検知されていない場合

自動的にハイビームヘッドライトが点灯します。メーターパネルの表示灯  も点灯します。



45km/h 以上の速度で走行していて、他の道路使用者が検知された場合：


パーシャルハイビームが自動的に選択されます。メーターパネルの表示灯  も点灯します。

約 40km/h 以下の速度で走行している場合：

パーシャルハイビームヘッドライトが自動的に停止します。他の道路使用者が検知されていない場合は、ハイビームヘッドライトが作動します。

約 25km/h 以下の速度で走行しているか、または道路が十分に照らされている場合：

自動的にハイビームヘッドライトが消灯します。メーターパネルの表示灯  が消灯します。マルチファンクションディスプレイの表示灯  は点灯したままになります。

▶ **停止する**：コンビネーションスイッチを通常的位置に戻す、またはライトスイッチを他の位置に動かします。マルチファンクションディスプレイの表示灯  は消灯します。

ルームライト

ルームライトとルーフオペレーティングユニットの概要は"はじめに"をご覧ください。

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- ルームライトの自動点灯
- ルームライトの手動点灯
- 緊急時点灯機能

電球の交換 (LED ヘッドライト装備車両)

車両のフロントおよびリアライトクラスターには、LED ライトバルブが装備されています。お客様自身で電球の交換を行わないでください。必要な専門知識とツールを備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

ライトは車両安全性の重要な要素です。そのため、これらの機能が正常であることを常に確認してください。ヘッドライトの設定は、定期的に点検してください。

電球交換 (ハロゲンヘッドライト装備車)

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

作動時、電球、ランプおよびコネクターは非常に熱くなります。電球を交換するとき、これらの構成部品を触れると火傷するおそれがあります。けがの危険性があります。

電球を交換する前に、これらの構成部品を冷ましてください。

落ちた、またはガラス管に引っかき傷がある電球は使用しないでください。

以下のとき、電球が破裂するおそれがあります。

- 触れた
- 温度が高い
- 落とした
- 引っかいた

この用途のために設計された放電管の電球のみを使用してください。同一種類で、指定された電圧の予備電球のみを取り付けてください。

ガラス管上に付いた痕は、電球の寿命を短くします。ガラス管を素手で触らないでください。必要に応じて、冷えている

ときにガラス管をアルコールで清掃し、毛羽立ちのない布で拭き取ります。

点灯している間、電球を水分から保護してください。電球に液体が浸入しないようにしてください。

リストに挙げられている電球のみを交換してください (p 129 ページ)。お客様自身で交換できない電球は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でご交換してください。

電球交換に支援が必要な場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

新しい電球が点灯しない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

電球やライトは、車両安全性の重要な装備です。そのため、これらの機能が正常であることを常に確認してください。ヘッドライトの設定は、定期的に点検してください。

電球交換の概要 - 電球

以下の電球を交換できます。電球の種類の詳細は凡例をご覧ください。



ハロゲンヘッドライト装備車

- ① ロービームヘッドライト：H7 55 W
- ② ハイビームヘッドライト：H7 55 W
- ③ 方向指示灯：PWY 24 W



テールランプ（ハロゲンヘッドライト）

- ① 方向指示灯：P 21 W
- ② バックランプ：W 16 W

フロントの電球交換

フロントホイールアーチのカバー取り付け/取り外し

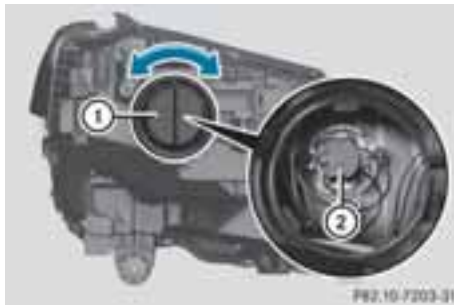


フロントの方向指示灯を交換する前に、フロントホイールハウジングからカバーを取り外してください。

- ▶ **取り外す**：ライトスイッチをオフにします。
- ▶ 前輪を内側にまわします。
- ▶ 適切な工具を使用してロータリーノブ①が止まるまで外側に180°回します。
- ▶ カバー②のロックが解除されます。
- ▶ カバー②を上げます。

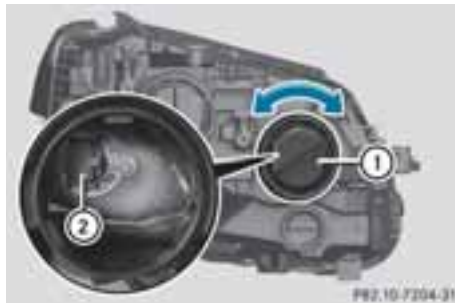
- ▶ **取り付ける**：カバー②を左右および下部の2つのキャッチに差し込みます。
- ▶ 適切な工具を使用してロータリーノブ①が止まるまで内側に180°回します。
- ▶ カバー②がロックされます。

ロービームヘッドライト



- ▶ ライトを消灯します。
- ▶ ボンネットを開きます。
- ▶ ハウジングカバー①を反時計回りにまわして引き出します。
- ▶ ソケット②を反時計回りにまわして引き抜きます。
- ▶ ソケット②から電球を抜き取ります。
- ▶ 新しい電球をソケット②に差し込みます。
- ▶ ソケット②をランプに差し込み、時計回りにまわします。
- ▶ ハウジングカバー①の位置を合わせ、時計回りにまわしてロックさせます。

ハイビームヘッドライト



- ▶ ライトを消灯します。
- ▶ ボンネットを開きます。
- ▶ハウジングカバー ① を反時計回りにまわして引き出します。
- ▶ソケット ② を反時計回りにまわして引き抜きます。
- ▶ソケット ② から電球を抜き取ります。
- ▶新しい電球をソケット ② に差し込みます。
- ▶ソケット ② をランプに差し込み、時計回りにまわします。
- ▶ハウジングカバー ① の位置を合わせ、時計回りにまわしてロックさせます。

方向指示灯



- ▶フロントホイールアーチのカバーを取り外します。(▶ 130 ページ)
- ▶ハウジングカバー ① を反時計回りにまわして引き出します。

- ▶ソケット ② を反時計回りにまわし、解錠して、引き抜きます。
- ▶ソケット ② から電球を抜き取ります。
- ▶新しい電球をソケット ② に差し込みます。
- ▶ソケット ② をランプに差し込み、時計回りにまわします。
- ▶ハウジングカバー ① の位置を合わせ、時計回りにまわしてロックさせます。
- ▶フロントホイールアーチのカバーを交換します (▶ 130 ページ)。

リアの電球交換

サイドトリムパネルの開閉



例：右側サイドトリムパネル

テールランプの電球を交換する前に、ラゲッジルーム内のサイドトリムパネルを開く必要があります。

- ▶開く：左または右サイドトリムパネル ① の上部を外し、矢印の方向に倒します。
- ▶閉じる：サイドパネル ① を差し込みます。

テールライト

- ▶ライトを消灯します。
- ▶トランクを開きます。
- ▶サイドトリムパネルを開きます (▶ 131 ページ)。



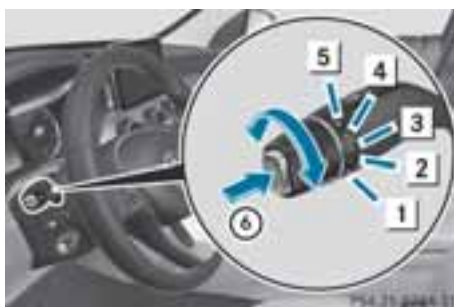
- ▶ プラグを引き抜きます。
- ▶ ウイングナット ① を反時計回りに 90° まわし、ソケットを引き抜きます。



- ▶ **方向指示灯 ②**: 電球をソケット内へ軽く押し、反時計回りにまわして、ソケットから取り外します。
- ▶ 新しい電球をソケットに差し込み、時計回りにまわします。
- ▶ **バックランプ ③**: 電球をソケットから取り外します。
- ▶ 新しい電球をソケットに差し込みます。
- ▶ ソケットを再度差し込みます。
- ▶ ウイングナット① を時計回りに 90° まわします。
- ▶ コネクターを差し込みます。
- ▶ サイドトリムパネルを閉じます (▶ 131 ページ)。

フロントワイパー

フロントウインドウワイパーの作動/停止の切り替え



- ① ワイパーの停止
- ② 間欠拭き取り、低速 (レインセンサーは低感度に設定)
- ③ 間欠拭き取り、高速 (レインセンサーは高感度に設定)
- ④ 連続拭き取り、低速
- ⑤ 連続拭き取り、高速
- ⑥ 1 回の拭き取り / ウォッシャー液を使用してのフロントウインドウの拭き取り

ワイパーブレードが摩耗した場合は、フロントウインドウは十分に拭き取られなくなります。交通状況への注意を妨げるおそれがあります。

ワイパーブレードの交換

重要な安全上の注意事項

警告

ワイパーブレードを交換中にワイパーが動き出した場合、ワイパーアームに挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

ワイパーブレードを交換する前に、ワイパーおよびイグニッションのスイッチを必ずオフにしてください。

❗ ワイパーアームを起こしているときは絶対にボンネットを開かないでください。ワイパーブレードが取り付けられていない状態では絶対にワイパーアームをフロントウインドウの元の位置に戻さないでください。

ワイパーブレードを交換するときは、ワイパーアームを確実に持って作業をしてください。ワイパーブレードが取り付けられていない状態でワイパーアームから手を放すと、ウインドウに当たってウインドウを損傷するおそれがあります。

ワイパーブレードの交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

❗ ワイパーブレードの損傷を避けるため、ワイパーアーム以外には触れないようにしてください。

フロントウインドウのワイパーブレードの交換

ワイパーブレードの垂直位置への移動 キーレスゴー非装備車両：

- ▶ エンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置にまわします(▶ 143 ページ)。
- ▶ フロントウインドウのワイパーを **☐** ポジションに設定します。
- ▶ ワイパーアームが垂直位置に達したら、キーをまわし **0** の位置にして、キーをエンジンスイッチから抜きます。
- ▶ ワイパーアームをフロントウインドウから起こします。

キーレスゴー装備車両：

- ▶ エンジンを停止します。
- ▶ ブレーキペダルから足を放します。
- ▶ フロントウインドウのワイパーを **☐** ポジションに設定します。
- ▶ フロントワイパーが動き出すまで、キーレスゴースイッチを繰り返し押します。

- ▶ ワイパーアームが垂直の位置になったときに、キーレスゴースイッチを押します。
- ▶ ワイパーアームをフロントウインドウから起こします。

ワイパーブレードを取り外す



- ▶ 片手でワイパーアームを保持します。もう片方の手で、ワイパーブレードをワイパーアームから矢印①の方向に止まるまでまわします。
- ▶ クリック音が聞こえ、ワイパーブレードが取り外しの位置で固定されるまで、ロック機構②を矢印③の方向にスライドさせます。



- ▶ ワイパーブレードをワイパーアームから矢印④の方向に取り外します。

ワイパーブレードを取り付ける



- ▶ 新しいワイパーブレードをワイパーアームに矢印 ① の方向に差し込みます。



- ▶ クリック音が聞こえ、ワイパーブレードがロック位置で固定されるまで、ロック機構 ② を矢印 ③ の方向にスライドさせます。
- ▶ ワイパーブレードが正しく位置していることを確認します。
- ▶ ワイパーアームをフロントウインドウに倒して戻します。
- ▶ ワイパーブレード先端のサービスインジケーターにある保護フィルムを取り外します。

i サービスインジケーターの色が黒から黄色へ変わったとき、ワイパーブレードを交換する必要があります。色が変わるまでの期間は使用条件により異なります。

ワイパーのトラブル

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

役に立つ情報	136
エアコンディショナーシステムの 概要	136
エアコンディショナーシステムの 操作	139

役に立つ情報

i この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

i メルセデス・ベンツ指定サービス工場にて情報をご覧ください。(p. 28 ページ)

エアコンディショナーシステムの概要

重要な安全上の注意事項

以下のページで推奨されている設定に従ってください。これを守らなかった場合、ウィンドウが曇るおそれがあります。ウィンドウを曇りから防ぐためには：

- エアコンディショナーは短時間のみ停止してください
- 内気循環モードは短時間のみ作動させてください
- AC モード機能を作動させてください
- 必要な場合は、"フロントウィンドウデフロスター"機能を短時間作動させてください

エアコンディショナーは車内の温度および空気の湿度を制御します。車内フィルターは空気を清浄し、室内の環境を改善します。

AC モード機能は、エンジンがかかっているときにのみ使用できます。サイドウィンドウおよびルーフが閉じているときにのみ、エアコンディショナーは最適に作動します。

余熱ヒーター機能は、イグニッションがオフのときにのみ、作動または停止することができます。キーワード"余熱ヒ-

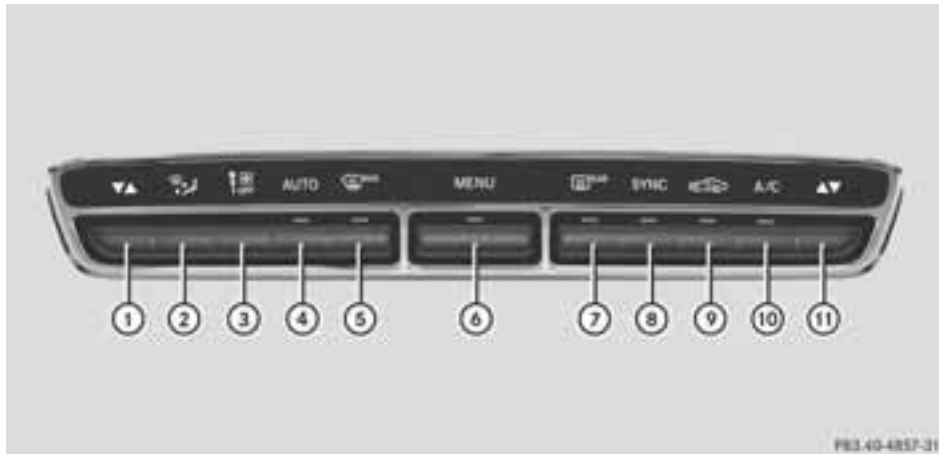
ター"で、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

i 暖かい時期は、例えば、コンビニエンスオープニング機能を使用して少しの間車両を換気します。キーワード"コンビニエンスオープニング"で、デジタル版取扱説明書をご覧ください。これにより、冷却処理が速くなり、より速く希望の車内温度に達します。

i 内蔵フィルターによりほこりや煤煙の大部分の粒子や、花粉の大部分をろ過することができます。気体状の汚染物質および臭いも減少させます。フィルターが詰まると車内に供給される空気の量が減少します。このため、整備手帳で規定されているフィルターの交換間隔に必ず従ってください。重度の大気汚染などの環境状況に左右されるため、間隔は整備手帳に記載されているものより短くなることがあります。

i 外気温度などのさまざまな要因によっては、キーを抜いた後の 60 分間は自動的に送風が作動することがあります。その後、エアコンディショナーを乾燥させるために、車両は 30 分間換気されません。

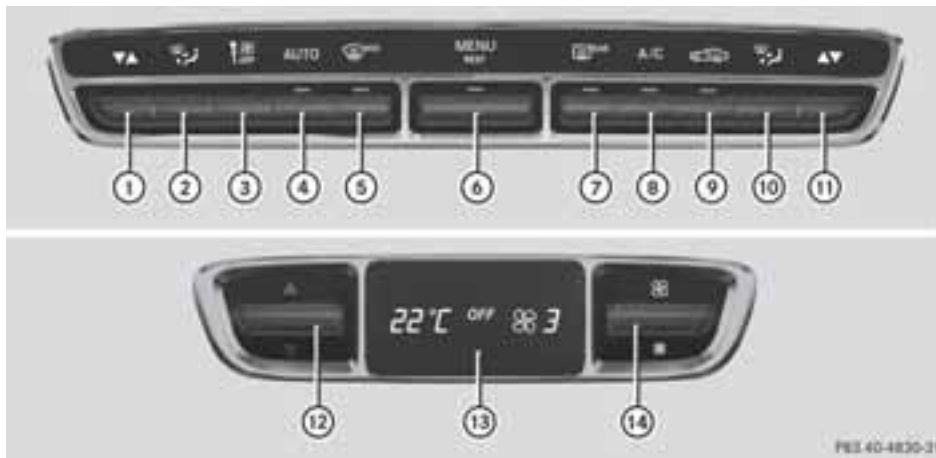
クライメートコントロール（前席左右独立調整）のコントロールパネル



PB3-40-4857-31

- ① 温度の設定、左
- ② 送風配分の設定
- ③ 送風量の設定
エアコンディショナーの停止
- ④ エアコンディショナーを AUTO モードに設定
- ⑤ フロントウインドウの曇り取り
- ⑥ Audio 20/COMAND システムのエアコンディショナーメニューの呼び出し
- ⑦ リアデフォグガーの作動/停止の切り替え
- ⑧ 同期の作動/停止
- ⑨ 内気循環モードの手動による作動/解除
- ⑩ AC モードの作動/解除
- ⑪ 温度の設定、右

クライメートコントロール（後席独立調整）のコントロールパネル



フロントコントロールパネル

- ① 温度の設定、左
- ② 送風口の設定、左
- ③ 送風量の設定
エアコンディショナーの停止
- ④ エアコンディショナーを AUTO モードに設定
- ⑤ フロントウインドウの曇り取り
- ⑥ Audio 20/COMAND システムのエアコンディショナーメニューの呼び出し
余熱ヒーター機能の作動/停止
- ⑦ リアデフォグガーの作動/停止の切り替え
- ⑧ AC モードの作動/解除
- ⑨ 内気循環モードの手動による作動/解除
- ⑩ 送風口の設定、右
- ⑪ 温度の設定、右

リアコントロールパネル

- ⑫ 温度の設定
- ⑬ ディスプレイ
- ⑭ 送風量の設定

エアコンディショナーシステムの操作

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- エアコンディショナーの作動/停止の切り替え
- AC モードの作動/解除
- エアコンディショナーの AUTO モードへの設定
- エアコンディショナーモードの設定
- 温度の設定
- 送風配分の設定
- 送風量の設定
- 同期機能の作動/解除
- フロントウインドウの曇り取り
- ウインドウの曇り取り
- リアデフォグガーの作動/停止の切り替え
- 内気循環モードの作動/解除
- 内気循環スイッチを使用時のコンビニエンスオープニング/クロージング
- 余熱ヒーター機能の作動/停止
- パフュームアトマイザー
- 空気清浄機能
- 送風口の調整

役に立つ情報	142
慣らし運転の注意事項	142
走行	142
マニュアルトランスミッション ..	149
オートマチックトランスミッショ ン	151
給油	154
駐車	157
運転のヒント	159
走行システム	160

役に立つ情報

i この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

i メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(p. 28 ページ)

慣らし運転の注意事項

重要な安全上の注意事項

一部のドライブシステムおよび走行安全システムでは、車両が納車された後、あるいは修理後に一定距離を走行する間に、センサーが自動的に調整されます。この認識手順が終了するまでは、完全なシステムの効果は得られません。

新しい、もしくは交換されたブレーキパッド/ライニングおよびディスクは、数百キロメートルの走行後に最適な制動効果を発揮します。ブレーキペダルにより大きな力をかけることにより、減少した制動効果を補ってください。

最初の 1,500 km

最初から十分な注意を払ってエンジンを取り扱うことにより、エンジンの寿命まで最大限の性能を得ることができます。

- 最初の 1,500 km は、さまざまな車両速度およびエンジン回転数で走行してください。
- フルスロットルで走行するなど、この期間は車両への大きな負担は避けてください。

- 手動でギアをシフトするときは、タコメーターの針がタコメーターのレッドゾーンの $\frac{2}{3}$ に到達する前に適時シフトアップしてください。
- ブレーキを効かせるために、手動でギアをシフトダウンしないでください。
- オートマチックトランスミッション装備車両：踏み応えがあるところを越えるまでアクセルペダルを踏むこと（キックダウン）は避けるようにしてください。

1,500 km 後は、最大負荷およびエンジン回転数まで、車両を徐々に加速することができます。

車両のエンジンおよび駆動系部品の交換を行なった場合も、慣らし運転に関するこれらの注意事項に従ってください。

必ず適用される制限速度を守ってください。

走行

重要な安全上の注意事項

警告

運転席の足元の荷物は、ペダルの自由な動きを妨げたり、または踏んだペダルを妨害することがあります。これは車両の操作および走行安全性を脅かします。事故の危険性があります。

運転席の足元に入り込まないように、すべてのものを車内に確実にしっかりと収納してください。フロアマットは指示にしたがって必ず確実に固定し、ペダル操作の妨げにならないようにペダルとの間に十分な空間があることを確認してください。緩んだフロアマットを使用したり、フロアマットを重ねて置かないでください。

⚠ 警告

以下のような適していない履物は、ペダルの正しい作動を妨げることがあります。

- 薄いソールの靴
- 高いヒールの靴
- スリッパ

事故の危険性があります。

適した履物を着用し、ペダルの正しい作動を確保します。

⚠ 警告

走行中にイグニッションをオフにすると、安全性に関連した機能が制限付きでしか使用できない、または全くできません。これにより、例えばパワーステアリングやブレーキの倍力装置に影響を与えることがあります。ステアリングやブレーキに非常に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。

走行中はイグニッションをオフにしないでください。

⚠ 警告

走行時にパーキングブレーキが完全に解除されていない場合は、パーキングブレーキは以下になることがあります。

- オーバーヒートおよび火災の原因
- 車両にブレーキを効かせられなくなる火災と事故の危険性があります。発進する前に、パーキングブレーキを完全に解除してください。

! 素早く暖機運転します。エンジンが暖まっていないときは、必要以上にエンジン回転数を上げないでください。オートマチック車のシフト操作は、完全に停車して行なってください。滑りやすい路面で発進するときは、駆動輪を空転させないように穏やかにアクセルペダルを操作してください。駆動系部品が損傷するおそれがあります。

キーの位置

キー



- 0 キーを抜く
- 1 ワイパーのような電気装備への電力供給
- 2 イグニッション（すべての電気装備への電力供給）および走行位置
- 3 エンジンの始動

i キーがその車両のものでなくても、エンジンスイッチでまわすことができます。ただし、イグニッションはオンになりません。エンジンは始動できません。

AIRPANEL 装備車：エンジンスイッチのキーをポジション **2**/ 約 120 秒後にシャッターが自動的に開きます。シャッターの開放および清掃に関する詳しい情報(▷ 273 ページ)。

キーレスゴースイッチ

重要な安全上の注意事項

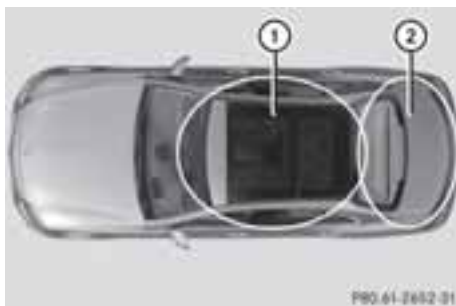
⚠ 危険

ペースメーカーまたは除細動器などの医療用電子機器を使用されている方：

キーレスゴースイッチを操作するときは、キーと車両の間で電波の通信が行なわれます。電磁波が医療機器の機能に影響を与えるおそれがあります。致命的なけがををするおそれがあります。

車両を操作する前に、そのようなシステムからの放射により起こりうる影響につ

いて、医師や医療機器メーカーにお問い合わせください。



① 車内アンテナの検知範囲

② リアアンテナの検知範囲

キーが車内にある場合、乗員の誰もがエンジンを始動できることに留意してください。

全体的な注意事項

車両とキーとの間で定期的に行なわれる無線通信によるチェックにより、車内に有効なキーがあるかどうかを確認します。エンジンを始動したときなどに、このことが行なわれます。

キーを操作せずに車両を始動する：

- キーレスゴースイッチがエンジンスイッチに差し込まれていなければなりません。
- キーが車内になければなりません。
- キーまたはキーレスゴーで車両が施錠されているはいけません。(p. 95 ページ)

連続してキーレスゴースイッチを数回押すことは、エンジンスイッチのキーの位置を変更することに相当します。これは、ブレーキペダルを踏んでいない場合のみです。

ブレーキペダルを踏んでキーレスゴースイッチを押した場合は、ただちにエンジンが始動します。

以下にはキーを近づけないでください。

- 携帯電話や他のキーなどの電子機器
- 硬貨や金属片などの金属物
- 金属ケースなどの金属物の内部

キーの機能に影響を与えるおそれがあります。

キーのリモコンで、またはキーレスゴーで車両を施錠した場合は、しばらくすると以下ようになります。

- キーレスゴースイッチでイグニッションをオンにすることができなくなります。
- 車両が再度解錠されるまで、キーレスゴースイッチでエンジンを始動できなくなります。

フロントドアのスイッチを使用して車両を集中施錠した場合は (p. 99 ページ)、キーレスゴースイッチでエンジンの始動を続けて行なうことができます。

車両が動いている間にキーレスゴースイッチを約 3 秒間押し続けることにより、エンジンを停止することができます。この機能は、ECO スタートストップ機能の自動エンジン停止の機能とは独立して作動します。

キーレスゴースイッチによるキーの位置



キーレスゴースイッチ ① がまだ押されていない場合は、キーがエンジンスイッチから取り外されていることに相当します。

- ▶ **電力供給をオンにする**：キーレスゴースイッチ ① を 1 回押します。
電力供給がオンになります。これでワイパーなどの電気装備を作動させることができます。

電力供給は以下のときに再度停止します。

- 運転席ドアを開いた、および
- この位置のときにキーレスゴースイッチ ① を 2 回押した

- ▶ **イグニッションをオンにする**：キーレスゴースイッチ ① を 2 回押します。
イグニッションがオンになります。

電力供給は以下のときに再度停止します。

- 運転席ドアを開いた、および
- この位置のときにキーレスゴースイッチ ① を 1 回押した

キーレスゴースイッチの取り外し



エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外し、通常のようにキーを使用して車両を始動することができます。トランスミッションがポジション **P** のときにのみ、キーレスゴースイッチによる方法とキー操作との間で切り替えることができます。

キーレスゴースイッチ ① をエンジンスイッチ ② に差し込んだときは、システムが認識するために約 2 秒間かかります。その後、キーレスゴースイッチ ① を使用することができます。

- ▶ エンジンスイッチ ② からキーレスゴースイッチ ① を取り外します。

- ❗ 車から離れるときでも、エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外す必要はありません。

エンジンの始動

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

付き添いのない状態で子供が車両に残された場合は、以下を行なうおそれがあります。

- ドアを開き、それにより他の人または道路使用者を危険にさらす
- 車両から降りて、走ってくる車両にぶつかる
- 車両の装備を操作して挟まれたりするさらに以下により、車両が動いてしまうように子供が設定するおそれもあります。
- パーキングブレーキの解除
- オートマチックトランスミッションのパーキングポジション **P** からのシフト、またはマニュアルトランスミッションのニュートラルへのシフト
- エンジンの始動

事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。付き添いのない状態で子供および動物を車内に残さないでください。キーは子供の手の届かないところに保管してください。

⚠ 警告

エンジンの燃焼は、一酸化炭素のような有毒な排気ガスを排出します。これらの排気ガスを吸い込むと中毒につながります。致命的なけがの危険性があります。従って、十分な換気がない閉じた空間でエンジンを作動させたままにしないでください。

⚠ 警告

動物または環境の影響によってもたらされた可燃物が熱くなっているエンジンの部品または排気システムに接触すると、発火するおそれがあります。火災のおそれがあります。

定期的な点検を行ない、エンジンルーム、または排気システムに可燃性の異物がないうことを確認してください。

■ エンジンを始動するときは、アクセルを踏まないでください。

全体的な注意事項

冷間始動後は最大 30 秒 触媒コンバーターが予熱されます。この間、エンジンの音が変わることがあります。

マニュアルトランスミッション

抵抗のある位置を超えてクラッチペダルを踏んでいるときにのみ、エンジンを始動することができます。

- ▶ ブレーキペダルを踏み、踏んだままにします。
- ▶ クラッチペダルをいっぱいまで踏みます。
- ▶ ニュートラル **N** にシフトします。

オートマチックトランスミッション

▶ トランスミッションをポジション **P** にシフトします。これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。マルチファンクションディスプレイのトランスミッションポジション表示に **P** が表示されます。これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

トランスミッションポジションが **N** のときもエンジンを始動することができます。

キーでの始動操作

キーレスゴースイッチの代わりにキーを使用してエンジンを始動するためには、エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り出してください。

- ▶ エンジンスイッチのキーを **3** の位置にまわして (▶ 143 ページ)、エンジンが作動したらただちに放します。

エンジンが始動しない場合。

- ▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ しばらく待ってから、キーをエンジンスイッチに差し込み直してください。
- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします (▶ 143 ページ)。メーターパネルの表示灯点灯します (▶ 213 ページ)。
- ▶ エンジンスイッチのキーを **3** (▶ 143 ページ) の位置にまわして、エンジンが作動したらただちに放します。

キーレスゴースイッチでの始動手順

キーレスゴースイッチは、キーレスゴーまたはキーレスゴースタート機能装備車でしか使用できません。

エンジンスイッチにキーを差し込まずに、キーレスゴースイッチを使用して車両を手動で始動することができます。車内にキーがあり、キーレスゴースイッチがエンジンスイッチに差し込まれていなければなりません。エンジン始動のためのこの手順は、ECO スタートストップ機能の自動エンジン始動機能とは独立して作動します。

有効なキーが車内にある場合は、エンジンを始動することができます。短時間でも車両から離れるときは、必ずエンジンを切ってキーを携帯してください。"重要な安全上の注意事項" に注意してください。

- ▶ ブレーキペダルを踏み、踏んだままにします。
- ▶ キーレスゴースイッチを1度押します (▷ 143 ページ)。
エンジンが始動します。

発進

マニュアルトランスミッション

! 適切にギアシフト操作しながら運転し、ホイールが空転するのを防いでください。車両が損傷するおそれがあります。

- ▶ ブレーキペダルを踏み、踏んだままにします。
- ▶ クラッチペダルを抵抗がある位置を超えて踏みます。
- ▶ 1 速ギアまたはリバースギア **R** のいずれかにシフトします。
- ▶ 電気式パーキングブレーキを解除します (▷ 158 ページ)。
- ▶ ブレーキペダルを放します。
- ▶ ゆっくりとクラッチペダルを放し、緩やかにアクセルペダルを踏みます。

経済的な運転スタイルのためには、マルチファンクションディスプレイの推奨シフトに従ってください (▷ 150 ページ)。

発進すると、自動的に車両が施錠されます。ドアのロックノブが下がります。

ドアは車内からいつでもロックを解除して開くことができます。

車速感応ドアロックを解除することもできます。デジタル版取扱説明書をご覧ください。

オートマチックトランスミッション


警告

エンジン回転数がアイドリング回転数以上で、トランスミッションをポジション **D** または **R** に入れると、車両は突然発進

することがあります。事故の危険性があります。

トランスミッションをポジション **D** または **R** に入れるときは、常にブレーキペダルをしっかりと踏み、同時に加速しないでください。

! 警告音が鳴り、**パーキングブレーキ解除してください** というメッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されている場合には、パーキングブレーキがまだ作動している状態です。パーキングブレーキを解除します。

- ▶ ブレーキペダルを踏み、踏んだままにします。
- ▶ トランスミッションをポジション **D** または **R** にシフトします。
- ▶ ブレーキペダルを放します。
- ▶ 注意しながらアクセルペダルを踏みます。
電気式パーキングブレーキは自動的に解除されます。これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。
メーターパネルの赤色の表示灯  が消灯します。

ブレーキペダルを踏んでいる場合にのみ、トランスミッションをポジション **P** から希望のポジションにシフトすることができます。その後、パーキングロックが解除されます。ブレーキペダルが踏まれていない場合も、ダイレクトセレクトレバーを動かすことができますが、パーキングロックは効いたままになります。

発進すると、自動的に車両が施錠されます。ドアのロックノブが下がります。

ドアは車内からいつでもロックを解除して開くことができます。

車速感応ドアロックを解除することもできます。デジタル版取扱説明書をご覧ください。

i エンジンが冷えているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行

なわれます。これにより、排気ガスを浄化する触媒がより早く適正な作動温度に達します。

ヒルスタートアシスト

ヒルスタートアシストは、坂道発進時に車が後退または前進するのを防ぎ、運転者の発進操作を補助します。ブレーキペダルから足を放した後に、短時間車両を停止したままにします。これにより、車が動き出す前に、ブレーキペダルからアクセルペダルへ余裕を持って踏みかえることができます。

⚠ 警告

しばらくすると、ヒルスタートアシストは車両にブレーキを効かせなくなり、動き出すおそれがあります。事故やけがの危険性があります。

従って、すばやくブレーキペダルからアクセルペダルに足を動かします。ヒルスタートアシストで車が停止しているときは、絶対に車から離れないでください。

- ▶ ブレーキペダルから足を放します。車両はその後、約 1 秒間停止します。
- ▶ 発進してください。

ヒルスタートアシストは以下のような状況では作動しません。

- 傾斜していない路面や下り坂で発進する
- オートマチック車で、シフトポジションが **N** のとき
- 電気式パーキングブレーキが効いているとき
- ESP[®] が故障している

ECO スタートストップ機能

はじめに

特定の条件下で車両が停止した場合は、ECO スタートストップ機能はエンジンを自動的に停止します。

再度発進するときは、エンジンは自動的に始動します。これにより、ECO スタートストップ機能は、燃料消費と排出ガスを低減させる支援を行ないます。

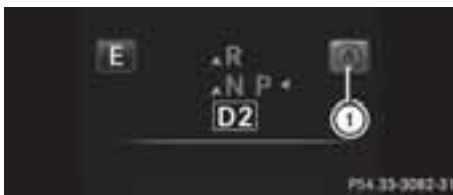
重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

エンジンが自動的にオフになり、車両から出ると、エンジンは自動的に再始動します。車両が動き始めることがあります。事故やけがの危険性があります。

車両から出たい場合は、必ずイグニッションをオフにし、動き出さないように車両を固定します。

全体的な注意事項



① ECO スタートストップ機能表示

マルチファンクションディスプレイに ECO マーク **[A]** が緑色で表示された場合は、車両が停止すると ECO スタートストップ機能がすぐにエンジンを自動的にオフにします。

キーまたはキーレスゴースイッチを使用してエンジンを始動させるたびに、ECO スタートストップ機能が設定されます。

ECO スタートストップ機能が手動で解除されている (▷ 149 ページ)、または故障が原因でシステムが解除されている場合は、**[A]** マークは表示されません。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 自動エンジン停止
- 自動エンジン始動
- ECO スタートストップ機能のオン/オフを切り替える

エンジンのトラブル

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

マニュアルトランスミッション

ギアレバー

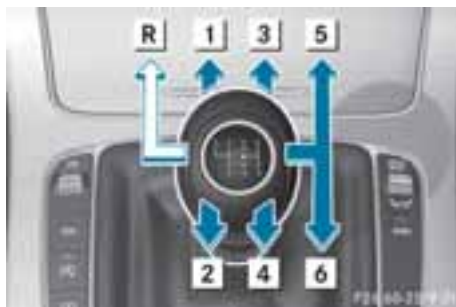
! ギアはクラッチペダルが踏み込まれているときにのみ締結させてください。

! **5速** と **6速** ギアの間をシフトするときは、ギアレバーを必ず右いばいに寄せてください。そうでない場合、不意に **3速** または **4速** ギアにシフトしてしまい、トランスミッションが損傷するおそれがあります。

速度が高すぎるときにシフトダウンすると（トランスミッションブレーキ）、これによりエンジンの過回転が引き起こされてエンジン損傷につながるおそれがあります。

上り坂で車両を停止させておくために、半クラッチを使用しないでください。クラッチが損傷するおそれがあります。

! 長い急な下り坂勾配で、特に車両に積載している場合は、適時ギアを **1**、**2** または **3** にシフトしてください。そうすることにより、エンジンのブレーキ作用を利用します。これにより、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキを過熱や早期の摩耗から防ぎます。



R リバースギア

1 - **6** 前進ギア

ニュートラル N にシフトする



- ▶ クラッチペダルを抵抗がある位置を超えて踏みます。
- ▶ ギアレバーを **N** ① の位置に動かします。

リバースギアの選択

! リバースギア **R** にシフトするときは、必ず車両が停止している状態で操作してください。トランスミッションが損傷するおそれがあります。

- ▶ 抵抗のある位置を越えて左に、それから前方にギアレバーをしっかりと動かします。

リバースギアに入っているときは、ECO スタートストップ機能は作動しません。ECO スタートストップ機能に関するさら

なる情報は、(▷ 148 ページ) をご覧ください。

推奨ギアシフト



経済的な運転スタイルをとることができるよう、推奨ギアシフトは運転者を支援します。推奨ギアがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

▶ メーターパネルのマルチファンクションディスプレイに表示されているときは、推奨ギアシフト①に従ってギアをシフトします。

アジリティセレクトスイッチ

アジリティセレクトスイッチを使用して、走行モードを変更します。選択した走行モードに応じて、以下の車両の特性が変わります。

- 走行（エンジンおよびトランスミッション制御）
- サスペンション
- ステアリング
- ECO スタートストップ機能の有効性 (▷ 148 ページ)
- エアコンディショナーの設定
 - クライメートコントロール（前席左右独立調整）（デジタル版取扱説明書をご覧ください。）
 - クライメートコントロール（前席左右独立調整）（デジタル版取扱説明書をご覧ください）

- リアデフォグガーの作動時間 (▷ 139 ページ)
 - シートヒーターの性能 (▷ 120 ページ)
- イグニッションをオフにしてから 4 時間未満の場合は、次にエンジンが始動したとき、直前に選択された走行モードが作動します。イグニッションをオフにして 4 時間以上の場合は、エンジンが次に始動したときに走行モード **C** が作動します。



- ▶ 希望の走行モードが選択されるまで、アジリティセレクトスイッチ①を上または下に押します。
- マルチファンクションディスプレイに選択した走行モードが表示されます。約 5 秒後に表示が消えて、選択された走行モードのステータスアイコンが表示されます。
- さらに、現在の走行モード設定は Audio 20/COMAND システムディスプレイに表示されます。

利用可能な走行モード

I インディビジュアル	各種の設定
S+ スポーツプラス	さらにスポーティな走行特性
S スポーツ	スポーティな走行特性

C コンフォート	快適で経済的な走行特性
E エコ	特に経済性を重視した走行特性

走行モードに関する追加情報(▷ 151 ページ)。

走行モード

走行モード I (インディビジュアル)

走行モード I では、走行モードの以下のような特性を選択できます。

- 走行 (エンジンおよびトランスミッション制御)
- サスペンション
- ステアリング

COMAND システムまたは Audio 20 を使用した走行モード I の選択に関する情報は、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

走行モード S+ (スポーツプラス)

走行モード S+ では、以下の特性になります。

- 車両が非常にスポーティな走行特性を示します。
- サスペンションは特にハードなサスペンションとダンピング設定を示します (AIR マテックサスペンション装備車)
- ECO スタートストップ機能は作動しません

走行モード S (スポーツ)

走行モード S では、以下の特性になります。

- 車両がスポーティな走行特性を示します
- サスペンションはハードなサスペンションとダンピング設定を示します (AIR マテックサスペンション装備車)

走行モード C (コンフォート)

走行モード C では、以下の特性になります。

- 車両は快適で経済的な走行特性を実現します。
- 感度の向上。これにより、滑りやすい路面などでの走行安定性が向上します。

走行モード E (エコ)

走行モード E では、以下の特性になります。

- 車両は快適で経済的な走行特性を実現します。
- 感度の向上。これにより、滑りやすい路面などでの走行安定性が向上します。
- エアコンディショナーシステムとヒーターの性能が低下します。

オートマチックトランスミッション

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

エンジン回転数がアイドリング回転数以上で、トランスミッションをポジション D または R に入れると、車両は突然発進することがあります。事故の危険性があります。

トランスミッションをポジション D または R に入れるときは、常にブレーキペダ

ルをしっかりと踏み、同時に加速しないでください。

⚠ 警告

エンジンをオフにすると、オートマチックトランスミッションはニュートラルポジション **N** に切り替わります。車両が動き出すおそれがあります。事故の危険性があります。

エンジンをオフにした後は、必ずパーキングポジション **P** に切り替えてください。パーキングブレーキを効かせて、駐車した車両が動き出すのを防いでください。

エンジンを停止しているときは、エンジンとトランスミッションの間の動力伝達が遮断されていることに留意してください。この理由のため、エンジンが停止して車両が停止しているときは、オートマチックトランスミッションを **P** にシフトしてください。車両が動き出してしまうのを防ぐために電気式パーキングブレーキを効かせてください。

DIRECT SELECT レバー

トランスミッションポジションの概要



- P** パーキングロック付きパーキングポジション
- R** リバースギア
- N** ニュートラル
- D** ドライブ

DIRECT SELECT レバーは、ステアリングコラムの右側にあります。

DIRECT SELECT レバーは常に元の位置に戻ります。マルチファンクションディスプレイのトランスミッションポジション表示に現在のトランスミッションポジション **P**、**R**、**N** または **D** が表示されます。これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- パーキングポジション **P** に入れる
- パーキングポジション **P** の自動選択
- リバースギア **R** に入れる
- ドライブポジション **D** に入れる

ニュートラル **N** にシフトする

⚠ 警告

子供だけを車内に残した場合、下記のおそれがあります。

- ドアを開くことにより他人や、他の道路使用者を危険にさらす。
- 車両から出て他の走行車両にぶつかる。
- 車両の装備を操作するなどして、挟まれる。

また、以下のような操作を行い、車両を動かす場合もあります。

- パーキングブレーキの解除
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** からシフトする
- エンジンの始動

事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供や動物を車内に残さないでください。キーは子供の手の届かないところに保管してください。

- ▶ トランスミッションが **D** または **R** の位置にある場合：最初に手応えがあるところまで、DIRECT SELECT レバーを上または下に押しします。
- ▶ トランスミッションが **P** の位置にある場合：ブレーキペダルを踏んで、最初に手応えがあるところまで、DIRECT SELECT レバーを上または下に押しします。

トランスミッションがポジション **R** または **D** でエンジンを停止した場合は、オートマチックトランスミッションは自動的に **N** にシフトします。

キーで： その後にフロントドアのいずれかを開くか、またはエンジンスイッチからキーを抜いた場合は、オートマチックトランスミッションは **P** にシフトします。

キーレスゴースイッチで： その後にいずれかのフロントドアを開いた場合は、オートマチックトランスミッションは **P** にシフトします。

けん引システム付き洗車機で車両を洗車するときなど、オートマチックトランスミッションのシフトをニュートラル **N** に維持しておきたい場合。

キーで：

- ▶ イグニッションをオンにします。
- ▶ ブレーキペダルを踏み、踏んだままにします。
- ▶ ニュートラル **N** にシフトします。
- ▶ ブレーキペダルを放します。
- ▶ 電気式パーキングブレーキを解除します。
- ▶ イグニッションをオフにして、エンジンスイッチにキーを残したままにします。

キーレスゴースイッチで：

- ▶ イグニッションをオンにします。
- ▶ ブレーキペダルを踏み、踏んだままにします。
- ▶ エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外します。
- ▶ キーをエンジンスイッチに差し込みます。
- ▶ ニュートラル **N** にシフトします。
- ▶ ブレーキペダルを放します。
- ▶ 電気式パーキングブレーキを解除します。
- ▶ イグニッションをオフにして、エンジンスイッチにキーを残したままにします。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- トランスミッションポジションおよび走行モード表示
- トランスミッションポジション
- 運転のヒント
- アジリティセレクトスイッチ
- 走行モード
- マニュアルギアシフト操作
- トランスミッションのトラブル

トランスファーケース

この項目は 4 輪駆動 (4MATIC) 装備車両にのみ当てはまります。前および後軸は常時駆動しています。

! 性能テストは 2 軸ダイナモメーターでのみ実行してください。さもなければ、ブレーキシステムまたはトランスファーケースが損傷するおそれがあります。性能テストに関するさらなる情報はメルセ

デス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

❗ ESP® が自動的に作動するため、以下の場合にはイグニッションをオフにしなければなりません（キーまたはキーレスゴースイッチは **0** または **1** の位置になければなりません）。

- ダイナモメーターを使用してパーキングブレーキをテストする
- 1 つのアクスルのみを持ち上げて車両がけん引されている（4MATIC 装備車両では許可されていません）。

そうでない場合、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

❗ 4MATIC 装備車は、フロントまたはリアアクスルを持ち上げてけん引しないでください。トランスミッションが損傷するおそれがあります。

給油

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

燃料は可燃性の高いものです。燃料を不適切に扱った場合は、火災および爆発の危険性があります。

火気、裸火、火花の発生および喫煙は避けてください。給油の前にはエンジン、当てはまる場合は補助ヒーターを停止します。

⚠ 警告

燃料は健康に有毒で危険です。けがの危険性があります。

燃料は決して飲まないこと、また目や衣服に付着させないでください。燃料の気体を吸い込まないでください。燃料は子供から離してください。

お客様または他の方が燃料に触れた場合は、以下に従ってください。

- 石鹸および水道水を使用して、ただちに肌から燃料を洗い流してください。
- 燃料が目に入った場合は、ただちに清潔な水で十分にすすいでください。ただちに医師の診察を受けてください。
- 燃料を飲み込んだ場合は、ただちに医師の診察を受けてください。無理に吐かせないでください。
- 燃料が付着した衣服はただちに替えてください。

⚠ 警告

静電気の蓄積により、火花が発生したり、燃料の気体に引火するおそれがあります。火災および爆発の危険性があります。

燃料給油口を開いたり、給油ノズルに触れる前に、必ず車体に触ってください。蓄積されている可能性がある静電気を放電します。

給油作業中は車内に戻らないでください。さもないと、再度帯電することがあります。

❗ ガソリンエンジン車両に給油するために軽油を使用しないでください。誤って異なる燃料を給油した場合は、エンジンスイッチをオンにしないでください。さもないと、燃料が燃料システムに入るおそれがあります。たとえ少量の誤った燃料でも、燃料システムやエンジンの損傷につながるおそれがあります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡して、燃料タンクや燃料システムから完全に抜き取ってください。

❗ 給油ノズルの自動停止後は、それ以上補給しないでください。燃料噴射システムを損傷するおそれがあります。

❗ 給油中に燃料を塗装面にこぼさないよう注意してください。塗装面が損傷するおそれがあります。

■ 燃料携行缶から燃料を補給するときは、フィルターを使用してください。燃料携行缶に付着した微粒子によって、フューエルラインや燃料噴射システムの部品が詰まるおそれがあります。

燃料タンクに給油しすぎた場合は、給油ポンプノズルを外すときに燃料が飛散することがあります。

燃料および燃料品質についてのさらなる情報は (p 323 ページ) をご覧ください。

セルフサービスのガソリンスタンド

給油に関する注意事項を遵守してください。(p 154 ページ)

セルフ式のガソリンスタンドで給油するときは必ず以下の点を守り、安全に十分注意して作業を行なってください。

- 給油前に必ずエンジンを停止して、ドアやサイドウィンドウなどを閉じてください。
- 燃料給油フラップを開くときから、一連の給油作業を必ずひとりで行なってください。


給油作業を行なう人以外は燃料給油フラップに近づかないでください。

- キャップの開閉は確実に行ってください。火気を近づけないようにしてください。
- 給油ノズルは給油口の奥まで確実に差し込んでください。
- 給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。燃料があふれるおそれがあります。
- 給油の勢いを強くしないでゆっくりと給油してください。燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を遵守してください。

給油

全体的な注意事項

重要な安全上の注意事項に従ってください (p 154 ページ)。

車外から車両を解錠/施錠した場合は、燃料給油口フラップも解錠/施錠されます。燃料給油口キャップの位置  はメーターパネルに表示されています。給油ポンプマークの横の矢印は、燃料給油口キャップのある車両側面を示しています。燃料給油口フラップは車両の右側後方にあります。

燃料給油口フラップを開く



- 燃料給油口フラップを開く
- 燃料給油口キャップを差し込む
- タイヤ空気圧表
- 給油燃料種類

- ▶ エンジンを停止します。
- ▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。または、キーレスゴースタート機能またはキーレスゴー装備車
- ▶ 運転席ドアを開きます。車両の電気システムが **0** の状態になります。これにより、キーを抜いたときと同様になります。
- ▶ 燃料給油口フラップを矢印 **①** の方向に押しします。燃料給油口フラップが開きます。

- ▶ 燃料給油口キャップを反時計回りにまわして取り外します。
- ▶ 燃料給油口キャップを燃料給油口フラップ②内側のホルダーに差し込みます。
- ▶ タンクの補給口に給油ポンプノズルを完全に差し込んで掛け、給油します。
- ▶ ポンプノズルが停止するまでのみ給油してください。

最初にポンプが給油を停止した後は、それ以上燃料を追加しないでください。さもないと、燃料が漏れることがあります。

燃料給油口フラップを閉じる

- ▶ キャップを給油口に取り付け、音がしてロックされるまで時計回りにまわします。
- ▶ 燃料給油口フラップを閉じます。

車両を施錠する前に燃料給油口フラップを閉じてください。

燃料および燃料タンクのトラブル

この項目では、安全性に関わるトラブルの内容と対応方法について説明しています。さらなるトラブルの内容および対応方法は、デジタル版取扱説明書にあります。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
燃料が漏れている。	<p>⚠ 警告</p> <p>フューエルラインまたは燃料タンクに問題がある。火災または爆発の危険性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ エンジンを停止します。 ▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。 <p>または、キーレスゴースタート機能またはキーレスゴー装備車</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 運転席ドアを開きます。 車両の電気システムが 0 の状態になります。これにより、キーを抜いたときと同様になります。 ▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

駐車

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

葉、草または小枝のような可燃性の素材は、排気システムの高温部品または排気ガスの排気に長時間触れると発火することがあります。火災の危険性があります。可燃性の素材が車両の熱い部品に触れないように車両を駐車してください。特に、乾燥した草原、または収穫した穀物畑に駐車しないでください。

⚠ 警告

走行中にイグニッションをオフにすると、安全性に関連した機能が制限付きでしか使用できない、または全くできません。これにより、例えばパワーステアリングやブレーキの倍力装置に影響を与えることがあります。ステアリングやブレーキに非常に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。

走行中はイグニッションをオフにしないでください。

⚠ 警告

保護者のいない状態で子供を車内に残すと、たとえば以下のようにして車両を動かすように設定できることがあります。

- パーキングブレーキの解除
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** からシフトするまたはマニュアルトランスミッションをニュートラルにシフトする
- エンジンを始動する

加えて、車両装備を操作し、挟み込まれる場合があります。事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

■ 車両が動き出さないように、必ず適切な方法で固定してください。車体または駆動系を損傷するおそれがあります。

車両が不意に動き出さないためには、以下のようにしてください。

- 電気式パーキングブレーキを効かせなければなりません
- マニュアルトランスミッション装備車両では、1速ギアまたはリバースギアに入れます。
- オートマチックトランスミッション装備車では、トランスミッションはポジション **P** にあり、エンジンスイッチからキーが取り外されていなければなりません。
- 上り坂または下り坂勾配では、前輪を縁石方向に向けなければなりません
- 上り坂または下り坂の勾配では、荷物を積載していない車両は輪止め、または類似のものなどで前輪を固定しなければなりません。
- 上り坂または下り坂の勾配では、荷物を積載していない車両は輪止め、または類似のものなどで後輪を固定しなければなりません。

エンジンの停止

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

エンジンをオフにすると、オートマチックトランスミッションはニュートラルポジション **N** に切り替わります。車両が動き出すおそれがあります。事故の危険性があります。

エンジンをオフにした後は、必ずパーキングポジション **P** に切り替えてください。パーキングブレーキを効かせて、駐車した車両が動き出すのを防いでください。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、エンジンを停止する方法が記載されています。

電気式パーキングブレーキ

全体的な注意事項

⚠ 警告

保護者のいない状態で子供を車内に残すと、たとえば以下のようにして車両を動かすように設定できることがあります。

- パーキングブレーキの解除
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** からシフトするまたはマニュアルトランスミッションをニュートラルにシフトする
- エンジンを始動する

加えて、車両装備を操作し、挟み込まれる場合があります。事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

電気式パーキングブレーキの機能は、バッテリー電圧の影響を受けます。バッテリーの電圧が低い、またはシステムに不具合がある場合は、解除してあるパーキングブレーキを効かせることができない場合があります。

- ▶ このような場合は、水平な場所にのみ車両を駐車して、動き出さないように固定してください。
- ▶ **オートマチックトランスミッション装備車**：オートマチックトランスミッションをポジション **P** にシフトします。
- ▶ **マニュアルトランスミッション装備車**：ギアを1速に入れます。

バッテリーの電圧が低い、またはシステムに不具合がある場合は、効かせているパーキングブレーキを解除することがで

きないことがあります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。エンジンが停止しているときに、電気式パーキングブレーキは定期的に機能チェックを行ないます。発生する音は問題ありません。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 手動での作動/解除
- 自動的な作動
- 自動解除
- 緊急ブレーキ操作

長期間の車両の駐車

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

運転のヒント

一般的な運転のヒント

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

走行中にイグニッションをオフにすると、安全性に関連した機能が制限付きでしか使用できない、または全くできません。これにより、例えばパワーステアリングやブレーキの倍力装置に影響を与えることがあります。ステアリングやブレーキに非常に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。

走行中はイグニッションをオフにしないでください。

無駄のない運転 - 燃料を節約する

燃料を節約するために以下のヒントに注意してください。

- ▶ タイヤは常に推奨タイヤ空気圧に充填されている必要があります。
- ▶ 必要のない荷物は取り出します。
- ▶ 必要でないときはルーフラックを取り外します。
- ▶ 低いエンジン回転数でエンジンを暖めます。
- ▶ 頻繁な加速やブレーキ操作は避けてください。
- ▶ 整備手帳のメンテナンス間隔、またはサービスインターバル表示で示されたおりに、メンテナンス作業を実行してください。

寒い気候、交通渋滞、短距離の走行および丘陵地を走行する場合も、燃料消費量は増加します。

ECO 表示

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

ブレーキ

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

エンジンのブレーキ効果を増やすために滑りやすい路面でシフトダウンすると、駆動輪がグリップを失うことがあります。これにより、横滑りや事故が起きる危険性が高くなります。

滑りやすい道路では、シフトダウンによるエンジンブレーキを効かせないでください。

下り坂勾配

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

高い、および低い負荷

⚠ 警告

走行中にブレーキペダルの上に足を置くと、ブレーキシステムがオーバーヒートすることがあります。これにより制動距離が増加して、ブレーキシステムが故障する原因になるおそれもあります。事故の危険性があります。

ブレーキペダルをフットレストとして使用しないでください。ブレーキペダルとアクセルペダルを同時に踏まないでください。

さらなる情報は、デジタル版取扱説明書にあります。

濡れた路面

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

塩化物が散布された道路でのブレーキ性能の制約

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

新しいブレーキディスクおよびブレーキパッド/ライニング

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

濡れた路面の走行

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- ハイドロプレーニング現象
- 冠水路の走行

寒冷時の走行

⚠ 警告

エンジンのブレーキ効果を増やすために滑りやすい路面でシフトダウンすると、駆動輪がグリップを失うことがあります。これにより、横滑りや事故が起きる危険性が高くなります。

滑りやすい道路では、シフトダウンによるエンジンブレーキを効かせないでください。

⚠ 危険

マフラーが遮られ、適切な換気が可能でない場合は、一酸化炭素 (CO) のような有毒ガスが車内に入り込んでくる場合があります。車両が雪にはまった場合などがあてはまります。致命的なけがの危険性があります。

エンジンまたは補助ヒーターを作動させたままにする場合は、マフラーや車両周辺に雪がないことを確認してください。新鮮な空気の適切な供給を確保するために、風のほうを向いていない車両側のウインドウを開きます。

さらなる情報は、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

走行システム

メルセデス・ベンツ・インテリジェントドライブ

メルセデス・ベンツ・インテリジェントドライブは、快適性を高め、危険な状況で運転者を支援する、革新的な運転者支援および安全システムです。一体化されたこれらの優れたシステムにより、メルセデス・ベンツは自動走行に向けた画期的な一段階を得ることができました。

車両乗員および他の道路使用者の安全のため、メルセデス・ベンツ・インテリジェントドライブは、アクティブそしてパッシブセーフティのすべての要素を1つのシステムと想定して統合しています。

走行安全システムに関するさらなる情報
(▷ 76 ページ)。

クルーズコントロール

全体的な注意事項

クルーズコントロールは一定の走行速度を維持します。設定速度を超えないようにするために自動的にブレーキを効かせます。長い下り坂や急な下り坂の勾配では、適切なタイミングで低いギアに変速してください。車両に積載して走行するときは、このことに特に留意してください。そうすることにより、エンジンのブレーキ作用を利用します。これにより、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキを過熱や早期の摩耗から防ぎます。道路や交通状況が長時間の一定速度の維持に適している場合にのみ、クルーズコントロールを使用してください。30 km/h 以上の走行速度を記憶させることができます。

重要な安全上の注意事項

運転スタイルを周囲に合わせていない場合、クルーズコントロールは事故の危険性を軽減できず、また物理的法則を回避することもできません。クルーズコントロールは道路、天気、交通事情を考慮することはできません。クルーズコントロールは支援機能にすぎません。運転者には、先行車両との距離、車両の速度、適切なブレーキ操作、および車線を維持する責任があります。

以下のような場合にはクルーズコントロールを使用しないでください。

- 一定の速度を維持できないような道路および交通状況（例：混雑している交

通状況、または曲がりくねっている道路）

- 滑りやすい路面 ブレーキや加速により駆動輪が駆動力を失い、車両が滑るおそれがあります。
- 霧、激しい雨または雪などのために視界が悪いとき

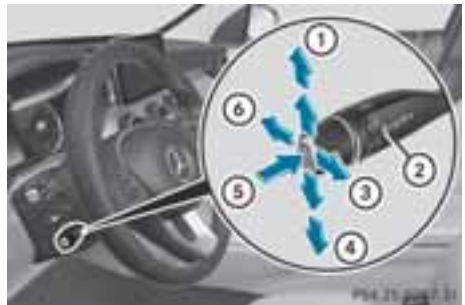
運転者を交代する場合は、次の運転者に保存した速度を伝えてください。

⚠ 警告

設定速度を呼び出し、それが現在の速度と異なるときは、車両が加速または減速します。設定速度を覚えていないと、車両が不意に加速したりブレーキがかかることがあります。事故の危険性があります。

設定速度を呼び出す前に、路面および交通状況に注意してください。設定速度を覚えていない場合は、希望の速度を再設定してください。

クルーズコントロールレバー




- ① 現在の走行速度、またはより高い速度を記憶させる
- ② LIM 表示灯
- ③ 現在の速度を記憶させる、および最後に記憶させた速度を呼び出す
- ④ 現在の走行速度、またはより低い速度を記憶させる
- ⑤ クルーズコントロールと可変スピードリミッターを切り替える
- ⑥ クルーズコントロールの解除

クルーズコントロールレバーでクルーズコントロールおよび可変スピードリミッターを操作できます。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯は、選択したシステムを表しています。

- **LIM 表示灯が消灯：**クルーズコントロールが選択されています。
- **LIM 表示灯が点灯：**可変スピードリミッターが選択されています。

クルーズコントロールを作動させると、記憶された速度がマルチファンクションディスプレイに 5 秒間表示されます。さらにマルチファンクションディスプレイに  マークが表示されます。スピードメーターには、記憶された速度と最高速度の間のセグメントが点灯します。

クルーズコントロールの選択



- ▶ LIM 表示灯 ① が消灯しているか確認してください。

消灯しているときは、クルーズコントロールが選択されています。

そうでないときは、クルーズコントロールレバーを矢印 ② の方向に押しします。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ① が消灯します。クルーズコントロールが選択されます。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 作動条件
- 速度の記憶、維持、呼び出し
- 速度の設定
- クルーズコントロールの解除

可変スピードリミッター

全体的な注意事項

設定された速度を超えないように可変スピードリミッターは自動的にブレーキを効かせます。長い下り坂や急な下り坂の勾配では、適切なタイミングで低いギアに変速してください。車両に積載して走行するときは、このことに特に留意してください。そうすることにより、エンジンのブレーキ作用を利用します。これにより、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキを過熱や早期の摩耗から防ぎます。

重要な安全上の注意事項

運転スタイルを周囲に合わせていない場合、スピードリミッターは事故の危険性を低減させることができず、また物理的法則を回避することもできません。スピードリミッターは道路、天候および交通状況を考慮することはできません。スピードリミッターは支援機能にすぎません。運転者には、先行車両との距離、車両の速度、適切なブレーキ操作、および車線を維持する責任があります。

運転者を交代する場合は、次の運転者に保存した速度を伝えてください。

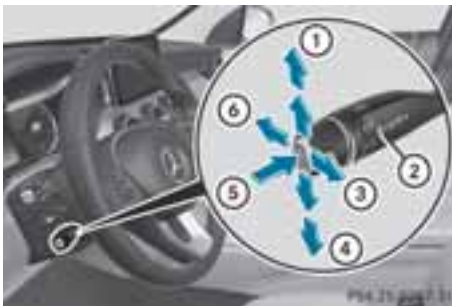
スピードリミッターまたはスノータイヤスピードリミッターを設定することができます。

- **可変スピードリミッター**は市街地などでの速度を制限するためのものです。
- **スノータイヤスピードリミッター**は、ウィンタータイヤを装着して走行するときなど、長時間にわたって速度を制限するためのものです。(▶ 164 ページ)

① スピードメーターに表示される速度は保存した制限速度と若干異なる場合があります。

可変スピードリミッター

全体的な注意事項



- ① 現在の走行速度、またはより高い速度を記憶させる
- ② LIM 表示灯
- ③ 現在の走行速度を記憶させる、または記憶されている速度を呼び出す
- ④ 現在の走行速度、またはより低い速度を記憶させる
- ⑤ クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスと可変スピードリミッターを切り替える
- ⑥ 可変スピードリミッターを解除する

クルーズコントロールレバーでクルーズコントロールまたはディストロニック・プラスおよび可変スピードリミッターを操作できます。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯は、選択したシステムを表しています。

- **LIM 表示灯が消灯**：クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスが選択されています。
- **LIM 表示灯が点灯**：可変スピードリミッターが選択されています。

エンジンがかかっている間に、クルーズコントロールレバーを使用して、30 km/h 以上のいかなる速度に速度を制限することができます。

可変スピードリミッターの選択

運転者を交代する場合は、次の運転者に記憶されている制限速度を伝えてください。

▶ LIM 表示灯 ② が点灯しているか確認してください。

点灯しているときは、可変スピードリミッターはすでに選択されています。

点灯していないときは、クルーズコントロールレバーを矢印 ⑤ の方向に押しします。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が点灯します。可変スピードリミッターが選択されます。

現在の速度の記憶

エンジンがかかっている間に、クルーズコントロールレバーを使用して、30 km/h 以上のいかなる速度に速度を制限することができます。

▶ クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ④ に軽く操作します。

現在の速度が記憶され、マルチファンクションディスプレイに表示されます。

最初の目盛りと記憶した速度の間でスピードメーターのダイヤルが点灯します。

現在の速度の記憶および最後に記憶させた速度の呼び出し

⚠ 警告

設定速度を呼び出し、それが現在の速度より低いときは、車両が減速します。設定速度を覚えていないと、車両が不意に減速することがあります。事故の危険性があります。

設定速度を呼び出す前に、路面および交通状況に注意してください。設定速度を覚えていない場合は、希望の速度を再設定してください。

- ▶ クルーズコントロールレバーを手前 ③ に軽く引きます。

速度の設定

- ▶ **設定速度を 10 km/h 単位で調整する**：設定速度を上げるにはクルーズコントロールレバーを上 ① に、設定速度を下げるにはレバーを下 ④ にいっぱいまで操作します。

または

- ▶ 希望する速度に設定されるまで、手応えがあるところを越えるまでクルーズコントロールレバーを押して保持します。高い速度にはクルーズコントロールレバーを上 ① に、低い速度には下 ④ に押しします。

- ▶ **設定速度を 1 km/h 単位で調整する**：設定速度を上げるにはクルーズコントロールレバーを上 ① に、設定速度を下げるにはレバーを下 ④ にいっぱいまで操作します。

または

- ▶ 希望する速度に設定されるまで、手応えがあるところまでクルーズコントロールレバーを押して保持します。高い速度にはクルーズコントロールレバーを上 ① に、低い速度には下 ④ に押しします。

可変スピードリミッターを待機状態に切り替える

踏み応えがあるところを越えるまでアクセルペダルを踏んだ場合は（キックダウン）、可変スピードリミッターは待機モードに切り替わります。マルチファンクションディスプレイに次のメッセージが表示されます。**可変スピードリミッター 制御待機中**。この後は、記憶させている速度を超えることができます。可変スピードリミッターは、以下のときに再度作動します。

- キックダウンをせずに、記憶させている速度以下で走行した
- 新たに速度を設定した、または
- 最後に保存された速度を再度呼び出した

マルチファンクションディスプレイのメッセージ **可変スピードリミッター 制御待機中** が消えます。

可変スピードリミッターの解除

ブレーキ操作で可変スピードリミッターを解除することはできません。

可変スピードリミッターを解除するためにはいくつかの方法があります。

- ▶ クルーズコントロールレバーを前方 ⑥ に軽く押しします。

または

- ▶ クルーズコントロールレバーを矢印の方向 ⑤ に軽く押しします。クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が消灯します。可変スピードリミッターは解除されます。クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスが選択されます。

❗ エンジンを停止したときは、記憶されている速度は消去されます。

スノータイヤスピードリミッター

マルチファンクションディスプレイを使用して、160 km/h（例えばウインタータイヤで走行するとき）から最高速度まで

の間の値に、常に速度を制限できます (▶ 196 ページ)。

記憶させた速度に到達する少し前に、マルチファンクションディスプレイに速度が表示されます。

可変スピードリミッターを解除した場合でも、スノータイヤスピードリミッターは作動したままになります。

踏み応えがあるところを越えるまでアクセルペダルを踏んだ場合でも (キックダウン)、記憶させた制限速度を超えることはできません。

ディストロニック・プラス

全体的な注意事項

ディストロニック・プラスは速度を制御し、前方に検知された車両との距離を自動的に維持する支援を行いません。車両はレーダーセンサーシステムの支援で検知されます。ディストロニック・プラスは設定された速度を超えないように自動的にブレーキを効かせます。

長い下り坂や急な下り坂の勾配では、適切なタイミングで低いギアに変速してください。車両に積載して走行するときは、このことに特に留意してください。そうすることにより、エンジンのブレーキ作用を利用します。これにより、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキを過熱や早期の摩耗から防ぎます。

ディストロニック・プラスが衝突の危険があることを検知した場合は、視覚的および聴覚的に警告を行いません。運転者の操作なしでは、ディストロニック・プラスは衝突を回避することはできません。断続的な警告音が鳴り、メーターパネルの距離警告灯が点灯します。安全な場合にのみ、ただちにブレーキを効かせて先行車両との距離を広げ、危険回避の操作を行なってください。

ディストロニック・プラスは 0 km/h ~ 200 km/h の間の速度で作動します。

急な坂道を走行しているときは、ディストロニック・プラスを使用しないでください。

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

ディストロニック・プラスは以下のものには反応しません。

- 歩行者や動物
- 駐停車している車両など、道路上の静止している障害物
- 対向車や横切る車両

この場合、ディストロニック・プラスは警告も介入も行いません。事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

⚠ 警告

ディストロニック・プラスは、他の道路使用者および複雑な交通状況を常に明確に認識できるとは限りません。

そのような場合は、ディストロニック・プラスは以下になることがあります。

- 不必要な警告を行ない、車両にブレーキをかける
- 警告を行なわなくなる、または作動しなくなる
- 意図せず加速する、またはブレーキをかける

事故の危険性があります。

特にディストロニック・プラスが警告した場合は、慎重に走行を続け、ブレーキを効かせる準備をしてください。

⚠ 警告

ディストロニック・プラスは最大可能減速の 50% まで車両にブレーキを効かせます。減速が十分でない場合は、ディストロニック・プラスは視覚的および聴覚

的警告で運転者に警告します。事故の危険性があります。

これらの状況では自分でブレーキを効かせ、回避行動を取るように試みてください。

■ ディストロニック・プラスまたはホールド機能が作動すると、特定の状況で車両に自動的にブレーキがかかります。車両の損傷を防ぐため、次のような状況ではディストロニック・プラスおよびホールド機能を解除してください：

- けん引される時
- 洗車時

運転スタイルを合わせられない場合は、ディストロニック・プラスは事故の危険性を低減することもできず、また物理的限界を乗り越えることもできません。ディストロニック・プラスは路面、天候および交通状況を考慮することはできません。ディストロニック・プラスは単なる支援に過ぎません。運転者には、先行車両との距離、車両の速度、適切なブレーキ操作、および車線を維持する責任があります。

以下のときは、ディストロニック・プラスを使用しないでください。

- 混雑している道路またはカーブの多い道路など、一定の速度を保つことができない道路および交通状況
- 滑りやすい路面。ブレーキや加速により駆動輪が駆動力を失い、車両が滑るおそれがあります。
- 霧、激しい雨または雪などのために視界が悪いとき

ディストロニック・プラスは、オートバイなど前方を走行している幅の狭い車両、または異なる車線を走行している車両を検知しないことがあります。

特に以下のときは、障害物の検知が困難になることがあります。

- センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている
- 雪または激しい雨が降っている
- 他のレーダー発生源による干渉がある
- 立体駐車場などで、強いレーダー反射の可能性がある

ディストロニック・プラスが先行車両を検知しなくなった場合は、記憶させた速度まで予期せず加速することがあります。速度は以下になるおそれがあります。

- 変更される車線や滑りやすい道路で非常に高くなりすぎる
- 右車線を走行しているにも関わらず、左車線にいる車両を追い越してしまうほど高くなりすぎる（右側通行の国）
- 左車線を走行しているにも関わらず、右車線にいる車両を追い越してしまうほど高くなりすぎる（左側通行の国）

運転者を交代する場合は、次の運転者に保存した速度を伝えてください。

クルーズコントロールレバー



- ① 速度を設定する / 上げる
- ② 規定の最短距離を設定する
- ③ LIM 表示灯
- ④ 現在の速度 / 最後に記憶させた速度に設定する
- ⑤ 速度を設定する / 下げる

- ⑥ ディストロニック・プラスと可変スピードリミッターを切り替える
- ⑦ ディストロニック・プラスを解除する

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ③ は現在選択されている機能を表示しています。

- LIM 表示灯 ③ が消灯： ディストロニック・プラスが選択されています。
- LIM 表示灯 ③ が点灯： 可変スピードリミッターが選択されています。

ディストロニック・プラスの選択

- ▶ LIM 表示灯 ③ が消灯しているかどうかを確認してください。
消灯しているときは、ディストロニック・プラスがすでに選択されています。そうでない場合は、クルーズコントロールレバーを矢印 ⑥ の方向に押しします。
クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ③ が消灯します。ディストロニック・プラスが選択されます。

ディストロニック・プラスの作動

作動条件

ディストロニック・プラスを作動させるには、以下の条件を満たさなければなりません。

- エンジンがかかっている。ディストロニック・プラスが使用できるようになる前には、少なくとも 2 分間走行していなければなりません。
- 電気式パーキングブレーキが解除されている。
- ESP® が設定されているが、介入していない。

- アクティブパーキングアシストが作動していない。
- トランスミッションがポジション D である。
- P から D にシフトするときに運転席ドアが閉じている、または運転者のシートベルトが装着されている。
- 助手席ドアとリアドアが閉じている。
- クルーズコントロールレバーでディストロニック・プラス機能が選択されている(▶ 167 ページ)。

オンにする

- ▶ クルーズコントロールレバーを軽く手前に引くか ④、上 ① または下 ⑤ に操作します。
ディストロニック・プラスが作動します。
- ▶ 希望の速度になるまでクルーズコントロールレバーを上 ① にまたは下 ⑤ に繰り返し操作します。
- ▶ アクセルペダルから足を放してください。
希望の記憶させた速度までのみ、先行車両の速度に自車の速度が合わせられます。

i アクセルペダルから完全に足を放していない場合は、マルチファンクションディスプレイに「**ディストロニック・プラス制御待機中**」というメッセージが表示されます。このときは、ゆっくり走行している先行車両との設定距離は維持されません。アクセルペダルの位置に応じた速度で走行します。

停止しているときもディストロニック・プラスを作動させることができます。設定できる最低速度は 30 km/h です。

- ▶ クルーズコントロールレバーを軽く手前に引くか④、上①または下⑤に操作します。
ディストロニック・プラスが作動します。

現在の速度 / 最後に記憶させた速度で作動させる

⚠ 警告

設定速度を呼び出し、それが現在の速度と異なるときは、車両が加速または減速します。設定速度を覚えていないと、車両が不意に加速したりブレーキがかかることがあります。事故の危険性があります。

設定速度を呼び出す前に、路面および交通状況に注意してください。設定速度を覚えていない場合は、希望の速度を再設定してください。

- ▶ クルーズコントロールレバーを手前に軽く引きます④。
- ▶ アクセルペダルから足を放してください。
ディストロニック・プラスが作動します。初めて作動させたときは、そのときの速度が記憶されます。さもなければ、以前に記憶させた数値に車両の巡航速度を設定します。

ディストロニック・プラスでの運転

発進と走行

- ▶ **ディストロニック・プラスで発進したい場合**：ブレーキペダルから足を放します。
- ▶ クルーズコントロールレバーを手前に軽く引きます④。

または

- ▶ 軽くアクセルペダルを踏みます。
車両が発進して、走行速度を先行車両の速度に合わせます。前方に車両を検知していない場合は、車両は設定した速度まで加速します。

i 未確認の障害物に面しているとき、または他車と異なるラインを走行するときにも、車両は発進できます。その後に、車両は自動的にブレーキを効かせます。事故の危険性があります。いつでもブレーキを効かせる準備をしてください。

先行車両がない場合は、ディストロニック・プラスはクルーズコントロールと同じように作動します。

先行車両が減速したことをディストロニック・プラスが検知した場合は、車両にブレーキを効かせます。このようにして選択された距離が維持されます。

前方でより速く走行している車両をディストロニック・プラスが検知した場合は、走行速度が上がります。ただし記憶させた速度までしか車両は加速しません。

走行モードの選択

走行モード **S** または **S+** を選択すると、ディストロニック・プラスがスポーティな走行をサポートします(▶ 153 ページ)。先行車両の後方まで、または設定した速度まで非常にダイナミックに加速します。走行モード **C** または **E** を選択している場合は、車両はさらに緩やかに加速します。この設定は交通渋滞で推奨されます。

車線変更

以下のときに追い越し車線に移る場合はディストロニック・プラスが運転者を支援します。

- 70 km/h 以上で走行している
- 対応する方向指示灯を作動させている
- ディストロニック・プラスが衝突の危険を検知していない

これらの条件を満たした場合は、車両は加速します。車線変更時間に時間がかかりすぎたり、車両と先行車両との距離が短すぎる場合は、加速は中断されます。

i 車線を変更するとき、ディストロニック・プラスは左の車線（左ハンドル

車両) または右の車線 (右ハンドル車両) をモニターします。

停止

⚠ 警告

車から離れるときは、ディストロニック・プラスによりブレーキがかかっているにもかかわらず、以下の場合は車両が動き出すことがあります。

- システムまたは電源供給に異常があるとき
- 乗員または車外の誰かがクルーズコントロールレバーを操作して、ディストロニック・プラスが解除されたとき
- エンジンルームの電気システムや、バッテリーまたはヒューズが改造されたとき
- バッテリーの接続を外したとき
- 同乗者などがアクセルペダルを踏んだとき

事故の危険性があります。

車から離れるときは、必ずディストロニック・プラスをオフにして車両が動き出さないように固定します。

ディストロニック・プラスの解除についてのさらなる情報 (p. 169 ページ)。

先行車両が停止したことをディストロニック・プラスが検知した場合は、車両が停止するまでブレーキを効かせます。

一度車両が停止すると、停車したままになり、ブレーキを踏む必要はありません。その後すぐに、電気式パーキングブレーキにより車両が動かなくなり、サービスブレーキの負担が軽減されます。

指定最短距離によっては、車両は先行車両後方の十分な距離があるところで停止することがあります。指定最短距離はクルーズコントロールレバーを使用して設定します。

ディストロニック・プラスが作動状態であれば、以下の場合には、自動的に電気式パーキングブレーキによって車両が動かなくなります。

- シートベルトが着用されておらず、運転席ドアを開いた
- ECO スタートストップ機能による自動停止以外の方法でエンジンを停止した
- システムに異常が発生した
- 電力供給が不十分である

故障が発生した場合は、トランスミッションが自動的にポジション P にシフトすることがあります。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 速度の設定
- 指定最短距離の設定
- メーターパネルのディストロニック・プラス表示

ホールド機能

全体的な注意事項

ホールド機能は以下のようなときに運転者を支援します。

- 特に急な坂道で発進するとき
- 急な坂道で車を動かすとき
- 発進待ちをしているとき

運転者がブレーキペダルを踏まなくても、車両が停止した状態を保ちます。

発進するためにアクセルペダルを踏んだときは、ブレーキ効果が解除されホールド機能は解除されます。

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

車両を離れるときは、ホールド機能によりブレーキを効かせているにも関わらず、以下のときに発進するおそれがあります。

- システムまたは電圧の供給に不具合がある
- 例えば車両乗員によってアクセルペダルが踏まれることによりホールド機能が解除される
- エンジンルームの電気システムや、バッテリーまたはヒューズが改造される
- バッテリーの接続が外された事故の危険性があります。

車両を離れる前には常にホールド機能を解除し、発進しないように車両を固定してください。

! ディストロニック・プラスまたはホールド機能が作動すると、特定の状況で車両に自動的にブレーキがかかります。車両の損傷を防ぐため、次のような状況ではディストロニック・プラスおよびホールド機能を解除してください：

- けん引されるとき
- 洗車時

作動条件

以下の条件のすべてが満たされている場合は、ホールド機能を作動できます。

- 車両が停止している
- エンジンがかかっている、またはエンジンをECO スタートストップ機能によって自動的に停止している
- 運転席ドアが閉じている、または運転者がシートベルトを着用している
- 電気式パーキングブレーキが解除されているとき

- オートマチックトランスミッション装備車：トランスミッションが **D**、**R** または **N** のとき
- ディストロニック・プラスが解除されている

ホールド機能を作動させる



- ▶ 作動条件が満たされていることを確認します。
- ▶ ブレーキペダルを踏んでください。
- ▶ マルチファンクションディスプレイに①が表示されるまで、ブレーキペダルを素早くさらに踏みます。ホールド機能が作動している。ブレーキペダルから足を放すことができます。

i 最初にブレーキペダルを踏んだときにホールド機能が作動しない場合には、少し待った後に再度試してください。

ホールド機能を解除する

ホールド機能は以下のときに自動的に解除されます。

- アクセルペダルを踏んだ。オートマチックトランスミッション装備車両：トランスミッションがシフトポジション **D** または **R** のときのみ
- オートマチックトランスミッション装備車で、トランスミッションが **P** のとき

- マルチファンクションディスプレイの①が消えるまでブレーキペダルを再度深く踏んだとき
- 電気式パーキングブレーキを使用して車両を動かないようにしたとき
- ディストロニック・プラスを作動させたとき

i その後すぐに、電気式パーキングブレーキにより車両が動かなくなり、サービブレーキの負担が軽減されます。そして、ホールド機能は解除されます。

ホールド機能が作動して以下の場合に、自動的に電気式パーキングブレーキによって車両が動かなくなります。

- 運転席ドアが開いていて、運転席のシートベルトが着用されていない
- ECO スタートストップ機能による自動停止以外の方法でエンジンを停止した
- システムに異常が発生した
- 電力供給が不十分である

オートマチックトランスミッション装備車： 異常が発生したときは、トランスミッションが自動的にポジション P になることもあります。

マニュアルトランスミッション車：

マルチファンクションディスプレイに**すぐにブレーキを踏んでください**というメッセージが表示されることもあります。

- ▶ マルチファンクションディスプレイから警告メッセージが消えるまでただちにブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

ホールド機能が解除されている。

ホールド機能が作動しているときに、エンジンをオフにしたり、シートベルトを外したり、運転席ドアを開くと、ホーンが定期的に鳴ります。ホーンが鳴ることによって、ホールド機能がまだ作動していることを知らせています。車両を施錠しようとした場合は、警告音がより大きく鳴り

ます。ホールド機能を解除するまで、車両を施錠することはできません。

i 一度エンジンをオフにすると、ホールド機能を解除するまで再始動することができません。

AIR マティックサスペンション

全体的な注意事項

AIR マティックサスペンションは、可変ダンピングを装備した走行快適性を向上させるためのエアサスペンションシステムです。レベルコントロール機能は、サスペンションを最適にして、積載時でも地上高を一定に保ちます。高速で運転するときは、走行安全性を向上させ燃費を低減させるために、自動的に車高が低くなります。手動で車高調整をすることもできます。AIR マティックサスペンションには、車高の設定、レベルコントロールおよびアダプティブダンピングシステム (ADS) が含まれます。

オートマチックトランスミッション装備車： 車高はアジリティーセレクトスイッチ(▷ 153 ページ)、またはレベルスイッチ(▷ 172 ページ)を使用して設定できます。設定は常に最後に選択された機能に対応します。

マニュアルトランスミッション装備車： 車高はアジリティーセレクトスイッチ(▷ 150 ページ)、またはレベルスイッチ(▷ 172 ページ)を使用して設定できます。設定は常に最後に選択された機能に対応します。

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

車両を下げるときに、車体と車輪の間、または車両の下に手足がある場合、挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

車両を下げるときは、車両の下、またはホイールアーチのすぐ近くに誰もいないことを確認してください。

❶ ドアが一つでも開いていた場合、車高は上がりません。

車高

高い車高の設定



80 km/h 以下の車両速度では、「標準」と「高い」車高の間で選択することが可能です。通常の路面では「標準」設定を、スノーチェーンを装着して走行するときや路面が特に悪いときは「高い」を選択してください。選択した内容は、エンジンスイッチからキーを抜いても記憶されます。

▶ エンジンを始動します。

表示灯 ② が点灯していない場合：

▶ スイッチ ① を押します。
表示灯 ② が点灯します。標準の高さと比較して、車高は 25 mm 上がります。マルチファンクションディスプレイに **車高が上がります** というメッセージが表示されます。

❶ 到達した高さに関係なく、メッセージは 10 秒後に消えます。必要に応じて、車高はさらに上がります。

「高い車高」の設定は以下のときに解除されます。

- 120 km/h 以上で走行した
- 80 km/h 以上の速度で約 3 分間走行した

これらの速度範囲内で走行していないときは、「高い車高」が保たれたままになります。

標準の車高の設定

▶ エンジンを始動します。

表示灯 ② が点灯している場合：

▶ スイッチ ① を押します。
表示灯 ② が消灯します。車両は、現在選択されている走行モードの高さに調整されます (▶ 153 ページ)。

サスペンション制御

デジタル版取扱説明書には、以下に関する情報があります。

- 全体的な注意事項
- スポーツモード
- コンフォートモード

4MATIC (フルタイム 4 輪駆動システム)

4 MATIC は 4 輪全てが常に駆動しています。不十分な接地力により駆車輪が空転したときはいつでも、ESP® とともに車両の駆動力を向上させます。

運転スタイルを合わせられない場合は、4 MATIC は事故の危険性を軽減できないだけでなく、物理的法則を乗り越えることもできません。4 MATIC は路面、天候および交通状況を考慮することはできません。4 MATIC はあくまでも運転を支援するシステムです。運転者には、先行車両との距離、車両の速度、適切な

ブレーキ操作、および車線を維持する責任があります。

不十分なグリップのため駆動輪が空転する場合

- 発進するときは、アクセルペダルを必要分だけ踏んでください。
- 走行時は加速を少なくしてください

! 片方のアクスルを持ち上げた状態で車両をけん引しないでください。トランスファークースを損傷するおそれがあります。このような損傷はメルセデス・ベンツの一般保証では保証されません。全ての車輪が接地しているか、完全に持ち上がっていないかなりません。車輪全てが完全に接地している状態で車両をけん引するときは、取扱説明書に従ってください。

i 冬に走行するときは、ウィンタータイヤ (M+S タイヤ) や必要であればスノーチェーンを装着すると 4 MATIC の効果が最大限に発揮されます。

パークトロンニック

重要な安全上の注意事項

パークトロンニックは超音波センサーによる、電子的なパーキングサポートです。フロントバンパーの 6 個のセンサーとリアバンパーの 6 個のセンサーを使用して、車両周辺のエリアをモニターします。パークトロンニックは、車両と物体との距離を視覚的、聴覚的に示します。

パークトロンニックは単なる支援にすぎません。周囲に対する運転者の注意の代わりになるものではありません。運転者には、安全にステアリングを操作し、駐車する責任があります。ステアリング操作や駐車を行なっている間は、周囲に人や動物、障害物がないことを確認してください。

! 駐車するときは、鉢植えやトレーラーけん引部などセンサーの上下にあるものに十分注意をしてください。パークトロンニックはこれらが車両の至近距離にあるときは感知できません。車両や物を損傷するおそれがあります。

センサーは雪やその他の超音波を吸収しやすいものを感知しないことがあります。自動洗車機やトラックの圧縮空気ブレーキ、空気ドリルなどが発生する超音波によりパークトロンニックが機能しないことがあります。

不整地などではパークトロンニックが正しく作動しないことがあります。

パークトロンニックは以下のときに自動的に作動します。

- イグニッションをオンにした
- トランスミッションをポジション **D**、**R** または **N** にシフトした

パークトロンニックは 18 km/h 以上の速度で解除されます。それより低い速度で再作動します。

センサーの範囲

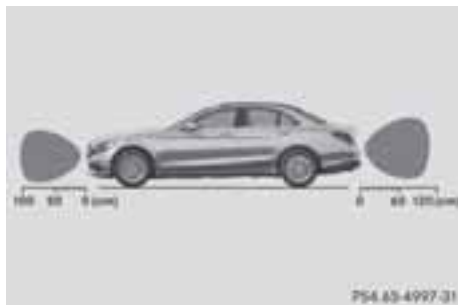
全体的な注意事項

以下のときは、パークトロンニックは障害物を考慮しません。

- 人や動物、障害物などが検知範囲の下にある
- 突き出た荷物、車両後部、または積載用スロープなどが検知範囲の上にある



① 例：左側フロントバンパーのセンサー



センサーに汚れ、氷および泥がないようにしてください。さもないと、適切に機能しないことがあります。センサーに損傷を与えないように注意して、定期的に清掃してください。(▷ 273 ページ)

フロントセンサー

センター部	約 100 cm
コーナー部	約 60 cm

リアセンサー

センター部	約 120 cm
コーナー部	約 80 cm

最短距離

センター部	約 20 cm
コーナー部	約 15 cm

この範囲内に障害物がある場合は、対応する警告表示が点灯して警告音が鳴ります。距離が最短以下になった場合は、距離が表示されなくなることがあります。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 警告表示
- パークトロニックの解除/作動
- パークトロニックのトラブル

アクティブパーキングアシスト

全体的な注意事項

アクティブパーキングアシストは超音波により駐車を支援するシステムです。車両の両側の道路を測定します。駐車マークは、適切な駐車スペースを示します。駐車している間、または駐車スペースから出るとき、ステアリング操作への介入およびブレーキの適用が運転者を補助します。パークトロニックも利用できます(▷ 173 ページ)。

重要な安全上の注意事項

アクティブパーキングアシストは単なる支援にすぎません。周囲に対する運転者の注意の代わりになるものではありません。運転者には、安全にステアリングを操作し、駐車する責任があります。操作

範囲に人や動物や物がいないことを確認してください。

パークトロンニックが解除されているときは、アクティブパーキングアシストも使用できません。

⚠ 警告

検知範囲上に障害物がある場合:

- 作動中のパーキングアシストのステアリング操作が早すぎる場合があります。
- 車両が障害物の前で停車しないことがあります。

衝突する原因となる可能性があります。事故の危険性があります。

検知範囲上に障害物があるときは、停止してアクティブパーキングアシストをオフにしてください。

⚠ 警告

駐車するときや駐車スペースから出るとき、車両がはみ出し、対向車線に入ることがあります。他の道路使用者とぶつかる可能性があります。事故の危険性があります。

他の道路利用者に注意してください。必要な場合は停車して、アクティブパーキングアシストの作動を解除してください。

! 避けられないときは、ゆっくりと鋭角でない角度で縁石などの障害物を乗り越えてください。ホイールやタイヤを損傷するおそれがあります。

アクティブパーキングアシストは、以下のような駐車するのに適さないスペースを表示することがあります。

- 駐車または停車が禁止されている
- 私道の手前または建物の出入り口
- 路面が駐車するのに適していない場所

駐車のヒント：

- 狭い道路では、できるだけ駐車スペースの近くを通過して走行してください。
- ゴミが散らかっていたり、草が茂っている駐車スペースは、確認や測定が正しく行なわれないことがあります。
- トレーラーけん引部が一部を占有している駐車スペースを識別できなかったり、正しく測定できないことがあります。
- 雪や激しい雨により、正しく計測されていない駐車スペースに誘導されることがあります。
- 駐車操作を行なっている間は、パークトロンニック (p. 174 ページ) の警告メッセージに注意してください。
- 運転者はいつでもステアリング操作に介入して修正できます。その場合はアクティブパーキングアシストが解除されます。
- 車両からはみ出している荷物を運んでいるときは、アクティブパーキングアシストを使用しないでください。
- スノーチェーンを装着しているときは、アクティブパーキングアシストを絶対に使用しないでください。
- タイヤ空気圧が常に適正であることを確認してください。これは車両の駐車動作に直接影響を与えます。

アクティブパーキングアシストは以下のような駐車スペースで使用してください。

- 進行方向と平行または直角である
- カーブしていないまっすぐな道にある
- 歩道などでなく、道路と同じ高さにある

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 駐車スペースの検知
- 駐車
- 駐車スペースからの退出
- アクティブパーキングアシストの中止

リアビューカメラ

全体的な注意事項



リアビューカメラ①はトランクリッドのハンドルに取り付けられています。

リアビューカメラは、映像によって駐車およびステアリング操作を支援します①。Audio 20/COMAND ディスプレイに車両後方のエリアをガイドライン入りで表示します。

車両後方のエリアは、ルームミラーに映るように鏡像で表示されます。

① Audio 20/COMAND ディスプレイのメッセージは、言語設定により異なった文字で表示されます。以下はリアビューカメラの Audio 20/COMAND ディスプレイのメッセージの例です。

重要な安全上の注意事項

リアビューカメラは単なる支援にすぎません。周囲に対する運転者の注意の代わりになるものではありません。運転者に

は、安全にステアリングを操作し、駐車する責任があります。ステアリング操作や駐車を行なっている間は、周囲に人や動物、障害物がないことを確認してください。

以下のような環境ではリアビューカメラが機能しなかったり、制限された方法で機能します。

- トランクリッドが開いているとき
- 激しい雨、雪または霧
- 夜や非常に暗い場所
- カメラが非常に明るい光に照らされている場合
- 周囲が蛍光灯の電球や LED の光で照らされている場合（ディスプレイがちらつくことがあります）
- 冬に暖かい車庫に入ったときなど、急激な温度変化が原因でカメラが曇った場合
- カメラのレンズが汚れている、または遮られている場合 清掃に関する注意事項に従ってください。（p. 273 ページ）
- 車両の後部が損傷している場合 このような場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でカメラの位置および設定を点検してください。

車両後部に追加したアクセサリー（ナンバープレートホルダー、自転車ラックなど）により、リアビューカメラの視界および他の機能が制限される可能性があります。

① リアビューカメラはフラップによって雨やほこりから保護されています。リアビューカメラの作動中はこのフラップが開きます。

フラップは以下のときに再度閉じます：

- 操作手順を終えた
- エンジンを停止した
- トランクを開いた

清掃に関する注意事項に従ってください
(▶ 273 ページ)。

技術的な理由のため、リアビューカメラが停止した後にフラップが短時間開いたままになることがあります。

! 以下のような路面に接していない障害物は、実際よりも遠くにあるように見えることがあります。

- 駐車車両のバンパー
- トレーラーのトローイングバー
- トレーラーけん引ヒッチのボールヘッドカップリング
- 大型車のリア部
- 傾いた柱

ガイドラインはあくまでも目安として利用してください。障害物に近付くときは、障害物が一番下のガイドラインを越えないように注意してください。

リアビューカメラは、障害物の歪んだ映像を表示したり、それらを正しく、またはまったく表示しないことがあります。以下のような場所にある障害物は、リアビューカメラで表示されません。

- リアバンパーのすぐ近く
- リアバンパーの下
- テールゲートハンドルの上のエリア

リアビューカメラの作動/停止

- ▶ **作動させる**：キーがエンジンスイッチの 2 の位置にあることを確認します。
- ▶ Audio 20/COMAND システムで **リバース連動** 機能が選択されていることを確認します。デジタル版取扱説明書をご覧ください。
- ▶ リバースギアを選択します。リアビューカメラのフラップが開きます。車両後方のエリアがガイドライン入りで Audio 20/COMAND システムディスプレイに表示されます。

操作手順中はリアビューカメラの映像が利用できるようになります。

停止する：トランスミッションを P にシフトした場合、または短距離を前進した後に、リアビューカメラは停止します。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- Audio 20/COMAND システムディスプレイのメッセージ
- "後退駐車"機能
- 広角機能
- 障害物検知

360° カメラシステム (サラウンドビュー)

全体的な注意事項

360° カメラシステムは 4 つのカメラで構成されるカメラシステムです。

システムは以下のカメラからの映像を評価します。

- リアビューカメラ
- フロントカメラ
- ドアミラーの 2 つのカメラ

カメラは車両周辺の状況を映し出します。システムは、駐車時や見通しの悪い出口などで運転者を支援します。

360° カメラシステムの映像は、COMAND システム/Audio 20 に全面表示または 6 種類の分割画面表示で表示させることができます。分割画面表示には車両上面の表示も含まれています。この表示は、装着されているカメラにより提供されたデータから生成されます (バーチャルカメラ)。

6 つの分割画面表示は以下のとおりです。

- 車両上面の表示とリアビューカメラからの映像（130°表示角度）
- 車両上面の表示とフロントカメラからの映像（最大ステアリング角度を表示しない130°表示角度）
- 車両上面の表示とリア拡大表示
- 車両上面の表示とフロント拡大表示
- 車両上面の表示と後方ミラーカメラからの映像（後輪表示）
- 車両上面の表示と前方ミラーカメラからの映像（前輪表示）

機能が設定されていてトランスミッションを **D** または **R** から **N** にシフトすると、COMAND ディスプレイのガイドラインが非表示になります。

シフトポジションを **D** と **R** 間で切り替えた場合、直前に選択したフロントまたはリアビューが表示されます。

重要な安全上の注意事項

360° カメラはあくまでも運転を補助するための装置であり、状況によっては障害物の歪んだ映像を映し出したり、障害物が正確に映し出されなかったり、まったく映らないことがあります。360° カメラシステムは、注意を払った走行の代わりになるものではありません。

運転者には、安全にステアリングを操作し、駐車する責任があります。ステアリング操作や駐車を行なっている間は、周囲に人や動物、障害物がないことを確認してください。

運転者には安全を確保する責任があり、駐車や運転操作を行なうときは、常に周囲の状況に注意しなければなりません。これには、車両の後方、前方および両側面が含まれます。さもないと、運転者や他の人に危険がおよぶおそれがあります。

360° カメラシステムは、以下の場合にまったく機能しなくなるか、制限された方法でのみ機能します。

- ドアが開いている場合
 - ドアミラーが格納されている場合
 - トランクリッドが開いている場合
 - 激しい雨、雪または霧
 - 夜や非常に暗い場所
 - カメラに強い光が直接当たっている場合
 - 周囲が蛍光灯の電球や LED の光で照らされている場合（ディスプレイがちらつくことがあります）
 - 冬に暖かい車庫に入ったときなど、急激な温度変化が原因でカメラが曇った場合
 - カメラのレンズが汚れていたり、覆われている場合
 - カメラ装着部の車両構成部品が損傷した場合。このようなときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でカメラの位置および設定を点検してください。
- このような場合は、360° カメラシステムを使用しないでください。さもないと、車両駐車時に、他の人にけがをさせたり、物を損傷したりするおそれがあります。ガイドラインは常に路面の高さで表示されます。
- 後部カメラはフラップで保護されています。このフラップは、360° カメラシステム作動時に開きます。清掃に関する注意事項に従ってください（▶ 273 ページ）。技術的な理由により、360° カメラシステムが停止した後にフラップが一時的に開いたままになることがあります。


作動条件

360° カメラシステムの映像は、以下のときに表示されます。

- COMAND システム/Audio 20 が作動している（デジタル版取扱説明書をご覧ください）
- 360° カメラ機能がオンになっている

i 30 km/h 以上の速度で 360° カメラシステムが作動している場合、警告メッセージが表示されます。

以下の場合、警告メッセージが消えます。

- 車両の速度が 30 km/h 以下に下がる。その後 360° カメラシステムが作動します。
-  スイッチでメッセージを確定します。

機能スイッチを使用して 360° カメラシステムを作動させる



▶ スイッチ **①** を押します。シフトポジション **D** または **R** のどちらが選択されているかによって、以下の画面が表示されます。

- フロントカメラからの映像の全画面表示
- リアビューカメラからの映像の全画面表示

i 全画面表示から分割画面表示に切り替えることもできます。

COMAND システムを使用して 360° カメラシステムを作動させる

▶ カラーセルメニューで **360° カメラ** を選択する： コントローラーをまわして、押します。

シフトポジション **D** または **R** のどちらが選択されているかによって、以下の画面が表示されます。

- 車両上面の表示とフロントカメラからの映像による分割画面表示、または
- 車両上面の表示とリアビューカメラからの映像による分割画面表示

リバースギアを使用して、360° カメラシステムを作動させる

リバースギアに入れることで、自動的に 360° カメラシステムの映像が表示されます。

▶ エンジンスイッチのキーが **2** の位置にあることを確認します。

▶ COMAND システムで **リバース連動** 機能が選択されていることを確認します。デジタル版取扱説明書をご覧ください。

▶ **360° カメラシステムの映像を表示する**： リバースギアに入れます。


COMAND ディスプレイに分割画面モードで車両後方エリアが表示されます。車両上面の表示およびリアビューカメラからの映像が表示されます。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 分割画面または全画面表示の選択
- COMAND ディスプレイの表示
- 広角機能
- 障害物検知

360° カメラシステムの表示を停止する

車両の速度が 30 km/h を超えるとすぐに機能は停止します。360° カメラシステムが表示される以前に作動していた画面が COMAND ディスプレイに表示されます。ディスプレイで  マークを選択して COMAND コントローラーで確定することで分割画面表示から 360° カメラシステムの表示を停止することもできます。

オートマチックトランスミッション装備車：シフトポジション **P** を選択した場合にも、360° カメラシステムの表示は終了します。

アテンションアシスト

全体的な注意事項

アテンションアシストは高速道路や自動車専用道路のような道路で、長時間の変化の少ない走行をするときに運転者を支援します。60 km/h ~ 200 km/h の範囲で作動します。運転者の疲労や集中力欠如の増加の典型的な兆候を検知した場合は、アテンションアシストは休憩を促します。

重要な安全上の注意事項

アテンションアシストは単なる支援にすぎません。疲労や集中力欠如を検出するのが遅すぎたり、まったくしないことがあります。十分な休憩を取り、集中力がある運転者の代わりになるものではありません。

以下のときは、アテンションアシストの機能が制限されたり、警告が遅れる、またはまったく行なわれないことがあります。

- 走行時間が約 30 分以下の場合
- 路面が平坦でなかったり、穴があるなど、道路の状態が悪い場合
- 横風が強い場合
- 高いスピードでカーブを曲がっているときや急加速をしているときなど、スポーツ的な走行を行なっている場合
- 主に 60 km/h 以下、または 200 km/h 以上の速度で走行している場合
- ディストロニック・プラスのステアリングアシストで走行している場合
- 時刻が正しく設定されていない場合
- 車線を変更したり走行速度を変えるなどの活発な運転状況の場合

走行を継続するときは、以下のときにアテンションアシストはリセットされ、運転者の疲労の評価を開始します。

- エンジンを停止した
- 運転者を交代したり、休憩を取るために、運転者がシートベルトを外して運転席のドアを開いた

アテンションレベルの表示



マルチファンクションディスプレイのアシストメニューに現在のステータス情報を表示させることができます。

- ▶ マルチファンクションディスプレイを使用して、アテンションアシストのアシスト一覧表示を選択します (▶ 196 ページ)。


以下の情報が表示されます：

- 最後の休憩からの走行時間
- 高いから低いまで 5 段階のバー表示で表示される、アテンションアシスト (注意バル) によって判断されるアテンションレベル
- アテンションアシストがアテンションレベルを算出できず、警告を発することができない場合は、**システム停止**メッセージが表示されます。60 km/h 以下、または 200 km/h 以上の速度で走行している場合などは、バー表示の表示が変更されます。

アテンションアシストの設定

- ▶ マルチファンクションディスプレイを使用してアテンションアシストを作動させます (▶ 196 ページ)。
システムは、選択された以下の設定によって運転者のアテンションレベルを判断します：

標準を選択：アテンションレベルを判断するシステムの感度が標準に設定されず。

高感度を選択：感度がより高く設定されます。それに応じてアテンションアシストにより検知されたアテンションレベルが合わされ、運転者に早く知らされます。アテンションアシストが解除されているときは、 マークがマルチファンクションディスプレイのアシスト一覧に表示されます。

アテンションアシストが解除されているときは、エンジンが停止した後に自動的に再設定されます。選択される感度は、最後に設定した選択に対応します (標準/高感度)。

マルチファンクションディスプレイの警告

疲労または集中力欠如の増加が検知された場合は、マルチファンクションディスプレイに **アテンションアシスト休憩しませんか?** と警告が表示されます。

マルチファンクションディスプレイに表示されるメッセージに加えて、警告音が聞こえます。

- ▶ 必要に応じて、休憩を取ってください。
- ▶ ステアリングの **OK** スイッチを押して、メッセージを確定します。

長時間の運転では、適切な休憩をするために、適切な時間に定期的に休憩を取るようしてください。休憩を取らず、アテンションアシストがなお集中力欠如の増加を検知している場合は、15 分後に再度警告されます。これは、アテンションアシストが疲労または集中力低下の増加の兆候を検知した場合にのみ実行されます。

マルチファンクションディスプレイに警告が発せられた場合は、COMAND システムでガソリンスタンド検索が実行されます。ガソリンスタンドを選択することができ、このガソリンスタンドへのナビゲーションが開始します。この機能は、COMAND システムで設定および解除することができます。

レーントラッキングパッケージ

全体的な注意事項

レーントラッキングパッケージはブラインドスポットアシスト (▶ 182 ページ) とレーンキーピングアシスト (▶ 183 ページ) で構成されます。

ブラインドスポットアシスト

全体的な注意事項

ブラインドスポットアシストは、左右の後ろ向き^①の2つのレーダーセンサーで、運転者には見えない車両の側方エリアをモニターします。ドアミラーの警告表示によって、モニターしている範囲で検知された車両に運転者の注意が向けられます。車線変更するために該当する方向指示灯を作動させた場合は、視覚的および聴覚的な衝突警告も発せられます。

ブラインドスポットアシストは約30 km/h以上の速度で運転者を支援します。

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

ブラインドスポットアシストは以下の場合は車両に反応しません。

- 自車が追い越そうとしている隣接車線の車両が接近し過ぎ、死角エリアに入ったとき
- 接近と追い越しの速度差が非常に大きいとき

このような状況では、ブラインドスポットアシストは運転者に警告を発することができません。事故の危険性があります。常に交通状況に十分注意を払い、車両の両側と安全な車間距離を維持してください。

ブラインドスポットアシストは単なる支援にすぎません。いくつかの車両は検知できないことがあり、注意を払った走行の代わりになるものではありません。他の道路使用者および障害物との十分な側方距離があることを常に確認してください。

レーダーセンサー

ブラインドスポットアシストのレーダーセンサーは、リアバンパーに内蔵されています。バンパーに汚れ、凍結あるいは泥が付着していないようにしてください。

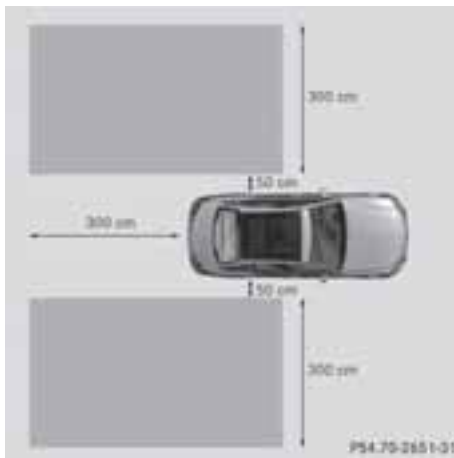
自転車キャリアや突き出た荷物などでセンサーが覆われないようにしてください。強い衝撃を受けたり、バンパーに損傷を与えたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場^②でレーダーセンサーの機能を点検してください。ブラインドスポットアシストが正常に作動しなくなることがあります。

モニター範囲

特に以下のときは、障害物の検知が困難になることがあります。

- センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている
- 霧や激しい雨、雪、霧雨などで視界が悪い
- オートバイや自転車などの、幅の狭い車両
- 非常に幅の広い車線
- 幅の狭い車線
- 車両が車線の中央を走行していない
- 隔壁その他の道路分離帯

このときは、モニター範囲にある車両は示されません。



ブラインドスポットアシストは、図に示すように車両後方および車両のすぐ脇の3.0 m までの範囲をモニターします。

車線が狭い場合、特に車両が車線の中央を走行していない場合は、お客様の車両の隣車線の次の車線の車両を検知することがあります。これは、お客様の車両に近い方の車線端部に車両が走行している場合などです。

以下は、システムの特性に起因するものです。

- ガードレール、または類似の連続している車線境界の近くを走行しているときに、誤って警告が発せられることがあります。
- トレーラーなどの長い車両と長時間並走しているときに、警告が中断されることがあります。

ブラインドスポットアシストの2個のレーダーセンサーは、リアバンパーの両側に内蔵されています。バンパーのセンサー付近に汚れ、氷や泥が付着していないことを確認してください。自転車キャリアや突き出た荷物などでセンサーが覆われないようにしてください。強い衝撃の後やバンパーが損傷したときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの機能を点検してください。さもないと、ブラインドスポットアシストが正常に作動しなくなることがあります。

警告表示



① 警告表示

ブラインドスポットアシストは、30 km/h 以下の速度では作動しません。

このときは、モニター範囲にある車両は示されません。

30 km/h 以上の速度でアクティブブラインドスポットアシストのモニター範囲で車両が検知された場合は、対応する側の警告灯①が赤色に点灯します。この警告は、後方から、または側方から車両がブラインドスポットのモニター範囲に入ってきたときに常に点灯します。車両を追い越すときは、速度差が 12 km/h 以下の場合にのみ警告が発せられます。リバースギアを選択している場合は、ブラインドスポットアシストは作動しません。

警告灯の明るさは、周囲の明るさに自動的に合わせられます。

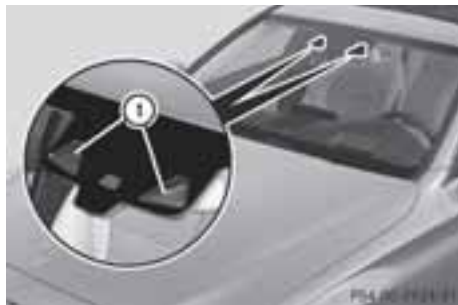
デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下に関する情報があります。

- 衝突警告
- ブラインドスポットアシストの作動
- アシスト一覧の表示

レーンキーピングアシスト

全体的な注意事項



レーンキーピングアシストは、フロントウインドウ上部に装着されたカメラ①で車両前方をモニターします。レーンキーピングアシストは道路の車線ラインを検知し、不意に車線から離れる前に警告を発します。

この機能は、60 km/h～200 km/hの間の範囲で作動します。

前輪が車線ラインを越えた場合は警告が行なわれます。警告はステアリングを1.5秒以内で継続的に振動させることにより行なわれます。

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

レーンキープアシストは常に明確に車線ラインを検知することはできません。このような場合、レーンキープアシストは以下を行うことがあります

- 不必要な警告を発する
- 警告を発しない

事故の危険性があります。

特にレーンキープアシストが警告しているときは、必ず交通状況および車線内を保つように特に注意してください。

⚠ 警告

車両が元の車線に戻らないと、レーンキープアシストによって警告が発せられます。事故の危険性があります。

レーンキープアシストが警告しているときは、常に運転者自身で車両のステアリング操作やブレーキ操作または加速操作を行ってください。

運転スタイルを合わせていない場合は、レーンキープアシストは事故の危険性を軽減することも、物理的な法則を乗り越えることもできません。レーンキープアシストは、道路、天候、または交通状況を考慮することはできません。レーンキープアシストは単なる支援にすぎません。運転者には、先行車両との距離、車両の速度、適切なブレーキ操作、および車線を維持する責任があります。

レーンキープアシストは車両を車線内に維持することはできません。

以下のときは、システムの作動が損なわれたり、正しく機能しないことがあります。

- 道路に十分な照明がなかったり、雪や雨、霧や霧雨によるなど、視界が悪い
- 対向交通、太陽または他の車両からの反射光などで眩惑がある（路面が濡れている場合など）
- フロントウィンドウが汚れていたり、曇っている、または、カメラ付近がステッカーなどで覆われている
- 工事エリアなどで1車線の車線ラインがまったくないか、または複数ある、不明瞭である
- 車線ラインが摩耗していたり黒ずんでいる、または汚れや雪などに覆われている
- 先行車両との車間距離が短くて車線ラインが検知できない
- 車線の分岐や他との交差、合流などで車線ラインが頻繁に変わる
- 道路が狭かったりカーブしている
- 道路に著しく様々な日陰の状況がある

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下に関する情報があります。

- レーンキープアシストの作動

ドライビングアシストプラスパッケージ

全体的な注意事項

アクティブドライビングアシスタンスパッケージは、ディストロニック・プラス (p 165 ページ)、アクティブブラインドスポットアシスト (p 185 ページ) およびアクティブレーンキープアシスト (p 187 ページ) で構成されています。

アクティブブラインドスポットアシスト

全体的な注意事項

アクティブブラインドスポットアシストは、左右の後ろ向ききの2つのレーダーセンサーで、運転者には見えない車両の側方エリアをモニターします。ドアミラーの警告表示によって、モニターしている範囲で検知された車両に運転者の注意が向けられます。車線変更するために該当する方向指示灯を作動させた場合は、視覚的および聴覚的な衝突警告も発せられます。側面衝突の危険性が検知された場合は、修正ブレーキが衝突の回避を支援することがあります。車線修正ブレーキの適用前に、アクティブブラインドスポットアシストは進行方向および側方の空いているスペースを測定します。そのために、アクティブブラインドスポットアシストは前向きのレーダーセンサーを使用します。

アクティブブラインドスポットアシストは、約 30 km/h 以上の速度で支援を行いません。

重要な安全上の注意事項

アクティブブラインドスポットアシストは単なる支援にすぎず、注意を払った走行の代わりになるものではありません。

⚠ 警告

アクティブブラインドスポットアシストは以下のような車両には反応しません。

- 追い越してくる際に、側面に近づき過ぎて死角に入った車両
- 接近と追い越しの速度差が非常に大きいとき

この場合、アクティブブラインドスポットアシストは警告も介入も行いません。事故の危険性があります。

常に交通状況に十分注意を払い、車両の両側に安全な車間距離を維持してください。

レーダーセンサー

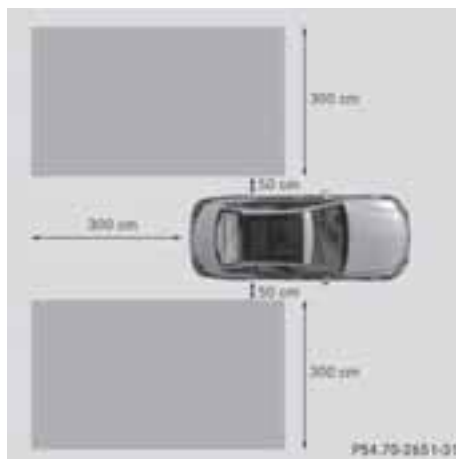
アクティブブラインドスポットアシストのレーダーセンサーは、前後のバンパーおよびラジエターグリルのカバー裏側に内蔵されています。バンパーとラジエターグリルのカバーに、汚れや氷、泥がないことを確認してください。リアセンサーが自転車用ラック、または突き出た荷物などによって覆われないようにしてください。強い衝撃を受けたり、バンパーに損傷を与えたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの機能を点検してください。さもないと、アクティブブラインドスポットアシストが正しく機能しなくなることがあります。

モニター範囲

⚠ 警告

アクティブブラインドスポットアシストはすべての交通状況と道路使用者を検知するわけではありません。事故の危険性があります。

他の交通や障害物との距離が十分であることを常に確認してください。



アクティブブラインドスポットアシストは、図に示すように車両後方と真横の 3.0 m の範囲をモニターします。

以下のときには、車両の検知が困難になることがあります。

- センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている
- 雨、雪または霧雨などのため視界が悪い

このときは、モニター範囲にある車両は示されません。

アクティブブラインドスポットアシストはオートバイや自転車のような幅の狭い車両を検知しなかったり、非常に遅れてからのみ検知することがあります。

車線が狭い場合、特に車両が車線の中央を走行していない場合は、お客様の車両の隣車線の次の車線の車両を検知することがあります。これは、お客様の車両に近い方の車線端部に車両が走行している場合などです。

以下は、システムの特性に起因するものです。

- ガードレール、または類似の連続している車線境界の近くを走行しているときに、誤って警告が発せられることがあります。
- トレーラーなどの特に長い車両と長時間並走しているときに、警告が中断されることがあります。

警告表示



① 警告表示

アクティブブラインドスポットアシストは約 30 km/h 以下の速度では作動し

ません。このときは、モニター範囲にある車両は示されません。

30 km/h 以上の速度でアクティブブラインドスポットアシストのモニター範囲で車両が検知された場合は、対応する側の警告灯 ① が赤色に点灯します。この警告灯は、後方から、または側方から車両がブラインドスポットのモニター範囲に入ってきたときに常に点灯します。車両を追い越すときは、速度差が 12 km/h 以下の場合にのみ警告が発せられます。リバースギアを選択している場合は、アクティブブラインドスポットアシストは作動しません。

警告灯の明るさは、周囲の明るさに自動的に合わせられます。



アクティブブラインドスポットアシストが設定されているときは、後方に発信される灰色のレーダー波がマルチファンクションディスプレイのアシストディスプレイの車両脇に表示されます。30 km/h 以上の速度で、アシストディスプレイのレーダー波の色は緑色に変わります ②。そして、アクティブブラインドスポットアシストが使用可能になります。

視覚的および聴覚的な衝突警告

運転者が車線変更のために方向指示灯を作動させ、側方のモニター範囲で車両が検知された場合は、視覚的および聴覚的な衝突警告が発せられます。その後、警告音が 2 回聞こえ、赤色の警告灯 ① が点滅します。方向指示灯をそのままに

している場合は、検知された車両が赤色の警告灯①の点滅により示されます。警告音はそれ以上鳴りません。

車線修正ブレーキの適用

モニター範囲でアクティブブラインドスポットアシストが側面衝突の危険性を検知した場合は、車線修正ブレーキの適用が行なわれます。これは、運転者の衝突回避を支援するために設計されています。

⚠ 警告

車線修正ブレーキの適用は、常に衝突を防ぐわけではありません。事故の危険性があります。

特に、アクティブブラインドスポットアシストが警告するまたは車線修正ブレーキの適用をする場合、必ずステアリング操作、ブレーキ操作、加速操作を行なってください。常に両側との安全な車間距離を維持してください



車線修正ブレーキが適用された場合は、ドアミラーの赤色の警告灯①が点滅して、警告音が2回鳴ります。加えて、側面衝突の危険性を強調した表示②がマルチファンクションディスプレイに表示されます。

まれに、システムが適切でないブレーキの適用を行なうことがあります。ステアリングを反対方向に軽く操作するか、または加速した場合は、いつでも車線修正ブレーキの適用が中断されます。

車線修正ブレーキの適用は 30 km/h ~ 200 km/h の速度域で行なわれます。

以下の場合には、走行状況に合った、またはまったく合わない車線修正ブレーキの適用が行なわれません。

- 車両の両側に、車両やガードレールなどの障害物がある
- 側方すぐのところにも車両が接近している
- 高いコーナリング速度のスポーティーな走行スタイルをとっている
- 明確にブレーキ操作またはアクセル操作を行なっている
- ESP®または PRE-SAFE®ブレーキのような走行安全システムが適用されている
- ESP®が解除されている
- タイヤ空気圧の低下やタイヤの不具合が検知されている

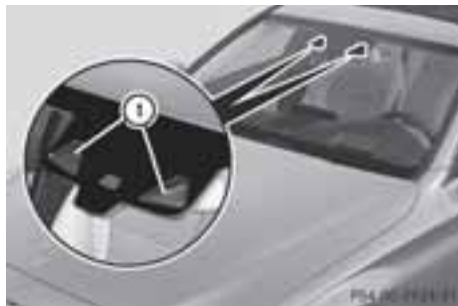
デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下に関する情報があります。

- アクティブブラインドスポットアシストの作動

アクティブレーンキーピングアシスト

全体的な注意事項



アクティブレーンキーピングアシストは、フロントウインドウ上部のカメラシステム①で車両前方のエリアをモニターします。レーダーセンサーシステムの支援により、車両の前方、後方および側方の他

のさまざまなエリアもモニターされます。アクティブレーンキーピングアシストは道路の車線マークを検知し、意図せずに車線から外れる前に警告を発します。警告に反応しない場合は、車線修正ブレーキを適用することにより、車両を元の車線に戻すことができます。

マルチファンクションディスプレイの**速度・距離単位表示**で **km** を選択している場合は(▷ 196 ページ)、アクティブレーンキーピングアシストは約 60 km/h の速度で作動を開始します。**miles** 表示が選択されている場合は、支援範囲は約 40 mph から始まります。

重要な安全上の注意事項

運転スタイルを合わせていない場合は、アクティブレーンキーピングアシストは事故の危険性を軽減することはできず、物理的限界を超えることもできません。アクティブレーンキーピングアシストは道路および天候の状況を考慮することはできません。交通状況を認識しないことがあります。アクティブレーンキーピングアシストは単なる支援にすぎません。運転者には、先行車両との距離、車両の速度、適切なブレーキ操作、および車線を維持する責任があります。

アクティブレーンキーピングアシストは車両を車線内に保ち続けることはできません。

⚠ 警告

アクティブレーンキーピングアシストは必ずしも明確に車線ラインを検知することはできません。

このような場合、アクティブレーンキーピングアシストは以下を行うことがあります

- 不要な警告を行ない、車両に車線修正ブレーキをかける
- 警告を行なわなくなる、または作動しなくなる

事故の危険性があります。

特にアクティブレーンキーピングアシストが警告しているときは、必ず交通状況に注意を払い車線内に保つようにしてください。危険な状態を脱したら、通常の運転スタイルに戻してください。

以下のときは、システムの作動が損なわれたり、正しく機能しないことがあります。

- 道路に十分な照明がなかったり、雪や雨、霧や霧雨などにより、視界が悪い
- 対向交通、太陽または他の車両からの反射光などで眩惑がある（路面が濡れている場合など）
- フロントウィンドウが汚れていたり、曇っている、またはカメラ付近がステッカーなどで覆われている
- 雪などに覆われているなど、フロントまたはリアバンパー、またはラジエターグリルのレーダーセンサーが汚れている場合
- 工事エリアなどで 1 車線の車線マークがまったくないか、または複数ある、不明瞭である
- 車線マークが摩耗していたり黒ずんでいる、または汚れや雪などに覆われている
- 先行車両との車間距離が短くて車線マークが検知できない
- 車線の分岐や他との交差、合流などで車線マークが頻繁に変わる
- 道路が狭かったりカーブしている
- 道路に著しくさまざまな日陰の状況がある

隣接する車線で車両が検知されず、破線の車線マークが検知されている場合は、車線修正ブレーキの適用はされません。

ステアリングの警告振動

前輪が車線マークを越えた場合は警告が行なわれます。警告はステアリングを 1.5 秒以内で振動させることにより行なわれます。

車線修正ブレーキの適用

特定の状況で車線から外れた場合には、車両の片側にブレーキが軽く効きます。これは、車両を元の車線に戻すように支援するためのものです。

⚠ 警告

車線修正ブレーキを適用しても車両が元の車線に戻るとは限りません。事故の危険性があります。

特に、アクティブレーンキーピングアシストが警告する、または車線修正ブレーキが適用される場合、必ずステアリング操作、ブレーキ操作、加速操作を行なってください。



車線修正ブレーキの適用が行なわれた場合は、マルチファンクションディスプレイに①が表示されます。ブレーキの適用により、走行速度も少し低下します。

この機能は、60 km/h～200 km/hの間の範囲で作動します。

実線または破線と認識された車線マークを越えて走行した後に、車線修正ブレーキの適用は行なわれます。これには、その前にステアリングの断続的な振動による警告が出されている必要があります。さらに、両側に車線マークのある車線が検知されていなければなりません。

破線の車線マークが検知されている場合は、隣接する車線で車両が検知された場合のみ車線修正ブレーキの適用が行なわれます。対向車両、追い越し車両および隣接する車線の車両を検知できます。

① 車両が元の車線に戻った後にのみ、次の車線修正ブレーキの適用が行なわれます。

以下の場合、車線修正ブレーキの適用は行なわれません。

- 明確に、および活発にステアリング操作、ブレーキ操作または加速を行なっている
- きついカーブの内側をまたいだ
- 方向指示灯を作動させた
- ESP®、PRE-SAFE®ブレーキまたはアクティブブラインドスポットアシストのような走行安全システムが介入した
- 高いコーナリング速度、または高い加速度のスポーティーな走行を行なっている
- ESP®が解除されている
- トランスミッションがポジション D でない
- タイヤの空気圧の減少またはタイヤの不具合が検知され表示された
- 走行している車線で障害物が検知された

アクティブレーンキーピングアシストは、他の道路使用者または交通状況を検知しないことがあります。以下の場合いつでも、不適切なブレーキの適用は中断されます。

- ステアリングを反対方向に軽く操作する
- 方向指示灯を作動させる
- 明確にブレーキ操作またはアクセル操作を行なっている

以下の場合、車線修正ブレーキの適用は自動的に中断されます。

- ESP®、PRE-SAFE®ブレーキまたはアクティブブラインドスポットアシス

トのような走行安全システムが介入した

- 車線マークが検知されなくなった

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下に関する情報がありません。

- アクティブレーンキーピングアシストの作動

役に立つ情報	192
重要な安全上の注意事項	192
表示および操作	192
メニューおよびサブメニュー	196
ディスプレイメッセージ	198
メーターパネルの警告および表示 灯	213

役に立つ情報

i この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

i メルセデス・ベンツ指定サービス工場
で情報をご覧ください。(▷ 28 ページ)

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

走行中に車両のマルチファンクションディスプレイや COMAND システムの操作を行なうと、交通状況に対する注意が払われなくなります。また車のコントロールを失うおそれがあります。事故の危険性があります。

交通状況が安全な時にのみ、操作するようにしてください。安全が確保されない場合は、必ず安全な場所に停車してから操作してください。

マルチファンクションディスプレイを操作するときは、そのときに運転している国の法規則に従ってください。

⚠ 警告

メーターパネルに故障や異常がある場合は、安全性に関わる機能を認識することができません。走行安全性が損なわれる可能性があります。事故の危険性があります。

注意して運転してください。すぐにメルセデス・ベンツ指定サービス工場
で点検を受けてください。

マルチファンクションディスプレイは、特定のシステムからのメッセージや警告のみを表示します。そのため、車両が安

全に作動していることを常に確認ください。さもないと、安全に作動していない車両により、事故の原因になることがあります。

車両の操作安全性が損なわれたら、できるだけ早く安全に車両を駐車してください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

概要については、メーターパネルのイラストをご覧ください(▷ 35 ページ)。

表示および操作

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 冷却水温度計
- タコメーター
- セグメント付きスピードメーター
- マルチファンクションディスプレイ
- 外気温度表示

メーターパネル照明



メーターパネル、ディスプレイおよび車内のコントロールの照明は、照度調整ノブを使用して調整することができます①。

- ▶ 照度調整ノブ①を上または下方向にまわします。
ランプスイッチ(▶ 125 ページ)が **AUTO**、**∞** または **☾** の位置に設定されていると、照度はアンビエントライトの明るさに応じて変わります。

i マルチファンクションディスプレイの照度は、メーターパネル内のライトセンサーによって自動的に制御されます。日中はメーターパネルのディスプレイが点灯します。減光機能は、日中は使用できません。

マルチファンクションディスプレイの操作



- ① マルチファンクションディスプレイ
② 右側コントロールパネル
③ 左側コントロールパネル

▶ **マルチファンクションディスプレイを
作動させる**：エンジンスイッチのキー
を **1** の位置にまわします。

マルチファンクションステアリングのスイッチを使用して、マルチファンクションディスプレイの表示と設定を操作することができます。

左側コントロールパネル

	• メインメニューの呼び出し
	短く押す ：
	<ul style="list-style-type: none"> • リストのスクロール • メニューまたは機能の選択 • ラジオ/メディア メニューで：トラックまたは放送局リストを開く、音楽トラックまたはビデオシーンの選択 • 電話 メニューで：電話帳への切り替え、名称または電話番号の選択
	押し続けて保持する ：
	<ul style="list-style-type: none"> • すべてのリストでの高速スクロール • ラジオ/メディア メニューで：高速スクロールを使用しての放送局、音楽トラックまたはビデオシーンの選択 • 電話 メニューで：電話帳が開いている場合の高速スクロールの開始
	<ul style="list-style-type: none"> • すべてのメニューで：リストで選択された内容の確定 • ラジオ/メディア メニューで：使用可能なラジオソース/メディアのリストを開く • 電話 メニューで：電話帳への切り替え、および選択した番号のダイヤル開始
	音声認識機能の停止（別冊の取扱説明書をご覧ください）

**短く押す：**

- 戻る
- **ラジオ/メディア** メニューで：トラックまたは放送局リスト、または使用可能なラジオソース/メディアのリストの選択解除
- ディスプレイメッセージの非表示
- 電話帳/発信履歴の終了

**押して保持する：**

- **トリップ** メニューの基本画面の呼び出し

右側コントロールパネル

- 通話の拒否、または終了
- 電話帳/発信履歴の終了



- 発信、または受話
- 発信履歴への切り替え



- 音量の調整



- ミュート



- 音声認識機能の作動（別冊の取扱説明書をご覧ください）

- クルーズコントロールと可変スピードリミッター
- ロードサインアシスト

ヘッドアップディスプレイによって、運転者は道路から目をそらさずにすべての情報を見ることができます。

重要な安全上の注意事項

ヘッドアップディスプレイは単なる補助に過ぎず、注意を払った走行の代わりになるものではありません。

ヘッドアップディスプレイの視界は、以下の条件に影響を受けます。

- 運転席のシートポジション
- 表示画面の位置
- 全体的な光の条件
- 偏光フィルター付きサングラス
- 濡れた路面
- ディスプレイカバーの上に置かれている障害物による日光の遮り

日光が極端に強いとき、表示部分が薄くなることがあります。これは、ヘッドアップディスプレイをオフにして、再びオンにすると元に戻ります。

i ヘッドアップディスプレイ装備車には、特殊なフロントウィンドウが取り付けられています。修理が必要な場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのフロントウィンドウを交換してください。

ヘッドアップディスプレイ**全体的な注意事項**

ヘッドアップディスプレイは、ナビゲーションシステムと運転者支援システムからの情報をダッシュボード上方の運転者の視界内に投影します。

内容を表示するための必要条件は、車両で以下の機能が使用できることとそれらが作動していることです。

- ナビゲーション
- ディストロニック・プラス

表示および操作

ヘッドアップディスプレイの作動/解除



- ▶ スイッチ ① を押します。
ヘッドアップディスプレイがオンになると、ディスプレイが運転者の視界に表示されます。

ヘッドアップディスプレイ



以下のシステムの内容と情報がヘッドアップディスプレイに表示されます。

- ① ナビゲーションのメッセージ
- ② 現在の速度
- ③ 設定したディストロニック・プラス速度 (▶ 165 ページ)
 選択したクルーズコントロール速度 (▶ 161 ページ)
 選択した可変スピードリミッター速度 (▶ 162 ページ)


ロードサインアシストがヘッドアップディスプレイのサブメニューで作動している場合は、検知された交通標識もディスプレイに表示されます。

ヘッドアップディスプレイのサブメニューの設定メニューには、以下の設定オプションがあります。

- その他のディスプレイのオン/オフの切り替え (▶ 196 ページ)
- 位置の設定 (▶ 196 ページ)
- 明るさの調整 (▶ 196 ページ)

メニューおよびサブメニュー

メニュー概要

ステアリングの  スイッチを押して、メニューのリストを呼び出してメニューを選択します。

マルチファンクションディスプレイの操作 (▶ 193 ページ)

デジタル版取扱説明書には、個別のメニューに関するさらなる情報が記載されています。

車両に装着されている装備に応じて、以下のメニューを呼び出すことができます。

- **トリップ** メニュー
- **ナビ** メニュー (ナビゲーションのメッセージ)
- **ラジオ** メニュー
- **メディア** メニュー
- **電話** メニュー
- **アシスト一覧** メニュー

- [メンテナンス](#) メニュー
- [設定](#) メニュー

ディスプレイメッセージ

はじめに

全体的な注意事項

本項目では、安全に関わるディスプレイメッセージおよびその対応方法などについて記載しています。他のメッセージおよびその対応方法の記載については、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

ディスプレイメッセージはマルチファンクションディスプレイに表示されます。

取扱説明書では記号マークを伴うディスプレイメッセージを簡略化しているため、マルチファンクションディスプレイのマークと異なる場合があります。

ディスプレイメッセージの指示に従って対応し、この取扱説明書の追加の注意事項にも従ってください。

特定のディスプレイメッセージでは、警告音も聞こえます。

ディスプレイメッセージを非表示にすることもできます。そしてディスプレイメッセージはメッセージメモリーに保存されます。できるだけすみやかにディスプレイメッセージの原因を修正してください。

車両を駐停車するときは、ホールド機能 (▷ 169 ページ) および駐車 (▷ 157 ページ) に関する注意に従ってください。

ディスプレイメッセージの非表示

▶ ディスプレイメッセージを非表示にするには、ステアリングの **OK** または **ESC** スイッチを押します。

ディスプレイメッセージが消えます。

マルチファンクションディスプレイには、重要度の高いメッセージが赤色で表示されます。一部の重要度の高いディスプレイメッセージは非表示にはできません。

これらのメッセージは、故障や異常の原因が解決するまでマルチファンクションディスプレイに常時表示されます。

メッセージメモリー

マルチファンクションディスプレイは **メッセージメモリー** 中の特定のディスプレイメッセージを保存します。以下のようにしてディスプレイメッセージを呼び出すことができます。

▶ ステアリングの **HOME** を使用して、メニューのリストを呼び出します。

▶ ステアリングの **DOWN** または **UP** スイッチを押して、**メナス** メニューを選択します。

▶ ステアリングの **OK** を押して確定します。

▶ **DOWN** または **UP** を押して、メッセージメモリーを選択します。

ディスプレイメッセージがない場合は、マルチファンクションディスプレイに **故障はありません** と表示されます。

ディスプレイメッセージがある場合は、保存されているメッセージの数が表示されます。

- ▶ を押して 確定します。
- ▶ または スイッチを押して、ディスプレイメッセージをスクロールします。

安全システム

ディスプレイメッセージ



現在 使用できません
取扱説明書を参照

考えられる原因および影響 ▶ 解決方法

ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）、ESP[®]（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）、BAS（ブレーキアシスト）、PRE-SAFE[®]、ホールド機能、ヒルススタートアシスト、クロスウインドアシスト、アダプティブブレーキライト、ステアコントロール、アクティブブレーキアシストおよびアクティブブラインドスポットアシストが一時的に作動しない。

BAS プラス、PRE-SAFE[®]ブレーキ、PRE-SAFE[®]プラスおよびCPA プラス（緊急ブレーキ機能）も故障していることがある。

メーターパネルの 、、 警告灯も点灯している。

アテンションアシストが解除されている。

例えば、バッテリーの電圧が不十分なことがある。

⚠ 警告

ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには車輪がロックするおそれがあります。

ステアリング操作やブレーキ特性が著しく影響を受けることがあります。緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがあります。

ESP[®]が作動しない場合は、ESP[®]が車両を安定させることができません。

横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。

▶ 注意して運転してください。





20 km/h 以上の速度で緩やかにステアリングを動かしながら、適切な直線路で慎重に走行してください。

ディスプレイメッセージが消えた場合は、上記の機能が再度作動可能になります。

ディスプレイメッセージが表示され続ける場合：

▶ 注意して運転してください。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にて点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
<div data-bbox="117 210 199 255"></div> <div data-bbox="207 210 288 255"></div> <p data-bbox="114 263 352 327">作動できません 取扱説明書を参照</p>	<p data-bbox="369 210 1030 367">故障のため、ABS、ESP[®]、BAS、PRE-SAFE[®]、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、クロスウインドアシスト、アダプティブブレーキライト、ステアコントロール、アクティブレーンキーピングアシストおよびアクティブブラインドスポットアシストが作動しない。</p> <p data-bbox="369 375 1030 470">BAS プラス、PRE-SAFE[®]ブレーキ、PRE-SAFE[®]プラスおよび CPA プラス（緊急ブレーキ機能）も故障していることがある。</p> <p data-bbox="369 478 1030 542">メーターパネルの 、、 および  警告灯も点灯することがある。</p> <p data-bbox="369 550 840 582">アテンションアシストが解除されている。</p> <p data-bbox="380 598 476 630">⚠ 警告</p> <p data-bbox="369 638 1030 734">ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには車輪がロックするおそれがあります。</p> <p data-bbox="369 742 1030 837">ステアリング操作やブレーキ特性が著しく影響を受けることがあります。緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがあります。</p> <p data-bbox="369 845 1030 909">ESP[®]が作動しない場合は、ESP[®]が車両を安定させることができません。</p> <p data-bbox="369 917 890 949">横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。</p> <ul data-bbox="369 957 1030 1053" style="list-style-type: none"> ▶ 注意して運転してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ

考えられる原因および影響 ▶ 解決方法



作動できません 取扱
説明書を参照

故障のため、ESP[®]、BAS、PRE-SAFE[®]、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、クロスウインドアシスト、アダプティブブレーキライト、ステアコントロール、アクティブレーンキーピングアシストおよびアクティブブラインドスポットアシストが作動しない。

BAS プラス、PRE-SAFE[®]ブレーキ、PRE-SAFE[®]プラスおよびCPA プラス（緊急ブレーキ機能）も故障していることがある。

さらに、メーターパネルの  と  警告灯も点灯している。

アテンションアシストが解除されている。

警告

ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。

緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがあります。

ESP[®]が作動しない場合は、ESP[®]が車両を安定させることができません。

横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。

- ▶ 注意して運転してください。
- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にて点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ



考えられる原因および影響 ▶ 解決方法



現在 使用できません
取扱説明書を参照

故障のため、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、クロスウインドアシスト、アダプティブブレーキライト、ステアコントロール、アクティブレーンキーピングアシストおよびアクティブブラインドスポットアシストが作動しない。

BAS プラス、PRE-SAFE®ブレーキ、PRE-SAFE®プラスおよびCPA プラス（緊急ブレーキ機能）も故障していることがある。

さらに、メーターパネルの  と  警告灯も点灯している。

例えば、自己診断がまだ完了していないことがある。
アテンションアシストが解除されている。

⚠ 警告

ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには車輪がロックするおそれがあります。

緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがあります。

ESP®が作動しない場合は、ESP®が車両を安定させることができません。

横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。

- ▶ 20 km/h 以上の速度で緩やかにステアリングを動かしながら、適切な直線路で慎重に走行してください。
ディスプレイメッセージが消えた場合は、上記の機能が再度作動可能になります。

ディスプレイメッセージが表示され続ける場合：

- ▶ 注意して運転してください。
- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にて点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ

考えられる原因および影響 ▶ 解決方法



作動できません 取扱
説明書を参照

故障のため、EBD（エレクトロニック・ブレーキパワーディストリビューション）、ABS、ESP[®]、BAS、PRE-SAFE[®]、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、クロスウインドアシスト、アダプティブブレーキライト、ステアコントロール、アクティブレーンキープアシストおよびアクティブブラインドスポットアシストが作動しない。

BAS プラス、PRE-SAFE[®]ブレーキ、PRE-SAFE[®]プラスおよびCPA プラス（緊急ブレーキ機能）も故障していることがある。

さらに、メーターパネルの  と 、 警告灯が点灯し、警告音も鳴った。

⚠ 警告







ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには前輪および後輪がロックするおそれがあります。







ステアリング操作やブレーキ特性が著しく影響を受けることがあります。緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがあります。

ESP[®]が作動しない場合は、ESP[®]が車両を安定させることができません。

横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。

- ▶ 注意して運転してください。
- ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>ブレーキ液レベル 点検してください</p>	<p>ブレーキ液リザーブタンクのブレーキ液が不十分である。さらに、メーターパネルの赤色の  警告灯も点灯し、警告音も鳴った。</p> <p>⚠ 警告</p> <p>ブレーキ性能が損なわれることがあります。事故の危険性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。状況を問わず、走行を続けないでください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください (▶ 157 ページ)。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。 ▶ ブレーキ液を補給しないでください。これを行っても問題は解消しません。
 <p>SRS システム 故障 工場点検</p>	<p>乗員保護装置が故障している。メーターパネルの  警告灯も点灯している。</p> <p>⚠ 警告</p> <p>エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しないことがあります。けがの危険性が高まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場点検を受けてください。 <p>乗員保護装置に関するさらなる情報は、(▶ 44 ページ) をご覧ください。</p>
 <p>フロント左 SRS システム故障 工場点検またはフロント右 SRS システム故障 工場点検</p>	<p>左フロントまたは右フロントの乗員保護装置に異常がある。メーターパネルの  警告灯も点灯している。</p> <p>⚠ 警告</p> <p>エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しないことがあります。けがの危険性が高まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>リア左 SRS システム故障 工場での点検またはリア右 SRS システム故障 工場での点検</p>	<p>左リアまたは右リアの乗員保護装置に異常がある。メーターパネルの  警告灯も点灯している。</p> <p>△ 警告</p> <p>エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しないことがあります。けがの危険性が高まります。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。</p>
 <p>リア中央 SRS システム故障 工場での点検</p>	<p>リア中央の乗員保護装置に異常がある。メーターパネルの  警告灯も点灯している。</p> <p>△ 警告</p> <p>エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しないことがあります。けがの危険性が高まります。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。</p>
 <p>左ウインドウバッグ故障 工場での点検または右ウインドウバッグ故障 工場での点検</p>	<p>左側または右側のウインドウバッグに故障がある。メーターパネルの  警告灯も点灯している。</p> <p>△ 警告</p> <p>左側または右側のウインドウバッグが不意に作動したり、事故のときに作動しないことがあります。けがの危険性が高まります。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。</p>

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
<p>助手席エアバッグ オフ 取扱説明書を参照</p>	<p>以下にも関わらず、走行中に助手席エアバッグが無効になっている：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 大人の乗員 または • 一定の体重より重い乗員が助手席に乗車している <p>シートに余分な力がかかっている場合は、システムが検知する体重が低くなりすぎることがあります。</p> <p>⚠ 警告</p> <p>事故の際に助手席エアバッグが作動しません。けがの危険性が高まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください (▶ 157 ページ)。 ▶ イグニッションをオフにします。 ▶ 助手席シートの乗員を車両から降ろしてください。 ▶ 助手席に乗車していないことを確認し、助手席ドアを閉じてイグニッションをオンにしてください。 ▶ センターコンソールの助手席エアバッグ表示灯、およびマルチファンクションディスプレイに注意して、以下を確認してください。 <p>シートに乗車していない、イグニッションがオンである：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 助手席エアバッグオフ表示灯および助手席エアバッグオン表示灯は、同時に約 6 秒間点灯しなければなりません。 • そのとき、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し、点灯したままにならなければなりません。表示灯が点灯している場合は、助手席エアバッグ自動解除システムは助手席エアバッグを無効にしています (▶ 54 ページ)。 • マルチファンクションディスプレイにディスプレイメッセージ 助手席エアバッグ オン 取扱説明書を参照 または 助手席エアバッグ オフ 取扱説明書を参照 が表示されていないはいけません。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	<p>▶ 必要なシステムチェックが完了するまで、60 秒以上お待ちください。</p> <p>▶ マルチファンクションディスプレイにメッセージが表示されていないことを確認してください。</p> <p>これらの条件が満たされた場合は、再度助手席に乗車することができます。助手席エアバッグオフまたはオン表示灯が点灯したままになるか、または消灯するかどうかは、助手席フロントエアバッグ自動解除システムが乗員をどのように検知したかにより異なります。</p> <p>条件が満たされていない場合は、システムは正常に作動していません。</p> <p>▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場にて点検を受けてください。</p> <p>助手席エアバッグ自動解除機能に関するさらなる情報は、(▶ 53 ページ)をご覧ください。</p>
助手席エアバッグ オン 取扱説明書を参照	<p>以下にも関わらず、走行中に助手席エアバッグが有効になっている：</p> <ul style="list-style-type: none"> • システムの重量規定値よりも軽い子供、小柄な大人、荷物が助手席にある または • 助手席シートに乗車していない <p>システムは、シートに余分な重量をかけている物や力を検知することがあります。</p> <p>⚠ 警告</p> <p>エアバッグが不意に作動することがあります。けがの危険性が高まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください (▶ 157 ページ)。 ▶ イグニッションをオフにします。 ▶ 助手席ドアを開いてください。 ▶ 助手席シートから子供とチャイルドセーフティシートを降ろしてください。

ディスプレイメッセージ

考えられる原因および影響 ▶ 解決方法

- ▶ シートに余分な力をかけている物がないことを確認してください。
さもないと、余分にかかっている力をシステムが検知し、乗員の体重を実際よりも重く判断することがあります。
- ▶ 助手席に乗車していないことを確認し、助手席ドアを閉じてイグニッションをオンにしてください。
- ▶ センターコンソールの助手席エアバッグ表示灯、およびマルチファンクションディスプレイに注意して、以下を確認してください。

シートに乗車していなく、イグニッションがオンである：

- 助手席エアバッグオフ表示灯および助手席エアバッグオン表示灯は、同時に約 6 秒間点灯しなければなりません。
- そのとき、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し、点灯したままにならなければなりません。表示灯が点灯している場合は、助手席エアバッグ自動解除システムは助手席エアバッグを無効にしています (▶ 54 ページ)。
- マルチファンクションディスプレイにディスプレイメッセージ **助手席エアバッグ オン** 取扱説明書を参照 または **助手席エアバッグ オフ** 取扱説明書を参照 が表示されてはいけません。
- ▶ 必要なシステムチェックが完了するまで、60 秒以上待つてください。
- ▶ マルチファンクションディスプレイにメッセージが表示されていないことを確認してください。

これらの条件が満たされた場合は、再度助手席に乗車することができます。助手席エアバッグオフまたはオン表示灯が点灯したままになるか、または消灯するかどうかは、助手席フロントエアバッグ自動解除システムが乗員をどのように検知したかにより異なります。

条件が満たされていない場合は、システムは正常に作動していません。

- ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場点検を受けてください。

助手席エアバッグ自動解除機能に関するさらなる情報は、(▶ 53 ページ)をご覧ください。

エンジン

ディスプレイメッセージ

考えられる原因および影響 ▶ 解決方法



冷却水が減少 停車して エンジンを停止

冷却水が熱すぎる。
警告音も鳴った。




⚠ 警告

エンジンがオーバーヒートした状態では絶対に走行しないでください。エンジンが過熱した状態で走行すると、エンジンルームに漏れたフルード類に引火するおそれがあります。ボンネットを開くことにより、過熱したエンジンからの蒸気により重度の火傷を負うおそれがあります。けがのおそれがあります。

- ▶ 道路や交通状況に注意しながらただちに停車し、エンジンを停止してください。
- ▶ 車両が動き出さないように固定してください (▶ 157 ページ)。
- ▶ エンジンが冷えるまで待ってください。
- ▶ 凍った泥などにより、エンジンラジエターへの送風が遮られていないことを確認してください。
- ▶ ディスプレイメッセージが消え、冷却水温度が 120 °C 以下になるまではエンジンを再始動しないでください。さもないと、エンジンが損傷することがあります。
- ▶ 冷却水温度表示に注意してください。
- ▶ 冷却水温度が再び上昇する場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。

通常の使用条件下で指定の冷却水レベルでは、冷却水温度が 120 °C まで上がる場合があります。

タイヤ	
ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
<p>タイヤ空気圧 タイヤを点検してください</p>	<p>タイヤ空気圧警告システムがタイヤからの急激な空気の流れを検知した。 警告音も鳴った。 考えられる原因：</p> <ul style="list-style-type: none"> • ホイールおよびタイヤの位置を変更した、または新しいホイールおよびタイヤを取り付けた • 1本または複数のタイヤ空気圧が正しくない <p>⚠ 警告</p> <p>空気圧不足のタイヤは以下のような危険をもたらします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 負荷や車両の速度が上昇すると特に、タイヤがバーストすることがあります。 • タイヤが過度に、また不均一に摩耗し、それによってタイヤの駆動力が著しく損なわれることがあります。 • 走行特性、およびステアリング操作やブレーキ操作が著しく損なわれることがあります。 <p>事故の危険性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 急ハンドルや急ブレーキを避けて停車してください。そのときは、交通状況に注意してください。 ▶ 動き出さないように、車両を固定してください (▶ 157 ページ)。 ▶ タイヤを点検し、必要に応じて、タイヤがパンクしたときの指示に従ってください (▶ 278 ページ)。 ▶ タイヤ空気圧を点検し、必要に応じてタイヤ空気圧を調整してください。 ▶ 適正なタイヤ空気圧に調整した後に、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。 (▶ 304 ページ)

車両	
ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	<p>ボンネットが開いている。警告音も鳴った。</p> <p>△ 警告</p> <p>車両が動いているときは、開いたボンネットで視界が遮られることがあります。</p> <p>事故の危険性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください (▶ 157 ページ)。 ▶ ボンネットを閉じます。
 パワーステアリング故障 取扱説明書を参照	<p>パワーステアリングのアシストが故障している。警告音も鳴った。</p> <p>△ 警告</p> <p>ステアリング操作に大きな力が必要になります。</p> <p>事故の危険性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 必要とされる大きな力を加えることができるかどうかを確認してください。 ▶ 安全にステアリング操作ができる場合：慎重にメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行してください。 ▶ 安全にステアリング操作ができない場合：走行を続けしないでください。最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
 ステアリング故障 取扱説明書参照	<p>電動ステアリングロックが故障している。</p> <p>△ 警告</p> <p>電動ステアリングロックによりステアリングがロックされている可能性があります。</p> <p>事故の危険性があります。</p>

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	<ul style="list-style-type: none">▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。▶ 車両が動き出さないように固定してください (▶ 157 ページ)。▶ 走行を続けず、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

メーターパネルの警告および表示灯

全体的な注意事項

この章では、メーターパネルに表示される安全に関わる表示灯と警告灯および対応方法について説明しています。メーターパネルに表示される他の表示灯と警告灯の概要および対応方法については、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

安全性

シートベルト

警告/表示
灯

▷ シグナルタイプ

考えられる原因および影響 ▶ 解決方法



▷ エンジンを始動した後、運転席ドアまたは助手席ドアを閉じるとすぐに、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。

運転者または助手席乗員がシートベルトを着用していない。

▶ シートベルトを着用してください (▷ 48 ページ)。

警告灯が消灯します。

助手席シートの上に荷物を置いている。

▶ 助手席シートから物を取り除き、安全な場所に収納してください。

警告灯が消灯します。



▷ 赤色のシートベルト警告灯が点滅し、断続的な警告音も鳴った。

運転者または助手席乗員がシートベルトを着用していない。その状態で、約 25 km/h 以上の速度で走行している。または速度が一時的に約 25 km/h を超えた。

▶ シートベルトを着用してください (▷ 48 ページ)。

警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。

助手席シートの上に荷物を置いている。その状態で、約 25 km/h 以上の速度で走行している。または速度が一時的に約 25 km/h を超えた。

▶ 助手席シートから物を取り除き、安全な場所に収納してください。

警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。

安全システム

警告/表示
灯

▷ シグナルタイプ

考えられる原因および影響 ▶ 解決方法

①

⚠ 警告

ブレーキシステムが故障しているため、ブレーキの作動に影響を与えることがあります。

事故の危険性があります。

- ▶ マルチファンクションディスプレイにメッセージが表示されているときは、そのメッセージに従ってください。
- ▶ 注意して運転してください。
- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。

②

▷ エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯する。警告音も鳴った。

⚠ 警告

ブレーキの倍力装置が故障しているため、ブレーキの作動に影響を与えることがあります。

事故の危険性があります。

- ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。状況を問わず、走行を続けしないでください。
- ▶ 車両が動き出さないように固定してください (▶ 157 ページ)。
- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。
- ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。

警告/表示
灯

▷ シグナルタイプ

考えられる原因および影響 ▶ 解決方法



▷ エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯する。
警告音も鳴った。

ブレーキ液リザーブタンクのブレーキ液が不十分である。

警告

ブレーキ性能が損なわれることがあります。

事故の危険性があります。

- ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。状況を問わず、走行を続けしないでください。
 - ▶ 車両が動き出さないように固定してください (▷ 157 ページ)。
 - ▶ ブレーキ液を補給しないでください。補給しても問題は解消しません。
 - ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。
 - ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。
-

警告/表示
灯

▷ シグナルタイプ

考えられる原因および影響 ▶ 解決方法



▷ エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。ABS (アンチロック・ブレーキング・システム) に異常があるため機能が解除されている。そのため、BAS (ブレーキアシストシステム)、BAS プラス、CPA プラス (緊急ブレーキ機能)、ESP® (エレクトロニック・スタビリティ・プログラム)、クロスウインドアシスト、PRE-SAFE®, PRE-SAFE® プラス、PRE-SAFE® ブレーキ、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライト、ステアコントロール、アクティブレーンキーピングアシストおよびアクティブブラインドスポットアシストなども解除されている。アテンションアシストが解除されている。

 警告

ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには車輪がロックするおそれがあります。

ステアリング操作やブレーキ特性が著しく影響を受けることがあります。緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがあります。

ESP®が作動しない場合は、ESP®が車両を安定させることができま

せん。横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。

- ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。
- ▶ 注意して運転してください。
- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ABS コントロールユニットが故障している場合は、ナビゲーションシステム、オートマチックトランスミッションのような他のシステムも作動しなくなることがあります。

警告/表示
灯

▷ シグナルタイプ

考えられる原因および影響 ▶ 解決方法



▷ エンジンがかかっているときに黄色色の ABS 警告灯が点灯する。警告音も鳴った。

故障のため EBD が作動しない。そのため、ABS、BAS、BAS プラス、CPA プラス（緊急ブレーキ機能）、ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）、クロスウインドアシスト、PRE-SAFE®、PRE-SAFE®プラス、PRE-SAFE®ブレーキ、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライト、ステアコントロール、アクティブレーンキーピングアシストおよびアクティブブラインドスポットアシストも作動しない状態になっている。アテンションアシストが解除されている。

警告

ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには前輪および後輪がロックするおそれがあります。

ステアリング操作やブレーキ特性が著しく影響を受けることがあります。緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがあります。

ESP®が作動しない場合は、ESP®が車両を安定させることができません。

横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。

- ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。
- ▶ 注意して運転してください。
- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。

警告/表示灯

▷ シグナルタイプ

考えられる原因および影響 ▶ 解決方法



▷ エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯、黄色のESP[®]表示灯、ESP[®]オフ表示灯および黄色のABS 警告灯が点灯する。

故障のため、ABS および ESP[®]が作動しない。そのため、BAS、BAS プラス、CPA プラス（緊急ブレーキ機能）、EBD、PRE-SAFE[®]、PRE-SAFE[®]プラス、PRE-SAFE[®]ブレーキ、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、クロスウインドアシスト、アダプティブブレーキライト、ステアコントロール、アクティブレーンキーピングアシストおよびアクティブブラインドスポットアシストも作動しない状態になっている。

アテンションアシストが解除されている。

警告

ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには前輪および後輪がロックするおそれがあります。

ステアリング操作やブレーキ特性が著しく影響を受けることがあります。緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがあります。

ESP[®]が作動しない場合は、ESP[®]が車両を安定させることができません。

横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。

- ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。
- ▶ 注意して運転してください。
- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。

警告/表示
灯

▷ シグナルタイプ

考えられる原因および影響 ▶ 解決方法



▷ エンジンがかかっている間に、黄色の ESP[®]警告灯が点灯している。故障のため、ESP[®]、BAS、BAS プラス、CPA プラス（緊急ブレーキ機能）、PRE-SAFE[®]、PRE-SAFE[®]プラス、PRE-SAFE[®]ブレーキ、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、クロスウインドアシスト、アダプティブブレーキライト、ステアコントロール、アクティブレーンキーピングアシストおよびアクティブブラインドスポットアシストが作動しない状態になっている。
アテンションアシストが解除されている。

警告

ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがあります。ESP[®]が作動しない場合は、ESP[®]が車両を安定させることができません。
横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。

- ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。
- ▶ 注意して運転してください。
- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。

警告/表示灯

▷ シグナルタイプ
考えられる原因および影響 ▶ 解決方法



ESP®が解除されている。

警告

ESP®が解除されている場合は、ESP®が車両を安定させることができません。

横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。

▶ ESP®を再度設定してください。

まれに (▷ 85 ページ)、ESP®を解除したほうが良い場合があります。

ESP®に関する重要な安全上の注意事項に従ってください (▷ 83 ページ)。

▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。

ESP®を設定することができない場合：

▶ 注意して運転してください。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場 で ESP®の点検を受けてください。



▷ エンジンがかかっているときに赤色の乗員保護装置警告灯が点灯する。

乗員保護装置が故障している。

警告

エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しないことがあります。

けがの危険性が高まります。

▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。

▶ 注意して運転してください。

▶ すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場 で乗員保護装置を点検してください。

乗員保護装置に関するさらなる情報は、(▷ 44 ページ) をご覧ください。

エンジン

警告/表示灯

▷ シグナルタイプ

考えられる原因および影響 ▶ 解決方法



▷ エンジンがかかっているときに赤色の冷却水警告灯が点灯する。警告音も鳴った。

冷却水温度が約 120 °Cを超えている。エンジンラジエターへの送風が遮られているか、冷却水レベルが低すぎることもある。

⚠ 警告

エンジンが十分に冷却されないため、エンジンが損傷するおそれがある。

エンジンがオーバーヒートした状態では絶対に走行しないでください。エンジンが過熱した状態で走行すると、エンジンルームに漏れたフルード類に引火するおそれがあります。



ボンネットを開くことにより、過熱したエンジンからの蒸気により重度の火傷を負うおそれがあります。

けがのおそれがあります。

- ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。
- ▶ 道路や交通状況に注意しながらただちに停車し、エンジンを停止してください。
- ▶ 動き出さないように、車両を固定してください (▷ 157 ページ)。
- ▶ 車両から降り、エンジンが冷えるまで車両から安全な距離を確保してください。
- ▶ 注意事項 (▷ 268 ページ) に従って、冷却水レベルを点検し、冷却水を補給してください。
- ▶ 頻繁に冷却水を補給する必要がある場合は、エンジン冷却システムの点検を受けてください。
- ▶ 凍った泥などにより、エンジンラジエターへの送風が遮られていないことを確認してください。
- ▶ 冷却水温度が約 120 °C以下のときは、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行することができます。
- ▶ そのときは、山道の走行や、停止/発進を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷は避けてください。



走行システム

警告/表示灯 ▷ シグナルタイプ
考えられる原因および影響 ▶ 解決方法

-  ▷ 車両が動いている間に赤色の距離警告灯が点灯する。選択された速度に対し、先行車両との距離が近すぎる。
▶ 距離を広げてください。
-
-  ▷ 車両が動いている間に赤色の距離警告灯が点灯する。警告音も鳴った。進行方向にいる車両または静止している障害物に急速に接近している。
▶ ただちにブレーキを効かせる準備をしてください。
▶ 交通状況に注意して運転してください。ブレーキ操作や危険回避操作が必要となることがあります。
- PRE-SAFE®ブレーキについて詳しくは、(▷ 86 ページ) をご覧ください。
- CPA プラス (緊急ブレーキ機能) の車間距離警告機能について詳しくは(▷ 80 ページ)をご覧ください。

車両

警告/表示灯 ▷ シグナルタイプ
考えられる原因および影響 ▶ 解決方法

-  ▷ エンジンがかかっている間に赤色のパワーステアリング警告灯が点灯する。
パワーステアリングのアシストが故障している。
警告音も鳴った。
-  **警告**
- ステアリング操作に大きな力が必要になります。
事故の危険性があります。
- ▶ 必要とされる大きな力を加えることができるかどうかを確認してください。
 - ▶ **安全にステアリング操作ができる場合**：慎重にメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行してください。
 - ▶ **安全にステアリング操作ができない場合**：走行を続けしないでください。最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

全体的な注意事項	226
重要な安全上の注意事項	226
機能の制限	226
COMAND システムの操作システム	227

全体的な注意事項

これらの取扱説明書の COMAND システムの項目には、COMAND システムの操作の基本原則が記載されています。さらなる情報はデジタル版取扱説明書をご覧ください。

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

走行中に車両のマルチファンクションディスプレイや COMAND システムの操作を行なうと、交通状況に対する注意が払われなくなります。また車のコントロールを失うおそれがあります。事故の危険性があります。

交通状況が安全な時にのみ、操作するようにしてください。安全が確保されない場合は、必ず安全な場所に停車してから操作してください。

COMAND システムを操作するときは、そのときに運転している国の法規則に従ってください。

COMAND システムは、例えば以下のことを考慮せずに目的地までのルートを検索します。

- 信号
- 一時停止および優先標識
- 駐車または停車の規制
- 道路の道幅の狭さ
- その他、道路や交通ルール、規則

COMAND システムは地図上のデータが実際の状況と違う場合には、適切でない走行案内をすることがあります。例えば、道が変更されたり、または一方通行の方向が変更になったときです。

このため、走行中は、道路や交通ルール、規則に常に従ってください。システムの走行案内よりも道路や交通ルール、規則を常に優先してください。

わずか 50 km/h の速度でも、車両は 1 秒あたり約 14 m の距離を進むことを念頭においてください。

機能の制限

安全上の理由のため、車両が動いている間はいくつかの機能が制限されたり、利用できません。このことは、例えば、いくつかのメニュー項目が選択できなかったり、このことに関してのメッセージが表示されることで、確認できます。

COMAND システムの操作システム

概要

構成部品



- ① ディスプレイ
- ② DVD チェンジャー/シングル DVD ドライブ
- ③ タッチパッド
- ④ コントローラー

COMAND システムは以下のものから構成されています。

- ディスプレイ
COMAND ディスプレイは 960 x 540 ピクセルです。
- DVD チェンジャー/シングル DVD ドライブ
- スイッチ
- コントローラー
- タッチパッド
- センターコンソール内のポート（2つの USB、AUX）

iPod® は USB ケーブル経由で接続されます。

コントローラーおよびタッチパッドにより、2つの方法で入力および機能選択を行なうことができます。

機能

- **FM ラジオ/AM ラジオ（交通情報）**
インターネットラジオ。通信をご覧ください。
- **メディア**

サポートしているメディア：オーディオ CD、MP3 CD、DVD ビデオ（COMAND システム）、USB またはメディアインターフェース（例：iPod®）用の 2 つの接続オプション、

SD カード、iPod[®]、Bluetooth オーディオ

ハードドライブの 10 GB メディアレジスター

すべてのメディアを使用したミュージックサーチ

電子番組ガイド (EPG)、放送局切り替え、BML データ受信、字幕、追加情報 (字幕スーパー) および言語選択オプション、放送メール、緊急警告システムのあるテレビおよびラジオ放送局のデジタルテレビ受信

• サウンドシステム

以下の 2 つのサウンドシステムから選択できます。

標準的なサウンドシステム

Burmester[®] サラウンドサウンドシステム

• ナビゲーションシステム

ハードドライブによるナビゲーションキーワード検索を使用しての目的地の入力

Mercedes-Benz Apps を使用した目的地入力

都市モデルを再現したリアルな 3D 地図

ドライブインフォメーション、Google マップのような運転者/助手席乗員のためのナビゲーション機能

VICS/DSRC での渋滞回避探索

ETC でのルート案内

• 電話

アドレス帳

インターネットブラウザ

Mercedes-Benz Apps (Google[™] ローカル検索、目的地/道路のダウンロード (COMAND システム)、天候、Facebook、Google[™] ストリートビュー (COMAND システム)、イン

ターネットラジオ、株価、ニュースなど)

スマートフォンを COMAND システムに接続するための WiFi インターフェース

お客様の携帯電話を使用してインターネットにアクセスできるようにするための、タブレット PC またはラップトップ接続用 WiFi ホットスポット機能

• 車両機能

アンビエントライト、シートベルト調整およびけん引防止機能のような車両設定

360° カメラシステム

リアビューカメラ

エアコンディショナーモード、パフュームアトマイザーおよび補助ヒーターのようなクライメートコントロール機能

アジリティセレクト (それぞれの走行モード)

• お気に入り機能

コントローラーまたはタッチパッドのお気に入りスイッチを使用しての、お気に入り機能へのクイックアクセス

ディスプレイ

全体的な注意事項

❗ 収納のためにディスプレイの前のスペースを使用しないでください。ここに置かれたものにより、ディスプレイを損傷したり、機能が損なわれることがあります。ディスプレイの表面に直接触れないようにしてください。ディスプレイの表面にかかる力で、復元できないような損傷をディスプレイに与えるおそれがあります。

偏光サングラスを着用するとディスプレイの視認性が損なわれることがあります。ディスプレイは温度制御による自動スイッチオフの機能があります。気温が高

すぎると、明るさは自動的に低下します。必要であれば、画面は一時的に完全にオフになります。

スプレイの表面を損傷するおそれがあります。

概要



- ① 他の表示を表示できる、交通案内のあるステータスバー
- ② カバー表示
- ③ 基本画面欄
- ④ エアコンディショナーの作動表示

例は、COMAND システムの SD メモリーカードモードでの表示を示しています。

手入れの説明

! ディスプレイには触れないでください。ディスプレイはとても繊細な高光沢の表面のため、損傷するおそれがあります。画面をきれいにする場合には、中性洗剤と柔らかく毛羽の立たない布を使用してください。

清掃を始める前に、ディスプレイをオフにして、冷ましてください。必要なときは市販のマイクロファイバークロスと TFT/LCD ディスプレイ用の洗剤でディスプレイ画面を清掃してください。ディスプレイの復元不可能な損傷の原因になるおそれがあるため、清掃するときはディスプレイ表面に力を加えないでください。そして乾いたマイクロファイバーの布で表面を拭き取ってください。

アルコール性シンナーや、ガソリン、研磨洗剤を使用しないでください。ディ


スイッチおよびコントローラー


概要




- ① 電話、アドレス帳およびインターネットスイッチ
- ② 車両およびシステム設定スイッチ
- ③ 音量の調整または消音
- ④ COMAND システムの作動/停止の切り替え
- ⑤ お気に入りスイッチ
- ⑥ リターンスイッチ
- ⑦ ナビゲーションスイッチ
- ⑧ ラジオスイッチ
- ⑨ メディアスイッチ

リターンスイッチ

 スイッチを使用してメニューを終了したり、現在の操作モードの基本画面を呼び出すことができます。

▶ **メニューを終了する**：  スイッチを軽く押します。

COMAND システムは現在の操作モードのなかで、1 つ上のメニュー階層に切り替わります。

▶ **基本画面を呼び出す**： 2 秒以上  スイッチを押します。




COMAND システムは現在の操作モードの基本画面に切り替わります。



コントローラー

センターコンソールのコントローラーにより、以下を行なうことができます。

- ディスプレイのメニュー項目を選択する
- 文字を入力する
- 地図で目的地を選択する
- 入力を保存する

コントローラーでは、以下のことができます。

- まわす 
- 左右にスライドする 
- 前後にスライドする 

- 斜めにスライドする 
- 軽く押す、または押して保持する 

タッチパッド

代わりに、タッチパッドを使用して情報を選択して入力できます (▷ 231 ページ)。

タッチパッド

タッチパッドの概要

! タッチパッド上で鋭利なものを使用しないでください。タッチパッドが損傷するおそれがあります。



- ① タッチ感応面
- ② お気に入りスイッチ
- ③ オーディオおよび電話のクイックアクセスの呼び出し
- ④ リターンスイッチ

タッチパッドを使用して以下のことができます。

- ディスプレイ上のメニュー項目を選択する (▷ 231 ページ)。
- 文字を入力する (手書き認識) (▷ 233 ページ)。
- 作動しているオーディオソースを操作する (▷ 235 ページ)。
- お気に入りを作成する、管理する、および呼び出す。
- ナビゲーションで目的地を入力する。
- 入力を保存する。

タッチパッドの操作についてのさらなる情報は、(▷ 231 ページ)をご覧ください。

タッチパッド上で指を強く押さないでください。故障の原因になります。

タッチパッドの操作

メニュー項目を選択する



- ▶ いずれかの指で、タッチ感応面に触れます。
- ▶ 指を上、下、左または右に動かします。動かす方向に応じて、ディスプレイで選択したものが動きます。

このようにして、リストまたはメニューで閲覧できます。

選択を確定する



- ▶ 押し応えを感じるまで、指でタッチ感応面を押します。メニュー、オプションまたはアプリケーションが開始します。

オーディオおよび電話のクイックアクセスを呼び出す



- ▶ 2本の指で、タッチ感応面の下の部分に触れます。
- ▶ 指を上を動かします。クイックアクセスが表示されます。

オーディオおよび電話のクイックアクセスについてのさらなる情報は、(▶ 235 ページ)をご覧ください。

オーディオおよび電話のクイックアクセスの非表示



- ▶ 2本の指でタッチ感応面に触れます。
- ▶ 指を下を動かします。クイックアクセスが非表示になります。

車両とサウンド設定の制御操作



- ▶ 2本の指を少し離して、タッチ感応面に触れます。
- ▶ 両方の指を時計回りにまわします。制御の設定が増加します。または
- ▶ 両方の指を反時計回りにまわします。制御の設定が減少します。

地図を動かす



- ▶ 押し応えを感じるまで、指でタッチ感応面を押します。クロスカーソルが表示されます。



- ▶ いずれかの指でタッチ感応面に触れます。
- ▶ 指をいずれかの方向に動かします。動かした方向に地図が動きます。

地図を拡大する



- ▶ 2本の指を少し離して、タッチ感応面に触れます。
- ▶ それぞれを遠ざけるように、指を動かします。地図の縮尺が拡大されます。

地図を縮小する



- ▶ 2本の指を少し離して、タッチ感応面に触れます。
- ▶ それぞれを近づけるように、指を動かします。地図の縮尺が縮小されます。

手書き認識

手書き認識の概要

テキスト、数字または文字の手書き認識を入力行で使用することができます。



- ① 有効になっている入力行
- ② スペースの入力 (▶ 234 ページ)
- ③ タッチ感応面のイラスト
- ④ 文字の削除 (▶ 234 ページ)

入力した文字がさまざまな意味に解釈できる場合は、その選択肢が表示されます。文字候補についてのさらなる情報は、(▶ 234 ページ)をご覧ください。



- ① メニューの終了
- ② 手書き認識機能に戻る
- ③ 電話帳またはテキストのテンプレートを使用する (COMAND システム)
- ④ 入力行またはカーソルの位置を変更する
- ⑤ 入力言語を変更する
- ⑥ 文字入力を終了する

- ▶ **メニューを表示する**：タッチパッドを押します。

テキスト、数字または文字の手書き認識を入力行で使用することができます。

文字の入力

- ▶ いずれかの指で、タッチ感応面の希望の文字を手書きします。認識された文字が入力行に入力されます。タッチ感応面に次の文字を手書き入力できます。

文字がさまざまな意味に解釈できる場合は、その選択肢が表示されます。

文字候補に関するさらなる情報は、(▶ 234 ページ)をご覧ください。

文字候補



- ① 認識された文字
- ② 文字候補

- ▶ 文字候補を選択する：コントローラーをまわします。自動的に認識された文字の代わりに、選択された文字が入力されます。文字入力を続けることができます。

スペースの入力

- ▶ 指でタッチ感応面に触れ、右に動かします。スペースが入力行に入力されます。

文字を削除する

- ▶ 指でタッチ感応面に触れ、左に動かします。最後に入力した文字が削除されます。

入力行を切り替える



- ▶ タッチパッドを押します。マークが表示されます。
- ▶ **[T]** を選択する：指を左または右に動かし、押します。
- ▶ 希望の入力行を選択する：上または下に動かし、押します。選択した入力行が作動し、文字入力を続けることができます。

入力行内でのカーソルの移動



- ▶ タッチパッドを押します。マークが表示されます。
- ▶ **[T]** を選択する：指を左または右に動かし、押します。
- ▶ カーソルを動かす：左または右に動かします。

リスト内で検索する

例では、電話帳検索が使用されています。最初に入力した文字により、検索する連絡先の先頭文字を決定します。

- ▶ タッチパッド面で文字を手書きします。選択した先頭文字の最初の連絡先が、電話帳で強調されます。
タッチパッドの手書き認識についてのさらなる情報は、(▷ 233 ページ)をご覧ください。
- ▶ タッチパッド面に追加文字を 1 つずつ手書きします。
- ▶ 検索を終了し電話帳に戻る：タッチパッドを押します。

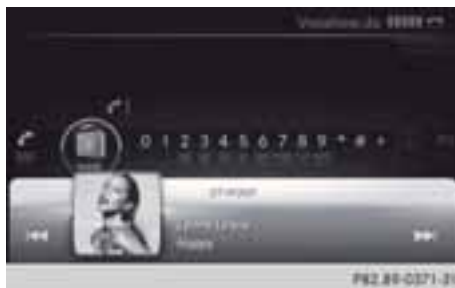
入力機器として、コントローラーとタッチパッドの間で切り替える

前提条件：テキスト、数字または文字の入力行が選択されている。

- ▶ **コントローラーを使用しての文字入力からタッチパッドの手書き認識に切り替える**：いずれかの指でタッチパッドを押します。
タッチパッドの手書き認識が作動します。
- ▶ **タッチパッドの手書き認識からコントローラーを使用しての文字入力に切り替える**：コントローラーを押します。
コントローラーを使用しての文字入力作動します。

オーディオおよび電話のクイックアクセス

放送局/音楽トラックの変更



現在作動しているオーディオソースに応じて、この機能を使用して次の放送局または音楽トラックを選択できます。

- ▶ **クイックアクセスを呼び出します** (▷ 232 ページ)。
現在のオーディオソースが表示されます。
- ▶ **前または次の放送局/音楽トラックを選択する**：右または左に動かします。
選択した放送局/音楽トラックが再生されます。

オーディオソースの変更



- ▶ **クイックアクセスを呼び出します** (▷ 232 ページ)。
現在のオーディオソースが表示されます。
- ▶ **使用可能なオーディオソースを表示する**：いずれかの指を下に動かします。
- ▶ **オーディオソースを選択する**：指を左または右に動かし、押します。
選択したオーディオソースが再生されます。

お気に入り

お気に入りの概要



- ① 新しいお気に入りを追加する
- ② 選択したお気に入りの名前を変更する
- ③ 選択したお気に入りを移動する
- ④ 選択したお気に入りを削除する

お気に入りの概要を表示する

- ▶ コントローラーのお気に入りスイッチを押します。

または

- ▶ タッチパッドのお気に入りスイッチを押します。
お気に入りが表示されます。
- ▶ メニューバーを表示する：コントローラーをスライドします ◎↓。

タッチパッドに関するさらなる情報。
(▶ 231 ページ)

お気に入りの呼び出し

- ▶ コントローラーのお気に入りスイッチを押します。

または

- ▶ タッチパッドのお気に入りスイッチを押します。
お気に入りが表示されます。
- ▶ コントローラーをまわして押します。
お気に入り呼び出されます。

お気に入りの追加

- ▶ コントローラーのお気に入りスイッチを押します。

または

- ▶ タッチパッドのお気に入りスイッチを押します。
- ▶ メニューバーを表示する：コントローラーをスライドします ◎↓。
- ▶ **再設定** を選択する：コントローラーをまわして、押します。
使用可能なお気に入りのカテゴリーが表示されます。

- ▶ カテゴリーを選択する：コントローラーをまわし、押して確定します。
対応するお気に入りが表示されます。
- ▶ 希望のお気に入りを選択する：コントローラーをまわして、押します。
- ▶ 希望の順序でお気に入り保存する：コントローラーをまわして、押します。
お気に入り追加されます。
他のお気に入りのお気に入り保存される場合は、下のお気に入り削除されます。

全部で 20 個のお気に入りを管理できません。

お気に入りを削除する

- ▶ コントローラーのお気に入りスイッチを押します。

または

- ▶ タッチパッドのお気に入りスイッチを押します。
- ▶ 削除するお気に入りを選択する：コントローラーをまわします。
- ▶ メニューバーを表示する：コントローラーをスライドします ◎↓。
- ▶ **削除** を選択する：コントローラーをまわして、押します。

- ▶ **はい**を選択する：コントローラーをまわして、押します。
お気に入り削除されます。


または

- ▶ **いいえ**を選択する：コントローラーをまわして、押します。
処理が中止されます。

車両設定の呼び出し

車両設定の呼び出し




- ▶  スイッチを押します。
車両メニューが表示されます。
- ▶ **車両設定** を選択する：コントローラーを押します。
- ▶ 希望する車両設定項目を選択する：コントローラーをまわして、押します。
メインエリアに設定内容が表示されます。

他の車両設定の選択：

- ▶ 車両設定を選択するためのメニューを
作動させる：コントローラーをスライド
します ◎↑。

車両設定の終了：

- ▶  を選択する：コントローラーをスライドして ◎↓、押します。



例：イージーエントリー機能の設定

- ▶ 車両設定を呼び出します。
- ▶ **車両設定** メニューで **イージーエントリー** メニューを選択する：コントローラーをまわして、押します。
設定項目が作動します。
- ▶ 設定を変更する：コントローラーを押します。

さらなる情報は、車両の取扱説明書にあります。

ナビゲーション

はじめに

重要な安全上の注意事項

警告

走行中に車両のマルチファンクションディスプレイやCOMANDシステムの操作を行なうと、交通状況に対する注意が払われなくなります。また車のコントロールを失うおそれがあります。事故の危険性があります。

交通状況が安全な時にのみ、操作するようにしてください。安全が確保されない場合は、必ず安全な場所に停車してから操作してください。

ナビゲーションシステムを操作するときは、そのときに運転している国の法規則に従ってください。

全体的な注意事項

COMAND システムを使用しているナビゲーションについてのさらなる情報は、デジタル版取扱説明書にあります。

GPS を受信することにより、ナビゲーションシステムは正しく機能します。トンネル内や立体駐車場にいるときなど、いくつかの状況では、GPS の受信に障害が生じたり、干渉があったり、またはまったく受信できないことがあります。5 km/h 以上の車両速度では、データ入力は制限されます。

i ルーフラックが使用されている場合は、ルーフアンテナ（電話、GPS）の機能が損なわれることがあります。

ナビゲーションモードへの切り替え

- ▶ **[NAVI]** スイッチを押します。
地図に現在の車両位置が表示されます。

メニューの表示/非表示

- ▶ 表示する：地図が表示されているときに、コントローラーをスライドします
◎↓。
- ▶ 非表示にする：**[←]** スイッチを押します。

目的地の検索

目的地検索オプション

住所検索

施設（ガソリンスタンド、レストランなど）の検索

さまざまな地点の施設（ガソリンスタンド、レストランなど）の検索

電話番号を使用して検索する

アルファベットまたはかな検索（設定されているシステム言語による）

郵便番号を使用して検索する

メモリ地点での検索

以前の目的地を検索する

連絡先の検索

Mercedes-Benz Apps

要件：データパッケージ付き携帯電話が COMAND システムに接続されている。

- ▶ ステップ 1：オプションの 1 つを使用して目的地を検索します。
- ▶ ステップ 2：**設定**を使用して、クロスカーソルのある地図で目的地を選択します。
目的地が設定されます。ルートが検索されます。
- ▶ ステップ 3：全ルート図でルート案内を開始します。

例：住所検索



- ▶ メニューを表示します（▶ 238 ページ）。
- ▶ **目的地** を選択する：コントローラーをまわして、押します。
- ▶ **目的地検索** を選択します。
- ▶ **住所** を選択します。

- ▶ **地域を選択する**：コントローラーをスライドします ◀◎▶。
地域が北海道から東北、関東などに切り替わります。
- ▶ **都道府県を選択する**：コントローラーをまわして、押します。



- ▶ **最初の文字を選択する**：コントローラーをスライドします ◀◎▶。
- ▶ **場所を選択する**：コントローラーをまわして、押します。



- ▶ **千代田区の中心** を選択する、または住所入力を続けます。
クロスカーソルのある地図に選択された住所周辺を表示します。
- ▶ **設定** を選択する：コントローラーをまわして、押します。
目的地までのルート案内が完了すると、全ルート図が表示され、推奨ルート（エコ）が表示されます。



- ▶ **開始** を選択する：コントローラーを押します。
ルート案内を開始します。
- ❶ 例えば、全ルート図で以下のことができます。

- 自動車専用道路の分岐点の入口および出口（IC）の変更
- 4 つまでの通過点（WP）の入力
- 代替ルート（5 ルート）の選択

ルート案内

COMAND システムは、ナビゲーションの案内およびルート案内表示で目的地まで案内します。

- ❶ 実際の道路/交通状況が地図のデータと一致しない場合は、COMAND システムは適切でないナビゲーション案内を行なうことがあります。道路や交通ルール、規則は常に、システムの推奨走行に優先します。



進路変更の前および間は、地図がディスプレイ左側に、分岐点表示または 3D 画

像が右に表示されます。複数車線道路の表示の下に、推奨車線（白色の矢印）が表示されることがあります。

ナビゲーションの音声案内

- ▶ 音量を設定する：ナビゲーションの案内中にダイヤルをまわします。
- ▶ 設定/解除する：ナビゲーションの案内中にダイヤルをまわします。
- ▶ 特別なナビゲーションメッセージのオン/オフを切り替える：メニューを表示します。(▶ 238 ページ)
- ▶ **オプション** を選択します。
- ▶ **設定** を選択します。
- ▶ **音声** を選択します。
以前の設定によって、機能がオン またはオフ のいずれかに切り替わります。
カーブまたは危険な交差点の前、または学校に接近しているときにナビゲーションの音声案内が聞こえます。

ルート情報

- ▶ メニューを表示します (▶ 238 ページ)。
- ▶ **ルート** を選択する：コントローラーをまわして、押します。
- ▶ **ルート情報** を選択します。

ルート案内の中止/継続

- ▶ コントローラーを押します。
- ▶ **目的地** を選択する：コントローラーをまわして、押します。
- ▶ **案内中止** または **ルート案内を継続** を選択します。

VICS/DSRC での渋滞回避探索

車両に適切な装備がある場合は、COMAND システムは VICS データを受信して表示し、ルート案内に考慮することができます。

渋滞回避探索のオン/オフを切り替える

- ▶ ナビゲーションモードに切り替える：
NAVI スイッチを押します。
- ▶ メニューを表示する：コントローラーをスライドします **⇩**。
- ▶ **オプション** を選択する：コントローラーをまわして、押します。
- ▶ **設定** を選択します。
- ▶ **渋滞回避探索** を選択します。
以前の設定によって、機能がオン またはオフ のいずれかに切り替わります。

地図の表示をオンにする

- ▶ メニューを表示します (▶ 238 ページ)。
- ▶ **オプション** を選択する：コントローラーをまわして、押します。
- ▶ **VICS 表示** を選択します。
- ▶ 例えば、**VICS 高速道** を選択します。
VICS 表示のオン またはオフ を切り替えます。



- ▶ **VICS** を選択する：コントローラーをまわして、押します。
- ▶ **VICS 交通情報** を表示する：メニュー項目を選択します。

地図機能


地図の縮尺を設定する

要件：地図が全画面モードになっていて、メニューが非表示になっている (▷ 238 ページ)。

- ▶ 希望の縮尺が設定されるまで、コントローラーをまわします。

地図を動かす

要件：地図が全画面モードになっていて、メニューが非表示になっている (▷ 238 ページ)。

- ▶ コントローラーをスライドします
◀◎▶、↑◎↓ または 。
クロスカーソルが表示されます。クロスカーソルの下で、対応する方向に地図が動きます。


地図の縮尺によっては、地図を動かすと、隣接している地域、区、または都道府県が表示されます。

- ① コントローラーを押すと、地図上の目的地が選択されます。

地図向きを選択

- ▶ メニューを表示します (▷ 238 ページ)。
- ▶ **アクション** を選択する：コントローラーをまわして、押します。
- ▶ **地図表示切替** を選択します。
ドット・は、現在の設定を示しています。
- ▶ コントローラーをまわして、押します。
地図の向きが設定されます。

日本語と英語の地図を切り替える

- ▶  スイッチを押します。
- ▶ **設定** を選択する：コントローラーをスライドしてから ◎↓、まわして、押しで確定します。

- ▶ **言語 / Language** を選択する：コントローラーをまわして、押します。
- ▶ **英語** または **日本語** を選択します。

オンライン地図表示を呼び出す

要件：データパッケージ付き携帯電話が COMAND システムに接続されている。

- ▶ メニューを表示します (▷ 238 ページ)。
- ▶ コントローラーを 2 度スライドします
↑◎。
- ▶ コントローラーを押します。
ナビゲーションメニューが表示されます。
- ▶ **オンラインマップ表示** が前面にくるまで、コントローラーをまわします。
- ▶ コントローラーを押します。
オンライン接続が確立されます。接続が確立されると、Google™ マップの地図は現在の車両位置周辺を表示します。

ドライブインフォメーションの呼び出し




- ▶ メニューを表示します (▷ 238 ページ)。
- ▶ コントローラーを 2 度スライドします
↑◎。
- ▶ コントローラーを押します。
ナビゲーションメニューが表示されます。
- ▶ **ドライブインフォメーション** が前面にくるまで、コントローラーをまわします。
ドライブインフォメーション 起動中... お待ちください... というメッセージが表示されます。
現在の車両位置および目的地周辺の地図がそれぞれの縮尺で表示され、これらは自動的に順番に表示されます。

携帯電話の脱着

条件

Bluetooth®インターフェース経由での電話機能には、Bluetooth®対応の携帯電話が必要です。携帯電話は、ハンズフリープロファイル 1.0 以上に対応している必要があります。

COMAND システム上で

- ▶ Bluetooth®を作動させる：センターコンソールの  スイッチを押します。
車両メニューが表示されます。
- ▶ **設定** を選択する：コントローラーをスライドしてから 、まわして、押しで確定します。
メニューが表示されます。
- ▶ Bluetooth  を選択する：コントローラーをまわして、押します。
これは Bluetooth®を作動 または解除 させます。

携帯電話上で

- ▶ 操作を促されたときは、携帯電話をオンにして、パスコードを入力します（メーカーの取扱説明書をご覧ください）。
- ▶ Bluetooth®を、そして必要な場合は他の機器の Bluetooth®探索を作動させます（メーカーの取扱説明書をご覧ください）。
一部の携帯電話では、この探索に時間の制限があります（メーカーの取扱説明書をご覧ください）。
- ▶ 必要な場合は携帯電話の Bluetooth®機器名を設定します。

1 つのメーカーの製品のすべての Bluetooth®機器名が同じであることがあります。お客様の携帯電話を明確に特定できるようにするためには、機器名を変更してください（メーカーの取扱説明

書をご覧ください）。名前は自由に選択できます。

携帯電話が PBAP Bluetooth®プロファイル（Phone Book Access Profile）をサポートしている場合は、接続した後以下情報が転送されます。

- 電話帳
- 通話リスト

誤作動を防ぐため、携帯電話の電池は常に十分に充電しておく必要があります。

i 市販の携帯電話がすべて適合するわけではありません。適合する携帯電話についてのさらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

i 一部の表示（電波の強度など）は、対応するハンズフリープロファイルのバージョンによって異なります。

手順および一般的な情報

携帯電話の検索および認証（接続）

初めて携帯電話を COMAND システムで使用する前に、携帯電話を検索して（▶ 243 ページ）、それを認証する必要があります（▶ 243 ページ）。携帯電話によって、セキュアシンプルペアリングによって、またはパスキーを入力する事によって認証が行なわれます。COMAND システムは携帯電話に適した手順を自動的に行ないます。携帯電話と COMAND システムにコードが表示されることによりセキュアシンプルペアリングを認識することができます。携帯電話および COMAND システムにコードを入力しなければならないという事実によりパスキーのシステムを認識できます。認証後に携帯電話は常に自動的に接続されます。COMAND システムが携帯電話を検知しない場合は、携帯電話の特別なセキュリティの設定によるものかもしれません。携帯電話で検索処理および認証を開始することもできます（▶ 244 ページ）。

Bluetooth®対応携帯電話の認証および接続についての機器ごとの情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場ですぐに入手できます。

最大 15 台の携帯電話を認証できます。一度に 1 台のみの携帯電話を COMAND システムに接続できます。

携帯電話の認証の解除（切断）

COMAND システムの受信範囲から離れる、または携帯電話で Bluetooth®を解除した場合は、接続は自動的に終了します。

Bluetooth®接続を自動的に確立したくない場合は、携帯電話の認証を解除（切断）しなければなりません（▶ 246 ページ）。

携帯電話を検索する




- ▶ 電話メニューを呼び出す：[TEL] スイッチを押します。
- ▶ 電話メニューでメニューバーに切り替える：コントローラーをスライドします ◎↓。
- ▶ **接続デバイス** を選択する：コントローラーをまわし、押して確定します。デバイスリストが表示されます。
- ▶ **電話検索** を選択する：コントローラーをまわして、押します。
携帯電話で Bluetooth®が作動していて、他の機器に探索できるようにしな

ければならないというメッセージが表示されます。

- ▶ **検索開始** を選択する：コントローラーを押します。
使用可能な携帯電話がデバイスリストに表示されます。



検索にかかる時間は、通信可能距離内にある Bluetooth®対応携帯電話の台数とその特性によって異なります。

新しい電話が見つかった場合は、デバイスリストに  マークで表示されます。ここで、見つかった携帯電話を認証（接続）できます（▶ 243 ページ）。

デバイスリストがすでにいっぱいの場合には、携帯電話の認証を解除するように要求されます（▶ 246 ページ）。

デバイスリストを再度呼び出すときは、認証を解除された機器はリストから外されます。デバイスリストを更新するためには、検索を再度開始します。

デバイスリストのマーク

マーク	説明
	検索されているが、まだ認証されていない新しい携帯電話。
	認証されているが、接続されていない携帯電話。
•	認証されていて、接続されている携帯電話。

携帯電話の認証（接続）

セキュアシンプルペアリングを使用した認証

COMAND システムがおお客様の携帯電話を見つけた場合は、認証（接続）することができます。

- ▶ 携帯電話をデバイスリストから選択するためには、コントローラーをまわして、押して確定します。COMAND システムと携帯電話にコードが表示されます。

コードが同一である

- ▶ **COMAND システム**： はいを選択します。
- ▶ **携帯電話**： コードを確定します。使用している携帯電話によって、COMAND システムへの、および PBAP Bluetooth® プロファイル用の接続の確定を行わなければならないことがあります。確認メッセージが表示されるのに 2 分程度かかることがあります。携帯電話の確認を保存することもできます（メーカーの取扱説明書をご覧ください）。携帯電話が認証され、COMAND システムに接続されます。ハンズフリーシステムを使用して会話することができます。

携帯電話の送受信の音量に関するさらなる情報は、デジタル版取扱説明書に記載されています。

コードが異なる

- ▶ **COMAND システム**： いいえを選択します。処理が中止されます。認証を繰り返します。

パスキー（パスコード）を入力することによる認証

COMAND システムがお客様の携帯電話を見つけた場合は、認証（接続）することができます。

- ▶ 希望する携帯電話の Bluetooth® 名をデバイスリストで選択する：コントローラーをまわして、押します。パスキーの入力メニューが表示されます。

パスキーは、任意で選択できる 1～16 桁の数字の組み合わせです。

- ▶ **COMAND システム**： 文字バーを使用してパスキーを入力します。
- ▶ すべての数字を入力した後に、**[ok]** を選択します。
- ▶ **携帯電話**： 同じパスキーを入力し、入力を確定します。使用している携帯電話によって、COMAND システムへの、および PBAP Bluetooth® プロファイル用の接続の確定を行わなければならないことがあります。確認メッセージが表示されるのに 2 分程度かかることがあります。携帯電話の確認を保存することもできます（メーカーの取扱説明書をご覧ください）。携帯電話が認証され、COMAND システムに接続されます。ハンズフリーシステムを使用して会話することができます。

携帯電話の送受信の音量に関するさらなる情報は、デジタル版取扱説明書にあります。

認証できませんでしたというメッセージが表示された場合は、異なるパスキーを入力したか、または規定された時間制限を超えています。手順を繰り返してください。

i 携帯電話によっては 4 桁以上のパスキーを要求されることがあります。

i 認証を解除した後に携帯電話を再認証したい場合は、別のパスキーを選択することができます。

携帯電話から接続を確立する

COMAND システムの Bluetooth® 機器名は MB Bluetooth です。

- ▶ **COMAND システム**：電話メニューを呼び出します。
- ▶ メニューバーに切り替える：コントローラーをスライドします ◎↓。
- ▶ **接続デバイス** を選択する：コントローラーをまわし、押して確定します。デバイスリストが表示されます。
- ▶ **携帯電話から接続** を選択する：コントローラーをまわして、押します。携帯電話で検索を開始できる旨のメッセージが表示されます。
- ▶ **携帯電話**：Bluetooth®機器の検索を開始します（メーカーの取扱説明書をご覧ください）。携帯電話のデバイスリストに、"MB Bluetooth" という名前とともに COMAND システムが表示されます。
- ▶ "MB Bluetooth" を選択します。携帯電話を認証するかどうかをたずねる確認が COMAND システムに表示されます。
- ▶ **COMAND システム**：はいを選択します。

いいえ を選択した場合は、処理が中止されます。携帯電話がセキュアシンプルペアリングをサポートしている場合は、両方の機器にコードが表示されます。

コードが同一である

- ▶ **COMAND システム**：はいを選択します。
- ▶ **携帯電話**：コードを確定します。使用している携帯電話によって、COMAND システムへの、および PBAP Bluetooth®プロファイル用の接続の確定を行わなければならないことがあります。確認メッセージが表示されるのに 2 分程度かかることがあります。携帯電話の確認を保存するこ

ともできます（メーカーの取扱説明書をご覧ください）。

携帯電話が認証され、COMAND システムに接続されます。ハンズフリーシステムを使用して会話することができます。

コードが異なる

- ▶ **COMAND システム**：いいえを選択します。処理が中止されます。手順を繰り返してください。

携帯電話がセキュアシンプルペアリングをサポートしていない場合、携帯電話の接続に関するさらなる情報はデジタル版取扱説明書にあります。

自動的に再接続する

COMAND システムは常に最後に接続された携帯電話を検索します。

直前に接続された携帯電話に接続できない場合は、もう一つ前に接続された携帯電話が検索されます。

携帯電話間の切り替え

複数の携帯電話が登録されているときは、使用する電話を切り替えることができます。




- ▶ 電話メニューを呼び出す：[TEL] スイッチを押します。
- ▶ メニューバーを表示する：コントローラーをスライドします ◎↓。
- ▶ **接続デバイス** を選択する：コントローラーをまわし、押して確定します。デバイスリストが表示されます。
- ▶ 希望の携帯電話を選択する：コントローラーをまわして、押します。選択した携帯電話が Bluetooth®の通信可能距離内にあり、Bluetooth®が作動しているときは、選択した携帯電話を検索して接続します。

一度に 1 台の携帯電話のみを接続できます。現在接続されている携帯電話は、デバイスリストにドット ● で示されます。

i 通話中でないときに限り、別の認証済み携帯電話に切り替えることができます。

携帯電話の認証の解除（切断）


COMAND システムと携帯電話で認証を解除することを、メルセデス・ベンツは推奨します。さもないと、その後の認証が失敗することがあります。

- ▶ 電話メニューを呼び出す：[TEL] スイッチを押します。
- ▶ メニューバーを表示する：コントローラーをスライドします 。
- ▶ **接続デバイス** を選択する：コントローラーをまわし、押して確定します。
- ▶ 希望の携帯電話をデバイスリストから選択する：コントローラーをまわします。
- ▶  を選択する：コントローラーをスライドします 。
- ▶ **認証取消し** を選択する：コントローラーをまわして、押します。
この機器の認証を本当に解除したいかどうかを確認するメッセージが表示されます。
- ▶ **はい** を選択する：コントローラーをまわして、押します。
携帯電話の認証が解除されます。

i 携帯電話を再登録する前に、携帯電話の Bluetooth® リストから機器名 **MB Bluetooth** も削除します。

電話操作

通話を受ける

- ▶ **通話** を選択する：コントローラーを押します。
- または
- ▶ マルチファンクションステアリングの  を押します。
通話が受けられます。


通話時に使用できる機能に関するさらなる情報は、デジタル版取扱説明書にあります。

i 発信者の電話番号が送信されている場合は、ディスプレイに表示されます。電話帳に電話番号が保存されている場合は、連絡先の名前も表示されます。電話番号が通知されていない場合は、**非通知** がディスプレイに表示されます。


通話を拒否する

使用している携帯電話によっては、通話を拒否したときの動作が異なることがあります（メーカーの取扱説明書をご覧ください）。

オプション 1


- ▶ **保留** を選択する：コントローラーをまわして、押して確定します。
- または
- ▶ マルチファンクションステアリングの  を押します。
通話が拒否されます。

オプション 2

- ▶ **保留** を選択する：コントローラーをまわして、押して確定します。
- または
- ▶ マルチファンクションステアリングの  を押します。
通話が保留されます。

- ▶ **着信拒否** を選択する：コントローラーをまわし、押して確定します。


または

- ▶ マルチファンクションステアリングの  スイッチを再度押します。通話が拒否されます。

通話を終える


- ▶ 電話メニューで  を選択する：コントローラーをまわして、押します。

または

- ▶ マルチファンクションステアリングの  を押します。作動している通話が終了します。

発信する

電話メニューを使用して

- ▶ 電話メニューを呼び出す：[TEL] スイッチを押します。
- ▶ 電話メニューですべての番号を 1 つずつ選択する：その都度コントローラーをまわして、押します。
- ▶ 電話メニューで  を選択する：コントローラーをまわして、押します。電話が発信されます。

通話リストを使用して


- ▶ 電話メニューを呼び出す：[TEL] スイッチを押します。
- ▶ メニューバーに切り替える：コントローラーをスライドします ◎↓。
- ▶ **発信履歴** を選択する：コントローラーをまわして、押します。
- ▶ **着信履歴** または **発信履歴** を選択する：コントローラーをまわして、押します。対応するリストが表示されます。
- ▶ 項目を選択し、電話を発信する：コントローラーをまわして、押します。

マルチファンクションステアリングを使用して選択し、発信します。別冊の車両の取扱説明書をご覧ください。

電話帳を使用して

- ▶ 電話メニューを呼び出す：[TEL] スイッチを押します。
- ▶ 電話メニューで **名前** を選択する：コントローラーをまわして、押します。電話帳は作動された文字バーとともに表示されます。
- ▶ 文字を選択する：コントローラーをまわし、押して確定します。選択した先頭文字の最初の連絡先が、電話帳で強調されます。
- ▶ その都度コントローラーをまわしてから押して、検索する連絡先の文字を 1 つずつ選択します。
- ▶ 検索を終了する：文字バーが消えるまで、コントローラーを繰り返しスライドします ↑◎。

または

- ▶  を選択する：コントローラーをまわして、押します。電話帳の連絡先が表示されます。
- ▶ 連絡先を選択する：コントローラーをまわして、押します。

連絡先に 1 つ以上の電話番号が含まれている場合

- ▶ 電話番号を選択する：コントローラーをまわして、押します。

電話帳に関するさらなる情報は、デジタル版取扱説明書にあります。

インターネット接続の確立/終了

接続を確立する

接続は以下によって確立することができます：

- ウェブアドレスの入力
- メルセデス・ベンツモバイルウェブサイトの呼び出し
- Mercedes-Benz App の呼び出し
- お気に入りの呼び出し
- インターネットラジオの呼び出し
- インターネットラジオの呼び出し

接続を終了する

- ▶ 接続ウィンドウで **停止** を押します。

接続状況



- ① 携帯電話ネットワークの既存接続および信号強度の表示

ほとんどの場合は、他の基本メニューに切り替えたときは、現在の接続状況がステータスバーに表示されます。

インターネットの作動と同時に電話の通話が行なわれている場合は、☎ マークがステータスバー①に表示されます。使用している携帯電話および携帯電話のネットワークによっては、インターネット接続は作動したままになります。

接続状態の詳細

- ▶ 電話メニューを呼び出す：[TEL] スイッチを押します。
- ▶ 基本機能バーを表示する：コントローラーをスライドします ↑◎。
- ▶ **電話/☎** を選択する：コントローラーをまわして、押します。
- ▶ **インターネット** を選択する：コントローラーをまわして、押します。インターネット機能のメニューが表示されます。
- ▶ メニューバーに切り替える：コントローラーをスライドします ◎↓。
- ▶ **設定** を選択する：コントローラーをまわして、押します。
- ▶ **接続情報** を選択する：コントローラーをまわして、押します。以下の情報が表示されます：
 - 転送したデータの容量
 - 接続状況
 - 携帯電話の機器名

接続を終了する

- ▶ 電話メニューを呼び出す：[TEL] スイッチを押します。
- ▶ 基本機能バーを表示する：コントローラーをスライドします ↑◎。
- ▶ **電話/☎** を選択する：コントローラーをまわして、押します。
- ▶ **インターネット** を選択する：コントローラーをまわして、押します。インターネット機能のメニューが表示されます。
- ▶ メニューバーに切り替える：コントローラーをスライドします ◎↓。
- ▶ ハサミのマークを選択する：コントローラーをまわして、押します。

携帯電話のインターネット接続が中止された場合は、COMAND システムは再接

続しようとしています。そのため、接続は常に COMAND システムで閉じてください。

非作動後のインターネット接続の自動切断

例えば 5 分間など指定した時間に転送されるデータがない場合は、システムは自動的にインターネット接続を切断します。

ラジオモード

設定する

- ▶ **[RADIO]** スイッチを押します。
ラジオ画面が表示されます。最後に選択した周波数バンドで再生していた最後の放送局が聞こえます。

概要



例：COMAND システム

- ① 基本機能バー
- ② ステータスバー
- ③ 利用可能な放送局および関連情報のある基本画面欄
- ④ 選択したラジオ放送局の表示
- ⑤ ラジオメニューバー
- ⑥ エアコンディショナーのステータスバー

基本機能バーの選択

- ▶ コントローラーをスライドします ↑◎。

メニューバーの選択

- ▶ コントローラーをスライドします ◎↓。

"オプション" メニュー

- ▶ **オプション**を選択する：コントローラーをまわして、押します。

以下の設定オプションが使用できます。

- **直接入力**：周波数の手動入力
- **現在の放送局リスト** (FM ラジオモード)：現在使用可能な放送局リストの表示
- **プリセットリスト 編集**：放送局の登録、再編集および削除
- **プリセット 編集**：放送局プリセットの選択および編集

周波数バンドの設定

- **[RADIO]** スイッチにより：数回押します。
- **基本機能バー**を使用して：**ラジオ** が作動しているときに、コントローラーを押します。
- **ラジオメニューバー**を使用して：**帯域** を選択します。

放送局の設定

- **基本画面欄**により：ラジオモードで、希望の放送局が中央になるまでコントローラーをまわします。
- **"オプション" メニュー**により：**現在の放送局リスト** または **直接入力** を使用して、希望の放送局を選択または入力します。

交通情報 (AM ラジオ)

交通情報の放送局を選択する

- ▶ ラジオモードでコントローラーをスライドします ◎↓。
- ▶ **交通情報** を選択します。

1620 kHz または 1629 kHz の 2 つの交通情報の放送局の間で選択できます。

COMAND システム はより良い受信の放送局を自動的に選択します。

それぞれの地域の交通情報は、道路管理者や所轄の警察署が放送しています。交通情報は、受信地域以外で受信することはできません。

放送地域については、道路上の標識などで知ることができます。

AM ラジオ画面に戻る

- ▶ ラジオモードでコントローラーをスライドします ◯↓。
- ▶ **AM に戻る** を選択します。

役に立つ情報	252
収納エリア	252
機能	260

役に立つ情報

i この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

i メルセデス・ベンツ指定サービス工場
で情報をご覧ください。(▷ 28 ページ)

収納エリア

積載のガイドライン

⚠ 警告

内燃エンジンは、一酸化炭素などの有毒な排気ガスを排出します。エンジンをかけた状態（特に車両が走行中）でトランクリッドが開いたままになっていると、排気ガスが車内に入る可能性があります。中毒を起すおそれがあります。

トランクリッドを開く前に、必ずエンジンをオフにしてください。トランクリッドを開いたまま走行しないでください。

⚠ 警告

荷物や重い荷物が固定されていない、または十分に固定されていないと、すべったり、放り出されて乗員にぶつかるおそれがあります。特にブレーキ操作時や急な進路変更時にけがをする可能性があります。

荷物は放り出されないように、必ず収納してください。走行前に、荷物や積載物などがすべったりひっくり返ったりしないように固定されていることを確認してください。

⚠ 警告

マフラーのテールパイプおよびテールエンドが非常に熱くなることがあります。

車両のこれらの部品に触れた場合は、やけどするおそれがあります。けがのおそれがあります。

特にマフラーのテールパイプおよびテールエンド周辺には常に注意してください。これらの構成部品に触れる前には冷ましてください。

荷物を積載した車両のハンドリング特性は、車両への荷物の積み方に影響を受けます。その理由のため、荷物を運搬するときは、以下の点に注意してください。

- 最大車両総重量および車両の許容軸重を超えないようにしてください（乗員を含む）。
- 荷物はトランクに入れて運ぶことをお勧めします。
- 重い物はできるだけ前方、およびトランク内のできるだけ低い位置に置いてください。
- 荷物がシートのバックレストの上端よりも高くないようにしてください。
- 可能であれば、乗車していないシートの後方に常に荷物を置いてください。
- 十分な強度があり、耐摩耗性の固定用具で荷物を固定してください。保護のため鋭い角にはパッドを当ててください。

i 荷物の固定具は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場
で入手できます。

小物入れ

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

収納物を車内に正しく収納しないと、滑ったり、飛び出したりして、乗員がけがをするおそれがあります。特にブレーキ操作や急な進路変更を行ったときは、けがをするおそれがあります。

- このようなときや似たような状況で収納物が飛び出さないように、常に収納する
- 収納物は必ず小物入れ、収納ネットまたはラゲッジネットからはみ出さないようする
- 走行中はロック可能な小物入れを閉じる
- 重い物、固い物、先の尖った物、鋭利な物、壊れやすいもの、大きな物はトランクに収納し、固定する

積載のガイドライン (▷ 252 ページ) を守ってください。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- グローブボックス
- メガネホルダー
- センターコンソール内の小物入れ
- アームレスト下の小物入れ
- ドアの小物入れ
- リアシートアームレスト内の小物入れ

追加収納スペース

装備によって、以下のような追加収納スペースが車内で使用できます。

- ライトスイッチの上のダッシュボードにあるカードおよびコインホルダー (商品券のような薄い物には適していません)
- センターコンソール内の小物入れ
- 助手席足元のラゲッジネット
- 運転席・助手席の背面の地図ポケット
- トランクの左右のラゲッジネット

積載のガイドライン (▷ 252 ページ) および収納用スペースに関する安全上の注意事項 (▷ 252 ページ) に従ってください。

スキー/スノーボード用バッグ

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

固定用ストラップと組み合わせたスキーバッグはスキー以外の物を固定することはできません。

以下のような場合は、たとえば急ブレーキまたは事故のときに車両乗員が衝撃を受けるおそれがあります。

- スキーバッグで他の重い物または鋭利な形状の物を運搬する
- 固定用ストラップでスキーバッグを固定していない

事故やけがの危険性があります。

スキーバッグにはスキーのみを収納してください。動き回らないようにスキーバッグを固定用ストラップで常に固定してください。

スキー/スノーボード用バッグには、最大 4 セットのスキー板または 2 セットのスノーボードを収納して運ぶことができます。

スキー/スノーボード用バッグのトランクへの固定



- ▶ 中央のリアシートバックレストを前方に倒します (▷ 254 ページ)。
- ▶ 2 つの外側のリアシートバックレストの間にスキー/スノーボード用バッグを滑り込ませます。スキー/スノーボード

用バッグの車輪がトランクに収まるようにしてください。

- ▶ スキー/スノーボード用バッグのジッパーを開いて① スキーまたはスノーボードを中に入れます。
- ▶ スキー/スノーボード用バッグを閉じます。
- ▶ スキー/スノーボード用バッグの内部でスキーまたはスノーボードが確実に固定されるまで、ストラップ②の端部を引いて締めます。



- ▶ 図のようにストラップ③を固定用リング⑤のフック④へ斜めに掛けます。

リアシートのトランクスルー機能

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

リアベンチシート / リアシートとシートバックレストが固定されていない場合、急なブレーキ操作や事故のときに、前に倒れる可能性があります。

- これにより、乗員は、リアベンチシート / リアシートまたはシートバックレストによってシートベルトに押さえ込まれます。シートベルトは、十分な保護効果を発揮することができず、さらにけがをするおそれがあります。
- トランクの荷物や重い荷物はシートバックレストで固定することはできません。

けがをするおそれが高まります。

走行前に、必ずシートバックレストおよびリアベンチシート / リアシートが固定されていることを確認してください。

荷物の積み方 (▷ 252 ページ) をお守りください。

外側および中央のリアシートバックレストを別々に倒して、トランク容量を拡大することができます。分割の比率は、40%対 20%対 40%です。

リアシートのバックレストを前方に倒す

- ▶ メモリー機能非装備車両：必要に応じて、運転席または助手席シートを前方に移動してください。
- ▶ メモリー機能装備車両：リアシートバックレストの一方または両方を前方に倒すと、接触を防ぐために対応する側のフロントシートが必要に応じて少し前方に移動します。
- ▶ トランクを開きます。
- ▶ リアシートバックレストヘッドレストを完全に差し込みます。



左および右シートバックレスト

- ▶ 左右いずれかのリアシートバックレストのリリースハンドル①を手前に引きます。対応する側のリアシートバックレストのロックが解除されます。



中央リアシートバックレスト

- ▶ ロック解除レバー ② を手前に引きま
す。
リアシートバックレスト ① が解除され
ます。



- ▶ 対応するリアシートバックレスト ② を
前方に倒します。
- ▶ 必要に応じて、運転席または助手席側
シートのバックレストを移動させます。

リアシートのバックレストを起こす

! リアシートバックレストを起こすとき
は、シートベルトが挟まれていないこと
を確認してください。損傷するおそれ
があります。



左および右シートバックレスト

- ▶ 必要に応じて、運転席または助手席
シートを前方に移動します。
- ▶ リアシートのバックレスト ① を起こし
てロックします。
リアシートのバックレストがロックさ
れておらず、固定されていない場合
には、メーターパネル内のマルチファン
クションディスプレイに表示されます。
警告音も鳴ります。



リア中央シートバックレスト

- ▶ 必要に応じて、運転席または助手席
シートを前方に移動します。
- ▶ シートバックレスト ① を起こしてロッ
クします。
赤色のロックステータスインジケー
ター ② が見えないことを確認してく
ださい。

- ▶ 必要に応じて、ヘッドレストの高さを調整します。
- ▶ 必要に応じて、運転席または助手席側シートのバックレストを移動させます。

分割可倒式シートを使用しないときは、必ずリアシートバックレストをロックしてください。車内からトランクへの意図しないアクセスを防ぎます。

中央リアシートバックレストのロック



第三者によるトランクから侵入を防ぐために、センターシートバックレストは、キャッチを使用してロックできます。センターシートバックレストは、左シートバックレストと一緒に倒せません。

- ▶ **ロックする**：左およびセンターシートバックレストを前に倒します。センターおよび左シートバックレストが噛み合って結合していることを確認してください。
- ▶ **キャッチ ①** を上にスライドさせます。センターシートバックレストのリリース機構がロックされます。
- ▶ **ロックを解除する**：左およびセンターシートバックレストを後ろに倒します。
- ▶ **キャッチ①** をスリーブの内側から下にスライドさせます。

荷物の固定

荷物固定用リング

全体的な注意事項

荷物の固定に関する、以下の点に注意してください。

- 積載時のガイドライン (p. 252 ページ) に従ってください。
- 荷物固定用リングを使用して、荷物を固定してください。
- 荷物固定用リングには均等に力がかかるようにしてください。
- 伸縮性のあるストラップまたはネットを使用して荷物を固定しないでください。これらは軽い荷物の滑り止め防止としてのみ想定されています。
- 固定用具が荷物のとがった部分や角に当たらないようにしてください。
- 鋭い角には、保護のためにカバーをしてください。

トランク



分割可倒式リアシート装備のセダン

- ▶ リアシートバックレスト脇の固定用リングを上にして、カーペットのスロットに通します。

バッグフック

⚠ 警告

バッグフックは重い荷物やラゲッジルームの積載物を固定することはできません。

荷物やラゲッジルームの積載物が飛び出す可能性があり、ブレーキ操作や急な進路変更で乗員にぶつかる可能性があります。けがの危険性があります。

バッグフックには軽い荷物のみをかけてください。バッグフックに固いもの、鋭利なもの、壊れやすい物をかけないで下さい。

❗ バッグフックには、約 3 kg 以上の荷物をかけないでください。バッグフックは、荷物を固定する目的で使用しないでください。



① バッグフック

EASY-PACK コンビニエンスボックス

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

積載面が上に動くときに、EASY-PACK コンビニエンスボックスのフレームに手が挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

積載面が上に動くときは、積載面の作動範囲内に手がないことを確認してください。誰かが挟まれた場合は、積載面の中央を下方に慎重に押ししてください。

❗ EASY-PACK コンビニエンスボックスを引き出すときは、ボックスのフレームに物が触れていないことを確認してください。また、上からフレームが押され

ないように注意してください。ボックスが損傷するおそれがあります。

❗ 鋭利な形状、先の尖った、または壊れやすい物は、EASY-PACK コンビニエンスボックスを損傷し、そして投げ出されることがあります。けがの危険性があります。

EASY-PACK コンビニエンスボックスでは、鋭利な形状、先の尖った、または壊れやすい物は運搬しないでください。これらの、または類似の物は常に、EASY-PACK コンビニエンスボックスの外側のトランクに収納し、固定してください。

❗ EASY-PACK コンビニエンスボックスの最大許容荷重を超えた場合は、物がEASY-PACK コンビニエンスボックスから投げ出され、車両乗員にぶつかるおそれがあります。特に急ブレーキや急な方向転換をすると、けがの恐れがあります。

常に EASY-PACK コンビニエンスボックスの最大許容荷重を遵守してください。重い物は常に、EASY-PACK コンビニエンスボックスの外側のトランクに収納し、固定してください。

EASY-PACK コンビニエンスボックスの最大許容積載量は 10 kg です。約 5 kg 以上の重量の荷物では、トランクフロアのマットに接するまでボックスの底面を下方に動かします。そのようにして、ボックスの過荷重を防ぎます。

様々な位置への高さ調整



例

- ▶ 停止するまで矢印の方向にハンドル①でボックスを引き出します。
- ▶ **積載面を下げる**：積載面②が希望の位置になり、ボックスが希望の大きさになるまで、矢印の方向に手で積載面②を押し下げます。
- ▶ **積載面を上げる**：スイッチ③を押します。ボックスの積載面②が自動的に上がります。
- ▶ **ボックスを収納する**：停止するまでハンドル①でボックスを押します。



- ▶ ボックス①を持ち上げて、フック⑤を固定部④にいっぱいまで差し込みます。
- ▶ 左側のノブ⑥を反時計回りに、右側のノブ⑥を時計回りにそれぞれ90°まわします。
- ▶ **取り外す**：左側の回転ノブ⑥を時計回りに、右側の回転ノブ⑥を反時計回りに90°まわします。
- ▶ ボックス①を下げ、手前に引いて固定部④から外します。

取り外したEASY-PACK コンビニエンスボックスは、棚などの平らな場所に保管してください。

取り外しおよび取り付け



例

- ▶ **取り付ける**：ボックス①のリテーナー②をスロット③に差し込みます。

トランクフロアボード下の収納スペース

! トランクリッドを閉じる前にハンドルを外し、ハンドルがはみ出さないように確実に戻します。ハンドルが損傷するおそれがあります。



トランクフロアボード下の収納スペースには、タイヤフィットキット、車載工具などが収納されています。

▶ **開く**：ハンドル ① を上に引きます。



▶ ハンドル ① を雨用の溝 ② にかけます。

ルーフラック

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

ルーフに荷物を積むと、車両の重心位置が上がり、走行特性が変化します。ルーフの最大積載量を越える場合、走行特性や、ステアリング操作やブレーキ操作が大幅に損なわれるおそれがあります。事故の危険性があります。

運転スタイルを調整し、ルーフの最大積載量を決して超えないでください。

ルーフの最大積載量は「サービスデータ」にあります (▶ 328 ページ)。

❗ メルセデス・ベンツ車用にテストされ、承認されたルーフラックのみを使用することを、メルセデス・ベンツは推奨します。これにより、車両の損傷を防ぐ助けになります。

ルーフラックに荷物を積むときは、走行中に車両を損傷しないように確実に固定してください。

車両の装備に応じて、ルーフラックを取り付けたときに、以下の操作ができることを確認してください。

- スライディングルーフ/パノラミックスライディングルーフを完全に上げます。
- トランクリッドをいっぱいに開ける

❗ カバーやルーフの損傷を防ぐため、カバーを開くのに金属製の物やかたい物を使用しないでください。

不適切に固定されたルーフラック、またはルーフ上の荷物は、車両から落下することがあります。そのため、ルーフラックメーカーの装着方法に従ってください。

パノラミックスライディングルーフ装備車：ルーフラックを装着している場合は、パノラミックスライディングルーフを開くことはできません。車内を換気するためには、パノラミックスライディングルーフをチルトアップすることができます。

メルセデス・ベンツにより承認されたルーフラックがパノラミックスライディングルーフと接触した場合は、スライディングルーフが少し下がり、後部が上がったままになります。

ルーフラックの取り付け



- ▶ カバー ① を矢印の方向に注意して開きます。
- ▶ カバー ① を上方に倒します。

- ▶ ルーフラックはカバー ①の下のマウント部に装着します。
- ▶ 製品の装着指示に従ってください。

機能

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- カップホルダー
- 電動ブラインド（リアウインドウ）
- 電動ブラインド（リアサイドウインドウ）
- 灰皿
- ライター
- 12V 電源ソケット

サンバイザー

概要



- ① ミラー照明
- ② 固定部
- ③ クリップ
- ④ バニティミラー
- ⑤ ミラーカバー

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- サンバイザーのバニティミラー
- 横方向からの眩しさ

フロアマット

⚠ 警告

運転席の足元の荷物は、ペダルの自由な動きを妨げたり、または踏んだペダルを妨害することがあります。これは車両の操作および走行安全性を脅かします。事故の危険性があります。

運転席の足元に入り込まないように、すべてのものを車内に確実にしっかりと収納してください。フロアマットは指示にしたがって必ず確実に固定し、ペダル操作の妨げにならないようにペダルとの間に十分な空間があることを確認してください。緩んだフロアマットを使用したり、フロアマットを重ねて置かないでください。



- ▶ 対応するシートを後ろにスライドします。
- ▶ **取り付け**：フロアマットを足元に敷きます。
- ▶ 凹部 ① を固定部 ② に押し込みます。
- ▶ **取り外す**：固定部 ② からフロアマットを引いて取り外します。
- ▶ フロアマットを取り外します。

後付けした防眩フィルム

ウインドウの内側に遮光フィルムなどを貼り付けると、携帯電話やラジオなどの電波受信に影響を与えるおそれがあります。導電性フィルムや金属コーティングが施されたフィルムを貼り付けた場合は、特に電波受信への影響が懸念されます。遮光フィルムについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場にお尋ねください。

役に立つ情報	264
エンジンルーム	264
ASSYST PLUS	271
手入れ	271

役に立つ情報

i この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

i メルセデス・ベンツ指定サービス工場
で情報をご覧ください。(▷ 28 ページ)

エンジンルーム

ボンネット

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

解除すると、走行中にボンネットが開いて視界の妨げとなり危険です。事故の危険性があります。

走行中にボンネットを解除しないでください。

⚠ 警告

開閉中、ボンネットが急に下がる場合があります。ボンネットの動作範囲では、けがの危険性があります。

ボンネットの動作範囲に誰もいないことを確認して、ボンネットを開閉してください。

⚠ 警告

エンジンがオーバーヒートしたときにボンネットを開いたり、エンジンルームに炎が発生した場合、高温のガスやその他のサービスプロダクトに触れるおそれがあります。けがの危険性があります。

ボンネットを開く前に、オーバーヒートしたエンジンを冷やしてください。エンジンルームで火災が発生したときは、ボンネットを閉じたままにし、消防局に連絡してください。

⚠ 警告

エンジンルームには可動部品があります。ラジエーターファンなどの特定の構成部品は、イグニッションをオフにした後も動き続けたり、再度突然動くことがあります。けがの危険性があります。

エンジンルームの作業を行わなければならない場合は：

- イグニッションをオフにしてください。
- ファンの回転範囲など、可動部品周囲の危険な範囲には決して触れないでください。
- 宝飾品や時計は外してください。
- 衣服や髪の毛などの物は、動いている部品から離してください。

⚠ 警告

イグニッションシステムおよび燃料噴射システムは高電圧下で作動しています。高電圧を含んだ構成部品に接触すると、感電するおそれがあります。けがの危険性があります。

イグニッションをオンにしたら、イグニッションシステムまたは燃料噴射システムの構成部品に決して触れないでください。

アクティブボンネット（歩行者保護）

作動原理

■ 一度作動したアクティブボンネットは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場
で修理してください。アクティブボンネット機能は再度作動可能になります。アクティブボンネットによる歩行者の付加保護は元に戻ります。

アクティブボンネットは特定の国でのみ作動します。

アクティブボンネットは、特定の状況下で歩行者のけがの危険性を軽減させることができます。アクティブボンネットが上がることにより、エンジンなどの固い構成部品との間隔が広がります。

アクティブボンネットが作動すると、ヒンジの後方周辺が約 85 mm 上がります。アクティブボンネットは火薬によって作動します。

ワークショップまで運転するためには、作動したアクティブボンネットをお客様ご自身でリセットしてください。アクティブボンネットが作動すると、歩行者保護が制限されます。

リセット

⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。



- ▶ ヒンジ (矢印) の近くに手のひらを置いて、アクティブボンネット①を固定されたと感じるまで押し下げます。

ヒンジの付近でアクティブボンネットを少し持ち上げることができるときは、確実に固定されていません。手順を繰り返してください。

ボンネットを開く

⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品

は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

⚠ 警告

ボンネットを開いているとき、ワイパーを作動位置のままにしていると、ワイパーリンクージでけがをするおそれがあります。けがの危険性があります。

ボンネットを開く前に、必ずワイパーおよびエンジンスイッチをオフにしてください。

- ❗ ワイパーアームを起こしたままでボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが接触して、損傷するおそれがあります。



例

- ▶ フロントウインドウワイパーが停止していることを確認します。
- ▶ ボンネットロック解除レバー①を引きます。ボンネットのロックが解除されます。



- ▶ 隙間に手を入れ、ボンネット固定ハンドル②を引き上げながらボンネットを持ち上げます。

ボンネットを約 40 cm 持ち上げた場合は、ガス封入式の支柱によりボンネットは自動的に開き、開いたまま保持されます。

ボンネットを閉じる

- ▶ ボンネットを下げ、約 20 cm の高さから下ろします。
- ▶ ボンネットが確実に固定されていることを確認します。
ボンネットがわずかに上がる場合は、確実に固定されていません。再度開き、少し力を入れて閉じます。

ラジエーター

ラジエーターにカバーをしないでください。保温マット、インセクトプロテクションカバーや類似の物を使用しないでください。その場合は、自己診断システムが不正確な数値を表示する原因になるおそれがあります。一部の数値は法的に必要なものであり、常に正確である必要があります。

エンジンオイル

全体的な注意事項

❗ エンジンオイルに添加剤を使用しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

❗ エンジンオイルは使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的にエンジンオイル量を点検し、必要に応じて補給または交換してください。

運転スタイルによって、車両は 1,000 km 当たり最大 0.8 L のオイルを消費します。新車のときや頻繁にエンジン回転数を上げて走行する場合は、オイル消費量はこれより増加します。

エンジンによっては、オイルレベルゲージは異なる位置に装着されています。

エンジンオイル量を点検するときは、以下の点に注意してください。

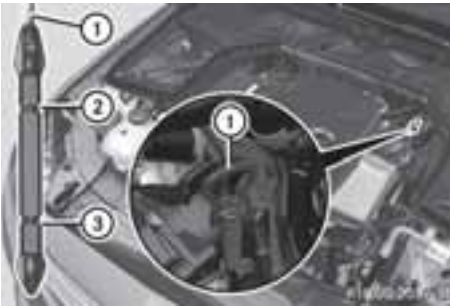
- 車両を水平な場所に停車している。
- エンジンが温まっている場合は、エンジンを停止してから約 5 分以上経過している。
- エンジンを短時間のみ始動した場合など、エンジンが通常の作動温度にない場合は、計測を行なう前に約 30 分待ちます。

オイルレベルゲージを使用してオイルレベルの点検

⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。



例

- ▶ エンジンオイルレベルゲージ ① をオイルレベルゲージチューブから引き抜きます。
- ▶ エンジンオイルレベルゲージ ① を拭きます。
- ▶ エンジンオイルレベルゲージ ① をガイドチューブにいっぱいまでゆっくり差し込んで、再度引き抜きます。
量が MIN マーク ③ と MAX マーク ② の間にあるときは、オイル量は適正です。
- ▶ オイルレベルが MIN マーク ③、またはそれ以下まで下がっている場合は、エンジンオイルを約 1.0 L 補充してください。

エンジンオイルの追加

⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

⚠ 警告

エンジンオイルがエンジンルームの熱くなっている構成部品に触れると、発火す

る可能性があります。火災およびけがの危険性があります。

エンジンオイルが補給口の脇に飛散していないことを確認してください。エンジンを冷やし、エンジンを始動する前に、エンジンオイルで汚れた構成部品を清掃してください。

Ⓞ 環境

エンジンオイルを補給するときは、こぼさないように注意してください。エンジンオイルが地面や排水溝に流れると、環境に悪影響を与えます。

! サービスシステム装備車両のために承認されているエンジンオイルとオイルフィルターのみを使用してください。サービスプロダクトに関するメルセデス・ベンツの仕様に適合するためにテストされ、承認されたエンジンオイルとオイルフィルターのリストはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。エンジンまたは排気システムの損傷は以下のことに起因します。

- サービスシステムで承認されていない仕様のエンジンオイルやオイルフィルターの使用
- サービスシステムで要求される交換期間を過ぎた後のエンジンオイルやオイルフィルターの交換
- エンジンオイル添加剤の使用

! オイルを過剰に補給しないでください。エンジンオイルを過剰に補給すると、エンジンまたは触媒が損傷する可能性があります。余分なエンジンオイルを抜き取ってください。



例

- ▶ キャップ ① を反時計回りにまわして取り外します。
- ▶ エンジンオイルを補充します。オイル量がオイルレベルゲージの MIN マーク、またはそれ以下の場合は、エンジンオイルを 1.0 L 補充してください。
- ▶ キャップ ① を補給口に合わせ、時計回りにまわします。キャップが元の場所に確実にロックされていることを確認します。
- ▶ オイルレベルゲージでオイルレベルを再度点検します (▶ 266 ページ)。

エンジンオイルについてのさらなる情報は、(▶ 325 ページ) をご覧ください。

定期的なオイルの交換

エンジンオイルおよびエンジンオイルフィルターは定期的に交換することをお勧めします。ASSYST PLUS メンテナンスインジケーター画面により、標準的な交換時期が定められています。ただし、交換時期は使用状況に左右されます。詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービスマンにお問い合せください。

冷却水

冷却水レベルの点検

⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

⚠ 警告

エンジンが温まっている場合は特に、エンジン冷却システムに圧力がかかっています。キャップを開くとき、高温の冷却水が吹き出す可能性があります。けがの危険性があります。

キャップを開く前に、エンジンを冷ましてください。開くときは、手袋と保護メガネを着用してください。キャップをゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜きます。



- ▶ 車両を水平な場所に停めます。

車両が水平な場所にあり、エンジンが冷えている場合にのみ、冷却水量を点検してください。

- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします (▶ 143 ページ)。

または

- ▶ キーレスゴー装備車では、キーレスゴースイッチを **2** 度押します (▶ 143 ページ)。
- ▶ メーターパネルのエンジン冷却水温度表示を確認します。
冷却水温度は 70 °C 以下でなければなりません。
- ▶ エンジンスイッチのキーを **0** の位置に回します (▶ 143 ページ)。

または

- ▶ キーレスゴー装備車では、エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを抜きます (▶ 143 ページ)。
- ▶ キャップ ① を反時計回りにゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜きます。
- ▶ キャップ ① をさらに反時計回りにまわして取り外します。
冷えているときに冷却水が補給口内のマーカーバー ③ のレベルにある場合は、冷却水リザーブタンク ② 内に十分な冷却水があります。
温かいときに冷却水量が補給口内のマーカーバー ③ から約 1.5 cm 上にある場合は、冷却水リザーブタンク ② 内に十分な冷却水があります。
- ▶ キャップ ① を取り付け、時計回りにいっぱいまでまわします。

冷却水についての詳しい情報は、(▶ 327 ページ)をご覧ください。

冷却水の補給

⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品

は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

⚠ 警告

不凍液がエンジンルームの熱くなっている構成部品に触れると、発火する可能性があります。火災およびけがの危険性があります。

不凍液を充填する前にエンジンを冷やしてください。不凍液の濃縮液が補充口の脇に飛散していないことを確認してください。エンジンを始動する前に、不凍液で汚れた構成部品を清掃してください。

- ❗ 冷却水が塗装面に付着しないように注意してください。塗装面が損傷するおそれがあります。



冷却水リザーブタンク ② 内の冷却水量が低すぎる場合は、水平な場所に停止し、エンジンが冷えているときに冷却水を補給してください。

- ▶ キャップ ① を反時計回りにゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜きます。
- ▶ キャップ ① をさらに反時計回りにまわして取り外します。

- ▶ 冷却水をマーカーバー ③ まで補給してください。
使用状況 (p. 327 ページ) に合わせた水道水および不凍液/腐食剤の濃度で使用します。
- ▶ キャップ ① を取り付け、時計回りにいっぱいまでまわします。
- ▶ エンジンを始動し、約 5 分後に再度停止して冷まします。
- ▶ 冷却水量 (p. 268 ページ) を点検し、必要であれば補給します。

定期的な冷却水の交換

冷却水の品質は時間とともに劣化します。整備手帳の指示に従い、定期的に冷却水を交換してください。詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

エンジンのオーバーヒート

⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

⚠ 警告

エンジンがオーバーヒートしたときにボンネットを開いたり、エンジンルームに炎が発生した場合、高温のガスやその他のサービスプロダクトに触れるおそれがあります。けがの危険性があります。


ボンネットを開く前に、オーバーヒートしたエンジンを冷やしてください。エンジンルームで火災が発生したときは、ボンネットを閉じたままにし、消防局に連絡してください。

⚠ 警告

エンジンが温まっている場合は特に、エンジン冷却システムに圧力がかかっています。キャップを開くとき、高温の冷却水が吹き出す可能性があります。けがの危険性があります。

キャップを開く前に、エンジンを冷ましてください。開くときは、手袋と保護メガネを着用してください。キャップをゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜きます。

オーバーヒートしたときは：

- メーターパネルに 120 °C 以上の冷却水温度が表示されます。
- マルチファンクションディスプレイに **冷却水が減少 停車してエンジンを停止** というメッセージが表示されている。
- エンジンがかかっているときに、メーターパネルに赤色の  冷却水警告灯が表示される。
- エンジンルームから蒸気が出ている。

他のサービスプロダクト

ウインドウウォッシャーの補給

⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

⚠ 警告

ウインドウウォッシャー液が熱いエンジン部品または排気システムに触れた場合、発火するおそれがあります。火災およびけがの危険性があります。

ウインドウウォッシャー液の濃縮液が補充口の脇に飛散していないことを確認してください。



- ▶ **開く**：タブを持ってキャップ ① を引き上げ、開きます。
- ▶ あらかじめ混合しておいたウォッシャー液を補充します。
- ▶ **閉じる**：固定されるまで、キャップ ① を補充口に押し付けます。

ウォッシャー液量が推奨最小量である 1 L 以下に下がった場合は、ウォッシャー液を補充するように促すメッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

ウインドウウォッシャー液/不凍液についてのさらなる情報 (▶ 327 ページ)。

ブレーキ液レベル

⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

❗ ブレーキ液リザーブタンクのブレーキ液レベルが MIN マークまたはそれ以下まで低下しているときは、ただちにブレーキシステムの漏れを点検してください。

ブレーキパッド / ライニングの厚みも点検してください。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

絶対にブレーキ液を補充しないでください。これを行っても問題は解消しません。

ブレーキ液量の点検は、必ず水平な場所に停車した状態で行ってください。レベルがブレーキ液リザーブタンクの MIN マーク と MAX マーク の間にある場合は、ブレーキ液レベルは適正です。

ASSYST PLUS

デジタル取扱説明書には、ASSYST PLUS メンテナンスインジケーター画面のさらなる情報が含まれています。

手入れ

全体的な注意事項

⊕ 環境

空の容器や使用済みのクリーニングクロスは、環境に配慮した方法で廃棄してください。

❗ お車の手入れをされる場合は、次のものは絶対に使用しないでください。

- 乾いた布や目の粗い布、硬めの布など
- 研磨剤を含む洗剤
- 溶剤
- 溶剤を含む洗剤

強く擦らないでください。

リングやスクレーパーなどのかたい物が、塗装面や保護膜に触れないようにしてください。塗装面や保護膜が損傷するおそれがあります。

❗ 特にホイールクリーナーでホイールを清掃した後は、清掃したままで車両を長い間駐車しないでください。ホイールク

リーナーが、ブレーキディスクやブレーキパッド/ライニングの錆を増加させる原因になるおそれがあります。このため、清掃した後は数分間走行してください。ブレーキディスクやブレーキパッド/ライニングを、ブレーキ制動により加熱して乾燥させます。その後で駐車してください。

定期的な車の手入れにより、長い期間品質を保つことができます。

メルセデス・ベンツが推奨し、承認した手入れ用品およびクリーナーを使用してください。

外装の手入れ

自動洗車機

⚠ 警告

自動洗車機で洗車した直後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。事故の危険性があります。

車両を洗車した後は、完全にブレーキの性能が元に戻るまでは道路状況に注意して慎重にブレーキ操作を行ってください。

❗ ディストロニック・プラスまたはホールド機能が作動すると、特定の状況で車両に自動的にブレーキがかかります。車両の損傷を防ぐため、次のような状況ではディストロニック・プラスおよびホールド機能を解除してください：

- けん引されるとき
- 洗車時

❗ 注意：

- サイドウィンドウとスライディングルーフが完全に閉じていることを確認してください。
- ベンチレーション/ヒーターの送風を停止してください (OFF スイッチが押されていること)。

• ワイパースイッチを **0** の位置にしてください。

• 360° カメラシステムまたはリアビューカメラをオフにしてください。車両を損傷するおそれがあります。

❗ キーがキーレスゴーの後方検知範囲内にある場合は、例えば以下の状況ではトランクが不意に開くことがあります。

- 洗車機の使用
- 高圧式スプレーガンの使用

キーが車両から少なくとも 3 m 離れていることを確認してください。

❗ けん引式の洗車機で洗車するときは、オートマチックトランスミッションがニュートラルポジション **N** にあることを確認してください。車両を損傷するおそれがあります。

• キーでの操作

エンジンスイッチからキーを抜かないでください。エンジンが停止しているか、または非常に低い速度のときは運転席ドアを開かないでください。さもないと、トランスミッションポジションが **D** または **R** のときは、オートマチックトランスミッションが自動的にパーキングポジション **P** に切り替わり、車輪をロックします。

• キーレスゴースイッチでの操作

エンジンを停止しているか、または非常に低い速度のときは運転席ドアを開かないでください。さもないと、トランスミッションポジションが **D** または **R** のときは、オートマチックトランスミッションが自動的にパーキングポジション **P** に切り替わり、車輪をロックします。

以下に従って、オートマチックトランスミッションがニュートラルの位置 **N** になっていることを確認してください。

キーでの操作

- ▶ イグニッションがオンになっていることを確認します。
- ▶ 車両が停止していることを確認してください。
- ▶ ブレーキペダルを踏んだまま保持します。
- ▶ ニュートラル **N** を選択します。
- ▶ ブレーキペダルを放します。
- ▶ 必要であれば、電気式パーキングブレーキを解除します。
- ▶ イグニッションをオフにして、エンジンスイッチにキーを残したままにします。

キーレスゴースイッチでの操作

- ▶ イグニッションがオンになっていることを確認します。
- ▶ 車両が停止していることを確認してください。
- ▶ ブレーキペダルを踏んだまま保持します。
- ▶ パーキングポジション **P** を選択します。
- ▶ ブレーキペダルを放します。
- ▶ エンジンスイッチ (▶ 143 ページ) からキーレスゴースイッチを取り外します。
- ▶ エンジンスイッチにキーを差し込みます。
- ▶ イグニッションをオンにします。
- ▶ ブレーキペダルを踏んだまま保持します。
- ▶ ニュートラル **N** を選択します。
- ▶ ブレーキペダルを放します。
- ▶ 必要であれば、電気式パーキングブレーキを解除します。
- ▶ イグニッションをオフにして、エンジンスイッチにキーを残したままにします。

最初から自動洗車機で洗車することができます。

ひどい汚れは、自動洗車機で洗車をする前に洗ってください。

自動洗車機を使用した後は、フロントウインドウやワイパーブレードのワックスを拭いてください。フロントウインドウの残留物に起因する汚れを防ぎ、ワイパーのノイズを低減します。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 手洗い
- 高圧式スプレーガン
- 塗装面の清掃
- マットペイントの手入れと取り扱い
- 車輪の清掃
- ウインドウの清掃
- ワイパーブレードの清掃
- 車外ライトの清掃
- ドアミラー方向指示灯の清掃
- AIRPANEL の清掃
- センサーの清掃
- リアビューカメラの清掃
- 360° カメラシステムの清掃
- マフラーの清掃

車内の手入れ

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- ディスプレイの清掃
- プラスチックトリムの清掃
- ステアリングおよびセレクトアーレバーの清掃
- ウッド/トリムストリップの清掃
- シートカバーの清掃
- シートベルトの清掃
- ルーフライニングとカーペットの清掃

役に立つ情報	276
車載品の収納場所	276
パンク	278
バッテリー（車両）	283
ジャンプスタート	287
けん引とけん引始動	290
ヒューズ	294

役に立つ情報

❶ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

❶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でご覧ください。(▷ 28 ページ)

車載品の収納場所

非常信号用具

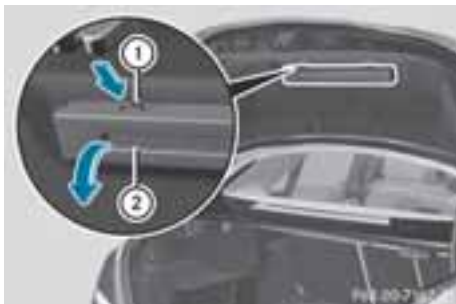
車内には懐中電灯が装備されています。運転席ドアまたは助手席ドアのいずれかの小物入れに収納されています。

新品の懐中電灯には電池の自然放電を防ぐため、電池の間に紙片が挟まれています。初めて使用する前に、紙片を取り除きます。

懐中電灯が十分な明るさで点灯することを定期的に点検してください。電池が切れたら交換してください。

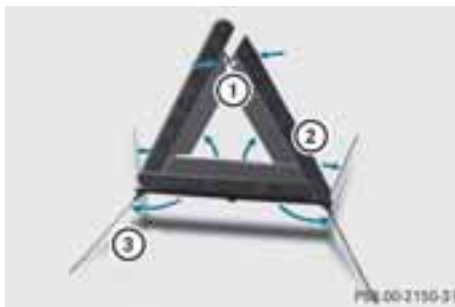
停止表示板

停止表示板の取り外し/取り付け



- ▶ **取り外す**：トランクリッドを開きます。
- ▶ 停止表示板ホルダー ❶ の両側を矢印の方向に押し開きます。
- ▶ 停止表示板 ❷ を取り外します。
- ▶ **取り付ける**：停止表示板 ❷ を停止表示板ホルダー ❶ に戻します。
- ▶ 停止表示板ホルダー ❶ を閉じます。

停止表示板の組み立て



- ▶ 脚部 ❸ を側方外側に出します。
- ▶ 側方の反射板 ❷ を上方に起こして三角形を作り、押し込み式スタッド ❶ を使用して、上部で固定します。

救急セット



救急セット ❶ は、トランク内左側の小物入れにあります。

- ▶ トランクリッドを開きます。
- ▶ 救急セット ❶ を取り出します。

最低1年に1度、救急セットの使用期限を点検してください①。必要に応じて内容物を交換し、なくなった物は補充してください。

車載工具

全体的な注意事項

けん引フックはトランクフロアボード下の収納スペースにあります。

MOExtended タイヤ（ランフラットタイヤ）装備車の場合は、けん引フックはパーセルシェルフの下のブラケットにあります。

国別の仕様違いを除き、通常車両にはタイヤ交換工具キットは装備されていません。車両にタイヤ交換工具が装備されている場合、それらはトランクフロアボード下の収納スペースにあります。タイヤ交換用工具の中には、その車両専用のものが含まれています。車両のタイヤ交換を行なうために必要となる、承認されたタイヤ交換工具についての詳細情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

タイヤ交換に必要な工具は、以下のものなどが含まれます。

- ジャッキ
- 輪止め
- ホイールレンチ
- ラatchetレンチ
- ガイドボルト

タイヤフィットキット装備車両



(例)

- ① タイヤ充填コンプレッサー
- ② タイヤフィット充填ボトル
- ③ けん引フック

- ▶ トランクリッドを開きます。
- ▶ トランクフロアボードを引き上げます (▷ 258 ページ)。
- ▶ タイヤフィットキットを使用します (▷ 280 ページ)。

タイヤ交換工具キット装備車両



(例)

- ① タイヤ充填コンプレッサー
- ② タイヤフィット充填ボトル
- ③ ホイールレンチ
- ④ 折りたたみ式輪止め
- ⑤ ジャッキ
- ⑥ けん引フック

タイヤ交換工具キットは、トランクフロアボード下の収納スペースのトレイにあります。

- ▶ トランクリッドを開きます。
- ▶ トランクフロアボードを引き上げます (▷ 258 ページ)。

MOExtended タイヤ (ランフラットタイヤ) 装備車



① けん引フック

- ▶ **けん引フックを取り外す**：トランクリッドを開きます。
- ▶ けん引フック ① を左に引いて、取り外します。
- ▶ **けん引フックを取り付ける**：ネジ山の付いたけん引フック ① をブラケットの後端にスライドさせます。
- ▶ アイレットの上のけん引フック ① をブラケットにかみ合うまで右に押しします。

パンク

車両の準備

お客様の車両には、以下が装備されていることがあります。

- MOExtended タイヤ (ランフラット特性を持つタイヤ) (▷ 279 ページ)

MOExtended タイヤ装備車両では、車両の準備作業は必要ありません。

- タイヤフィットキット (▷ 277 ページ)
- 応急用スペアタイヤ (一部の国のみ) (▷ 316 ページ)

車輪の交換/装着に関する情報 (▷ 305 ページ)

- ▶ 交通の妨げにならず、かたく滑らない水平な場所に車両を停車します。
- ▶ 非常点滅灯を作動させます。
- ▶ 車両が動き出さないように固定してください (▷ 157 ページ)。
- ▶ 可能な場合は、前輪を直進位置にしてください。
- ▶ エンジンを停止します。
- ▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。または、キーレスゴースタート機能またはキーレスゴー装備車

- ▶ 運転席ドアを開きます。

車両の電気システムが **0** の状態になります。これにより、キーを抜いたときと同様になります。

- ▶ エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外します (▷ 143 ページ)。
- ▶ 乗員全員を車両から降ろします。そのときは、乗員が危険にさらされないことを確認してください。
- ▶ 車輪交換をするときは、危険なエリアの近くに誰もいないことを確認してください。車輪交換を直接補助しない人は、ガードレールの向こう側に立つなどしてください。
- ▶ 車両から降りてください。そのときは交通状況に注意してください。
- ▶ 運転席ドアを閉じます。
- ▶ 適切な距離を離して停止表示板を置いてください (▷ 276 ページ)。法規に従ってください。

① 自動車専用道路や高速道路では、停止表示板を使用することにより後続車両に警告を発することが法律で義務付けられています。

MOExtended タイヤ (ランフラット特性を持つタイヤ)

全体的な注意事項

MOExtended タイヤ (ランフラットタイヤ) により、1 本または複数のタイヤの空気圧がすべて損失しても、車両の走行を続けることができます。影響を受けたタイヤに明らかに目に見える損傷があるとは限りません。

タイヤウォールの MOExtended マークで MOExtended タイヤを識別できます。このマークはタイヤサイズ表示、耐荷重性能、スピードインデックスの横に表示されています。

MOExtended タイヤは、作動しているタイヤ空気圧警告システムまたはタイヤ空気圧モニタリングシステムと一緒にのみ使用することができます。

マルチファンクションディスプレイに空気圧警告メッセージが表示された場合：

- ディスプレイメッセージの指示に従ってください。(▶ 211 ページ)
- タイヤに損傷があるかを確認してください。
- 運転する場合は、以下の注意事項に従ってください。

最長走行距離は、車両に部分的に積載しているときは 80 km、車両にいっぱいまで積載をしているときは 30 km です。積載する荷物に加えて、走行可能な距離は以下によって異なります。

- 速度
- 道路状況
- 外気温度

ランフラットモードで走行可能な距離は、極端な走行状況/操作によって短くなったり、穏やかな運転スタイルによって長くなることがあります。

走行可能な距離は、タイヤ空気圧警告システムの警告メッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されたときが起点になります。

最高速度が 80 km/h を超えないようにしてください。

1 本または 4 本すべてのタイヤを交換するときは、必ず以下のみを使用してください。

- 車両に指定されたタイヤサイズ
- "MOExtended"マーク付きタイヤ

タイヤがパンクし、MOExtended タイヤと交換できない場合は、一時的な措置として標準タイヤを使用してください。必ず適正なサイズと適正な種類 (サマータイヤまたはウィンタータイヤ) を使用してください。

MOExtended タイヤ装備車両は、出荷時にタイヤフィットキットを装備していません。ウィンタータイヤなど、ランフラット特性を持たないタイヤを装着するときは、タイヤフィットキットを追加で装備することをお勧めします。タイヤフィットキットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

エマージェンシーモードで運転すると、コーナリングや急加速、ブレーキ時などに走行特性が低下します。事故の危険性があります。

規定の最高速度を超えないでください。急激なステアリング操作、運転操作、障害物(縁石、穴、オフロード)を超える運転を避けてください。これは特に荷物積載時にあてはまります。

以下の場合、エマージェンシーモードでの運転は中止してください。

- 大きい異音聞こえるとき
- 車に振動が発生するとき
- 煙やタイヤの焦げる臭いが発生するとき
- ESP®が常時作動するとき
- タイヤのサイドウォールに裂け目があるとき

エマージェンシーモードでの運転のあとは、さらに使用できるかの確認のためにホイールリムをメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。不具合のあるタイヤは新品と交換してください。

タイヤフィットキット

重要な安全上の注意事項

タイヤフィットはタイヤシーラント剤です。

タイヤフィットを使用して、4 mm 以下のパンク、特にタイヤトレッドにあるものをふさぐことができます。タイヤフィットは、-20 °Cまでの外気温度で使用できます。

⚠ 警告

以下の状況のときは、タイヤフィットが十分に機能しないため、タイヤを適切に修理することはできません。

- 上記に記した以上のタイヤの裂け目や穴
- ホイールリムが損傷しているとき
- 非常に低い空気圧、またはパンクした状態で走行したとき

事故の危険性があります。

それ以上走行しないでください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

⚠ 警告

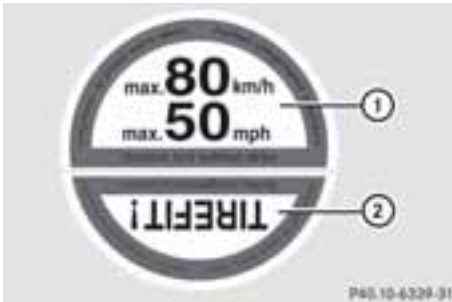
タイヤフィットは有害で、炎症を起こす原因となります。皮膚、眼、服に付着させたり、吸い込んだりしないようにしてください。タイヤフィットの臭気を吸い込まないでください。タイヤフィットは子供の手の届かないところに保管してください。負傷するおそれがあります。タイヤフィットが付着した場合は、以下の指示にしたがってください。

- タイヤフィットをただちに水道水で皮膚から洗い流してください。
- タイヤフィットが眼に付着した場合は、ただちに水道水で十分に洗い流してください。
- 万一、タイヤフィットを飲み込んだ場合は、ただちに水道水で口を十分すすぎ、水道水を大量に飲ませてください。無理に吐かせないでください。ただちに専門医の診断を受けてください。
- タイヤフィットが付着した衣類は、ただちに着替えてください。
- アレルギー反応が生じた場合は、ただちに専門医の診断を受けてください。

❗ 電動エアポンプは、一度に約 8 分以上連続して作動させると、ポンプがオーバーヒートするおそれがあります。電動エアポンプが冷えたら、再び作動させることができます。

タイヤ充填コンプレッサーのステッカーにあるメーカーの安全上の説明を遵守してください。

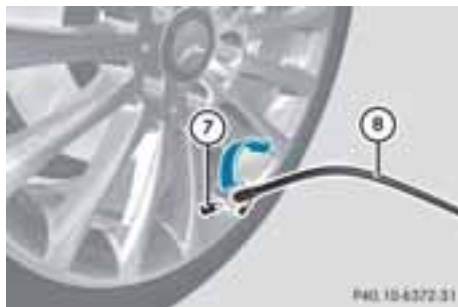
タイヤフィットキットの使用



- ▶ タイヤに刺さったクギやネジなどは取り除かないでください。
- ▶ トランクフロアボード下の収納スペースからタイヤフィットのボトル、付属のタイヤフィットステッカー、およびタイヤ充填コンプレッサーを取り出します (▶ 277 ページ)。
- ▶ タイヤフィットステッカーの ① 部分を運転者から見えるところに貼ります。
- ▶ タイヤフィットステッカーの ② 部分を不具合のあるタイヤのホイールのバルブ付近に貼ります。



- ▶ ケーブル付き電源プラグ ④ とホース ⑤ をケースから取り出します。
- ▶ ホース ⑤ をタイヤフィットのボトル ① のフランジ ⑥ にしっかり取り付けます。
- ▶ タイヤフィットのボトル ① の頭部を下にしてタイヤ充填コンプレッサーの凹部 ② にはめます。



- ▶ パンクしたタイヤのバルブ ⑦ からキャップを取り外します。
- ▶ タイヤフィットのホース ⑧ をパンクしたタイヤのバルブ ⑦ にねじ込みます。
- ▶ プラグ ④ を車両の 12V 電源ソケット (▶ 260 ページ) に差し込みます。
- ▶ イグニッションスイッチを 1 の位置にまわします (▶ 143 ページ)。
- ▶ タイヤ充填コンプレッサーの電源スイッチ ③ を押し I の位置にします。タイヤ充填コンプレッサーが作動します。タイヤに空気が送り込まれます。最初に、タイヤにタイヤフィットが送り込まれます。空気圧が一時的に約 500 kPa (5 bar/73 psi) まで上がることがあります。

この間は、タイヤ充填コンプレッサーを停止しないでください。

- ▶ タイヤ充填コンプレッサーを 5 分間作動させます。その後にはタイヤは 180 kPa (1.8 bar/26 psi) 以上の圧力になっていなければなりません。

約 5 分後に、空気圧が 180 kPa (1.8 bar/26 psi) に達している場合は、「十分なタイヤ空気圧」 (▶ 282 ページ) をご覧ください。

約 5 分後に、空気圧が 180 kPa (1.8 bar/26 psi) に達していない場合は、「不十分なタイヤ空気圧」 (▶ 282 ページ) をご覧ください。

タイヤフィットが漏れ出た場合は、そのまま乾燥させてください。フィルム状になり、取り除くことができます。

衣類にタイヤフィットが付着した場合は、できるだけ早くパークロロエチレンでクリーニングしてください。

不十分なタイヤ空気圧

5分後に空気圧が 180 kPa (1.8 bar/26 psi) に達していない場合：

- ▶ タイヤ充填コンプレッサーを停止します。
- ▶ 不具合のあるタイヤのバルブから充填ホースを外します。
- ▶ ごく低速で約 10 m 前進または後退します。
- ▶ 再度、タイヤに空気を注入します。

5分後までには、タイヤ空気圧は 180 kPa (1.8 bar/26 psi) 以上になっていなければなりません。

⚠ 警告

規定の時間が経過したのに、必要十分なタイヤ空気圧に達しない場合は、タイヤは致命的に損傷しており、タイヤフィットによるタイヤ修理はできません。損傷したタイヤや非常に低下したタイヤ空気圧により、車両のブレーキや走行特性が著しく損なわれることがあります。事故の危険性があります。

それ以上走行を続けしないで、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

十分なタイヤ空気圧

⚠ 警告

タイヤフィットで一時的に修理したタイヤは車両操縦性が損なわれてしまい、高速走行には適しません。事故の危険性があります。

そのため、状況に応じて運転スタイルを調整し慎重に走行してください。タイヤ

フィットで修理したタイヤで走行する場合は、指定された最高速度を超過しないでください。

タイヤフィットで修理されたタイヤの最高速度は 80km/h です。運転者が容易に視認できるメーターパネル内に、タイヤフィットステッカーの上部を貼付してください。

! 使用後は、ホースから余分なタイヤフィットが漏れ出ることがあります。タイヤフィットが付着すると、シミの原因になります。

したがって、ホースはタイヤフィットが収納されていた専用袋に収納してください。

Ⓢ 環境保護に関する注意

使用済みのタイヤフィットのボトルを廃棄処分する場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご依頼ください。

5分後にタイヤ空気圧が 180kPa (1.8bar/26psi) に達している場合

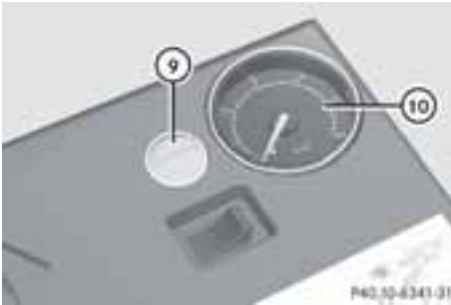
- ▶ タイヤ充填コンプレッサーを停止します。
- ▶ 不具合のあるタイヤのバルブから充填ホースを外します。
- ▶ タイヤフィットのボトル、タイヤ充填コンプレッサーおよび停止表示板を収納します。
- ▶ **ただちに発進します。**
- ▶ 約 10 分間走行した後には停止し、タイヤ充填コンプレッサーでタイヤ空気圧を点検します。
タイヤ空気圧が 130kPa (1.3 bar/19psi) 以上でなければなりません。

⚠ 警告

短時間の走行後に規定タイヤ空気圧に達しない場合は、タイヤがひどく損傷しています。この場合は、タイヤフィットでタイヤを修理することができません。タイヤの損傷およびタイヤ空気圧が低すぎ

ることにより、車両のブレーキ操作や操縦性が著しく損なわれるおそれがあります。事故発生の危険性があります。それ以上走行を続けずに、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

- ▶ タイヤ空気圧がまだ 130kPa (1.3bar/19psi) 以上の場合は修正します。数値は燃料給油口をご覧ください。
- ▶ **タイヤ空気圧を上げる**：タイヤ充填コンプレッサーを作動させます。



- ▶ **タイヤ空気圧を下げる**：空気圧ゲージ ⑩ の横にある空気圧解放スイッチ ⑨ を押します。
- ▶ タイヤ空気圧が正しいときは、修理したタイヤのバルブから充填ホースを外します。
- ▶ 修理したタイヤのタイヤバルブにバルブキャップを締め付けます。
- ▶ タイヤフィットのボトルをタイヤ充填コンプレッサーから引き出します。充填ホースはタイヤフィットのボトルについたままになります。
- ▶ タイヤフィットのボトル、タイヤ充填コンプレッサーおよび停止表示板を収納します。
- ▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行し、そこでタイヤを交換してください。

- ▶ できるだけ早くメルセデス・ベンツ指定サービス工場にてタイヤフィットのボトルを交換してください。
- ▶ タイヤフィットのボトルは 4 年ごとにメルセデス・ベンツ指定サービス工場にて交換してください。

バッテリー（車両）

重要な安全上の注意事項

取り外し、または取り付けなどのバッテリーの作業は、専門的な知識および専用工具の使用が必要です。したがって、バッテリーに関する作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

⚠ 警告

バッテリーに不適切な作業を行なうと、例えばショートにつながり、車両の電子部品を損傷します。これにより、ライトシステム、ABS（アンチロック・ブレーキングシステム）または ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）のような安全に関連したシステムに機能の制限を与えることにつながるおそれがあります。車両の操作安全性が制限されるおそれがあります。例えば、以下のときに車両のコントロールを失うおそれがあります。

- ブレーキ時
- 急なステアリング操作時、および/または車両速度が道路の状態に合っていないとき

事故の危険性があります。

ショート、または似たような出来事の場合は、すぐにメルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。それ以上走行しないでください。バッテリーに関する作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

- ❗ ABS および ESP® (p. 77 ページ) および (p. 83 ページ) に関する詳しい情報

⚠ 警告

静電気を帯びていると、火花が発生してバッテリーから発生する高可燃性のガスに引火することがあります。爆発の危険性があります。

バッテリーを取り扱う前に、車体に触れて身体の静電気を放電させてください。

バッテリーを充電している間、およびジャンプスタートを行なっているときは、可燃性の高い混合ガスが発生します。

お客様にも、そしてバッテリーにも静電気が帯電していないことを常に確認してください。静電気の帯電は以下のときなどに発生します。

- 合成繊維製の衣服を着用しているとき
- 衣服とシートの間で摩擦が起こるとき
- カーペットまたは他の合成繊維の上でバッテリーを引きずったとき
- バッテリーを布で拭いたとき

⚠ 警告

充電中はバッテリーから水素ガスが発生します。バッテリーのショートや火花の発生により、水素ガスに引火するおそれがあります。爆発の危険性があります。

- 接続されたバッテリーのプラス端子が車両部品と接触していないことを確認してください。
- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。
- バッテリーの接続および切り離しを行なうときは、記載された手順通りにバッテリー端子を接続することが重要です。
- ジャンプスタートを行なうときは、同じ極のバッテリー端子を接続していることを確認してください。
- ブースターケーブルの接続、切り離しを行なうときは、記載された手順に従うことが特に重要です。
- エンジン作動中は、決してバッテリー端子の接続または切り離しを行なわないでください。

⚠ 警告

バッテリー液は腐食性があります。けがをするおそれがあります。

皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。バッテリーから発生するガスを吸い込まないでください。バッテリーをのぞき込まないでください。バッテリーは子供の手が届かない場所に保管してください。バッテリー液が付着したときはただちに水洗いし、医師の診察を受けてください。

🌿 環境に関する注意

電池には汚染物質が含まれています。家庭ごみと一緒に廃棄することは法律で禁止されています。使用済みの電池は個別に回収し、環境に適合するリサイクル方法で処分してください。



電池は環境保護の観点から責任を持って適切に廃棄してください。使用済みの電池はメルセデス・ベンツ指定サービス工場または使用済み電池の収集場までお持ちください。

❗ メルセデス・ベンツ指定サービス工場
でバッテリーの点検を定期的に受けてください。

整備手帳のメンテナンスインターバルを確認するか、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

❗ バッテリーに関する作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。例外的な状況下で、お客様自身でどうしてもバッテリーの接続を外す必要がある場合は、以下に従ってください。

- 動き出すことを防ぐために車両を固定します。
- エンジンを停止し、キーを抜きます。イグニッションがオフになっていることを確認します。メーターパネルのすべての表示灯が消灯していることを確認します。さもないと、オルタネーターなどの電子部品を損傷するおそれがあります。
- 先にマイナス端子、次にプラス端子を外します。決して端子を逆に接続しないでください。さもないと、車両の電子部品を損傷するおそれがあります。
- バッテリーの接続を外した後は、トランスミッションは **P** の位置でロックされます。動き出さないように車両が固定されます。そのため、車両を動かすことができなくなります。

運転中は、バッテリーおよびプラス端子のカバーが確実に装着されていないと危険です。

バッテリーを取り扱うときは、安全上の注意事項および防護措置を守ってください。



警告



バッテリーを取り扱うときは、火気や裸火、タバコは禁止です。火花の発生は避けてください。



バッテリー液には腐食性があります。皮膚、目または衣服への付着を防いでください。

手袋やエプロン、マスクなど、適切な保護衣を着用してください。

清潔な水で、ただちに飛散した酸を洗い流してください。必要に応じて、医師の診察を受けてください。



保護眼鏡を着用してください。



子供を近づけないでください。



取扱説明書の指示に従ってください。

安全のため、バッテリーは必ず純正品を使用してください。純正バッテリーは衝撃保護性能に優れており、事故などでバッテリーが損傷した際に乗員が酸で火傷をする危険性を低減します。

バッテリーの性能を長期的にわたって最大限に発揮させるためには、バッテリーが常に十分に充電されていることが必要です。

車両のバッテリーは他のバッテリーと同様に、車両を使用しないと徐々に放電する可能性があります。長期間車両を使用しない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのバッテリーの接続を外す作業を依頼してください。純正バッテリー充電器を使用してバッテリーを充電することもできます。詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

車両を長期間使用しないときや、短距離、短時間の走行が多い場合は、通常よりも頻りにバッテリー液量や充電状態を点検してください。車両を長期間使用しないときの保管方法については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

駐車時に電気装備を必要としないときは、キーを抜いてください。エンジンスイッチにキーが差し込まれているときは、電力をわずかに消費します。

バッテリーの充電

⚠ 警告

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、可燃性のガスがバッテリーから発生することがあります。爆発の危険性があります。

バッテリーを取り扱うときは、特に火気や裸火、火花、タバコなどを近付けないでください。バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、十分な換気を確認してください。バッテリーをのぞき込まないでください。

⚠ 警告

バッテリー液は腐食性があります。けがををするおそれがあります。

皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。バッテリーから発生するガスを吸い込まないでください。バッテリーをのぞき込まないでください。バッテリーは子供の手が届かない場所に保管してください。バッテリー液が付着したときはただちに水洗いし、医師の診察を受けてください。

⚠ 警告

放電したバッテリーは、気温が氷点下になると凍結するおそれがあります。ジャンプスタートやバッテリーの充電を行なうときは、バッテリーからガスが発生することがあります。爆発の危険性があります。

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なう前に、凍結したバッテリー液を解凍してください。

❗ 必ず最大充電電圧が約 14.8 V のバッテリー充電器を使用してください。

❗ バッテリーを充電する場合は、必ずジャンプスタートターミナルを使用してください。

ジャンプスタートターミナルはエンジンルーム内にあります (▷ 287 ページ)。

- ▶ ボンネットを開きます。
- ▶ ジャンプスタートの手順で救援用バッテリーを接続するときと同じ順序で、バッテリー充電器をプラス端子とアースポイントに接続してください。(▷ 287 ページ)

メルセデス・ベンツによりテストおよび承認されたバッテリー充電器を使用しない場合は、車両に装着されたままバッテリーを充電しないでください。メルセデス・ベンツ車両用に特別に適合した、メルセデス・ベンツによりテストおよび承認されたバッテリー充電器ユニットはアクセサリとして入手できます。この充電器は、車両に装着された状態でバッテリーの充電が許可されています。情報および入手については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。バッテリーを充電する前に、バッテリー充電器の取扱説明書をお読みください。

低温時に表示灯/警告灯が点灯しない場合、放電したバッテリーが凍結していることがあります。このような場合、車両をジャンプスタートすることも、またはバッテリーを充電することもできないことがあります。解凍したバッテリーの寿命は短くなることがあります。特に低温時の始動性能が損なわれることがあります。解凍したバッテリーは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ジャンプスタート

ジャンプスタートには、エンジンルーム内のプラス端子とアースポイントで構成されているジャンプスタート用端子のみを使用してください。

⚠ 警告

バッテリー液は腐食性があります。けがをするおそれがあります。

皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。バッテリーから発生するガスを吸い込まないでください。バッテリーをのぞき込まないでください。バッテリーは子供の手が届かない場所に保管してください。バッテリー液が付着したときはただちに水洗いし、医師の診察を受けてください。

⚠ 警告

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、可燃性のガスがバッテリーから発生することがあります。爆発の危険性があります。

バッテリーを取り扱うときは、特に火気や裸火、火花、タバコなどを近付けないでください。バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、十分な換気を確保してください。バッテリーをのぞき込まないでください。

⚠ 警告

充電中はバッテリーから水素ガスが発生します。バッテリーのショートや火花の発生により、水素ガスに引火するおそれがあります。爆発の危険性があります。

- 接続されたバッテリーのプラス端子が車両部品と接触していないことを確認してください。
- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。
- バッテリーの接続および切り離しを行なうときは、記載された手順通りにバッテリー端子を接続することが重要です。
- ジャンプスタートを行なうときは、同じ極のバッテリー端子を接続していることを確認してください。
- ブースターケーブルの接続、切り離しを行なうときは、記載された手順に従うことが特に重要です。
- エンジン作動中は、決してバッテリー端子の接続または切り離しを行なわないでください。

⚠ 警告

放電したバッテリーは、気温が氷点下になると凍結するおそれがあります。ジャンプスタートやバッテリーの充電を行なうときは、バッテリーからガスが発生することがあります。爆発の危険性があります。

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なう前に、凍結したバッテリー液を解凍してください。

! エンジン始動操作を長時間繰り返して行なわないでください。未燃焼燃料によって触媒が損傷するおそれがあります。

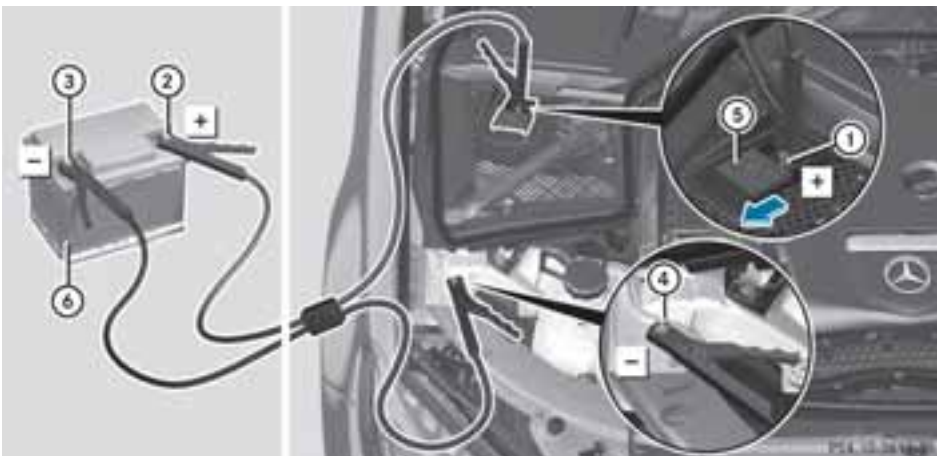
低温時に表示灯/警告灯が点灯しない場合、放電したバッテリーが凍結していることがあります。このような場合、車両をジャンプスタートすることも、バッテリーを充電することもできないことがあります。解凍したバッテリーの寿命は短くなる場合があります。特に低温時の始動性能が損なわれる場合があります。解凍したバッテリーは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

車両の始動のために急速充電器を使用しないでください。車両のバッテリーが放電したときは、ブースターケーブルを使用して他の車両や補助バッテリーからエンジンをジャンプスタートすることができます。以下の点に従ってください。

- すべての車両でバッテリーに手が届くわけではありません。他の車両のバッテリーに手が届かない場合は、補助バッテリーまたはジャンプスタート用機器を使用して、車両をジャンプスタートしてください。
- エンジンおよび排気システムが冷えているときにのみ、車両のジャンプスタートを行ってください。
- バッテリー液が凍結している場合は、エンジンを始動しないでください。最初にバッテリーを解凍してください。
- ジャンプスタートは、定格電圧 12 V のバッテリーを使用してのみ行なうことができます。
- 十分な太さがあり、絶縁された端子クランプの付いたブースターケーブルのみを使用してください。
- バッテリーが完全に放電した場合は、始動を試みる前に、ジャンプスタートのために接続したバッテリーを数分間接続したままにしてください。これにより、放電したバッテリーに若干充電されます。
- 2 台の車両が接触していないことを確認します。

以下のことを確認してください。

- ブースターケーブルが損傷していないこと
- ブースターケーブルをバッテリーに接続している間、端子クランプの絶縁されていない部分が他の金属部品と接触していないこと
- エンジンが回転しているとき、ブースターケーブルが V ベルトプーリーやファンなどの部品に巻き込まれないようにする
- ▶ 電気式パーキングブレーキを作動させ、車両が動き出さないように固定します。
- ▶ **オートマチックトランスミッション**：トランスミッションをポジション **P** にシフトします。
- ▶ **マニュアルトランスミッション**：クラッチペダルをいっぱいまで踏み、ニュートラルにシフトします。
- ▶ イグニッションがオフになっていることを確認してください (▶ 143 ページ)。メーターパネル内のすべての表示灯が消灯しなければなりません。キーを使用しているときは、キーをイグニッションロックの **0** の位置にまわして、抜きます (▶ 143 ページ)。
- ▶ リアデフォグラー、ライトなどすべての電気装備を停止します。
- ▶ ボンネットを開きます。



位置番号 ⑥ は、救援車両のバッテリーまたはジャンプスタート装置を示します。

- ▶ プラス端子 ① のカバー ⑤ を矢印の方向に動かして開きます。
- ▶ ブースターケーブルを使用して、自車のプラス端子 ① と救援車両のバッテリー ⑥ のプラス端子 ② を接続します。常にまず自車のプラス端子 ① から始めます。
- ▶ 救援車のエンジンを始動し、アイドリング回転数で作動させます。
- ▶ ブースターケーブルを使用して、救援車両のバッテリー ⑥ のマイナス端子 ③ と自車のバッテリーのアースポイント④を接続します。その際は、救援車両のバッテリー ⑥ から最初に接続します。
- ▶ エンジンを始動します。
- ▶ ブースターケーブルを外す前に、エンジンを数分間作動させてください。
- ▶ 最初にブースターケーブルをアースポイント ④ のマイナス端子 ③ から、次にプラスクランプ ① をプラス端子 ② から取り外します。いずれの際も、最初に自車の端子から開始してください。
- ▶ ブースターケーブルを取り外した後に、プラス端子 ① のカバー ⑤ を閉じます。
- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのバッテリーの点検を受けてください。

ジャンプスタートは、通常の操作状況とはみなされていません。

i ジャンプスタートのケーブル、およびジャンプスタートについての詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場ですべて入手できます。

けん引とけん引始動

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

安全性に関する機能は以下の場合に制限されるか、または使用できなくなります。

- エンジンがかかっていない。
- ブレーキシステムまたはパワーステアリングに不具合がある
- 電圧供給または車両の電気システムに不具合がある

車両をけん引する、またはけん引を開始するときに、ステアリング操作またはブレーキ操作に非常に大きな力が必要になることがあります。事故の危険性があります。

そのような場合は、固定けん引バーを使用してください。けん引する、またはけん引を開始する前に、ステアリングが自由に動くことを確認します。

⚠ 警告

ステアリングロックがかかっている場合は、ステアリングが操作できなくなります。事故の危険性があります。

けん引ケーブルまたはけん引バーで車両をけん引するときは、常にイグニッションをオンにしてください。

⚠ 警告

他の車両をけん引する、またはけん引始動するとき、その重量がお客様の車両の許容総重量よりも大きい場合：

- けん引フックがちぎれる可能性があります
- トレーラー連結車両が蛇行し、横転するおそれがあります

事故の危険性があります。

他の車両をけん引する、またはけん引始動するとき、その重量はお客様の車両の許容総重量よりも大きくてはいけません。

❗ コリジョンプリベンションアシストプラス、ディストロニック・プラスまたはホールド機能が作動すると、特定の状況で車両に自動的にブレーキがかかります。車両の損傷を防ぐため、次のような状況ではこれらのシステムが解除してください。：

- けん引時
- 洗車時

❗ パーキングブレーキが解除されていることを確認してください。パーキングブレーキが故障している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場をおたずねください。

❗ けん引ロープやけん引バーは、けん引フックにのみ固定してください。車体が損傷するおそれがあります。

❗ けん引ロープを使用してけん引を行なう場合は、必ず以下の点に注意してください。

- ロープは、両車とも同じ側につないでください。
- けん引ロープの長さは5m以内である必要があります。その中間に白い布(30x30cm)を付けて、けん引中であることが周囲から明確にわかるようにしてください。
- けん引フック以外にはロープをかけないでください。
- 走行中は、けん引する車のブレーキランプに注意してください。常に車間距離を維持しつつ、ロープをたるませないように走行してください。
- ワイヤロープや金属製のチェーンは使用しないでください。車体に傷が付くおそれがあります。

❗ スタックから脱出するためにけん引フックを使用しないでください。車体を損傷するおそれがあります。できれば、

クレーンを使用して車両を脱出させてください。

❗ けん引やけん引始動を行なうときは、ゆっくり発進し、車両に過大な力をかけないでください。車が損傷するおそれがあります。

❗ けん引するときは、オートマチックトランスミッションを **N** にシフトし、運転席または助手席のドアを開かないでください。さもないと、オートマチックトランスミッションが **P** にシフトして、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

❗ 車両は最長で約 50 km までけん引できます。けん引する際の速度は、約 30 km/h を超えないようにしてください。

距離が約 50 km を超える場合は、必ず車両全体をリフトアップして、車両運搬車を利用してください。

❗ お客様の車両より重い車両のけん引またはけん引始動は絶対に避けてください。

けん引を行なうときは、各国の法規制に従ってください。

できるだけけん引は避け、車両を運搬してください。

車両のトランスミッションが損傷した場合は、運搬車またはトレーラーで運搬してください。

オートマチックトランスミッション装備車： 車両をけん引するときは、必ずオートマチックトランスミッションをポジション **N** にしてください。オートマチックトランスミッションをポジション **N** にシフトできない場合は、運搬車両またはトレーラーで車両を運搬してください。

バッテリーが接続されていて、充電されていないと、以下のような事態を招きます。

- エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわすことができない
- 電気式パーキングブレーキを解除できない
- オートマチックトランスミッション装備車両では、トランスミッションをポジション **N** にシフトできない

車両をけん引する前に、車速感応ドアロックを解除してください (▷ 99 ページ)。さもないと、車両を押したり、けん引するときに、閉め出されるおそれがあります。

車両をけん引する前に、けん引防止機能を解除してください (▷ 90 ページ)。

けん引フックの取り付け/取り外し

けん引フックの取り付け



けん引フック締め付け用のブラケットは、バンパー内にあります。それらは、リアおよびフロントのカバー①の下にあります。

- ▶ 車載工具キット/収納トレイからけん引フックを取り出します(▶ 277 ページ)。
- ▶ カバーのマークを① 内側に押し取り外します。
- ▶ 停止するまで時計回りにけん引フックをまわし、締め付けます。

けん引フックの取り外し

- ▶ けん引フックを緩めて取り外します。
- ▶ カバー ① をバンパーに取り付け、固定されるまで押します。
- ▶ けん引フックを車載工具キット/収納トレイに置きます。

リアアクスルを上げての車両のけん引

! リアをつり上げてけん引を行なうときは、必ずイグニッションをオフにしてください。ESP[®]の介入によりブレーキが損傷するおそれがあります。

- ▶ 非常点滅灯を作動させます (▶ 124 ページ)。
- ▶ 前輪を直進位置にします。
- ▶ 必要な場合は、エンジンスイッチのキーを **0** の位置にまわして、エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ 車両を離れるときは、キーを携帯してください。

リアアクスルを上げて車両をけん引するときは、安全指示に従うことが重要です (▶ 290 ページ)。

4 輪を接地させてけん引を行なう場合

オートマチックトランスミッション装備車両：運転席または助手席ドアを開いたとき、またはエンジンスイッチからキーを取り外したときは、オートマチックトランスミッションは自動的にポジション **P** にシフトします。車両をけん引するときに、オートマチックトランスミッションをポジション **N** のままにするためには、以下の点に従わなければなりません。

- ▶ 車両が停止していることを確認してください。
- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします。
- ▶ ブレーキペダルを踏んだまま保持します。
- ▶ オートマチックトランスミッションをポジション **N** にシフトします。

マニュアルトランスミッション装備車：

- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします。
- ▶ ブレーキペダルを踏んだまま保持します。
- ▶ クラッチペダルをいっぱいまで踏み、ニュートラルにシフトします。

マニュアルまたはオートマチックトランスミッション装備車両：

- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置のままにします。
- ▶ ブレーキペダルを放します。
- ▶ 電気式パーキングブレーキを解除します。
- ▶ 非常点滅灯を作動させます (▶ 124 ページ)。

非常点滅灯を点滅させてけん引してもらうときは、進路変更を行なうために、通常通りコンビネーションスイッチを操作してください。このときは、希望の方向の方向指示灯のみが点滅します。コンビ

ネーションスイッチを元に戻すと、非常点滅灯が再度点滅し始めます。

車両の運搬

! 車両を固定するときは、アクスルやステアリング構成部品などにかけずに、ホイールにのみかけてください。車体を損傷するおそれがあります。

運搬目的で車両をトレーラーまたはトランスポーターに引き上げるために、けん引フックを使用することができます。

▶ **マニュアルトランスミッション装備車両**：クラッチペダルをいっぱいまで踏み、ニュートラルにシフトします。

▶ **オートマチックトランスミッション装備車両**：キーをエンジンスイッチの**2**の位置にまわします。

▶ オートマチックトランスミッションをポジション **N** にシフトします。

車両を積載したら、ただちに以下のようにします：

▶ 電気式パーキングブレーキを効かせることにより、車両が動き出すことを防止してください。

▶ **マニュアルトランスミッション装備車両**：クラッチペダルをいっぱいまで踏み、1速またはリバースギアに入れます。

▶ **オートマチックトランスミッション装備車**：オートマチックトランスミッションをポジション **P** にシフトします。

▶ キーをエンジンスイッチの**0**の位置にまわして、抜きます。

▶ 車両を固定します。

けん引始動（エンジンエマージェンシースタート）

! オートマチック車はけん引始動しないでください。オートマチックトランスミッションを損傷するおそれがあります。

i "ジャンプスタート"に関する情報は、(▶ 287 ページ) にあります。

けん引始動を行なう前に、以下の条件が満たされていないければなりません。

- バッテリーが接続されている
- エンジンが冷えている
- 排気システムが冷えている

けん引始動を行なうときは、安全に関する注意事項 (▶ 290 ページ) および各国で定められている法規を遵守してください。

▶ 非常点滅灯を点滅させます (▶ 124 ページ)。

▶ けん引フック (▶ 291 ページ) を取り付けます。

▶ 固定式けん引バーまたはけん引ロープを固定します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま保持します。

▶ エンジンスイッチのキーを**2**の位置にまわします。

▶ クラッチペダルをいっぱいまで踏み、2速ギアに入れ、クラッチペダルはいっぱいまで踏んだままにします。

▶ ブレーキペダルを放します。

▶ 車両をけん引始動します。

▶ クラッチペダルをゆっくり放します。このことを行なっている間は、アクセルペダルを踏まないでください。

▶ エンジンが始動したら、ただちにクラッチペダルをいっぱいまで踏み、ニュートラルにシフトします。

▶ 道路および交通状況に注意しながら、車両を適切な場所に移動して、安全に停止してください。

- ▶ 電気式パーキングブレーキを使用して車両を固定し、発進しないようにします。
- ▶ 固定式けん引バーまたはけん引ロープを取り外します。
- ▶ けん引フック (▷ 292 ページ) を取り外します。
- ▶ 非常点滅灯を解除します。

ヒューズ

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

切れたヒューズを使用したり、ブリッジしたり、またはより高いアンペア数のヒューズと交換すると、ケーブルに過負荷がかかります。火災の原因になります。事故やけがの危険性があります。

切れたヒューズは、必ず正しいアンペア数の指定された新品のヒューズと交換してください。

切れたヒューズは、色とヒューズの定格を確認したうえで、同じ定格のヒューズと交換しなければなりません。ヒューズの定格は、ヒューズ配置表に記載されています。

新しく差し込んだヒューズが切れる場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場の原因究明および修理を行なってください。

! ヒューズは必ずメルセデス・ベンツ車両に適合し、該当する電気装備と同じ規定容量を満たすものを使用してください。適切でないヒューズを使用すると、構成部品や電気装備を損傷するおそれがあります。

車両のヒューズは異常のある回路への接続を切断します。ヒューズが切れた場合は、回路上のすべての構成部品とそれらの機能が作動しなくなります。

ヒューズを交換する前に

- ▶ 車両が動き出さないように固定します (▷ 157 ページ)。
- ▶ すべての電気装備を停止します。
- ▶ イグニッションがオフになっていることを確認します (▷ 143 ページ)。

または

- ▶ キーを使用しているときは、キーをエンジンスイッチの **O** の位置にまわして、取り外します (▷ 143 ページ)。

メーターパネル内のすべての表示灯が消灯しなければなりません。

ヒューズは、以下のヒューズボックス内にあります。

- ダッシュボードの運転席側のヒューズボックス
- 助手席足元のヒューズボックス
- 運転席側のエンジンルーム内のヒューズボックス
- 進行方向右側の車両のトランクフロアボード下のヒューズボックス

ヒューズ配置表はトランク内のヒューズボックスにあります (▷ 296 ページ)。

ダッシュボードのヒューズボックス

! ドライバーなどの鋭利な物を使用して、ダッシュボードのカバーを開かないでください。ダッシュボードやカバーを損傷するおそれがあります。

! カバーを開く際に、ヒューズボックス内部に浸水しないように注意してください。

! カバーを閉じる時は、ヒューズボックスに確実にハマっていることを確認してください。ヒューズボックスの中に水分や異物が浸入すると、ヒューズの機能に障害が発生するおそれがあります。



- ▶ 運転席ドアを開きます。
- ▶ **開く**：カバー①の底部を矢印③の方向に少し引き出します。
- ▶ カバー①を矢印②の方向へ外側に起こします。
- ▶ **閉じる**：カバー①がロックされるまで倒します。

助手席足元のヒューズボックス

- ❗ カバーを開く際に、ヒューズボックス内部に浸水しないように注意してください。
- ❗ カバーを閉じる時は、ヒューズボックスに確実にハマっていることを確認してください。ヒューズボックスの中に水分や異物が浸入すると、ヒューズの機能に障害が発生するおそれがあります。
- ▶ 助手席ドアを開いてください。



- ▶ 助手席ドアを開いてください。
- ▶ **開く**：カバー①を後方へ向かって引き、取り外します。
- ▶ **閉じる**：カバー①を後方に押し込みます。
- ▶ 固定されるまでカバー①を前方に倒します。

エンジンルーム内のヒューズボックス

⚠ 警告

ボンネットを開いているとき、ワイパーを作動位置のままにしていると、ワイパーリンクージでけがをするおそれがあります。けがの危険性があります。ボンネットを開く前に、必ずワイパーおよびエンジンスイッチをオフにしてください。

- ❗ カバーを開く際に、ヒューズボックス内部に浸水しないように注意してください。
- ❗ カバーを閉じる時は、ヒューズボックスに確実にハマっていることを確認してください。ヒューズボックスの中に水分や異物が浸入すると、ヒューズの機能に障害が発生するおそれがあります。



- ▶ ボンネットを開きます。
- ▶ **開く**：カバーのロッククリップ ① を同時に押します。
- ▶ ヒューズボックスカバー ② を上方に取り外します。



- ▶ 乾いた布を使用して、ヒューズボックスに付着している水分を取り除きます。
- ▶ ボルト ③ をゆるめ、ヒューズボックスのリッド ④ を持ち上げ、取り外します。
- ▶ **閉じる**：シールがリッド ④ の正しい位置にあることを確認します。
- ▶ リッド ④ をヒューズボックスの後方にあるブラケットに差し込みます。
- ▶ ヒューズボックスのリッド ④ を下に倒し、ネジ ③ を締めます。

トランク内のヒューズボックス

! カバーを開く際に、ヒューズボックス内部に浸水しないように注意してください。

! カバーを閉じる時は、ヒューズボックスに確実にハマっていることを確認してください。ヒューズボックスの中に水分や異物が浸入すると、ヒューズの機能に障害が発生するおそれがあります。



- ▶ トランクリッドを開きます。
- ▶ トランクフロアボードを引き上げます。(▷ 258 ページ)
- ▶ **開く**：カバー ① を矢印の方向に向かって持ち上げます。
- ▶ **閉じる**：カバー ① を矢印と逆の方向に倒します。
カバーが専用の溝に収まっていることを確認します。

i ヒューズ配置表はヒューズボックス側面の凹部にあります。対応するヒューズの規格およびヒューズの種類はヒューズ配置表にあります。

役に立つ情報	298
重要な安全上の注意事項	298
操作	299
寒冷時の取り扱い	301
タイヤ空気圧	301
車輪の交換	305
ホイールとタイヤの組み合わせ ..	311
応急用スペアタイヤ	316

役に立つ情報

i この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

i メルセデス・ベンツ指定サービス工場
で情報をご覧ください。(▷ 28 ページ)

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

誤ったサイズのホイールやタイヤを使用すると、車輪ブレーキまたはサスペンションの部品を損傷することがあります。事故の危険性があります。

純正部品の仕様に適合するホイールやタイヤと必ず交換してください。

ホイールを交換する場合、正しく取り付けるために以下を確認してください：

- 型式
- タイプ

タイヤを交換する場合、正しく取り付けるために以下を確認してください：

- 型式
- メーカー
- タイプ

⚠ 警告

パンクは車両の走行、ステアリング、ブレーキ特性を著しく損なうことがあります。事故の危険性があります。

ランフラット特性のないタイヤ：

- パンクしたタイヤで走行しないでください。
- ただちにパンクしたタイヤを応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤと交換

するか、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でご相談ください。

ランフラット特性を持つタイヤ：

- MOExtended タイヤ(ランフラット特性を持つタイヤ)に関する情報と警告注意に注意してください。

メルセデス・ベンツにより車両への使用が認められていないアクセサリーを装着したり、アクセサリーが正しく使用されていないと、操縦安定性を損なうことがあります。

承認されていないアクセサリーを購入し、ご使用になる前に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場以下についてご確認ください。

- 適合性
- 合法性
- 推奨品

車両のホイールとタイヤのサイズおよび種類に関する情報は"ホイール／タイヤの組み合わせ"(▷ 311 ページ)に記載されています。

車両のタイヤ空気圧に関する情報は、以下にあります：

- 燃料給油口フラップにあるタイヤ空気圧ラベル (▷ 155 ページ)
- "タイヤ空気圧" (▷ 301 ページ)

ブレーキシステムおよびホイールの改造は許可されていません。ホイールスペーサーまたはブレーキダストシールドの使用は許可されていません。これらは車両の一般使用許可を無効にします。

i タイヤとホイールについての詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

操作

走行に関する情報

車両に重い荷物を積んでいるときは、タイヤ空気圧を点検し、必要に応じて調整してください。

走行中は、振動や騒音が発生したり、ステアリングが片側に取られるなど、車両操縦性に変化が現れていないか注意してください。このような症状の原因には、タイヤやホイールの損傷が考えられます。タイヤに異常を感じたら、ただちに速度を落としてください。すみやかに安全な場所に停車して、タイヤとホイールに損傷がないか点検してください。タイヤが損傷すると、車両操縦性が損なわれる原因になります。損傷が何も認められない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのホイールとタイヤの点検を受けてください。

車両を駐車するときは、タイヤが縁石や障害物により変形していないことを確認してください。また、縁石や路面の段差などを乗り越える必要がある場合は、速度を落とし、縁石や段差に対してタイヤをできるだけ直角にして乗り越えてください。さもないと、タイヤ、特にサイドウォールが損傷するおそれがあります。

ホイールとタイヤの定期点検

⚠ 警告

タイヤが損傷すると、タイヤ空気圧が低下する原因になります。その結果として、車両のコントロールを失うおそれがあります。事故発生の危険性があります。

タイヤに損傷がないか定期的に点検を行ない、損傷したタイヤはただちに新品と交換してください。

ホイールとタイヤの定期点検は、少なくとも月に1度、またオフロードや凹凸路の走行後にも行ない、タイヤに損傷がないか確認してください。ホイールが損傷すると、タイヤ空気圧が低下する原因になります。特に、以下のような損傷にご注意ください。

- タイヤの傷
- 刺し傷などの穴
- タイヤの裂け目
- タイヤの突起
- ホイールの変形や腐食

タイヤ残り溝の深さやタイヤの幅全体にわたるトレッドの状態を定期的に点検してください(▶ 300 ページ)。必要に応じて、タイヤ表面の内側を点検するために、前輪をフルロックまでまわしてください。

ほこりや水分の侵入を防ぎバルブを保護するため、すべてのホイールにバルブキャップを必ず装着してください。純正品または承認された製品以外のバルブキャップをバルブに装着しないでください。純正品以外のバルブキャップまたはタイヤ空気圧モニタリングシステムなどのシステムを装着しないでください。

長距離走行の前は特に、定期的にすべてのタイヤの空気圧を点検してください。必要に応じて、タイヤ空気圧を調整してください(▶ 301 ページ)。

応急用スペアタイヤに関する注意事項に従ってください。(▶ 316 ページ)

タイヤの耐用年数は、以下を含むさまざまな要因に左右されます。

- 運転スタイル
- タイヤ空気圧
- 総走行距離

タイヤトレッドに関する重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

タイヤのトレッドが不十分であると、タイヤのグリップが低下します。このようなタイヤは水を排出することができなくなり、濡れた路面で、特に走行状況に適していない速度で走行すると、ハイドロプレーニング現象が生じる危険性が高くなります。事故発生の危険性があります。タイヤ空気圧が高すぎたり低すぎたりすると、トレッド面の位置によって偏摩耗が生じることがあります。タイヤの定期点検を行なう時は、タイヤの溝の深さだけでなく、タイヤの内側の摩耗状態も点検してください。

タイヤの溝の深さの最小値：

- サマータイヤ：3mm
- ウィンタータイヤ：4mm

安全保持のために、タイヤの溝の深さが法律で定められた最小値に達する前に、該当するタイヤを新品と交換してください。

タイヤの選択、装着および交換

⚠ 警告

記載されているタイヤ耐荷重性能および承認されている最高速度を超過すると、タイヤが損傷したり、タイヤが破裂したりするおそれがあります。事故の危険性があります。

このため、車両モデルに使用が承認されているタイヤのタイプとサイズのみを使用してください。車両に必要なタイヤ荷重指数と速度記号を確認してください。

タイヤの認証に関する国の要件に注意してください。これらの要件には特定のタイヤのタイプを車両に使用するように定められていることがあります。さらに、特定の地域およびエリア内の運転のために特定のタイヤ種類の使用は、非常に有益になることがあります。タイヤに関する

さらなる情報は、専門のタイヤ業者またはメルセデス・ベンツ指定サービス工場にあります。

- 同じ種類で同じ銘柄のタイヤおよびホイールのみを装着してください。
例外：パンクした場合は、異なる種類や銘柄の装着が認められています。"MOExtended タイヤ (ランフラット特性を持つタイヤ)" の項目に注意してください (▷ 279 ページ)。
- 適正なサイズのタイヤをホイールに装着してください。
- 新しいタイヤでは最初の 100 km は控えめな速度で走行してください。この距離を走行後にのみ、最高の性能に達します。
- タイヤトレッド部の残り溝が不足したタイヤで走行しないでください。さもないと、濡れた路面ではタイヤのグリップが著しく低下します (ハイドロプレーニング現象)。
- 摩耗の程度にかかわらず、6 年以上経過したタイヤは交換してください。

応急用スペアタイヤに関する注意事項に従ってください (▷ 316 ページ)。

MOExtended タイヤ (ランフラット特性を持つタイヤ)

MOExtended タイヤ (ランフラット特性を持つタイヤ) により、1 本または複数のタイヤの空気圧がすべて損失しても、車両の走行を続けることができます。

MOExtended タイヤは、作動しているタイヤ空気圧警告システムまたはタイヤ空気圧モニタリングシステムおよびメルセデス・ベンツにより特別にテストされたホイールとの組み合わせでのみ使用することができます。

パンクした MOExtended タイヤで走行する時の注意事項 (▷ 279 ページ)

i MOExtended タイヤ装備車両は、出荷時にタイヤフィットキットを装備していません。ウィンタータイヤなど、ランフラット特性を持たないタイヤを装着するときは、タイヤフィットキットを追加で装備することをお勧めします。タイヤフィットキットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で購入できます。

寒冷時の取り扱い

全体的な注意事項

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

サマータイヤでの走行

+7℃以下の温度では、サマータイヤは弾力性を失い、接地性と制動力が低下します。車両のタイヤを M+S タイヤに交換してください。非常に低い温度でのサマータイヤの使用は、亀裂が発生し、復元不可能なタイヤの損傷の原因になるおそれがあります。このようなタイヤの損傷は、保証の対象外になります。

⚠ 警告

タイヤが損傷すると、タイヤ空気圧が低下する原因になります。その結果として、車両のコントロールを失うおそれがあります。事故発生の危険性があります。タイヤに損傷がないか定期的に点検を行ない、損傷したタイヤはただちに新品と交換してください。

M+S タイヤ

⚠ 警告

ウィンタータイヤの溝の深さが約 4 mm 以下になったときは、冬季用のタイヤとして不適切になり、十分な接地性を確保できなくなります。事故につながるおそれがあります。

ウィンタータイヤの溝の深さが約 4 mm 以下になったときは、必ず新品と交換してください。

さらなる情報は、デジタル版取扱説明書にあります。

スノーチェーン

⚠ 警告

スノーチェーンが前輪に装着されている場合は、車体またはシャーシの部品に引き込まれることがあります。これにより、車両またはタイヤが損傷するおそれがあります。事故の危険性があります。危険な状態を避けるために

- スノーチェーンを前輪に装着しないでください
- スノーチェーンは必ずペアで後輪に装着してください。

さらなる情報は、デジタル版取扱説明書にあります。

タイヤ空気圧

タイヤ空気圧基準値

⚠ 警告

タイヤ空気圧が不足または過剰な場合、以下の危険があります。

- 荷重が大きく車両速度が高い場合は特に、タイヤが破裂するおそれがある。
- タイヤが過度に、また不均一に摩耗し、それによってタイヤの駆動力が損なわれるおそれがある。
- ステアリング操作やブレーキ操作などの車両操縦性が大幅に損なわれるおそれがある。

事故を起こすおそれがあります。

指定のタイヤ空気圧を遵守し、以下のときにはスペアタイヤを含むすべてのタイヤの空気圧を点検してください。

- 少なくとも 2 週間に 1 回
- 荷重が変化したとき
- 長距離走行を開始する前
- オフロード走行など、使用条件が変わったとき

必要であれば、適正なタイヤ空気圧に調整してください。

⚠ 警告

適切でないアクセサリをバルブに取り付けると、バルブに過負荷がかかって誤作動し、タイヤ空気圧が不足する原因となります。設計上、タイヤ空気圧モニターシステムを後装着すると、バルブが開いたままになり、タイヤ空気圧が不足するおそれもあります。事故発生の危険性があります。

標準仕様のバルブキャップまたはメルセデス・ベンツ純正の車両専用バルブキャップのみをバルブに取り付けてください。

⚠ 警告

タイヤ空気圧が何度も低下する場合は、ホイール、バルブまたはタイヤが損傷している可能性があります。タイヤ空気圧が不十分であると、タイヤが破裂するおそれがあります。事故発生の危険性があります。

- タイヤに異物がないか点検します。
- ホイールやバルブからの空気漏れがないか点検します。

損傷を修理できない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

🌀 環境保護に関する注意

少なくとも 2 週間に 1 度、タイヤ空気圧の点検を行なってください。

車両の燃料給油口フラップ内側には、さまざまな使用状況でのタイヤ空気圧の表があります。

応急用スペアタイヤを使用する場合 (▶ 316 ページ)

燃料給油口フラップ内側の表には、さまざまな積載状態でのタイヤ空気圧が記載されています。この表には、さまざまな乗員数および積載量のものが指定されています。実際の座席数と異なることがあります。さらなる情報は、車両の登録書類を確認してください。

タイヤサイズの指定がない場合、タイヤ空気圧情報ラベルに記載されているタイヤ空気圧は、車両用に承認されているすべてのタイヤに適用されます。



タイヤのサイズに応じて空気圧を調整する場合は、以下の空気圧に関する情報は、そのタイヤサイズのみ有効となります。タイヤ空気圧を点検するには、適切な空気圧ゲージを使用してください。タイヤの外観を点検しても空気圧を正しく判断することはできません。

可能であれば、タイヤが冷えているときにのみ、タイヤ空気圧を修正してください。

以下では、タイヤは冷えています。

- タイヤに直射日光が当たらない状態で、最低 3 時間車両を駐車した場合、および
- 車両が 1.6 km 以上走行しなかった場合

外気温度、走行速度およびタイヤの荷重によって、タイヤの温度およびタイヤ空気圧は 10 °C ごとに約 10 kPa (0.1 bar/1.5 psi) ずつ変化します。温まっているタイヤの空気圧を点検するときは、このことを考慮に入れてください。そのときの使用条件に対して非常に低い場合にのみ、タイヤ空気圧を修正してください。

著しく高い、または著しく低いタイヤ空気圧で走行すると以下ようになります。

- タイヤ寿命が短くなります
- タイヤの損傷が増える原因になります
- ハンドリング特性および走行安全性へ悪影響を与えます (ハイドロプレーニング現象など)

低負荷用のタイヤ空気圧値は、快適な乗り心地を得ることができる最低限度の値です。

ただし、高負荷用の数値を使用することもできます。これらは許容値であり、車両の走行に悪影響を与えることはありません。

210 km/h までの速度のセダン用 (AMG 車両、AMG スポーツモデルは対象外) : タイヤ空気圧ラベル (燃料給油口フラップ) の記載にかかわらず、210 km/h までの速度では、記載されている値は安全性を損なうことなく以下まで下げることができます。

- **セダン (Eco モデル以外) :** -30 kPa (-0.3 bar/-4 psi)
- **セダン (前後のアクスルに 16 または 17 インチタイヤを装着した Eco モデル) :** -60 kPa (-0.6 bar/-9 psi)

これにより、車両の乗り心地は改善しますが、燃料消費は少し増加することがあります。

タイヤ空気圧警告システム

全体的な注意事項

タイヤ空気圧警告システムは、車両が動いている間に、車輪の回転速度を使用して設定されているタイヤ空気圧をモニターします。システムは、タイヤ空気圧の著しい低下を検知することができます。タイヤ空気圧の低下にともない車輪の回転速度が変化した場合は、マルチファンクションディスプレイに対応する警告メッセージが表示されます。

マルチファンクションディスプレイの **メナス** メニューに表示されるメッセージ **タイヤ空気圧警告システム OK ボタンで再始動** によってタイヤ空気圧警告を認識することができます。メッセージの表示に関する情報は、"タイヤ空気圧警告システムの再起動"の項目にあります (▶ 304 ページ)。

重要な安全上の注意事項

タイヤ空気圧警告システムは、適切でないタイヤ空気圧の設定には警告は行ないません。推奨タイヤ空気圧に関する注意事項に従ってください (▶ 301 ページ)。

タイヤ空気圧警告は、定期的なタイヤ空気圧点検の必要性に代わるものではありません。複数のタイヤでの同時で同量な空気圧低下は、タイヤ空気圧警告システムでは検知されません。


タイヤ空気圧モニタリングシステムは、タイヤに異物が刺さった場合などの急激な空気圧の低下には、警告を行なうことができません。空気圧が突然低下した場合は、ブレーキを慎重に効かせて車両を停止します。急激なステアリング操作は避けてください。







以下では、タイヤ空気圧警告システムの機能が制限されたり、遅れることがあります：

- 車両のタイヤにスノーチェーンを装着している
- 冬季の道路状況
- 砂地や砂利道を走行している
- 非常にスポーティな運転スタイル（高速コーナリング、急加速など）をとっている
- 重い荷物を積載して走行している（車内に、またはルーフ上に）





タイヤ空気圧警告システムの再起動

以下の場合、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。





- タイヤ空気圧を変更した
 - ホイールまたはタイヤを変更した
 - 新しいホイールまたはタイヤを装着した
- ▶ 再起動の前に、4本すべてのタイヤで、タイヤ空気圧が使用状況に応じて適正に設定されていることを確認してください。推奨タイヤ空気圧は燃料給油口フラップのラベルに記載されています。タイヤ空気圧警告システムは、適切なタイヤ空気圧に設定してある場合のみ、信頼性のある警告を行なうことができます。適切でないタイヤ空気圧に設定されている場合は、これらの適切でない数値がモニターされます。
- ▶ タイヤ空気圧の項目にある注意事項に従ってください（▶ 301 ページ）。
 - ▶ エンジンスイッチのキーが **2** の位置にあることを確認します（▶ 143 ページ）。
 - ▶ ステアリングの  を使用して、メニューリストを呼び出します。

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**メナツ** メニューを選択します。
- ▶  スイッチを押します。
- ▶  または  スイッチを押して、**タイヤ空気圧** を選択します。
- ▶  スイッチを押します。
マルチファンクションディスプレイに **タイヤ空気圧 警告システム オン OK ボタンで再起動** というメッセージが表示されます。

再起動を確定したい場合：

- ▶  スイッチを押します。
マルチファンクションディスプレイに **タイヤ空気圧 正常ですか?** というメッセージが表示されます。
- ▶  または  スイッチを押して、**はい** を選択します。
- ▶  スイッチを押します。
マルチファンクションディスプレイに **タイヤ空気圧 警告システム 再起動しました** というメッセージが表示されます。
読み込み期間後に、4輪すべてのタイヤに設定されたタイヤ空気圧のモニターを行ないます。

再起動をキャンセルしたい場合：

- ▶  スイッチを押します。
または
- ▶ **タイヤ空気圧 正常ですか?** というメッセージが表示される場合は、 または  スイッチを使用して、**キャンセル** を選択します。
- ▶  スイッチを押します。
前回の再起動時に保存されたタイヤ空気圧値が引き続きモニターされます。

車輪の交換

パンク

タイヤがパンクしたときの対処方法に関する情報は、「万一のとき」(▷ 278 ページ)に記載されています。タイヤがパンクしたときに MOExtended タイヤで走行する際の情報は、「万一のとき」のセクションをご覧ください (▷ 279 ページ)。

応急用スペアタイヤ装備車両： タイヤがパンクした場合は、「タイヤの取り付け」(▷ 306 ページ)の記載にしたがって応急用スペアタイヤを装着してください。

車輪の入れ替え

⚠ 警告

ホイールまたはタイヤのサイズが異なる場合に、フロントとリアの車輪を入れ替えると、走行特性が著しく損なわれることがあります。車輪のブレーキまたはサスペンションの部品も損傷することがあります。事故の危険性があります。

ホイールとタイヤが同じサイズの場合にのみ、フロントとリアの車輪を入れ替えてください。

! タイヤ空気圧モニター装備車では、ホイールに電子部品が取り付けられています。

電子部品が損傷する原因になりますので、タイヤ装着用ツールは、ホイールバルブ付近に取り付けしないでください。

必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場にてタイヤを交換してください。

異なるサイズのフロントとリアの車輪を入れ替えると、一般使用許可が無効になることがあります。

「車輪の取り付け」(▷ 306 ページ)の項目にある説明および安全上の注意事項に従ってください。

タイヤは、走行状況によって前輪と後輪で摩耗具合に差が生じ、偏摩耗を起し

ます。タイヤに明らかな摩耗具合が形成される前に、車輪を入れ替えてください。一般的に、フロントタイヤではショルダー部分が、リアタイヤではセンター部がより摩耗します。

前後同じサイズの車輪を持つ車両では、タイヤの摩耗具合に応じて 5,000 ~ 10,000 km ごとに車輪を入れ替えることができます。回転方向が維持されていることを確認します。

車輪を入れ替えるときは常に、ホイールの接触面とブレーキディスクを十分に清掃してください。タイヤ空気圧を点検し、必要に応じてタイヤ空気圧警告システムを再起動してください(▷ 304 ページ)。

回転方向

タイヤの回転方向が指定されているタイヤは、例えばハイドロブレーキング現象のおそれがある状況などで補助的な効果を発揮します。回転方向が指定されているタイヤは、指定された回転方向になるように装着することで性能を充分発揮できます。

タイヤのサイドウォールにある矢印は、正しい回転方向を示しています。

車輪の保管

使用していないタイヤは、涼しくて乾燥している、なるべく暗い場所に保管してください。タイヤにオイルやグリース、ガソリン、軽油などが付着しないように保護してください。

車輪の取り付け

車両の準備

- ▶ 固くて滑らない水平な地面に車両を停車します。
- ▶ 電気式パーキングブレーキを手動で効かせてください。
- ▶ 前輪を直進位置にします。
- ▶ **マニュアルトランスミッション装備車両**：クラッチペダルをいっぱいまで踏み、1速またはリバースギアに入れます。
- ▶ **オートマチックトランスミッション装備車両**：トランスミッションをポジション P にシフトします。
- ▶ AIR マテックサスペンション装備車では「ノーマル」(▶ 171 ページ)の車高が選択されていることを確認してください。
- ▶ エンジンを停止します。
- ▶ **キーレスゴー非装備車両**：エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ **キーレスゴースタート機能またはキーレスゴー装備車**：運転席ドアを開きます。
車両の電気システムが **0** の状態になります。これにより、キーを抜いたときと同様になります。
- ▶ **キーレスゴースタート機能またはキーレスゴー装備車**：イグニッションロックからキーレスゴースイッチを取り外します (▶ 143 ページ)。
- ▶ 車両装備に含まれている場合は、車両からタイヤ交換工具キットを取り出します。
- ▶ 車両が動き出さないように固定します。

i 国ごとの仕様違いを除き、通常車両にはタイヤ交換工具は装備されていません。タイヤ交換用工具の中には、その車両専用のものが含まれています。車両の車輪交換を行なうために必要な工具につ

いてのさらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

車輪交換に必要な工具には、以下のものなどが含まれることがあります。

- ジャッキ
- 輪止め
- ホイールレンチ
- ガイドボルト

車両が動き出さないように固定する



車両に輪止めが装備されている場合は、タイヤ交換工具キットの中にあります。(▶ 277 ページ)

折りたたみ式の輪止めは、タイヤ交換時などに車が動き出すのを防止するための補助的な固定手段です。

- ▶ 両側のプレートを上方に起こします ①。
- ▶ 下側のプレートを引き出します ②。
- ▶ 下側のプレートの凸部をベースプレートの開口部に差し込みます ③。



水平な場所で車両を固定する

- ▶ **水平な場所で：** 交換したい車輪の対角線上にある車輪の前後に、輪止めまたは適切な他の物を置きます。



緩い下り坂で車両を固定する

- ▶ **緩い下り坂勾配で：** フロントおよびリアアクスルの車輪の前に、輪止めまたは適切な他の物を置きます。

車両を上げる

⚠ 警告

車両の適切なジャッキポイントに正しくジャッキを設置しないと、車両をジャッキアップした時にジャッキが倒れるおそれがあります。負傷するおそれがあります。

必ず車両の適切なジャッキポイントにジャッキを設置してください。ジャッキの底面は車両のジャッキポイントの真下に来るように設置してください。

車両を上げるときは以下に従ってください。

- 車両を上げるときは、メルセデス・ベンツによりテストされ、承認された車両専用のジャッキのみを使用してください。ジャッキが正しく使用されていない場合は、車両を上げている間に倒れるおそれがあります。
- ジャッキは、車輪交換の間に短時間だけ車両を上げたままにすることを想定し設計されています。車両下部のメンテナンス作業を行なう目的には適していません。
- 上り坂や下り坂の斜面での車輪交換は避けてください。
- 車両を上げる前に、パーキングブレーキを効かせて輪止めをして車両が動き出さないようにしてください。車両を持ち上げている間は、パーキングブレーキを解除しないでください。
- ジャッキは、固く平坦で滑らない地面の上に置いてください。やわらかい地面の上では、大型で平坦な耐荷重マットを使用してください。滑りやすい地面の上では、ラバーマットなどの滑り止めマットを敷いてください。
- ジャッキの下敷きとして、木製のブロックや類似のものを使用しないでください。さもないと、高さが制限されることにより、ジャッキが耐荷重性能を得られない可能性があります。
- タイヤの下面と地面との間の距離が3cmを超えていないことを確認してください。
- 上げた車両の下には、絶対に手または足を入れしないでください。
- 車両の下で横にならないでください。
- 車両を上げているときは、エンジンを始動しないでください。

- ・車両を上げているときは、ドアまたはトランクリッドを開閉しないでください。
- ・車両を上げているときは、車内に人がいないことを確認してください。

**スチールホイールおよびホイールトリム
装備車両：**ホイールトリムはホイールボルトを覆っています。ホイールボルトを緩める前に、ハブキャップを取り外さなければなりません。



ホイールトリム付きスチールホイール

- ▶両手を使用して、ホイールトリムの2箇所の開口部に注意して手を入れ、ホイールトリムを取り外します。

**軽合金ホイールおよびハブキャップ
装備車両：**ホイールボルトはハブキャップで覆われています。ホイールボルトを緩める前に、ハブキャップを取り外さなければなりません。異なる2種類のいずれかが装着されています。



プラスチックハブキャップ付き軽量アルミホイール

プラスチックハブキャップ装備車両：

- ▶**取り外す：**ハブキャップのセンターカバー①を反時計回りにまわし、取り外します。
- ▶**取り付ける：**取り付ける前に、ハブキャップ①が開いた位置にあることを確認してください。そのためには、センターカバーを反時計回りにまわしてください。
- ▶ハブキャップ①を取り付け位置に合わせ、ハブキャップ①が固定される音が聞こえるまで、センターカバーを時計回りにまわします。
- ▶ハブキャップ①が確実に取り付けられていることを確認してください。



アルミハブキャップ付き軽量アルミホイール
アルミハブキャップ装備車両：

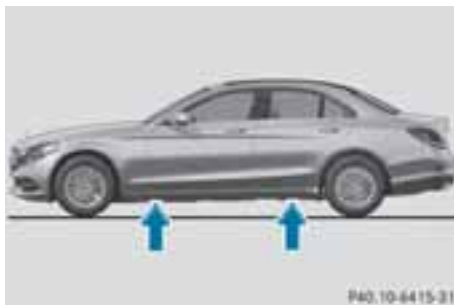
- ▶**取り外す：**車載工具キットから、ソケット②およびホイールレンチ③を取り出します(▶ 277 ページ)。
- ▶ソケット②をハブキャップ①に合わせます。
- ▶ホイールレンチ③をソケット②に取り付け、ハブキャップ①を反時計回りに緩めます。
- ▶ハブキャップ①を取り外します。
- ▶**取り付ける：**取り付ける前に、ハブキャップ①およびホイール部分に汚れがないことを点検し、必要に応じて清掃します。

- ▶ ハブキャップ①を取り付け位置に合わせ、正しい位置になるまでまわします。
- ▶ ソケット②をハブキャップ①に合わせます。
- ▶ ホイールレンチ③をソケット②に取り付け、ハブキャップ①を締めます。締め付けトルクは **25Nm** でなければなりません。

i ハブキャップが規定のトルク **25Nm** で締められることに**注意**してください。ハブキャップはメルセデス・ベンツ指定サービス工場に取り付けることを、メルセデス・ベンツは推奨します。



- ▶ ホイールレンチ③を使用して、交換する車輪のボルトを約1回転緩めます。ボルトは完全に緩めないでください。



ジャッキポイントは、フロントのホイールアーチのすぐ後ろと、リアのホイールアーチのすぐ前にあります(矢印部分)。

AMG 装備装着車両： 車体を保護するため、車両にはサイドスカート

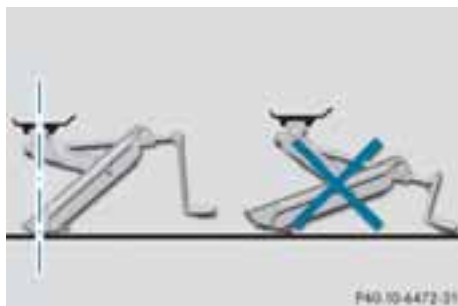
の横にカバーが取り付けられています。



- ▶ **AMG 装備装着車両：** カバー④を上方に起こします。



- ▶ ジャッキ⑥をジャッキポイント⑤の位置に合わせます。



- ▶ ジャッキの底面がジャッキポイントの真下に位置していることを確認してください。

のため、車両にはサイドスカートのジャッキ

- ▶ ジャッキ ⑥ がジャッキポイント ⑤ に完全にはまり、ジャッキの底面が地面に均一に接地するまで、ジャッキハンドル ⑦ を時計回りにまわします。
- ▶ タイヤが地面から最大で 3cm 上がるまで、ジャッキハンドル ⑦ をまわします。

車輪の取り外し

! 砂などの異物が付着しないように注意してください。ホイールボルトをねじ込む時に、ボルトやハブのネジ山が損傷するおそれがあります。

車輪の着脱時、および車輪が取り外されている間は、ブレーキディスクに外力がかからないようにしてください。これにより、ブレーキ時の快適性レベルが損なわれるおそれがあります。



- ▶ 最も上にあるホイールボルトを完全に外します。
- ▶ ホイールボルトの代わりに、ネジ山にガイドボルト ① を締め付けます。
- ▶ 残りのホイールボルトを完全に外します。
- ▶ 車輪を取り外します。

新しい車輪の取り付け

⚠ 警告

オイルやグリースが付着したホイールボルトまたは損傷したホイールボルト/ハブのネジ山は、ホイールボルトが緩む原因

になります。その結果として、走行中にホイールが緩むおそれがあります。事故発生の危険性があります。

ホイールボルトには、絶対にオイルやグリースを塗布しないでください。ネジ山が損傷している場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。損傷したホイールボルトまたはハブのネジ山を切り直してください。それ以上は走行を続けしないでください。

⚠ 警告

車両をジャッキアップしている時にホイールボルトまたはホイールナットを締め付けると、ジャッキが倒れることがあります。負傷の危険性があります。

車両が接地している場合のみ、ホイールボルトまたはホイールナットを締め付けてください。

"車輪の交換"にある指示や安全上の注意事項に従ってください (▶ 305 ページ)。ホイールおよび車両用に設計されたホイールボルトのみを使用してください。安全上の理由のため、メルセデス・ベンツ車およびそれぞれのホイールのために承認されたホイールボルトのみを使用することを、メルセデス・ベンツは推奨します。



- ▶ ホイールおよびホイールハブの接合面を清掃します。
- ▶ 装着するホイールをガイドボルトにスライドさせて押し込みます。

- ▶ 指の力で締まるまで、ホイールボルトを締め付けます。
- ▶ ガイドボルトを取り外します。
- ▶ 指の力で締まるまで、最後のホイールボルトを締め付けます。
- ▶ **コラプシブル応急用スペアタイヤ装備車両**：コラプシブル応急用スペアタイヤに空気を入れます(▶ 317 ページ)。その後でのみ、車両を下げてください。

車両を下げる

⚠ 警告

ホイールナットやボルトが規定の締め付けトルクで締め付けられていないと、ホイールが緩むおそれがあります。事故発生の危険性があります。

タイヤを交換した後で、直ちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で、締め付けトルクの点検を受けてください。

- ▶ **コラプシブル応急用スペアタイヤ装備車両**：車高を下げる前にタイヤ充填コンプレッサーを使用してコラプシブル応急用スペアタイヤを充填してください。さもないと、ホイールリムを損傷するおそれがあります。



- ▶ ジャッキハンドルを反時計回りにまわし、車体を下げて再び接地させます。
- ▶ ジャッキを横に置きます。
- ▶ 示されている対角パターンの順番(①～⑤)で、ホイールボルトを均一に締

めます。規定の締め付けトルクは **130 Nm** です。

- ▶ ジャッキをまわして元の状態に戻します。
- ▶ ジャッキや他のタイヤ交換工具キットをトランクに再度収納します。
- ▶ **AMG スポーツパッケージ装備車両**：サイドスカートにカバーを差し込みます。
- ▶ 新しく取り付けたタイヤの空気圧を点検し、それに応じて調整します。
推奨タイヤ空気圧に従ってください(▶ 301 ページ)。

応急用スペアタイヤを装着して走行する場合は、タイヤ空気圧警告システムが正常に機能しないことがあります。不具合のある車輪を新しい車輪に交換したときにのみ、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

応急用スペアタイヤを装着して走行する場合は、タイヤ空気圧警告システムが正常に機能しないことがあります。不具合のある車輪を新しい車輪に交換したときにのみ、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

ホイールとタイヤの組み合わせ

全体的な注意事項

- ▶ **安全に走行するため、タイヤとホイールは必ず純正品および承認されている製品を使用してください。**

それらのタイヤは、ABS や ESP® などのコントロールシステムに適応しており、以下のマークが付いています。

- MO = Mercedes-Benz Original
- MOE = Mercedes-Benz Original Extended(ランフラット特性を持つタイヤ)
- MO1 = Mercedes-Benz Original(特定の AMG タイヤ)

ランフラット特性を持つタイヤ(MOExtended)は、純正品および承認されたホイールだけに装着できます。

純正品および承認された製品以外のタイヤやホイール、アクセサリを使用しないでください。車両操縦性や騒音、排出ガス、燃料消費などに悪影響を与えるおそれがあります。また、乗車人数や荷物が増えた場合などには、タイヤやホイールが車体やサスペンションに接触するおそれがあり、タイヤや車両の損傷につながるおそれがあります。

純正品および承認された製品以外のタイヤやホイール、アクセサリを装着した場合は、損傷が生じても保証の対象外になります。

タイヤやホイール、指定された組み合わせなどに関して、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場にお尋ねください。

! 再生タイヤは、元の損傷状態を確認することが難しいため、使用をお勧めできません。再生タイヤを装着した場合、安全性の保証はできなくなります。中古タイヤは、過去の使用状況が確認できない場合は装着しないでください。

! 大径ホイール：特定のホイールサイズの断面幅が減少すると、悪路での乗り心地が低下します。走行快適性および安定性が低下し、さらに路面の障害物を乗り越える際にホイールやタイヤへの損傷リスクが高くなります。

以下のタイヤ表で使用されている略語の概要

- BA：前後の車輪
- FA：前輪
- RA：後輪

さまざまな使用条件での推奨タイヤ空気圧の表は、車両の燃料給油口フラップの内側にあります。タイヤ空気圧に関する詳細は (▷ 301 ページ) をご覧ください

い。タイヤ空気圧は定期的に、タイヤが冷えているときにのみ点検してください。車両装備に関する注意事項 - 車両には常に以下のように装着してください。

- アクスル (左/右) に応じて決められた同じサイズのタイヤ
- サマータイヤ、ウィンタータイヤ、MOExtended タイヤ (ランフラットタイヤ) など、異なる種類のタイヤを同時に装着しないでください。

例外：パンクした場合は、違う種類、違う銘柄の使用が認められています。"MOExtended タイヤ (ランフラットタイヤ)" の項目に従ってください (▷ 279 ページ)。

MOExtended タイヤ装備車両には、タイヤフィットを標準装備していません。ウィンタータイヤなど、ランフラット特性を持たないタイヤを装着するときは、タイヤフィットを追加で装備することをお勧めします。タイヤフィットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

i すべてのホイール/タイヤの組み合わせが、すべての国で工場出荷時に装着されているわけではありません。

タイヤ

C 180

サマータイヤ

R 16

タイヤ	ホイール
BA : 195/65 R16 92 V ¹	BA : 6.0 J x 16 H2 ET 36.5
BA : 205/60 R16 92 V ¹	BA : 6.0 J x 16 H2 ET 36
BA : 205/60 R16 92 V ¹	BA : 6.0 J x 16 H2 ET 36.5
BA : 205/60 R16 92 V ²	BA : 6.5 J x 16 H2 ET 38
BA : 225/55 R16 95 V ^{3, 2}	BA : 7.0 J x 16 H2 ET 48

R 17

タイヤ	ホイール
BA : 225/50 R17 94 W ³	BA : 7.0 J x 17 H2 ET 48.5
FA : 225/50 R17 94 W ³	FA : 7.0 J x 17 H2 ET 48.5
RA : 245/45 R17 95 W ³	RA : 8.0 J x 17 H2 ET 54

R 18

タイヤ	ホイール
FA : 225/45 R18 95 Y XL ³	FA : 7.5 J x 18 H2 ET 44
RA : 245/40 R18 97 Y XL ³	RA : 8.5 J x 18 H2 ET 56
FA : 225/45 R18 95 Y XL ³	FA : 7.5 J x 18 H2 ET 44
RA : 245/40 R18 97 Y XL ^{3, 4}	RA : 8.5 J x 18 H2 ET 49

- 1 アバンギャルドエクステリアパッケージ (コードP15)、エクスクルーシブエクステリアパッケージ (コードP23)、AMG ラインエクステリアパッケージ (コードP31)、ダイナミックハンドリングパッケージ (コード483/489)、高い地上高用のサスペンション (コード482) およびスポーツサスペンション (コード486) との組み合わせ以外。
- 2 AMG ラインエクステリアパッケージ (コードP31)、高い地上高用のサスペンション (コード482) およびスポーツサスペンション (コード486) との組み合わせ以外。
- 3 MOExtended タイヤも使用可能。
- 4 追加処理が必要 (リアホイールアーチにホイールアーチエクステンションを追加)。

R 19


タイヤ	ホイール
FA : 225/40 R19 93 Y XL ³ RA : 245/35 R19 93 Y XL ³	FA : 7.5 J x 19 H2 ET 44 RA : 8.5 J x 19 H2 ET 56.5
FA : 225/40 R19 93 Y XL ³ RA : 255/35 R19 96 Y XL ^{3, 4}	FA : 7.5 J x 19 H2 ET 44 RA : 8.5 J x 19 H2 ET 52

ウィンタータイヤ


R 16

タイヤ	ホイール
BA : 205/60 R16 92 V M+S  ¹	BA : 6.0 J x 16 H2 ET 36
BA : 205/60 R16 92 H M+S  ¹	BA : 6.0 J x 16 H2 ET 36.5
BA : 205/60 R16 92 H M+S  ²	BA : 6.5 J x 16 H2 ET 38
BA : 225/55 R16 95 H M+S  ^{3, 2}	BA : 7.0 J x 16 H2 ET 48

R 17

タイヤ	ホイール
BA : 225/50 R17 94 H M+S  ³	BA : 7.0 J x 17 H2 ET 48.5

R 18

タイヤ	ホイール
BA : 225/45 R18 95 H XL M+S  ³	BA : 7.5 J x 18 H2 ET 44

³ MOExtended タイヤも使用可能。

⁴ 追加処理が必要 (リアホイールアーチにホイールアーチエクステンションを追加)。

¹ アバンギャルドエクステリアパッケージ (コード P15)、エクスクルーシブエクステリアパッケージ (コード P23)、AMG ラインエクステリアパッケージ (コード P31)、ダイナミックハンドリングパッケージ (コード 483/489)、高い地上高用のサスペンション (コード 482) およびスポーツサスペンション (コード 486) との組み合わせ以外。

² AMG ラインエクステリアパッケージ (コード P31)、高い地上高用のサスペンション (コード 482) およびスポーツサスペンション (コード 486) との組み合わせ以外。

C 200

サマータイヤ

R 16

タイヤ	ホイール
BA : 205/60 R16 92 V ²	BA : 6.5 J x 16 H2 ET 38
BA: 225/55 R16 95 V ^{3, 2}	BA : 7.0 J x 16 H2 ET 48

R 17

タイヤ	ホイール
BA : 225/50 R17 94 W ³	BA : 7.0 J x 17 H2 ET 48.5
FA : 225/50 R17 94 W ³	FA : 7.0 J x 17 H2 ET 48.5
RA : 245/45 R17 95 W ³	RA : 8.0 J x 17 H2 ET 54

R 18

タイヤ	ホイール
FA : 225/45 R18 95 Y XL ³	FA : 7.5 J x 18 H2 ET 44
RA : 245/40 R18 97 Y XL ³	RA : 8.5 J x 18 H2 ET 56
FA : 225/45 R18 95 Y XL ³	FA : 7.5 J x 18 H2 ET 44
RA : 245/40 R18 97 W ^{3, 4}	RA : 8.5 J x 18 H2 ET 49

R 19

タイヤ	ホイール
FA : 225/40 R19 93 Y XL ³	FA : 7.5 J x 19 H2 ET 44
RA : 245/35 R19 93 Y XL ³	RA : 8.5 J x 19 H2 ET 56.5
FA : 225/40 R19 93 Y XL ³	FA : 7.5 J x 19 H2 ET 44
RA : 255/35 R19 96 Y XL ^{3, 4}	RA : 8.5 J x 19 H2 ET 52



2 AMG ラインエクステリアパッケージ (コード P31)、高い地上高用のサスペンション (コード 482) およびスポーツサスペンション (コード 486) との組み合わせ以外。

3 MOExtended タイヤも使用可能。

4 追加処理が必要 (リアホイールアーチにホイールアーチエクステンションを追加)。

ウィンタータイヤ


R 16

タイヤ	ホイール
BA : 205/60 R16 92 H M+S  ²	BA : 6.5 J x 16 H2 ET 38
BA : 225/55 R16 95 H M+S  ^{3, 2}	BA : 7.0 J x 16 H2 ET 48

R 17

タイヤ	ホイール
BA : 225/50 R17 94 H M+S  ³	BA : 7.0 J x 17 H2 ET 48.5

R 18

タイヤ	ホイール
BA : 225/45 R18 95 H XL M+S  ³	BA : 7.5 J x 18 H2 ET 44

応急用スペアタイヤ

重要な安全上の注意事項

 警告

スペアタイヤまたは応急用スペアタイヤと、交換した車輪のホイールまたはタイヤのサイズやタイヤの種類は異なることがあります。スペアタイヤ/応急用スペアタイヤを装着すると、走行特性が著しく損なわれることがあります。事故の危険性があります。

危険な状態を避けるために

- 適宜運転スタイルを合わせ、慎重に運転してください
- サイズの異なる応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤを 1 つ以上装着しないでください
- サイズの異なる応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤは一時的にのみ使用してください

- ESP® をオフにしないでください
- サイズの異なる応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤは最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。ホイールとタイヤのサイズがタイヤの種類とともに正しいことに注意してください。

応急用スペアタイヤ、またはサイズの異なるスペアタイヤを使用するときは、80 km/h の最高速度を超えないようにしてください。

応急用スペアタイヤには、スノーチェーンを装着しないでください。

全体的な注意事項

特に長距離走行の前には、応急用スペアタイヤを含めて、すべてのタイヤの空気圧を定期的に点検し、必要に応じて空気圧を修正してください (p. 301 ページ)。

2 AMG ラインエクステリアパッケージ (コード P31)、高い地上高用のサスペンション (コード 482) およびスポーツサスペンション (コード 486) との組み合わせ以外。

3 MOExtended タイヤも使用可能。

ホイールにある数値を使用してください。さらに、応急用スペアタイヤのタイヤ空気圧は"サービスデータ"にあります(▷ 319 ページ)。

応急用スペアタイヤは回転方向とは逆に装着することができます。応急用スペアタイヤに記載されている使用制限時間ならびに制限速度に従ってください。

摩耗に関わらず、6年以上経過したタイヤは交換してください。これは応急用スペアタイヤにも該当します。

応急用スペアタイヤを装着して走行する場合は、タイヤ空気圧警告システムが正常に機能しないことがあります。不具合のある車輪を新しい車輪に交換したときのみ、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

応急用スペアタイヤを装着して走行する場合は、タイヤ空気圧警告システムが正常に機能しないことがあります。不具合のある車輪を新しい車輪に交換したときのみ、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

応急用スペアタイヤの取り外し

応急用スペアタイヤは、トランク内の応急用スペアタイヤのバッグに固定されています。

- ▶ トランクを開きます。
- ▶ 締め付けストラップを外します。
- ▶ 締め付けストラップの固定用スプリングフックを固定部から外します。
- ▶ 応急用スペアタイヤのバッグを応急用スペアタイヤと一緒に取り出します。
- ▶ バッグを開き、応急用スペアタイヤを取り出します。

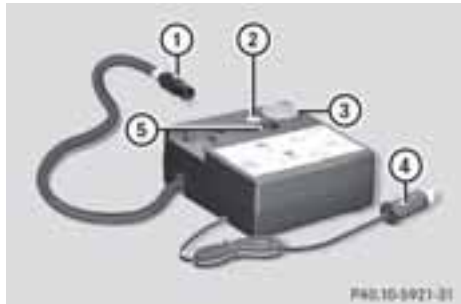
"車輪の取り付け"(▷ 306 ページ)の項目にある説明および安全上の注意事項に従ってください。

コラプシブル応急用スペアタイヤの空気注入

❗ 車両をジャッキダウンする前に、電動エアポンプでコラプシブル応急用スペアタイヤに空気を入れないと、ホイールリムを損傷するおそれがあります。

❗ 電動エアポンプは、一度に約 8 分以上連続して作動させると、ポンプがオーバーヒートするおそれがあります。

電動エアポンプが冷えたら、再び作動させることができます。



▶ コラプシブル応急用スペアタイヤを記載されているように取り付けます(▷ 305 ページ)。

コラプシブル応急用スペアタイヤは必ず空気を送り込む前に取り付けてください。

- ▶ 電源プラグ④とエアホースをハウジングから取り出します。
- ▶ コラプシブル応急用スペアタイヤのバルブキャップを取り外します。
- ▶ エアホースのユニオンナット①をバルブに締め付けます。
- ▶ タイヤ充填コンプレッサーの電源スイッチ⑤が〇の位置になっていることを確認します。
- ▶ プラグ④を車内のライターソケット(▷ 260 ページ)または 12 V 電源ソケット(▷ 260 ページ)に差し込みます。

- ▶ キーレスゴースイッチを 1 度押します。
。
- または
- ▶ エンジンスイッチのキーを 1 の位置にまわします。
- ▶ タイヤ充填コンプレッサーの電源スイッチ ⑤ を押し I の位置にします。
タイヤ充填コンプレッサーが作動します。タイヤに空気が送り込まれます。タイヤ空気圧は、空気圧ゲージ ③ に表示されます。
- ▶ 指定空気圧になるまで、応急用スペアタイヤに空気を入れます。
指定空気圧は、応急用スペアタイヤの黄色のラベルに記載されています。
- ▶ 指定空気圧に達したら、タイヤ充填コンプレッサーの電源スイッチ ⑤ を 0 の位置にします。
タイヤ充填コンプレッサーが停止します。
- ▶ エンジンスイッチのキーを 0 の位置にします。
- ▶ タイヤ空気圧が指定の圧力より高い場合は、正しいタイヤ空気圧に達するまで、空気圧調整スイッチ ② を押します。
- ▶ エアホースのユニオンナット ① を応急スペアタイヤのバルブから外します。
- ▶ コラプシブル応急用スペアタイヤのバルブキャップを元通りに取り付けます。
- ▶ 電源プラグ ④ とエアホースをハウジングの下部に収納します。
- ▶ タイヤ充填コンプレッサーを車内に収納します。

サービスデータ	
応急用ミニスペアタイヤ ⁵	
タイヤ	軽合金ホイール
T 135/80 R17 103 M タイヤ空気圧：420 kPa (4.2 bar/61 psi)	3.5 B x 17 H2 オフセット 19.5

⁵ スノーチェーンの使用は許可されていません。"スノーチェーン"の項目にある注意事項に従ってください。

役に立つ情報	322
車両の電子制御部品	322
ビークルプレート	322
サービスプロダクトと容量	323
車両データ	328

役に立つ情報

i この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

i メルセデス・ベンツ指定サービス工場
で情報をご覧ください。(▷ 28 ページ)

車両の電子制御部品

エンジン電子制御部品の不正改造

! コントロールユニット、センサー、作動構成部品、コネクタケーブルなど、電子制御部品およびその関連部品に関わる点検整備や修理などの作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。車両の構成部品が通常より早く摩耗したり、保証を適用できないことがあります。

無線機 (RF 送信機) の後付け

RF 送信機の装着についてご不明点がある場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場へお問い合わせください。

ビークルプレート

車台番号 (VIN) のあるビークルプレート



例：右ハンドル車両

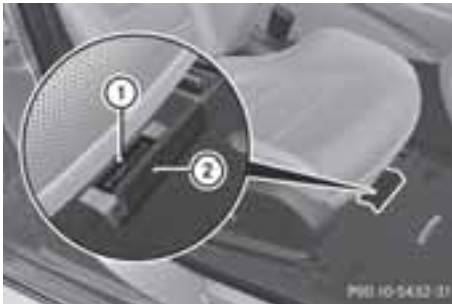
- ▶ 運転席ドアを開きます。
ビークルプレート ① が確認できます。



② 車台番号

i 車両のビークルプレートに示されたデータは、データの一例です。このデータは車両ごとに異なりますので、ここに示されたデータとは異なることがあります。お客様の車両に該当するデータは、車両のビークルプレートにあります。

車台番号



- ▶ 右側前席を最も後方の位置までスライドさせます。
- ▶ フロアカバー ② をめくりあげます。車台番号が見えます ①。

車台番号はビークルプレートでも確認できます。(▶ 322 ページ)

一部の国でのみ、車台番号はフロントウインドウ下端部でも確認できます。

エンジン番号

エンジン番号はクランクケースに刻印されています。詳しくは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

サービスプロダクトと容量

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

サービスプロダクトは健康に有害で危険です。けがの危険性があります。

サービスプロダクトの使用、保管および廃棄については、それぞれ元の容器のラベルの指示を遵守してください。サービスプロダクトは必ず元の容器に密閉して保管してください。サービスプロダクトは必ず子供の手の届かないところに保管してください。

🌿 環境

燃料および油脂は、環境汚染を配慮して、廃棄処分してください。

サービスプロダクトには以下のものが含まれます。

- 燃料
- 潤滑剤 (エンジンオイル、トランスミッションオイルなど)
- 冷却水
- ブレーキ液
- ウインドウウォッシャー液
- エアコンディショナーの冷媒

メルセデス・ベンツにより承認されたサービスプロダクトは、容器の以下のマークにより識別できます。

- MB-Freigabe (MB-Freigabe 229.51 など)
- MB Approval (MB Approval 229.51 など)

他のマークや推奨は、MB シート番号 (MB229.5 など) に準拠した品質レベルまたは仕様を示しています。これらはメルセデス・ベンツによって承認されているとは限りません。

その他の識別コード (例) :

- 0 W-30
- 5 W-30
- 5 W-40

さらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場です。

燃料

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

燃料は可燃性の高いものです。燃料を不適切に扱った場合は、火災および爆発の危険性があります。

火気、裸火、火花の発生および喫煙は避けてください。給油の前にはエンジン、当てはまる場合は補助ヒーターを停止します。

⚠ 警告

燃料は健康に有毒で危険です。けがの危険性があります。

燃料は決して飲まないこと、また目や衣服に付着させないでください。燃料の気体を吸い込まないでください。燃料は子供から離してください。

お客様または他の方が燃料に触れた場合は、以下に従ってください。

- 石鹸および水道水を使用して、ただちに肌から燃料を洗い流してください。
- 燃料が目に入った場合は、ただちに清潔な水で十分にすすいでください。ただちに医師の診察を受けてください。
- 燃料を飲み込んだ場合は、ただちに医師の診察を受けてください。無理に吐かせないでください。
- 燃料が付着した衣服はただちに替えてください。

燃料タンク容量

モデル	全容量
全モデル	66.0 L
モデル	うち予備燃料量
全モデル	約 7.0 L

ガソリン

燃料のグレード

❗ ガソリンエンジン車両に給油するために軽油を使用しないでください。誤って異なる燃料を給油した場合は、エンジンスイッチをオンにしないでください。さもないと、燃料が燃料システムに入るおそれがあります。たとえ少量の誤った燃

料でも、燃料システムやエンジンの損傷につながるおそれがあります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡して、燃料タンクや燃料系統から完全に抜き取ってください。

❗ 96 RON 以上の無鉛ガソリンのみを使用して給油してください。

さもないと、エンジンの出力が低下したり、エンジンが損傷するおそれがあります。

❗ 必ず指定の燃料を使用してください。その他の燃料で車両を操作すると、エンジンの不具合の原因になります。

❗ 以下の燃料を使用しないでください。

- E 85 (エタノール配合率 85%のガソリン)
- E 100 (エタノール 100%)
- M 15 (メタノール 15%のガソリン)
- M 30 (メタノール 30%のガソリン)
- M 85 (メタノール 85%のガソリン)
- M 100 (メタノール 100%)
- 金属含有添加物を配合したガソリン
- ディーゼル

このような燃料を車両に推奨されている燃料とは決して混合しないでください。添加剤を使用しないでください。さもないと、エンジンが損傷することがあります。ただし、スラッジの生成を抑制・除去する効果のある添加剤を除きます。ガソリンにはメルセデス・ベンツにより推奨された添加剤のみを混合してください。"添加剤"をご覧ください。さらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場です。

通常、燃料グレードに関する情報は給油ポンプに表示されています。給油ポンプにラベルがない場合、ガソリンスタンドのスタッフにおたずねください。

❗ E10 燃料には最大 10%のバイオエタノールが含まれています。お客様の車

両は、E10 燃料の使用に適しています。E10 燃料をお客様の車両に給油することができます。

C 180：推奨燃料が入手できない場合、一時的な措置としてオクタン価が 93 RON/83 MON の無鉛レギュラーガソリンを使用することができます。

他の全モデル：推奨燃料が使用できない場合、一時的な措置としてオクタン価が 91 RON の無鉛レギュラーガソリンを使用できます。このような燃料を使用した場合、エンジン性能が低下したり、燃料消費が増加したりすることがあります。フルスロットルでの走行および急加速は避けてください。91 RON 以下の燃料を給油しないでください。

給油に関する情報 (▷ 155 ページ)。

C 200

■ 93 RON 以上の無鉛プレミアムガソリンのみを使用して給油してください。エンジンの出力が低下したり、排出ガスコントロールシステムが損傷する原因になります。

i 一部の国では、入手できる燃料に含まれる硫黄が十分に低くない場合があります。短い走行では特に、燃料が一時的に異臭を発することがあります。給油の際にサルファーフリー燃料（硫黄含有量 < 10 ppm）を使用するとすぐに、臭いが減少します。

添加剤

■ 燃料添加剤を後で加えてエンジンを作動させると、エンジン故障につながるおそれがあります。燃料に燃料添加剤を混ぜないでください。これには、生成堆積物除去および防止のための添加剤は含まれません。ガソリンにはメルセデス・ベンツにより承認された添加物のみを混合してください。製品の容器に記載の使用上の注意をお守りください。推奨添加剤

に関するさらなる情報はメルセデス・ベンツ指定サービス工場です。

メルセデス・ベンツは、添加剤を含有している燃料ブランドの使用を推奨します。一部の国で入手できる燃料の品質は、十分でないことがあります。結果として、残留物が噴射システムに堆積するおそれがあります。その場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に相談のうえ、メルセデス・ベンツにより推奨された洗淨添加剤をガソリンに混合してください。容器にある注意事項および規定の配合率を常に遵守してください。

燃料消費の情報

⊕ 環境に関する注意

CO₂（二酸化炭素）の排出は、地球温暖化の主な原因となります。車両の CO₂ 排出量は、燃料消費と直接関係があり、以下の条件によって変化します。

- エンジンの燃焼効率
- 走行スタイル
- 環境の影響や道路状況、交通の流れのような、技術的ではない他の要因

緩やかな運転を心がけ、定期的に点検整備を行なうことにより、CO₂ 排出量を最小限に抑えることができます。

以下のような状況では、燃料消費量が増加します。

- 非常に低い外気温で
- 市街地で
- 短距離の走行で
- 山間路で

エンジンオイル

全体的な注意事項

エンジンオイルを取り扱う場合は、サービスプロダクトの重要な安全上の注意事項に従ってください (▷ 323 ページ)。

エンジンオイルの品質は、エンジンの性能や使用寿命に大きな影響を与えます。広範囲にわたるテストの末、メルセデス・ベンツでは最新の技術基準に適合するエンジンオイルのみを承認しています。そのため、メルセデス・ベンツエンジンには、メルセデス・ベンツが承認したエンジンオイルのみを使用してください。テストされ、承認されたエンジンオイルについてのさらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場ですぐ入手できます。オイル交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことを、メルセデス・ベンツは推奨します。メルセデス・ベンツの承認は、オイル容器の"MB Approval" の記載および MB Approval 229.51 などの対応する記号により示されています。

テストされ、承認されたエンジンオイルについてのさらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場ですぐ入手できます。オイル交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことを、メルセデス・ベンツは推奨します。

容量

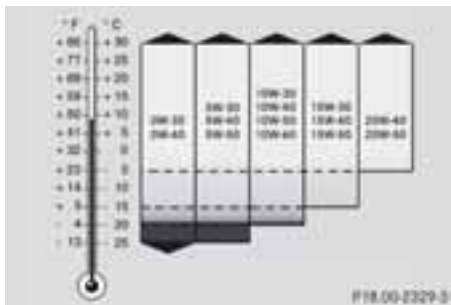
以下の数値は、オイルフィルターを含むオイル交換時のものです。

モデル	交換容量
全モデル	7.0L

添加剤

■ エンジンオイルに添加剤を使用しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

エンジンオイルの粘度



粘度は、液体の流動特性を示します。エンジンオイルは粘度が高いほどゆっくりと流れ、粘度が低いほど速く流れます。エンジンオイルの選択は、対応する外気温度を基準にして、SAE グレード（粘度）に応じたものにしてください。表では、使用するべき SAE グレードを示しています。低温の環境では、劣化や煤、燃料添加剤などにより使用時のエンジンオイルの特性が著しく損なわれます。そのため、適切な SAE グレードの承認されたエンジンオイルを使用して、定期的にオイル交換を行なうことを強く推奨します。

ブレーキ液

⚠ 警告

ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。ブレーキ液の沸点を下げます。ブレーキ液の沸点が低すぎる場合、ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰して気泡が発生します。ブレーキ液が劣化しベーパーロックが起こると、ブレーキの性能が損なわれます。事故の危険性があります。ブレーキ液は、定期的にメルセデス・ベンツ指定サービス工場ですぐ交換してください。

(▷ 323 ページ)ブレーキ液を取り扱う場合は、サービスプロダクトの重要な安全上の注意に従ってください。

ブレーキ液の交換時期は、整備手帳で確認してください。

承認されたブレーキ液についての情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場ですることができます。

i ブレーキ液はメルセデス・ベンツ指定サービス工場です定期的に交換し、点検内容は整備手帳をご確認ください。

冷却水

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

不凍液がエンジンルームの熱くなっている構成部品に触れると、発火する可能性があります。火災およびけがの危険性があります。

不凍液を充填する前にエンジンを冷やしてください。不凍液の濃縮液が補充口の脇に飛散していないことを確認してください。エンジンを始動する前に、不凍液で汚れた構成部品を清掃してください。

! 冷却水は、必ず弊社指定の不凍液を混合したものを補給してください。エンジンを損傷するおそれがあります。

冷却水についての詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお尋ねください。

! たとえ高温の地域であっても、必ず適切な冷却水を使用してください。

不適切な冷却水を使用すると、エンジン冷却システムの腐食やオーバーヒートを防ぐことができなくなります。

i 冷却水はメルセデス・ベンツ指定サービス工場です定期的に交換し、交換を整備手帳で確認してください。

冷却水は水と不凍液/防錆剤の混合液です。以下の役割があります。

- 防錆保護
- 凍結防止
- 沸点上昇

不凍液/防錆剤が適切な濃度の場合、作動中の冷却水の沸点は約 130 °C になります。

エンジン冷却システム内の不凍液/防錆剤の濃度は、

- 50 %以上にしてください。これにより、約 -37 °C までエンジン冷却システムを凍結から保護します。
- 55 % (-45 °C までの凍結防止保護) を超えないようにしてください。さもないと、熱が効果的に発散されません。

冷却水は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場での定期整備ごとに点検が行なわれます。

i 車両の納車時には、適切な凍結防止および防錆保護を行なうことができる濃度の冷却水が充填されています。

i 冷却水は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場での定期整備ごとに点検が行なわれます。

フロントウィンドウ/ヘッドライトウォッシャー

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

ウィンドウウォッシャー液が熱いエンジン部品または排気システムに触れた場合、発火するおそれがあります。火災およびけがの危険性があります。

ウィンドウウォッシャー液の濃縮液が補充口の脇に飛散していないことを確認してください。

❗ 夏季用や冬季用など、ヘッドライトの樹脂製レンズに適したウォッシャー液のみを使用してください。不適切なウォッシャー液を使用すると、ヘッドライトの樹脂製レンズを損傷するおそれがあります。

❗ 蒸留水や脱イオン水をウォッシャー液リザーブタンクに入れないでください。レベルセンサーを損傷するおそれがあります。

❗ 夏季用および冬季用の純正ウォッシャー液を混合して使用します。純正品以外のウォッシャー液を使用すると、噴射ノズルが詰まるおそれがあります。

気温が 0 ° C 以上のとき：

▶ 水と夏用ウォッシャー液の混合液をウォッシャー液リザーブタンクに補充します。

水の量 100 に対して夏用ウォッシャー液の量 1 を混合します。

気温が 0 ° C 以下のとき：

▶ 水と冬用ウォッシャー液の混合液をウォッシャー液リザーブタンクに補充します。

正しい混合値については、不凍液リザーブタンクの情報をご覧ください。

❗ 1 年を通して、夏用または冬用ウォッシャー濃縮液をウォッシャー液に追加してください。

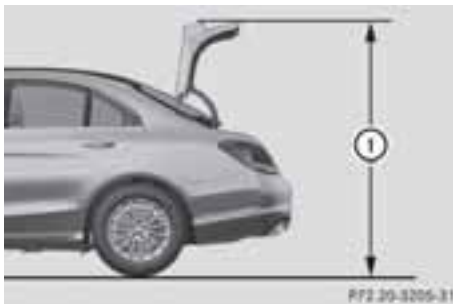
車両データ

全体的な注意事項

記載の車両データについては、以下の点に従ってください。

- 記載の車高は、以下に応じて異なります。
 - タイヤ
 - 積載量
 - サスペンションの状態
 - オプション装備
- オプション装備は最大積載量を減少させます。

寸法および重量



モデル ① 開いたときの高さ

全モデル 1763 mm

ルーフとトランクの最大積載量

モデル ルーフの最大積載量

全モデル 75 kg

モデル トランクの最大積載量

全モデル 100 kg

バッテリー

モデル	バッテリー電圧
全モデル	12 V

モデル	バッテリー容量
全モデル	60 Ah

発行物の詳細

インターネット

メルセデス・ベンツ車や Daimler AG についての詳細情報については、以下のウェブサイトに記載されています。

<http://www.mercedes-benz.co.jp>

編集オフィス

©Daimler AG: Daimler AG の書面による許可なく、本書のすべてまたは一部を複製、翻訳または複製することはできません。

車両メーカー

Daimler AG
Mercedesstrasse 137
70327 Stuttgart
ドイツ



2055844001

Order no. 6515 0931 20 Part no. 2055844001 Edition NA 2014-03c